

1996年度

経済学部シラバス

獨協大学

はじめに

——教育の民主化と開かれた大学へ向けて——

経済学部長 千代浦昌道

1

教育に携わるすべての者は、幼稚園から大学院に至るまで、教員職員を問わず、「教育とは、学校とは、教師とはいかなるものでなければならないか」という、教育にとっては初歩的かつ基本的な問題を頭の中で考え続け、かつまた改革への努力をつねに実践していなければならないと思う。このことは、教育に携わるすべての者の義務であり至上命令であると考え。時代とともに社会の価値観は変化し、教育の内容もそれにつれてとうぜんに変化しなければならない。人間社会の基本的価値観と思われるものでも、時代の変化の中でその解釈と適用の仕方は違ってくるはずである。時代はまさに刻一刻と変化し止まることはないから、教育もそれに合わせてつねに変化していなければならない。それもできる限り後追いではなく、時代に先行していなければならない。それもできない限り後追いでないで、時代に先行していなければならない。それもできない限り後追いでないで、時代に先行していなければならない。それもできない限り後追いでないで、時代に先行していなければならない。

わたしたちは、社会生活の中で人間同士が接触し、互いに反応し、さまざまな情報を受信しまた自らも発信する。互いに他人の影響を受け、それに対して反応している。その人間同士の接触の場の中でも、教育の場ほど人間が他の人間に対し多くの情報を与え、さらにまた情報による影響を大きく受ける場というものはないのではなかろうか。それは、人間がその形成過程の最も重要な時期のほとんどの時間をそこで過ごし、また人間社会にとっての基礎的情報のあらゆるものがそこに集中しているからである。社会も情報も、時代とともに刻々と変化し流動している。その変遷の中で、時代の要請に応えながら人間が人間を教育するなどということは、気の弱いものならばはじめから逃げ出したくなるほどの恐ろしいことである。しかしまた、そのための情熱と努力の才能に恵まれた人びとにとってはすばらしい仕事であり、職場であると思う。そうした意味で、教育の場で働くすべての人間はみずからの仕事の重要性をいつも噛みしめながら過ごすことが必要であり、一刻たりともそのことを忘れ去るようなことがあってはならないと自戒を込めて思う。

2

ところでわたしは、人類の歴史とは民主化へと向かう人間の耐えまない努力と

戦いの歴史であると考えている。換言すればそれは、独裁と全体主義から解放されて個人の真の自由を求めるための戦いの歴史である。しかし、その努力はまた、絶えず民主化に逆行し独裁や全体主義に引き戻そうとする強い力によって打ち砕かれるが、それにもかかわらず人類の民主化への希求は人類の行く手を照らす照明のように、また絶え間なく打ち返す波のようにつねに人類の歴史を導びき力づけてくれるのである。もちろん、民主化と個人の自由を求める努力と戦いは、わたしたちの現在住んでいるこの世界でも営々として続いている。そうした努力と戦いへの参加は、わたしたちが現在住んでいる日常の生活の中で実践されなければならない。はるか離れた地球の裏側の国の民主化運動への支援もまた大切なことである。しかしそれと並行して、わたしたちはみずからの住む現在の身近な生活環境の中での民主化と個人の自由を確保することに全力を投入しなければならないのである。民主化を、単に政治や組織運営のための便宜的一手段と考える人たちがいる。しかし、わたしはそうした意見には賛成できない。そうではなく、民主化は信念であり一種の信仰である。

さて、大学教育の中でこの民主化と個人の自由を求める努力はどのように実現されなければならないのであろうか。わたしはまず、昔のように大学が一部の才能に恵まれ、十分な資力にも恵まれた人たちの専有物であった時代からの完全な決別を宣言しなければならないと思う。「象牙の塔」の意味するところはあまり明らかではないが、悠々たる学者の研究生活を表すことばであると同時に、一般庶民の日常生活からかけ離れた大学の孤高と権威主義とを表すことばでもあるように思う。つまり、大学は一般庶民のものではなく、一部の特権階級の専有物であったことを示しているのである。20世紀末現代の大学のあるべき姿を示すためには、この表現はまったくふさわしくない。大学は一般庶民とともにあり、一般庶民のために存在しなければならない。大学はすべてのひとに「開かれた大学」でなければならないのである。もちろん、大学院もその例外ではない。大学院においては、より高いレベルの教育と研究の機会を求めるすべての人びとをできる限り受け入れて、彼らの知識への希求と研究への情熱に全力で応えることが必要である。

3

しかし、「開かれた大学」だけでは不十分である。一般庶民に開かれた大学においては、「親切的な教育」を実践することが必要である。「親切的な教育」とは、学生を集団としてではなく、その一人ひとりを個性ある人間として大切に扱い育てる教育である。言うは易く行ふは難しである。しかし教員職員を問わず教育に携わるすべての者は、この「親切的な教育」をいつも心掛けなければならないとわたしは思う。人間はほんらい弱い存在であるが、とりわけ若者は不安定で傷つきやすく感受性に富む存在であることを忘れてはならない。この時期に受けた親切を、

若者は一生涯忘れることはないであろう。

「開かれた大学」における「親切的な教育」のためには、大学や大学院でどのような内容の教育や研究が行われているかが公表され、だれの目にも明らかにされることが必要なことである。そのためにはまず、実際に行われている授業内容のプログラムをできるだけ詳しく公表して、教職員みずからも授業内容の点検と確認を行うと同時に、その内容は大学外部のすべての人びとにも明らかにされなければならない。このことは、従来の日本の教育が一般にそうであるように、学生が教師の講義を一方的に聴くのみでみずからは積極的に参加することがほとんどないような授業から、教師も学生もが一体となって授業を盛り上げる「参加型教育」への転換の手がかりを与えるものであると思う。授業プログラムを参照することで、学生は授業内容への事前の興味を抱き、資料収集などの準備を整えることができる。事情があって欠席せざるを得なかった授業の概略を知って、自習に役立てることもできる。教員への質問を準備することもできる。

そうした意味で、ここにお届けする「経済学部シラバス」は、1996年度中に経済学部が開講される各講義科目の年間授業プログラムがすべて掲載されている。学生諸君のみならず、本学の教育内容に関心を持つすべての方が十分に活用されることを念願して止まない。

—シラバスの見方について—

- この冊子には ①1994年度以降入学者……………新カリキュラム
②1993年度入学者……………旧カリキュラム
③1992年度以前入学者……………旧旧カリキュラム

以上、3つのカリキュラムの科目のシラバスが掲載されていますが分類上、目次と内容は

- ①1994年度以降入学者（新カリキュラム）と
②1993年度以前入学者（旧・旧旧カリキュラム）の2つに分かれています。

〈目次の見方〉

- (1) ①1994年度以降入学者対象（新カリキュラム）

科目群ごとに科目名、担当教員名、掲載ページが記載されています。

- ②1993年度以前入学者対象（旧・旧旧カリキュラム）

部門別に科目名、（旧旧カリキュラム科目名と旧カリキュラムと科目名が異なる場合のみ併記）、担当教員名、掲載ページが記載されています。

〈注 意〉

シラバスの掲載されていない科目については授業時に指示を受けて下さい。

目 次

はじめに

経済学部長 千代浦 昌道

1994年度以降入学対象

一般基礎科目群 (経済学科/経営共通)

文 学	(日本文学)	小 島 幸 枝	1
"	(日本文学)	中 村 文	3
"	(日本文学)	肥田野 昌之	5
"	(世界文学)	亀 谷 敬 昭	7
"	(世界文学)	北 澤 滋 久	9
"	(世界文学)	松 山 恒 見	11
国 語		北 村 進	13
"		小 島 幸 枝	15
"		福 沢 健	17
歴史学	(日本史)	新 井 孝 重	19
"	(日本史)	齊 藤 博	21
"	(東洋史)	春日井 明	23
"	(西洋史)	御園生 眞	25
日本文化論	(風土)	小 林 幸 夫	27
思 想	(哲学)	鈴 木 康 治	29
思 想	(宗教)	鈴 木 康 治	31
法 学		土 田 道 夫	33
地理学		犬 井 正	35
民俗学		辻 雄 二	37
心理学		増 田 直 衛	39
数 学		田 中 雅 英	41
自然科学概論		田 中 雅 英	43
保健論		藤 井 賢一郎	45
体 育				
"	(アウトドア海浜型)	和 田 智	47
"	(アウトドア山岳型)	和 田 智	49
"	(インラインスケート)	加 藤 雅 子	51
"	(インラインスケート)	和 田 智	53
"	(インラインスケート/スゲート)	和 田 智	55
"	(硬式テニス)	小 俣 充	57
"	(硬式テニス)	田 中 茂 宏	59
"	(硬式テニス)	土 井 浩 信	61
"	(硬式テニス)	中 川 昭	63

〃	(硬式テニス)	中 沢 克 江	65
〃	(硬式テニス)	野 口 昭 彦	67
〃	(硬式テニス)	松 原 裕	69
〃	(ゴルフ)	野 口 昭 彦	71
〃	(ゴルフ)	山 中 邦 夫	73
〃	(ゴルフ)	吉 田 卓 司	75
〃	(サッカー)	田 代 力 也	77
〃	(サッカー)	田 中 茂 宏	78
〃	(サッカー)	萩 原 武 久	最初の授業で指示する
〃	(サッカー)	松 本 光 弘	80
〃	(スキートレーニング/スキー)	松 原 裕	82
〃	(スキー検定トレーニング/スキー検定)	松 原 裕	84
〃	(ソーシャルダンス)	青 柳 多 恵 子	86
〃	(ソフトボール)	池 垣 功 一	88
〃	(ソフトボール)	田 代 力 也	90
〃	(ソフトボール)	萩 野 元 祐	91
〃	(ソフトボール/スキー)	田 代 力 也	93
〃	(卓球)	天 野 和 彦	94
〃	(卓球)	太 田 朝 博	96
〃	(卓球)	小 川 又 八 朗	98
〃	(卓球)	奥 野 忠 枝	100
〃	(卓球)	本 田 稔 祐	102
〃	(軟式野球)	太 田 朝 博	104
〃	(軟式野球)	萩 野 元 祐	106
〃	(バスケットボール)	太 田 朝 博	108
〃	(バスケットボール)	勝 瀬 武	110
〃	(バスケットボール)	檜 山 康	112
〃	(バドミントン)	梶 野 克 之	114
〃	(バドミントンⅡ)	梶 野 克 之	116
〃	(バレーボール)	小 俣 充	118
〃	(バレーボール)	中 沢 克 江	120
〃	(フットサル)	檜 山 康	122
〃	(フットサル)	松 原 裕	124
〃	(フリスビー/ウインドサーフィン)	和 田 智	126
〃	(ラグビー)	天 野 和 彦	128
〃		勝 瀬 武	130
〃		土 井 浩 信	132
〃		中 川 昭	134
〃		萩 原 武 久	最初の授業で指示する
〃		本 田 稔 祐 (A)	136
〃		本 田 稔 祐 (B)	138
〃		松 本 光 弘	140
〃		山 中 邦 夫	142
〃		吉 田 卓 司	144

体育理論

”

和田 智 146

(経済学科) 専門基礎科目群

経済学	小林 進 148
”	田村 申一 150
”	波形 昭一 152
”	益山 光央 154
”	松本 正信 156
”	森 健 最初の授業で指示する
”	山本 美樹子 158
”	米山 昌幸 160
経済原論	高橋 房二 162
”	西村 允克 164
日本経済史	齊藤 博 166
経済地理	犬井 正 168
経済政策	伊藤 正昭 170
日本経済論	波形 昭一 172
統計学	富田 幸弘 174
”	本田 勝 176
”	松井 敬 178
経済統計	松本 正信 180
情報処理概論	各担当教員 182

(経済学科) 主要専門科目群

計量経済学	小尾 惠一郎 184
国民所得論	安藤 登 185
経済変動論	松本 正信 187
近代経済学	小林 進 189
経済社会学	高橋 善四郎 191
経済学史	鈴木 勇 193
経済哲学	高橋 善四郎 195
一般経済史	原 剛 197
日本社会史	新井 孝重 199
西洋経済史	御園生 眞 201
東洋経済史	田中 正俊 203
国際経済論	益山 光央 205
産業構造論	山越 徳 207
産業組織論	青木 雅明 209
流通経済論	西村 允克 211
交通経済論	岡田 博 213

経済開発論	千代浦 昌 道	215
地域経済論 (1) 北米	本 田 浩 邦	217
地域経済論 (2) 西ヨーロッパ	大 島 通 義	219
地域経済論 (3) 東ヨーロッパ	鈴 木 勇	221
地域経済論 (4) アジア・オセアニア	森 健	223
地域経済論 (6) ラテンアメリカ	山 本 正 三	225
地域産業政策論	伊 藤 正 昭	227
社会政策	桑 原 靖 夫	229
労働経済論	桑 原 靖 夫	231
財政学	大 島 通 義	233
日本財政論	伊 藤 為 一 郎	235
金融論	田 村 申 一	237
国際金融論	山 本 美 樹 子	239

(経済学科) 一般専門科目群

社会科学概論	宮 澤 清	241
地域精神衛生論	佐々木 雄 司	243
経営学	河 野 重 榮	245
保険論	岡 村 国 和	247
会計学	宮 澤 清	249
応用統計学	本 田 勝	251
プログラミング論	高 柳 敏 子	253
"	立 田 ル ミ	255
情報処理論	高 柳 敏 子	257
"	立 田 ル ミ	259
"	富 田 幸 弘	261
民 法	椿 久美子	263
商 法	坂 本 延 夫	265
国際法	廣 部 和 也	267
政治学総論	小 野 修 三	269
第一外国語		
ドイツ語Ⅰ (総合)	各 担 当 教 員	271
ドイツ語Ⅱ	各 担 当 教 員	273
英語Ⅰ (会話)	各 担 当 教 員	275
英語Ⅰ (講読)	各 担 当 教 員	277
英語Ⅰ (会話特別)	各 担 当 教 員	278
英語Ⅱ	秋 山 武 夫	279
英語Ⅱ	富 士 川 和 男	279
英語Ⅱ	近 藤 ヒカル	281
英語Ⅱ	須 賀 川 誠 三	282
英語Ⅱ (会話特別)	各 担 当 教 員	最初の授業で指示する
英語Ⅱ	原 成吉	283

英語Ⅱ	宮川 淑	284
フランス語Ⅰ	各担当教員	286
フランス語Ⅱ	各担当教員	287
第二外国語		
ドイツ語Ⅰ	各担当教員	288
ドイツ語Ⅱ	各担当教員	290
ドイツ語Ⅲ	山本 淳	292
英語Ⅰ	児島 一男	294
英語Ⅰ	珍田 弥一郎	295
英語Ⅱ	高橋 博	296
英語Ⅱ	吉本 清彦	297
フランス語Ⅰ	各担当教員	298
フランス語Ⅱ	各担当教員	299
フランス語Ⅲ	M. カルトン	300
スペイン語Ⅰ (総合)	各担当教員	301
スペイン語Ⅰ (会話)	各担当教員	303
スペイン語Ⅱ (総合)	各担当教員	305
スペイン語Ⅱ (会話)	各担当教員	307
スペイン語Ⅲ (講読)	假名垣 宏	309
スペイン語Ⅲ (総合)	佐藤 勘治	310
スペイン語Ⅲ (LL)	J. L. Velasco	310
中国語Ⅰ (文法)	佐藤 勘治	311
中国語Ⅰ (文法)	各担当教員	
中国語Ⅰ (講読)	各担当教員	
中国語Ⅰ (講読)	各担当教員	
中国語Ⅱ (総合)	各担当教員	
中国語Ⅱ (総合)	各担当教員	
中国語Ⅱ (講読)	各担当教員	
韓国語Ⅰ (文法)	各担当教員	
韓国語Ⅰ (講読)	各担当教員	
韓国語Ⅱ (講読)	各担当教員	
韓国語Ⅱ (総合)	各担当教員	
ロシア語Ⅰ (文法)	井上 幸義	312
ロシア語Ⅰ (講読)	井上 幸義	314
ロシア語Ⅱ (会話)	井上 幸義	316
ロシア語Ⅱ (総合)	井上 幸義	318
ロシア語Ⅲ (総合)	井上 幸義	320
外国書研究Ⅰ	青木 雅明	322
〃	伊藤 正昭	323
〃	井出 健二郎	325
〃	氏原 茂樹	327
〃	岡下 敏	329
〃	犬井 正	330
〃	岡田 博	332

最初の授業で指示する

"	奥山正司	334
"	小尾惠一郎(A)	336
"	小尾惠一郎(B)	337
"	梶山皓	338
"	河野重榮	340
"	小林進	342
"	小林哲也	343
"	齊藤正章(A)	345
"	齊藤正章(B)	347
"	高橋善四郎	348
"	立田ルミ	349
"	田村申一	351
"	ダリル・ジーン・モエン	353
"	中村泰将	355
"	長吉眞一	356
"	波形昭一	358
"	西川純子(A)	360
"	西川純子(B)	361
"	原亨	362
"	福島寿	363
"	ブラディック・C.W.	365
"	本田浩邦	367
"	益山光央	369
"	松本正信	371
"	宮城浩祐	373
"	宮澤清	374
"	百瀬房徳	376
"	森健	378
"	山田浩一	379
"	山本栄	381
"	山本正三	383
"	山本美樹子	385
"	湯田雅夫	387
"	米山昌幸	389
"	独語 御園生 眞	391
"	仏語 千代浦 昌道	392
"	外国人学生用 益山光央	394
外国書研究Ⅱ	小林進	396
"	小林哲也	397
"	本田浩邦	399
"	益山光央	400
"	宮城浩祐	402
"	森健	403
"	山本美樹子	404

”	独	語	御園生	眞	406
”	仏	語	千代浦	昌道	392
貿易英語			山崎	静光	407
経済英語			小林	哲也	409
総合講座(1)			経済学	部	410
特殊講義A			本田	稔祐	412
”			和田	智	414
”			ダリル・ジーン・モエン		416
”			ブラディック・C.W.		418

経営学科 (1994年度以降入学者)

経済学	小林	進	148
”	田村	申一	150
”	波形	昭一	152
”	益山	光央	154
”	松本	正信	156
”	森	健	最初の授業で指示する	
”	山本	美樹子	158
”	米山	昌幸	160
経営学総論	河野	重榮	420
”	富田	忠義	422
マーケティング論	大久保	貞義	424
企業論	西川	純子	426
貿易論	米山	昌幸	428
財務会計論	中村	泰将	430
簿記原理	井出	健二郎	432
”	氏原	茂樹	434
”	岡下	敏	436
”	中村	泰将	438
”	福島	寿	440
”	細田	哲	442
”	百瀬	房徳	443
”	湯田	雅夫	445
会計学原理	宮澤	清	447
”	湯田	雅夫	449
統計学	富田	幸弘	174
”	本田	勝	176
”	松井	敬	178
情報処理概論	各担当	教員	182

(経営学科) 主要専門科目群

経営管理論	富田忠義	451
経営労務論	宮城浩祐	453
財務管理論	細田哲	455
国際経営論	小林哲也	457
一般経営史	原剛	459
日本経営史	齊藤博	461
交通論	岡田博	213
行動科学論	大久保貞義	463
広告論	梶山皓	465
証券市場論	原享	467
保険論	岡村国和	247
企業形態論	梁場保行	469
財務会計論	中村泰将	430
社会会計論	湯田雅夫	471
管理会計論	香取徹	473
経営分析論	百瀬房徳	475
原価計算論	齋藤正章	477
会計監査論	長吉眞一	479
税務会計論	山田浩一	481
上級簿記	細田哲	483
〃	百瀬房徳	484
管理工学	山本栄	486
経営数学	前田功雄	488
応用統計学	本田勝	251
オペレーションズ・リサーチ	本田勝	490
システムズ・エンジニアリング	天笠美知夫	492
情報システム論	前田功雄	494
標本調査論	松井敬	496
情報検索論	小田光宏	498
プログラミング論	高柳敏子	253
〃	立田ルミ	255
情報処理論 (1)	高柳敏子	257
情報処理論 (2)	富田幸弘	261
情報処理論 (3)	立田ルミ	259

(経営学科) 一般専門科目群

老年社会学	奥山正司	500
宗教学	鈴木康治	502

高齢者エルゴノミクス	山本 栄	504
経済原論	高橋 房二	506
〃	西村 允克	508
国際経済論	益山 光央	205
民法	椿 久美子	263
商法	坂本 延夫	265
国際法	広部 和也	267
政治学総論	小野 修三	269
第一外国語	(新カリ 経済学科「第一外国語」参照)	
第二外国語	(新カリ 経済学科「第二外国語」参照)	
外国書研究Ⅰ	(新カリ 経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)	
外国書研究Ⅱ	(新カリ 経済学科「外国書研究Ⅱ」参照)	
貿易英語	山崎 静光	407
経営英語	本田 浩邦	510
総合講座(Ⅰ)	経済学部	410
特殊講義A	本田 浩裕	412
〃	和田 智	414
〃	ダリル・ジーン・モエン	416
〃	ブラディック・C.W.	418

1993年度以前入学対象

経済学科講義科目

() 内は1992年度以前入学者

経済原論 (経済原論Ⅰ)	高橋 房 二	162
〃	西村 允 克	164
近代経済学 (理論経済学)	小林 進	189
計量経済学	小野 恵一郎	184
国民所得論	安藤 登	185
経済変動論	松本 正 信	187
経済学史	鈴木 勇	193
経済社会学 (経済原論Ⅱ)	高橋 善四郎	191
社会科学概論 (社会科学方法論)	宮澤 清	241
経済哲学	高橋 善四郎	195
一般経済史	原 剛	197
日本経済史	齊藤 博	166
日本社会史	新井 孝 重	199
西洋経済史	御生園 眞	201
東洋経済史	田中 正 俊	203
経済政策	伊藤 正 昭	170
国際経済論	益山 光 央	205
産業組織論	青木 雅 明	209
日本経済論	波形 昭 一	172
産業構造論	山越 徳	207
流通経済論	西村 允 克	211
労働経済論	桑原 靖 夫	231
交通経済論	岡田 博	213
経済地理	犬井 正	168
経済開発論	千代浦 昌 道	215
地域経済論 (1) 北米 (地域経済論)	本 田 浩 邦	217
地域経済論 (2) 西ヨーロッパ (地域経済論)	大 島 通 義	219
地域経済論 (3) 東ヨーロッパ (地域経済論)	鈴木 勇	221
地域経済論 (4) アジア・オセアニア (地域経済論)	森 健	223
地域経済論 (6) ラテンアメリカ (地域経済論)	山 本 正 三	225
地域産業政策論	伊藤 正 昭	227
地域精神衛生論	佐々木 雄 司	243
社会政策	桑原 靖 夫	229
財政学	大 島 通 義	233
日本財政論	伊藤 正 昭	235
金融論	田 村 申 一	237

国際金融論	山本美樹子	239
統計学	富田幸弘	174
〃	本田勝	176
〃	松井敬	178
経済統計	松本正信	180
応用統計学	本田勝	251
プログラミング論	高柳敏子	253
〃	立田ルミ	255
情報処理概論 (情報処理論Ⅰ)	各担当教員	182
情報処理論 (1) (情報処理論Ⅱ)	高柳敏子	257
情報処理論 (2) (情報処理論Ⅲ)	富田幸弘	261
情報処理論 (3) (情報処理論Ⅳ)	立田ルミ	259
経営学	河野重榮	245
簿記	井出健二郎	432
〃	氏原茂樹	434
〃	岡下敏	436
〃	中村泰将	438
〃	福島寿	440
〃	細田哲	442
〃	百瀬房徳	443
〃	湯田雅夫	445
会計学	宮澤清	249
民法	椿久美子	263
商法	坂本延夫	265
国際法	廣部和也	267
政治学総論	小野修三	269
外国書研究Ⅰ (外国経済書・外国経営書研究Ⅰ)	(新カリ経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)	
外国書研究Ⅱ (外国経済書・外国経営書研究Ⅱ)	(新カリ経済学科「外国書研究Ⅱ」参照)	
貿易英語	山崎静光	407
経済英語	小林哲也	409
総合講座 (1)	経済学部	410

経営学科講義科

経営学総論	河野重榮	420
〃	富田忠義	422
経営労務論	宮城浩祐	453
経営管理論 (経営管理総論)	富田忠義	451
財務管理論	細田哲	455
国際経営論	小林哲也	457
行動科学論 (行動科学概論)	大久保貞義	463
一般経営史	原剛	459
日本経営史	齊藤博	461

企業形態論	梁 場 保 行	469
企業論	西 川 純 子	426
マーケティング論	大久保 貞 義	424
貿易論	米 山 昌 幸	428
交通論	岡 田 博	213
証券市場論	原 亨	467
広告論	梶 山 皓	465
保険論	岡 村 国 和	247
簿記原理	井 出 健二郎	432
〃	氏 原 茂 樹	434
〃	岡 下 敏	436
〃	中 村 泰 将	438
〃	福 島 寿	440
〃	細 田 哲	442
〃	百 瀬 房 德	443
〃	湯 田 雅 夫	445
上級簿記	細 田 哲	483
〃	百 瀬 房 德	484
会計学原理	宮 澤 清	447
〃	湯 田 雅 夫	449
原価計算論	齋 藤 正 章	477
会計監査論	長 吉 眞 一	479
税務会計論	山 田 浩 一	481
経営分析論	百 瀬 房 德	475
管理会計論	香 取 徹	473
財務会計論	中 村 泰 将	430
社会会計論	湯 田 雅 夫	471
管理工学	山 本 栄	486
経営数学	前 田 功 雄	488
統計学	富 田 幸 弘	174
〃	本 田 勝	176
〃	松 井 敬	178
応用統計学	本 田 勝	251
プログラミング論	高 柳 敏 子	253
	立 田 ル ミ	255
オペレーションズ・リサーチ	本 田 勝	490
システムズ・エンジニアリング	天 笠 美知夫	492
情報システム論	前 田 功 雄	494
標本調査論	松 井 敬	496
情報検索論	小 田 光 宏	498
情報処理概論 (情報処理論 I)	各 担 当 役 員	182
情報処理論 (1) (情報処理論 II)	高 柳 敏 子	257
情報処理論 (2) (情報処理論 II)	富 田 幸 弘	261
情報処理論 (3) (情報処理論 II)	立 田 ル ミ	259

老年社会学	奥山正司	500
高齢者エルゴノミクス	山本栄	504
宗教学	鈴木康治	502
経済原論	高橋房二	162
〃	西村允克	164
民法	椿久美子	263
商法	坂本延夫	265
国際法	廣部和也	267
政治学総論	小野修三	269
外国書研究Ⅰ (外国経済書・外国経営書研究Ⅰ)	(新カリ経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)	
外国書研究Ⅱ (外国経済書・外国経営書研究Ⅱ)	(新カリ経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)	
貿易英語	山崎静光	407
経済英語	小林哲也	409
総合講座(1) (総合講座)	経済学部	410

科目名	文学（日本文学）	担当者名	小島幸枝
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>国際社会で活躍しようとする日本人は、欧米諸国の精神的基盤を理解する必要がある。本講は、現代と同じ混迷の時代にあった16、7世紀の日本人を、知的、徳的に指導し、感化したキリスト教の精神風土を講義を通して紹介すると共に、キリスト教を媒介として「本当に生きる」ことを伝えた西欧人とそれを学びとった日本人がまさに相互理解しあえたこの時代を深く知ることによって、我々に自らの生を省み、ただ一つの命、一回限りの人生をもっと充実して生きられるのではないかと問うてみたい。</p>	
講義概要	<p>大航海時代に至るまでのヨーロッパの状況とこれを迎えた日本側の政治、社会状況および文化的事態を知ること。キリシタン版から小話を紹介する形で進めていく。テーマに即したビデオ映画を鑑賞することがある。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。プリントを用意する
	参考文献	適宜紹介する
評価方法	レポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	キリシタン文学とは何か、大航海時代におけるヨーロッパの拡大について
2	イエズス会宣教師ザビエルの日本布教のヴィジョン
3	東洋巡察師ワリニャノの教育構想
4	16、7世紀の日本の時代状況。キリシタン文化を受け入れる下地はあったか。小栗判官照手姫
5	キリスト教の精神—ドチリナキリシタンの世界
6	日本人の精神世界—天草本平家物語の死生観
7	同上
8	天草本エソボのハブラスをよむ
9	ヨーロッパ人宣教師の死生観—サントスの御作業
10	同上
11	同上 参考 芥川龍之介—奉教人の死
12	コンテンツスミンチの世界—仏教思想とのかかわりについて
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ぎやどべかどるの世界
2	同上
3	同上
4	スピリツアル修行の世界—黙想ということ
5	同上
6	不干ハビアン「破提字子」をよむ—ある日本人知識人の挫折
7	元禄の幽霊文学—不干ハビアンは何をしたのか
8	明治のキリシタン迫害と、岩倉具視使節団の欧米における狼狽
9	19世紀の長崎県浦上地方の信徒発見。そして「旅」
10	遠藤周作「沈黙」
11	同上
12	まとめ
備考	

科目名	文学（日本文学）	担当者名	中村文
-----	----------	------	-----

講義の目標	鎌倉時代に成立した説話集『宇治拾遺物語』を講読する。そこに描き出される様々な階層の人々の行動様式や心情を読み取り、王朝の貴族社会が崩壊し武士階級が著しい台頭を見せた中世初頭の時代の転換期を、人々がどのようにしたたかに生き抜いたかについて考えてみたい。また、社会全体の価値観が大きく変動した事情が作品にどう反映しているのか、京都や公家階級にばかりでなく地方や僧侶・盗賊・獵師等に至る周縁部へと拡大した筆録者の関心のありようから探ってみたい。	
講義概要	『宇治拾遺物語』に収められる説話を、登場人物の階層やテーマで区分して、一時間に二、三話（長い話は一話）ずつ読み進める。現代人の心にも十分訴えかける力を持つ巧みな文章と、短編小説のような構成を味わいながら、人間の営為の愚かさや滑稽さを描き出すこの作品が、決して人間存在を冷たく突き放すことなく、あたたかなまなざしで掬い取ろうとし、かつ善悪の判断を下そうとはしていないことなどを読み取ってゆく。作品全体を覆っている笑いやユーモアが何に由来しているのかということとも合わせて、筆録者が人間の惹き起こす悲喜こもごものドラマを、どのようなまなざしで見つめていたのかについて考えたい。	
使用教材	テキスト	中島悦次校註『宇治拾遺物語』（角川文庫、760円）
	参考文献	
評価方法	前期・後期に各一回、レポートを提出してもらい、中世の人々の生き方・考え方・作品の特質等について、どの程度深く読み込み、理解したかを判定する。	
受講者に対する要望など	授業の進行を妨げる行為（私語等）は厳禁。人間の心理や行動の愚かさに好奇心を持って、積極的に授業に参加してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイドンス 「宇治拾遺物語」についての概説と歴史的・文学史的背景に関する解説。序文の問題点
2	道命阿闍梨於和泉式部ノ許読経五条道祖神聴聞ノ事（巻第一の一） 丹波国篠村平茸生事（巻第一の二） * 「宇治拾遺物語」に於ける説話の配列
3	伴大納言ノ事（巻第一の四） 夢買フ人ノ事（巻第十三の五） * 古代人と夢
4	鬼ニ癩被取事（巻第一の三） * 異界との交通。民話と「宇治拾遺物語」
5	雀報恩事（巻第三の十六） * 民話と「宇治拾遺物語」 隣の爺型
6	博打ノ子聳入ノ事（巻第九の八） * 民話と「宇治拾遺物語」
7	随求陀羅尼籠額法師ノ事（巻一の五） 空入水シタル僧ノ事（巻第十一の九） * 狂惑の法師
8	龍門聖鹿ニ欲替事（巻第一の七） 獵師佛ヲ射事（巻八の六） * 聖のあり方
9	清徳聖奇特ノ事（巻第二の一） * 聖のあり方
10	増賀上人參三条宮振舞ノ事（巻十二の七） 聖宝僧正渡一条大路事（巻十二の八） * 偽悪の伝統
11	仁戒上人往生ノ事（巻第十五の九） * 偽悪の伝統
12	児ノカイ餅スルニ空寝シタル事（巻第一の十二） 尼地藏奉見事（巻第一の十六） * 「宇治拾遺物語」の中の子ども
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	修業者逢百鬼夜行事（巻第一の十七） 一条棧敷屋鬼ノ事（巻第十二の二十四） * 王朝の怪異譚
2	清明封蔵人少将事（巻第二の八） 石橋ノ下ノ地ノ事（巻第四の五） * 王朝の怪異譚
3	東北院菩提講聖ノ事（巻第四の六） 多田新発意郎等ノ事（巻第三の十二） * 発心・出家の話
4	進命婦清水詣ノ事（巻第四の八） 清水寺ニ二千度参詣ノ者打入双六事（巻第六の四） * 中世人の宗教観、観音信仰
5	信濃国筑摩ノ湯ニ観音沐浴ノ事（巻第六の七） 清水寺御帳給ル女ノ事（巻第十一の七） * 中世人の宗教観、観音信仰
6	秦兼久向通俊卿ノ許悪口ノ事（巻第一の十） 袴垂合保昌事（巻第二の十） * 価値の逆転
7	季通欲逢事ニ事（巻第二の九） 明衡欲逢殃事（巻第二の十一） * 価値の逆転
8	鼻長キ僧ノ事（巻第二の七） 三条中納言水飯ノ事（巻第七の三） * 笑いの根源
9	陪従家細兄弟互ニ謀タル事（巻第五の五） 土佐ノ判官通清、人違シテ関白殿ニ奉合事（巻第十五の五） * 芸道への執心
10	平貞文本院侍従事（巻第三の十八） 蔵人得業猿沢池ノ龍ノ事（巻第十一の六） 芥川龍之介と「宇治拾遺物語」
11	信濃国聖ノ事（巻第八の三） * 「宇治拾遺物語」と絵巻
12	伴大納言焼応天門事（巻第十の一） * 「宇治拾遺物語」と絵巻
備考	

科目名	文学（日本文学）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的イベントなどについて解説し、教養人として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的イベントを背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。また代表的歌人たる人麻呂についても述べる。</p> <p>後期には、赤人・憶良・虫麻呂・家持などの有力歌人群、東歌・防人歌の問題、伝説・説話の歌など広く検討してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	・小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	・斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』について名義・成立・注釈書などを概説する
2	巻一国歌大鑑番号1番・雄略天皇の歌について考える。
3	中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5	柿本人麻呂とその長歌を中心に読む。
6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8	有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
9	再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心にして読む。
11	前期のまとめとしてプリント二枚を配って、前期試験の傾向と対策について説明する。
12	大宰帥大伴旅人「酒を讀むる歌」を中心にして読む。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	真間娘子について——赤人と虫麻呂——
2	山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
4	高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原乙女など——
5	寄物陳思・正述心緒——巻十一の歌を読む。
6	万葉の用字法——特に義訓・戯訓など。
7	東歌についての説明と歌。
8	中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋とその贈答歌について。
9	巻十六有由縁并雑歌を中心にして読む。
10	大伴家持とその歌について講読する。
11	後期のまとめとしてプリント二枚を配り、後期試験の傾向と対策について説明する。
12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についても説明する。
備考	

科目名	文学（外国文学）	担当者名	亀谷敬昭
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>外国文学といっても、ここではヨーロッパの文学を主とする。ギリシア・ローマ以来ヨーロッパの文学は、人はいかに生きるべきかという問題と深く関係してきた。文学の原点をここにすえて、それぞれの時代と国において、この問題がどのように展開されてきたのかを検討してみるのが、本講義の目標である。世紀という概念はヨーロッパ的であるにしても、間もなく新しい世紀を迎えようとするこの時期に、人生いかに生きるべきかは永遠の課題であり、自ら探究しようとする人の指針となることを期待している。</p>	
講義概要	<p>ヨーロッパ文学を代表する作品約10編を取り上げ、その作者や時代の背景、作品の成立やその問題点などを検討し、それが現代のわれわれにどのような意味があるのかを考える。</p>	
使用教材	テキスト	<p>授業時間中に適宜指示する。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>前期はレポートで、後期は試験とするが、時々簡単な小テストを試み、これらを合わせて評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ホメロスの「イーリアス」。その成立および背景となる事情。
2	「イーリアス」続き。アキレウスとヘクトールの決闘。後代のヨーロッパ文学に及ぼした影響など。
3	アイスキュロスの「アガメムノン」。その成立および背景となる事情。
4	「アガメムノン」3部作。オレステスの復讐とその後。
5	ソフォクレスの「オイディプス王」。
6	「オイディプス王」続き。ギリシア悲劇と近代悲劇の比較
7	「ニーベルンゲンの歌」。その成立と背景となる事情。
8	「ニーベルンゲンの歌」と「ベオウルフ」および「ローランの歌」との比較。
9	クリストファー・マーロウとシェイクスピア。
10	シェイクスピアの4大悲劇について。
11	ゲーテの「ファウスト」第1部の成立とその背景
12	ゲーテの「ファウスト」第2部の成立とその背景
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの徒弟時代」。その成立と背景および後代への影響について。
2	ゲーテの長篇小説「ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代」。その成立と背景について。
3	レフ・トルストイの長篇小説「アンナ・カレニナ」その成立と時代背景。
4	「アンナ・カレニナ」と「戦争と平和」の比較。
5	ドストエーフスキイの「罪と罰」。その成立と時代背景。
6	「罪と罰」と「カラマーゾフの兄弟」の比較。
7	トーマス・マンの長篇小説「ブデンブローク家の人々」。その成立と時代背景。
8	「ブデンブローク家の人々」と「魔の山」の比較。
9	ヘルマン・ヘッセの「荒野の狼」について。その成立と時代背景。
10	「荒野の狼」と「車輪の下」の比較。
11	フランツ・カフカの作品「城」。その成立と時代背景。
12	「城」と「審判」の比較。
備考	

科目名	文学（外国文学）	担当者名	北澤 滋 久
-----	----------	------	--------

講義の目標	<p>文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。</p>		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像— 英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会って、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めません。</p>	
	参考文献	<p>参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。</p>	
評価方法	<p>前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20-30%の不合格者が出ています。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	文学 (外国文学)	担当者名	松山恒見
-----	-----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。		
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させた		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。	
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレール。
6	十七世紀——古典主義、コルネイユ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、輔コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジュールジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	国語	担当者名	北村進
-----	----	------	-----

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは、教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段である。</p> <p>短歌は自分の心の動き（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感動が凝縮されて、言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこにまた魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して、日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>	
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切にし、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには、多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講座では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらおう。講義中にも短歌の鑑賞文など書いてもらおう。その他、国語に関する一般常識についても触れるつもりでいる。</p>	
使用教材	テキスト	・『新修 日本抒情詩歌』(株)おうふう
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	<p>出席・提出物を重視する。</p> <p>前期はレポート提出。</p> <p>後期については未定。</p>	
受講者に対する要望など	<p>提出物は期日を守ってきちんと提出すること。欠席をしないこと。当然のことながら、講義中無駄話をしないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌・短歌の流れを略説する。
2	現代短歌鑑賞一俵万智の『サラダ記念日』の中から何首か取り上げて、現代短歌に親しむと共に、作歌の手引とする。
3	岡井隆『短歌の世界』、俵万智『短歌をむよ』を参考に、短歌を作る上の基本事項について解説する。
4	『万葉集』の歌を取り上げる。『万葉集』について解説し、初期万葉集の歌何首かを読み味わう。テキスト p 23～p 24
5	『万葉集』巻2～巻5までの歌を取り上げる。テキスト p 25～30
6	『万葉集』巻6～巻10までの歌を取り上げる。伝説歌が中心となる。テキスト p 33～p 36
7	『万葉集』巻11～巻16までの歌を取り上げる。作者未詳の一般大衆の歌が中心となる。テキスト p 37～p 42
8	『万葉集』巻17～巻20までの歌を取り上げる。大伴家持及び防人の歌が中心となる。テキスト p 43～p 46
9	『古今和歌集』及び『和泉式部集』の歌を取り上げる。テキスト p 55～p 58
10	『新古今和歌集』の歌を中心に、王朝和歌を取り上げる。テキスト p 59～p 61
11	『百人一首』の歌を取り上げる。テキスト p 65～p 78
12	『百人一首』のパロディーを取り上げる。『狂歌百人一首』など。百人一首をもじった歌の数々。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘妙』や『閑吟集』の中からよく知られた歌謡を取り上げ解説する。テキスト p 51～p 54、p 78～p 81
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重んじた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察する。
3	近世末期に登場した歌人たち、良寛・大隈言道・橘曙覧の歌を取り上げる。テキスト p 81～p 83
4	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子など。テキスト p 96～p 98
5	同 上
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。正岡子規・長塚節・伊藤左千夫他。テキスト p 108～p 112
7	この時期に活躍したその他の歌人たち一石川啄木・若山牧水・北原白秋などの歌を取り上げる。テキスト p 99～p 105
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る「辞世」の歌を取り上げる。
10	詩を鑑賞する。島崎藤村・室生犀星・佐藤春夫・立原道造など。テキスト p 125～p 165
11	現代短歌を取り上げる。男性歌人の歌。
12	同 上 女性歌人の歌。
備考	

科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を増強する訓練を怠らないことを前提としたい。		
講義概要			
使用教材	テキスト	松村明編 国語表現法（桜楓社）	
	参考文献		
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語	担当者名	福沢 健
-----	----	------	------

講義の目標	<p>本講座においては、文章表現の基礎となる事項を再確認し、自らの思考を論理的に表現できる能力を身につけることを目標とする。言語表現には「話す」「聞く」「読む」「書く」のいわゆる四技能があるが、特に後二者に力を入れたいと考えている。大学生活の中で最も需要が高いのは、やはり「読む」能力と「書く」能力であると考えからである。</p> <p>具体的な文章表現の能力は、実践によって培われる性質のものである。したがって、授業は講義によって文章表現理論を論ずることよりも、学生諸君による演習が中心となる。</p>		
講義概要	<p>文章表現の基礎として確認する事項は以下の通り。①語彙（熟語・同義語・類義語・対義語・同音異義語・同訓異義語・四字熟語）。②表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）。③表現（レトリック・敬語法・手紙文・文と文とのつなぎ方）。④総合（推敲・作文演習）。</p> <p>以上の基礎事項を問題演習型式で行なう。ただし、問題を解いてもらった後にこちらで解答・解説を述べるだけでは単調になってしまうので、なるべく指名するかたちで授業に参加している学生諸君に解答してもらおうと思っている。また、その日に扱った事項が身についているかを自ら確認してもらうために、授業中に出てきた事項に関連する短文を書いて提出してもらうこともある。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず。プリントを配布。	
	参考文献		
評価方法	<p>定期試験による評価は行なわない。ただし、毎月一回程度、そこまでの知識が身についているかを確認する小テストを行なう。このテストの総合点が、評価の中心となる。その他課題物の提出状況・出席状況を評価の対象として加味する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>国語辞典を携行すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明。
2	言葉の役割について考える——①認識・思考、②表現・伝達、③情報の蓄積、④保存と虚構——
3	正確な表現、的確な表現とは何かを考える——①紋切り型の表現、②舌足らずであいまいな表現——
4	語彙を増やす〈Ⅰ〉——①漢語の語彙を増やす、②四字熟語についての知識を身につける——
5	語彙を増やす〈Ⅱ〉——同義語・類義語・対義語についての知識を身につける——
6	語彙を増やす〈Ⅲ〉——同音異義語・同訓異義語についての知識を身につける——
7	語彙を増やす〈Ⅳ〉——慣用句についての知識を身につける——
8	正しい表記法を身につける〈Ⅰ〉——用字法——
9	正しい表記法を身につける〈Ⅱ〉——①句読法、②原稿用紙の使い方——
10	文法——①修飾語と被修飾語、②陳述副詞——
11	文章研究——推敲——
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章の構成——①三段構成、②具体的叙述と抽象的叙述——
2	短作文演習——①一文作文、②二文作文と接続詞、③三文作文
3	レトリック〈Ⅰ〉——比喩表現——
4	レトリック〈Ⅱ〉——展開の表現技法——
5	レトリック〈Ⅲ〉——伝達の表現技法——
6	敬語法〈Ⅰ〉——場面に応じた言葉使いを考える——
7	敬語法〈Ⅱ〉正しい敬語法を考える——
8	敬語法〈Ⅲ〉——同上——
9	敬語法〈Ⅳ〉——同上——
10	手紙文〈Ⅰ〉——手紙文の型式——
11	手紙文〈Ⅱ〉——敬語を用いて文章を書く——
12	予備日
備考	

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	----------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 ・佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実に注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもちたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争（観応の擾乱）の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足輕の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現（バサラをも通底する）を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。</p>		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。</p>	
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学(東洋史)	担当者名	春日井 明
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>我々日本人は近代化の過程でアジアに対する視点を失い、語りかける言葉を失ってしまった。語りかけるにも語りかける術を知らないということは、彼等との歴史的土壌の共通性への感覚を失っているからである。アジアと言っても、近代化以前は中国文化圏と言い換えることができる東アジアの世界が、日本の歴史や文化の形成に深く関わり、我々の意識の深奥に東アジア的価値観とも言うべきものが存在することを歴史を材料として考えてみたい。今後の新しい価値観の創造に連なる意味ももつであろう。</p>	
講義概要	<p>東洋史の名で呼ばれる歴史世界の領域は非常に広い。そこで、歴史学でその対象としている東洋世界の気候風土の全体像と地域的な相違を大まかに理解し、その上で、日本の歴史・文化が育まれた東アジア世界に講義の中心を置き、さらにより焦点を絞って、日本の歴史の展開が東アジアの世界形成とその構造とどのように結びついてきたかを観ることとする。日本史を国際関係の中に位置づけて理解するということである。扱う時代は19世紀以前とする。</p> <p>以上を講義の骨格としながら、日本文化論に登場する幾つかの文化価値についても東アジア世界という立場から考えてみたい。</p>	
使用教材	テキスト	・西嶋 定生『中国史を学ぶということ』
	参考文献	講義中に、随時紹介するものとする。
評価方法	<p>学年末に、常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは、原則として受験資格を失う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義中の私語は厳禁。違反者はその時点で退室してもらう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アジアの風土と地理(1)
2	同 上 (2)
3	西アジア世界、中央アジア世界、北アジア世界、南アジア世界の素描(1)
4	同 上 (2)
5	東アジア世界の始まりと中国史
6	東アジアの一員としての日本の位置
7	漢字文化圏の成立と東アジア世界の関係
8	漢字について——その歴史的価値
9	冊封体制——東アジアの国際関係——の成立
10	女王卑弥呼の国際感覚と国際情勢
11	倭の五王と国際感覚と国際情勢
12	隋唐帝国の成立と、聖徳太子及び天智天皇の国際感覚の欠如
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	唐詩と平安文学を、歴史意識の視点から比較する。
2	10世紀から11世紀にかけての東アジアの変動(1)
3	同 上 (2)
4	日本の武家政権の有国際性と無国際性——(1)日宋貿易と勘合符貿易
5	同 上 (2)蒙古襲来と秀吉の朝鮮出兵
6	ヨーロッパのアジア貿易——茶をめぐる(1)
7	同 上 (2)
8	江戸時代の国際交流(1)——対中国
9	同 上 (2)——対朝鮮
10	祖先信仰と天の思想
11	中国の儒教(1)
12	同 上(2)
備考	

科目名	歴史学(西洋史)	担当者名	御園生 眞
-----	----------	------	-------

講義の目標	近代のヨーロッパ(ロシア、東欧を含む)およびアメリカの歩みを市民革命期から帝国主義時代までたどり、その歴史的意義と問題点を社会経済史的側面に重点をおいて考察する。		
講義概要	<p>前期：市民革命(ブルジョワ革命)とイギリス産業革命を主題とし、国際的な関連にも留意しつつ、資本主義経済の成立と確立の過程および近代社会の成立過程を分析する。</p> <p>後期：19世紀後半の展開を、ナショナリズムの問題、国民国家の形成、後発諸国の工業化、資本主義的世界体制の成立、帝国主義と植民地などを中心に講義する。</p>		
使用教材	テキスト	・大下尚一、西川正雄、服部春彦、望田幸男編『西洋の歴史〔近代編〕』ミネルヴァ書房、1987年。	
	参考文献	第1回の講義時に指示する。	
評価方法	定期試験(前期後期の2回)の成績を基に評価する。		
受講者に対する要望など	事情により講義内容の予定が変更される場合がある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論。参考文献の紹介。
2	I. ブルジョワ革命。1. イギリス革命。
3	1. イギリス革命。(続)
4	2. アメリカ独立革命。
5	2. アメリカ独立革命。(続)
6	3. フランス革命。
7	3. フランス革命。(続)
8	4. ナポレオン時代とウィーン体制。
9	4. ナポレオン時代とウィーン体制。(続)
10	II. 産業革命。1. イギリス産業革命とその波動。
11	1. イギリス産業革命とその波動。(続)
12	1. イギリス産業革命とその波動。(続)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III. ナショナルリズムの時代。1. 1848年の革命。
2	2. イタリアの統一。
3	3. ドイツの統一。
4	4. 南北戦争。
5	5. オスマン帝国の近代化と民族問題。
6	IV. 帝国主義の時代。1. ドイツとオーストリアの帝制。
7	2. フランスの共和制。
8	3. イギリスの議会政治。
9	4. ロシアと東ヨーロッパの反動と革命。
10	5. ラテンアメリカの独立と民族運動。
11	6. 帝国主義と植民地争奪。
12	7. 第一次世界大戦。
備考	

科目名	日本文化論（風土）	担当者名	小林幸夫
-----	-----------	------	------

講義の目標	日本の生活文化について、特に近代における生活文化について、その歴史的背景を考えるとともに、近隣諸国との比較も含めて特質を考える。	
講義概要	<p>①衣・食・住といった物質的側面の強い生活文化について、具体的諸相を明らかにするとともに、その背景となっている日本人の精神的特質ないしは、日本人的な「物と心の相互作用」について考える。（前期）</p> <p>②ムラ・イエ・労働の場といった共同（協働）組織について、具体的諸相を明らかにするとともに、それを支えた日本的人間関係の特質について、信仰の問題を中心として考える。（後期）</p>	
使用教材	テキスト	・『柳田国男全集 第二十六巻』（ちくま文庫版）所収の『明治大正史世相篇』
	参考文献	前期授業開始時に一覧表を配布する。
評価方法	前期・後期の二回の定期試験及び、授業期間中に与えた課題についての小レポート（原稿用紙5～10枚程度）により評価する。	
受講者に対する要望など	参考資料を配布するので、自分で読んで授業中の講義の理解を深めること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	柳田国男について。 <ul style="list-style-type: none"> ・柳田国男の生涯と思想形成 ・柳田国男の民俗学（方法の特質） ・柳田国男の思想的特質
2	
3	
4	
5	第一章「眼に映ずる世相」 <ul style="list-style-type: none"> ・色彩の時代相 ・衣文化の変遷
6	
7	
8	第二章「食物の個人自由」 <ul style="list-style-type: none"> ・食文化の変遷 第七章「酒」 <ul style="list-style-type: none"> ・アルコールと交際・孤独な酒
9	
10	
11	第三章「家と住心地」 <ul style="list-style-type: none"> ・住文化の変遷
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第九章「家永統の願い」 <ul style="list-style-type: none"> ・柳田の農本主義的思考 ・家の定義 ・農民の家 ・非農業民（武士・商人 etc）の家
2	
3	
4	
5	第十章「生産と商業」 <ul style="list-style-type: none"> ・協働のあり方 第十一章「労力の配賦」 <ul style="list-style-type: none"> ・家業と職業
6	
7	
8	第十三章「伴を慕う心」 <ul style="list-style-type: none"> ・協働の心 第八章「恋愛技術の消長」 <ul style="list-style-type: none"> ・婚姻のあり方
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	思想(哲学)	担当者名	鈴木康治
-----	--------	------	------

講義の目標	生きることを廻って、人生観・世界の基礎となる諸知識を養うことを目標とする。	
講義概要	講義予定を参照のこと。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	適宜、提示する。
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。尚、人数により変更もありうる。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	哲学履修の前提 1
3	同上 2
4	人生観・世界観の結びつき 1
5	同上 2
6	知の形成と自己追求 1
7	同上 2
8	イデア論の展開 1
9	同上 2
10	近世展望
11	近代展望 1
12	同上 2
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期研究の問題提起
2	思想の諸問題 1
3	同上 2
4	同上 3
5	カント哲学 1
6	その展開 2
7	ドイツ観念論 1
8	同上 2
9	実存主義への道 1
10	同上 2
11	近代疎外の問題 1
12	同上 2
備考	

科目名	思想(宗教)	担当者名	鈴木康治
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現実に見聞きする東西の宗教は、さまざまな姿を呈している。それで、宗教とは何かを中心とすえないで、現実の宗教(例えば、民族宗教、世界宗教等に)の変遷・経緯をたどってみたい。比較宗教というか、幅広くとりあげることにする。</p>	
講義概要	<p>講義予定を参照してほしい。なお、最初の講義なので主題変更もありうる。多少とも、順不同を承知していただきたい。</p>	
使用教材	テキスト	その宗教に応じて指示することにする。
	参考文献	
評価方法	<p>年一回の、ノート持ちこみのテストの予定。責任分担上、受講者の数を勘案して変更することもある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>特にない。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	一応、宗教とは何か。定義の問題
3	宗教類型論
4	既成宗教における三要素（教義・組織・儀礼）
5	エジプトの宗教（人間・生と死）、ギリシャの宗教、ゾロアスター
6	仏教(1) 原始仏教
7	仏教(2) 日本公伝の歴史、平安期まで
8	仏教(3) 鎌倉新仏教の行方
9	仏教(4) 以後の概観
10	ユダヤ教
11	キリスト教
12	プロテスタント史
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概観のまとめ
2	イスラム教
3	ヒンズー教
4	道教・儒教
5	日本人の宗教(1) 宗教心
6	日本人の宗教(2) 習合の問題
7	日本人の宗教(3) 修験
8	米国における denominationed church に関わる問題
9	シャマニズムの諸問題
10	神道の歴史
11	祭祀の問題(1)
12	祭祀の問題(2)
備考	

科目名	法 学	担当者名	土 田 道 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>法（法律）は、社会生活を営む上での最低限のルールである。その仕組みや内容をできるだけわかりやすく講義し、基本的な知識を身につけてもらうことを目標とする。テキストは、判例を中心とする理解しやすいものだが、適宜資料なども配布して、学生諸君の知的好奇心を刺激できるような講義にしたい。</p>		
講義概要	<p>法（法律）には多くの種類がある。国の最高法規である憲法、財産取引や家族関係など、人と人との関係を法的に規律する基本法である民法、「罪と罰」について定める刑法、取引法を発展させた商法、訴訟（裁判）の仕組みを規定する訴訟法（民事訴訟法・刑事訴訟法）——以上を「六法」という。そのほかにも、行政法、労働法、経済法、国際法などがある。この講義では、憲法、民法、刑法、労働法を中心に講義したい。イントロダクションを2回、憲法は人権を中心に6回、民法は取引法を中心に6回、刑法は「脳死」などトピックスも交えて6回、労働法は4回講義する予定である。詳細は「年間講義予定」を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・西村健一郎・西井正弘・初宿正典『判例法学（改訂版）』有斐閣</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期・後期ともに試験を行い、評価・採点は厳格に行う。出席も考慮する。はっきり言って私は厳しい。教員が真剣に講義し、学生もそれと同様の真剣さをもって受講することを要求される——これが私のモットーである。</p>		
受講者に対する要望など	<p>以上のようなわけで、単位狙いの怠け学生はご遠慮いただき、受講するだけ無駄である。法（法学）に対する知的好奇心をもつ学生だけに受講してもらいたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション(1)——法の仕組み(体系)や裁判制度について概説する。
2	イントロダクション(2)——法の性格と役割(機能)について概説する。
3	憲法(1)——法の下での平等;社会の中の差別と、法のあり方について考える(性による差別、尊属殺問題など)。
4	憲法(2)——プライバシーの権利;「宴のあと」事件や、HIV感染問題を取り上げる。
5	憲法(3)——法と宗教;オウム問題・破防法問題などを素材に、信教の自由について考える。
6	憲法(4)——表現の自由;表現の自由と対立する人権・法益の衝突について考える。
7	憲法(5)——外国人の人権;選挙権・社会権等を取り上げる。
8	憲法(6)——死刑の合憲性;死刑は「残虐な刑罰」か?
9	民法(1)——契約に基づく権利義務①;誰でも1日に1回は結ぶ契約。その基本的知識を講義する(債務不履行とは何か? など)。
10	民法(2)——契約に基づく権利義務②;契約の成立と終了などについて、具体的事例によって講義する。
11	民法(3)——不法行為①;どんな所にも顔を出すのがこの不法行為。セクシュアル・ハラスメントを題材に講義する。
12	民法(4)——不法行為②;公害と法。人格権・環境権も交えて考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法(5)——所有権と物権変動;誰でも欲しい一戸建ての売買を例に解説する。
2	民法(6)——結婚と法;不倫した側(不倫された側ではない)による離婚請求は認められるか? この問題を中心に講義する。
3	刑法(1)——刑法の基礎;「罪と罰」の基本的思想について講義する。
4	刑法(2)——犯罪の成立要件①;構成要件該当性について/違法性について(その1)。正当防衛を題材に。
5	刑法(3)——犯罪の成立要件②;違法性について(その2)。安楽死・尊厳死を題材に。
6	刑法(4)——犯罪の成立要件③;故意・過失について。
7	刑法(5)——共犯;地下鉄サリン事件を題材に考える。
8	刑法(6)——「脳死問題」を法的側面から考える。
9	労働法(1)——労働条件の保護;「会社で楽しく過ごす方法」について考える。
10	労働法(2)——労働関係の開始と終了;内定取消とリストラについて考える。
11	労働法(3)——男女平等と法;雇用機会均等法を中心に考える。
12	労働法(4)——労働災害と法;「過労死」について考える。
備考	

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。</p>		
講義概要	<p>熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会</p>	
	参考文献	<p>・T.C.ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ジョン・C.クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス</p>	
評価方法	<p>前期、後期各1回ずつの定期試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「経済地理（犬井担当）」、「地域経済論〈ラテンアメリカ〉（山本正三教授担当）」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	VTR『緑を守る男たち』視聴。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	民俗学	担当者名	辻 雄 二
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、日本の民俗文化に関する知識を受講者各人が得ることにより、今日の生活において無意識のうちに接してきた、あるいは存在する様々な民俗事象の本質的な意味を考え、自文化に対する内省的理解を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>近年、日本あるいは日本人とは何か？を問う声を盛んに耳にする。日本民俗学は従来その立場から伝統的な社会構造・経済活動・生活文化そして精神世界についてさまざまな研究をすすめてきた。本講義は全体としてその成果をふまえて、概論的性格をもったものとする。尚、失われゆく世界を理解する術として映像資料を逐次利用し、個別具体的に研究の視角・方法等を具体的に紹介する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定はなし。但し展開に応じて参考文献・資料等をそのつど指示する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・宮田 登『日本の民俗学』1987年 講談社学術文庫 ・柳田国男『柳田国男全集』全32巻 1990年 ちくま文庫 	
評価方法	<p>前後期の試験によって判定。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民俗とは：民俗学的視点から、現在の生活にみられるさまざまな「慣習」を例にとり、民俗的世界を考え解説する。
2	民俗学とは：日本の民俗学の成り立ちを柳田国男、折口信夫等の活動をとおして、学史的解説をする。特に柳田民俗学の特徴的な研究として『海上の道』をとりあげる。
3	日本民俗学の方法：日本の民俗学の方法論として柳田国男の唱えた比較研究法、重出立証法について検討を加え解説する。
4	社会伝承Ⅰ：民俗学が対象とする社会はムラとマチに分けられる。特にムラについてその構成と運営という点について注目し解説する。
5	社会伝承Ⅱ：日本におけるイエとはなにか。日本人にとってイエ永続の願いは強く、その家族のあり方について考え、現代社会に即したかたちで解説する。
6	経済伝承Ⅰ：日本文化の要素として海の民俗文化をとりあげ、そこに生きる漁民の生活をとおしてその特色を探る。
7	経済伝承Ⅱ：漁民の生活文化についてさまざまな事例を紹介し、その信仰習俗について検討を加える。
8	経済伝承Ⅲ：中国江南地方から伝来したといわれる稲に注目し、稲作をめぐる民俗文化をそこに生きる農民の生活をとおしてその特色を探る。
9	経済伝承Ⅳ：農民の生活文化の中で実際の一年にわたる稲の成育とその儀礼にまつわる信仰習俗について検討を加える。
10	経済伝承Ⅴ：日本の伝統的な食生活において重要な位置を占めてきた雑穀に注目し、山村あるいは焼畑における民俗文化の特色を探る。
11	経済伝承Ⅵ：山民の生活文化の基幹的位置を占める「山の神」信仰について、山を中心とした民俗宗教との関わりを考え検討する。
12	まとめ：日本文化の主要素である海と山の文化、さらに農民の文化について経済伝承を中心にまとめ、それぞれの交流をとおしてその影響を考え解説する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	儀礼伝承Ⅰ：産育にまつわる民俗文化について紹介し、そこにみられる時間の認識について解説する。
2	儀礼伝承Ⅱ：産育におけるさまざまな儀礼にまつわる信仰習俗について解説する。
3	儀礼伝承Ⅲ：葬送にまつわる民俗文化について紹介し、そこにみられる時間の認識について解説する。
4	儀礼伝承Ⅳ：葬送におけるさまざまな儀礼にまつわる信仰習俗について解説する。
5	信仰伝承Ⅰ：日本の墓制に関して概説し、特に両墓制に注目し、日本人の靈魂観、他界観について検討する。
6	信仰伝承Ⅱ：日本のカミ観念のあり方をさまざまな神霊表出の類型を中心に解説する。特に祖霊についてその民俗的意味を探る。
7	信仰伝承Ⅲ：祖霊信仰に対置すると考えられる御霊信仰と憑霊信仰について解説を加え、特に御霊信仰と関わりの深い「十三塚」をとりあげ検討を加える。
8	信仰伝承Ⅳ：「十三塚」を中心に日本の塚信仰を民俗社会における空間認識との関わりで検討する。
9	言語伝承Ⅰ：口承文芸の分類とその世界について概説し、「十三塚」を例に検討する。
10	言語伝承Ⅱ：口承文芸の中で特に「語り」と「唄」の関係に注目し、南島の歌謡を例に検討を加える。
11	芸能伝承：民俗芸能について概説し、愛知県北設楽郡東栄町の「花祭」を例にその諸相に迫る。
12	まとめ：現代社会の中で今日の生活を営む人々の心に心意として存在する民俗事象を、都市生活者である自らの問題として捉え内省的な理解を深める。
備考	

科目名	心理学	担当者名	増田直衛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それはほんの一部なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。</p>		
講義概要	<p>現代の心理学が問題としている項目の中から、いくつかのトピックスを選び、心理学的事実の紹介にとどまらず、科学としての心理学の考え方を検討していきます。</p> <p>スライド、OHP、VTRなどを使って具体的に理解できるようにところがけます。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しません。	
	参考文献	<p>宇津木 保ほか著『心理学のあゆみ』（有斐閣新書）</p> <p>野口 薫ほか著『心理学入門』（有斐閣新書）</p> <p>この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。</p> <p>手元に置くと便利な本を開講時に指示します。</p>	
評価方法	<p>評価は2回の定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>岸田 秀「ものぐさ精神分析」（中央文庫）や橋本 治「帰ってきた桃尻娘」（講談社文庫）に戯画化された大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めいたします。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	最初に心理学とはどんな学問かについて
2	心とはなんだろうか、
3	心理学の誕生、
4	心理学の分野、
5	心理学の方法、
6	個体と環境との関係、などについて考察します。
7	次に、人間の認識機構を中心に心理学的考察をすすめます。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の内容をひきつぎながら、
2	学習
3	記憶
4	思考、などの問題について心理学的考察をすすめます。
5	時間に余裕があれば、小集団の心理学の問題にも触れていきたいと思います。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	数 学	担当者名	田 中 雅 英
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>経済学にとってある程度の数学の知識は必要不可欠である。数学の知識なくして経済学を学ぶことは難しいといってもよいだろう。</p> <p>この講義では、経済学を学ぶための必要最小限と思しき数学の基礎的な分野の学習をする。扱う分野は線型代数（行列）と微積分である。</p>	
講義概要	<p>前期は行列と行列式を講義する。これらは数学の基礎であると同時に現実問題に応用されることも多い。</p> <p>後期は微積分を扱う。これもまた理系専用ではなく、経済学でも幅広く使われているものであり、線型代数と同じく必須であるとも言える。</p> <p>方針は証明や公式導出に際して、数学的厳密さを要求するよりも、わかり易さをモットーとし、使いこなせることを中心にする。</p>	
使用教材	テキスト	特にないが、テキストがわりとしてプリントを準備する。
	参考文献	必要に応じて、講義中に紹介する。
評価方法	前期、後期の試験のみに限らず、途中で何回か実施するテストで評価する。	
受講者に対する要望など	授業中の私語は慎むこと。また講義予定は変更はあり得る。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の演算
3	行列の変形
4	逆行列 掃き出し法
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列の導出
11	連立1次方程式 Cramer の公式
12	連立1次方程式 掃き出し法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数の概念
2	関数の極限
3	関数の連続
4	微分係数と導関数の定義
5	微分法
6	いろいろな関数の微分
7	関数の極大・極小
8	平均値の定理
9	偏微分の定義
10	偏微分の応用
11	不定積分
12	定積分
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	田中雅英
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>科学する心が忘れられてしまったようにも思えるほど、単に情報を無批判に受け入れる、あるいは記憶するだけという風潮が強い。我々のまわりの日常的な事から始まり、大は銀河・宇宙まで、小は物質構造の究極まで視野を広げていくにつれ、それらによって人間の精神活動にも与えた影響ははかりしれない。それらすべては無理にしても、現在の我々はどこまで自然を知り得たか、その知識をどのように生かしているのかを見つめ直してみたい。</p>		
講義概要	<p>前半では地球の成り立ちから、現在に至るまでの進化の過程や、それらと密接に関連する環境問題について、その原理から見つめてみたい。とりわけ原子力についてはその姿を知ることから始める。</p> <p>後半では物質の究極像や宇宙との関連を中心に講義する。特に我々の日常生活における常識と思しきことが、真の自然の姿とどのように異なっているかとか、不正確な知識がいかん事実の認識を誤らせているかにも重点を置く。</p> <p>授業では数式を使うことはほとんどない。また最近のトピックもどんどん取り入れるため、年間計画の変更は大いにあり得る。</p>		
使用教材	テキスト	現在作成中。必要に応じてプリントも配布。ビデオも使用。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬立成著『宇宙150億年の旅』 日本評論社 ・石弘之著『地球破壊 七つの現場から』 朝日新聞社 <p>他にも多くあるが、途中で適当に紹介する。</p>	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期は夏休み中に課題本を指定し、その中からレポート。 ・後期は講義中のミニレポート（複数回）、あるいは試験。 		
受講者に対する要望など	<p>理科（物理や化学）の予備知識は不要。こまかい事を覚えようとするのではなく、全体の流れをつかもうという姿勢、単に覚えようというのではなく、自ら考えるようにしようという態度で臨むこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	我々の生活する地球の概観
2	地球の誕生から進化の過程
3	生命の存在する環境の変遷
4	主たる環境問題と地球環境との関連
5	原子力と環境
6	原子・原子核の構造
7	原子核の反応 放射性崩壊
8	原子核の反応 核分裂と核融合
9	原子核の反応 元素合成と元素の変遷
10	量子の世界
11	素粒子 Quark
12	自然の階層
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然界の力と素粒子
2	力の統一
3	力の統一
4	宇宙への認識の拡がり
5	宇宙での現象 星の進化
6	宇宙での現象 暗黒星雲
7	宇宙の誕生
8	宇宙初期と力の統一
9	宇宙誕生からの物質の変遷
10	物質の構造と生命の発生
11	生命科学、水との関連
12	生活と科学の関連
備考	

科目名	保健論—産業精神衛生を基に考える	担当者名	藤井賢一郎
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、わが国の産業現場における精神衛生（メンタルヘルス）の現状と今後の可能性について議論し、その中からわが国の保健あるいは医療・福祉の制度、システムに及ぶ問題点を抽出し、分析を加えることを目標とする。なお、制度、システムの分析に関しては、特に経済学の視点・手法を用いた問題点の一般化・普遍化に力点をおく。</p>		
講義概要	<p>以下の内容について、配布資料等を下に講義を行う。グループワーク等を適宜取入れ、受講者に対して積極的に意見を求める。</p> <p>①産業現場の精神衛生の現状と今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの病の理解と産業場面の個別事例の検討 ・産業精神衛生のシステムの現状と可能性 <p>②保健・医療・福祉の現状と問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の保健・医療・福祉の現状と問題点 ・保健・医療・福祉の経済学 		
使用教材	テキスト	<p>佐々木雄司、藤井賢一郎『職場における精神保健』（福祉士養成講座編集委員会（編）：精神保健、中央法規出版）（本講義の内容の1/3程度のエッセンスがまとめられている。講義に必須な文献集は用意して別途配布する。）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤正明他（監）：職場のメンタルヘルスのすすめ方、中央労働災害防止協会。 ・厚生省（監）：我が国の精神保健、厚健出版。 ・厚生統計協会（編）：国民衛生の動向、厚生統計協会。 ・厚生省（編）：厚生白書（特に平成7年版）、ぎょうせい。 ・VR Fuchs：保健医療の経済学、江見康一他訳、頸草書房。 ・西村周三：医療の経済分析、東洋経済新報社。 	
評価方法	<p>①試験成績（最終講義後に実施）、②平常成績（5回程度講義終了後に講義の意見・感想を求める）、③その他（講義への貢献度等）により評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>以下の条件を持つ学生諸君の積極的な参加を希望する。</p> <p>①産業精神衛生または保健・医療・福祉に自分なりの興味・問題意識を持っていること</p> <p>②問題を客観的に捉え、自分なりに考えようという姿勢のあること</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の概要説明
2	こころの病と保健・医療・福祉
3	産業精神衛生概論（1）
4	産業精神衛生概論（2）
5	職場の精神衛生の事例を考える（1）
6	職場の精神衛生の事例を考える（2）
7	職場の精神衛生の事例を考える（3）
8	産業精神衛生の取り組みの現状（1）
9	産業精神衛生の取り組みの現状（2）
10	産業精神衛生のシステムのあり方（1）
11	産業精神衛生のシステムのあり方（2）
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	我が国の精神衛生の現状と課題（1）
2	我が国の精神衛生の現状と課題（2）
3	我が国の保健・医療・福祉の現状と課題（1）
4	我が国の保健・医療・福祉の現状と課題（2）
5	公共財としての保健医療福祉サービス
6	サービス財としての保健医療福祉サービス
7	アローモデルと保健医療経済学
8	人的資本論と費用便益分析
9	保健医療経済学の実証研究（1）
10	保健医療経済学の実証研究（2）
11	経済学の視点と保健医療（特に産業精神保健）
12	まとめ
備考	

科目名	体育 アウトドアトレーニング（前期） アウトドアレクレーション山岳型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 km に及ぶ。 ・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。 ・集中授業では、日頃から歩きなれていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。 ・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年9月4日（水）～8日（日）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 インラインスケート（前期） アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	---	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンドайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しさを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、スキンドайビング他は未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年7月26日（金）～30日（火）4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村蓮場（むしろば）海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストップング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育（インラインスケート）	担当者名	加藤雅子
-----	---------------	------	------

講義の目標	フィットネス、レース、ホッケー、スタント等が楽しめるようになる為にインラインスケートの基礎技術を身に付ける。	
講義概要	スケータリングとクロスフォアとバック、ストップ、方向転換、ステップ等を組み合わせて行なえるように技術練習をし、ローラーに乗る位置と感覚を覚える。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、授業態度、技術の向上度、レポートを加味して評価する。	
受講者に対する要望など	動きやすい服装であること。 ソックスは必ず用意すること。 やむを得ない事由の欠席の場合は、できるだけ早く届け出ること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履習上の諸注意と、インラインスケートの特性について説明 イメージビデオの視聴。
2	インラインスケートの履き方と、安全面の諸注意。 足踏み、歩行練習。
3	ハの字歩行、フォアひょうたん、ストップの練習（ヒール）
4	フォアスケータィング、片ひょうたんの練習
5	バックの歩行とひょうたんの練習。 Tストップの練習。
6	バックの片ひょうたんの練習。
7	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 1
8	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 2
9	パイロンを使ったフォアのスラロームの練習 3
10	フォアクロスの導入
11	フォアクロスとスケータィングを組み合わせた練習。
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。
2	フォアのサーペンタイン。 ターンの練習。
3	バックのサーペンタイン。 フォアのサーペンタイン+バックのサーペンタインを組み合わせた練習。
4	スピンストップの練習。 モホークターンの練習。
5	コンビネーションステップの練習。
6	バッククロス <small>の導入</small> 。
7	バッククロスとスケータィングを組み合わせた練習。
8	パワーストップの練習。
9	フォア/バックのトランジション（方向転換）
10	ワンフットスラローム。（フォア）
11	ワンフットスラローム。（バック）
12	ローラーホッケーのゲーム。
備考	

科目名	体育（インラインスケート）	担当者名	和田 智
-----	---------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得		
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。 スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、テストの結果（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストッピング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体 育 インラインスケート（後期） スケート（集中授業）	担当者名	和 田 智
-----	------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>集中授業アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、アイススケート他の未経験者でも受講可能。 ・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。(10,000円程度) ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成8年12月18日（水）～22日（日）4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル宿泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストッピング
3	歩行からフィアストロック フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育（硬式テニス）	担当者名	小俣 充
-----	-----------	------	------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストロークまたはボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2. テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3. スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂 4. インナーゲーム・インナーテニス W. T. ガルウエイ、日刊スポーツ出版社 	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。 2. 後期に埼玉オープンを見学する予定。 		

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	田中茂宏
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>技術的には、フォア、バックハンドの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時にはゲームの進め方、ルールを学ぶ。</p>		
講義概要	<p>ストローク、ボレー、サービスの練習を中心に行い、ゲーム形式の授業時には、結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>ダブルス、シングルのゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠呼を毎回実施し、遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への参加を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後に出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの記録を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	<p>クレーコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること。出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方の指示。ストロークを中心にを行う。
3	準備体操の後、ストロークを中心に、ボレー、サービス等の練習を加えていく。
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操の後、ストローク、ボレー、サービスの練習を復習する。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	準備体操、ストローク練習の後、ダブルスのゲームを行い、記録をとる。
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	土井浩信
-----	-----------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴(テニスシューズ)着用厳守。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。 フォアハンドの基本ストロークの学習。 用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド（手なげトスのボール）。ショートラリー。 バックハンド（手なげトスのボール）
4	サーブ練習の導入。球出し練習。 テニス経験者、ゲーム指導（ローテーション方式）。
5	サービスとサービスレシーブ練習。 連続グランドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム（ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー）の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。 サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム（乱取り形式でのゲーム運営）。 課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム（乱取り形式） 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	中川 昭
-----	-----------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動(テニス)に親しんでもらう能力と態度を身につける。		
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦(ダブルス)を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため(減量、成人病予防を含む)の運動処方(運動の種類、強度、頻度等)について講義および実技指導を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	授業への貢献度によって決定する。		
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグランドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグランドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグランドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グランドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サーブと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	中沢克江
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>テニスのゲームを楽しむために基本的技術を習得する。体を動かすことを目的とし、ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。</p>	
講義概要	<p>基本的技術の習得 ルール、マナーの理解 ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームはダブルスを行う。 ・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。 ・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、技術レベル別は自己申告で決める。 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。 受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。 クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。 天候などにより、内容の変更がある。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	野口昭彦
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、「健康増進」に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス(WELLNESS)運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>	
講義概要	<p>テニスは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じてできるスポーツなので、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。テニスはメンタルな要素を多く含んでおり、いつでも冷静な判断で精神力や集中力を養い、エチケットやマナーを守り、人々の人間関係を大切にするスポーツである。また、テニスは技術の取得に経験と時間が必要とされることから、全体を初心、中級、上級の4クラスに分け、各クラスに適した指導を行い、楽しいテニスを取得し、永い人生の生涯体育として、また、社会生活に貢献できることを期待したい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『テニス教本』 テニスジャーナル ・『先手をとるダブルス2人の役割』 学研 ・『テニスのメンタルトレーニング』 大修館書店
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装も評価の対象とする。簡単なテストを行う。	
受講者に対する要望など	必ずコートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。降雨等でコートが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行う。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション。1年間の履修概要説明。
2	基本動作：ラケットグリップの確認（フォア、バック） ボールに慣れる、フットワーク
3	基本動作：技術レベルごとに班編成。グラウンドストローク（フォア）
4	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（バック）
5	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク。ボレー
6	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（クロス）、ボレー（ロー、ハイ）
7	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク（逆クロス）、ボレー、スマッシュ
8	基本動作：各班ごとにグラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブ
9	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
10	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
11	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
12	各班ごとに、ダブルスの試合、審判法、マナー 試合の基本練習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の基本動作の復習
2	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
3	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
4	応用動作：グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス
5	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
6	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、雁行陣、試合のセオリー説明
7	各班ごとに、ダブルス（含ミックス）試合、並行陣、試合のセオリー説明
8	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
9	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
10	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
11	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
12	各班ごとに、試合。ダブルス（含ミックス）リーグ戦
備考	

科目名	体育(硬式テニス)	担当者名	松原 裕
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。</p>	
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりも、サーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p> <p>希望者には夏季休業中に合宿を実施する。</p>	
使用教材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR『突然変わり出す覚え方』 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏 ・VTR『突然変わり出す覚え方』 ネットプレーの新技术 宮村 宏 その他
評価方法	<p>毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育(ゴルフ)	担当者名	野口昭彦
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では科学技術文明の進歩に伴い社会環境等が著しく変化してきた。その変化に対して身体運動の重要性が認識され、“健康増進”に深い関心が持たれてきた。また、ストレス解消等さまざまな目的に応じて身体活動を行う社会へと変化してきた。このような現代社会での健康管理は、ただ漠然と運動やスポーツを行うものではなく、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス(WELLNESS)運動が必要である。以上のことを考慮し、学生時代に運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にするスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・谷口信弘『はじめてのゴルフ』 新星出版社 ・伊能一郎『ゴルフスウィング、レッスン』 新星出版社 ・『ゴルフ基本』 学研 ・田中誠一『ゴルフ上達の科学』 プレジデント社 ・市村操一『ティーチング・ゴルフ』 ベースボールマガジン社 ・デビット・レッドベター『ザ・アスレチックスウィング』 ゴルフダイジェスト社 	
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。		
受講者に対する要望など	<p>降雨等でグラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。5月下旬から学外のゴルフ練習場で行う。ゴルフシューズか運動靴を使用すること。年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアンの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用した練習。
11	ミドルアイアンの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアンの練習＝ダウンブローを中心とした打ち込み。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアンの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアン＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実践的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育(ゴルフ)	担当者名	山中邦夫
-----	---------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。		
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。		
使用教材	テキスト	特になし。	
	参考文献		
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフグラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTRと講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 バッティングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育(ゴルフ)	担当者名	吉田卓司
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>		
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>		
使用教材	テキスト	ナン	
	参考文献	ナン	
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること(汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術の TV ビデオ鑑賞
4	ショートアイアン (8, 9, PW, SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット (3, 5, 7, 9, PW, SW) 練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4) ショット練習
5	
6	TV ビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育(サッカー)	担当者名	田代力也
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。</p>		
講義概要	<p>さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。</p> <p>グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>年間講義予定については、第1週の授業で指示する。</p>		

科目名	体育(サッカー)	担当者名	田中茂宏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通して、ゲームの進め方、ルールを学ぶ。</p> <p>グループ別の練習を取り入れて、基礎的な技能の向上をねらう。</p> <p>各チームが均等になる様に分けてリーグ戦を行う。</p> <p>ゲームでは、主審、ラインズマンをつけて行う。(各自、1度は経験する)</p>		
講義概要	<p>ゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に個人、チームでの練習を行う。</p> <p>ビデオ等でルールの審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。</p> <p>出欠点呼を毎回実施し、遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。</p> <p>見学者も更衣の後に出席すること。</p> <p>授業はサッカー場で実施する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	出欠状況は各自で覚えておくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操と実施上の注意。用具の準備と片付け方の指示。 基礎的な練習を行い、ゲームを行う。
3	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
4	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
5	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
6	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
7	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
8	準備体操、個人、チームでの基礎練習。ゲームを行う。
9	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。主審、ラインズマンをつけて、成績を記録する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
2	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
3	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
4	準備体操、ボールを使用して個人、チームでの練習を行う。ゲームを行う。
5	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
6	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
7	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
8	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
9	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
10	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
11	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
12	チーム対抗戦を行う。審判をつけて、成績を記録する。
備考	

科目名	体育(サッカー)	担当者名	松本光弘
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。 内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることを最終目標とする。</p>		
講義概要	<p>サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。 雨天時には体育館で実技を行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	<p>出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	

科目名	体育 スキートレーニング（後期） スキー（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。費用は交通費、レンタルを除いて40,000円の予定。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR『THIS IS THE オーストリアスキー』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』 その他 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸びプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード③ ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード④ ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード⑤ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体 育 スキー検定トレーニング（後期） スキー検定（集中授業）	担当者名	松 原 裕
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー技能テスト（級別テスト）を通じてフェアプレーの基本を多角的に考え、スキーを理解し、個人のレベルアップを目標とする。
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度を目安とする。</p> <p>学内の授業では、ローラーブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月26日（木）～30日（月）4泊5日長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。29日（日）に級別テスト（1級～5級）を実施する。</p> <p>実習参加費は、交通費・レンタルを除いて42,000円を予定している。</p>
使用教材	<p>テキスト 『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編</p> <p>参考文献 <ul style="list-style-type: none"> ・VTR『基礎スキー検定』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル1』 ・VTR『スキー王国の上達マニュアル2』 ・その他『WOWOW スキーレッスン』等 </p>
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。
受講者に対する要望など	<p>教員、受講学生、お互いの努力で実のある授業となるようにしたい。</p> <p>この授業がいろいろな意味でキッカケになってくれれば良い。</p> <p>集中授業で団体生活ができる事。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○基本滑走 ○ストックワーク
3	ローラーブレード③ ○基本滑走 ○ストックワーク 曲げ・伸し
4	ローラーブレード④ ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ストックワーク① ○直滑降姿勢 ○曲げブルーク・伸しブルーク
6	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
7	ストックワーク③ ○ペアでのシンクロ・逆シンクロ
8	スキー検定に関する講義① ○検定基準 ○スキー用語
9	スキー検定に関する講義② ○スキー用語のテスト ○実習事務連絡
10	スキー検定に関する講義③ ○スキー用語のテスト結果 ○実習事務連絡確認
11	スキー実習の反省
12	
備考	

科目名	体育(ソーシャルダンス)	担当者名	青柳多恵子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>日常生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。また、国際的なマナーの一つとしてのボディコミュニケーションである考え・話し・聞く・話すことの一部としてダンスを身につけることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しむ人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。</p>		
使用教材	テキスト	<p>ソーシャルダンス基礎編</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ダンスは男女同数しか受け付けません。 ダンスシューズを購入してください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムによって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育(ソフトボール)	担当者名	池垣功一
-----	------------	------	------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点(態度・努力・服装等)を加味して行なう。		
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスパットイング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスパットイング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育（ソフトボール）	担当者名	田代力也
-----	------------	------	------

講義の目標	ソフトボールの正しいルールを理解と、チームプレイによる協調性を育む。また体力、運動能力の向上、技術のかく得をめざす。		
講義概要	打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘して確認する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		

科目名	体育(ソフトボール)	担当者名	萩野元祐
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。 バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球 (ゴロ、フライ) 練習。 独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。 独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
11	前期の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能 (守備)、ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能 (守備)、リレープレイを練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育（ソフトボール・スキー〈集中授業〉）	担当者名	田代力也
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>・ソフトボール 打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。</p> <p>・スキー 生涯スポーツとしてのスキーを認識する。 理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。</p>		
講義概要	<p>・ソフトボール 打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p> <p>・スキー 体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオ撮りによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのためのトレーニングを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	ベーシック・スキー・テキスト 板垣和男/佐々木明男：共著 千早書房	
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。		

科目名	体育（卓球）	担当者名	天野和彦
-----	--------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。		
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育(卓球)	担当者名	太田朝博
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>台球は、老若男女を問わずだれでも手軽にでき、生涯を通して楽しめるスポーツである。又、他の競技に比較して、コートがせまく、ボールも小さく軽いので、非常にスピーディーな対応が要求される。さらに対人競技であるから、勝負におけるかけひきも重要となる。したがって技術の習得と並行して、敏しょう性、持久力、脚力などの体力と、精神的にも鋭い反射神経や決断力を養なう。</p>		
講義概要	<p>基本的技能を繰り返し練習し、それをしっかりと身につけ、スピード感のある動きの習得と高度なゲーム展開ができるようにする。</p> <p>又、ダブルスゲームでは互いのコンビネーションを身につけ、互いに打ち合うおもしろさと、パートナーと協力して相手とゲームをする方法を身につける。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能＝フォア・バックロング、カット、スマッシュ、サーブ ・ゲーム結果 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能 グリップ [シェイク・ペン]、素振り サーブ、サーブレシーブ
3	フォアロング、バックハンドロング——スマッシュ フォアショート、バックショート
4	カット 等の習得
5	
6	基本的技能の反復 応用的技能 基本的技能の連携とラリー ラリーにより数多くの打込みを行ないその中で動きを身につけて行く。
7	
8	
9	
10	
11	簡易ゲーム ・シングルスゲームの動きと戦法 ・ダブルスゲームのコンビネーション
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本的技能 } の反復練習 応用的技能 }
2	各自で不得手としている技術を中心に練習を行なう。 リーグ戦
3	シングルスゲーム 個々にゲームを展開し、その結果を記録する。
4	
5	
6	
7	
8	ダブルスゲーム 固定のペアを組みゲームを展開し、その結果を記録する。
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(卓球)	担当者名	小川 又八朗
-----	--------	------	--------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること、審判ができるようにルールについても勉強していく、ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したものの、Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法、簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成、ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦）、初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）。
12	全員を抽選により、トーナメント試合。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合。
2	トーナメント試合。
3	トーナメント試合。
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム。
9	シングルス及び、ダブルスゲーム。
10	シングルス及び、ダブルスゲーム。
11	シングルス及び、ダブルスゲーム。
12	技能テスト。
備考	

科目名	体育(卓球)	担当者名	奥野忠枝
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。</p> <p>ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>
-------	--

講義概要	
------	--

使用教材	テキスト	
	参考文献	

評価方法	<p>評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。</p>
------	---

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育(卓球)	担当者名	本田稔祐
-----	--------	------	------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけるとともに、卓球の基本動作、ルールなどを学習して、技能も向上させ、将来それらが健康の維持増進のために役立つようにすること。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、サービス、レシーブの重要性を理解するとともに、ゲームと審判ができ、簡易ゲーム、シングルス、ダブルス、団体対抗ゲームなども体験させる。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	評価は出席点を中心とし、平素の授業態度、服装の適否、技能の進歩の度合などを加味して行う。なお欠席が7回以上の者は、評価はFである。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は運動着以外は認めない、靴もゴム底の運動靴を使用のこと。卓球用具は、大学で用意するが、できればラケットは各人で用意した方が望ましい。欠席などの届けは、口頭でよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明と授業登録の確認、個人の資料作成など。
2	教室でビデオを見て、基本的知識、基本動作の理解。
3	能力テストによりグループ分け、基本練習。
4	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルスゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	全員でのトーナメント試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	団体対抗のリーグ戦
3	団体対抗のリーグ戦
4	団体対抗のリーグ戦
5	団体対抗のリーグ戦
6	団体対抗のリーグ戦
7	ダブルスゲーム（リーグ戦）
8	ダブルスゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスゲーム（リーグ戦）
12	技能テスト
備考	

科目名	体育（軟式野球）	担当者名	太田朝博
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技能を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントシフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>
-------	---

講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルール of 解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>
------	--

使用教材	テキスト	
	参考文献	

評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能——捕球——送球 遠球 打撃 ・ゲーム結果——（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>
------	---

受講者に対する要望など	
-------------	--

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、バッティングをしっかりと身につける
4	ピッチング
5	
6	集団的技能 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
11	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	個人技能 } の反復練習 集団技能 }
2	キャッチング トス、フリーバッティング ゲーム 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	シフト打撃 ピッチング スコアをつけ個人の打撃成績（打率・盗塁・打点など）を集計し技能を競い合う。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(軟式野球)	担当者名	萩野元祐
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>
-------	---

講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>
------	---

使用教材	テキスト	
	参考文献	

評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>
------	--

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）。登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
8	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。リーグ戦、（A対C、B対D）
9	前回の復習。リーグ戦、（A対D、B対C）
10	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
11	前回の復習。リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、バックアップを練習。チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育 (バスケットボール)	担当者名	太田朝博
-----	---------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの特性や練習方法を理解し、個人的技能や集団的技能を養ない、各自の技能の程度やチームの力量に応じ、作戦を立てて、ゲームが出来るようにする。 ・チームとしての共通の目標をもち、相互に協力して、計画的に安全に練習やゲームが出来るようにする。 ・ゲームの計画や運営が自主的に出来、審判も出来るようにして、生涯を通して、運動を楽しむことが出来る能力や態度、習慣を身につけるようにする。
講義概要	<p>個人技能と集団技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲームの展開が出来ることを目指して授業を進める。</p> <p>ゲームでは簡単なスコアをつけ、個々の技能を確認する。</p>
使用教材	テキスト
	参考文献
評価方法	<p>出席点を中心として評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能—シュート力、ドリブル技術、等。 ・ゲーム結果—(集団、個人技能)等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">個人的技能</div> (基本技能) パスワーク、ドリブル、シュート (ジャンプ・ロング) リバウンド、フリースロー 等の習得
3	
4	
5	
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">集団的技能</div> (チームプレー) ・オフェンスの基本プレー 2対2、3対3から展開し、チームオフェンス ・ディフェンスの基本プレー 2対2、3対3から展開し、チームディフェンス ゾーンとマンツーマンディフェンス
7	
8	
9	
10	
11	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">応用技能</div> (簡易ゲーム)
12	基本的技能、集団技能の習得の確認 正規ゲームの準備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">個人的技能</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">集団的技能</div> の反復練習
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">バス</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">シュート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">リーグ戦</div> 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるように チーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	オフェンス、ディフェンス 簡単なスコアをつけ個々の技術を競い合う。 (シュート、アシスト)
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(バスケットボール)	担当者名	勝 瀬 武
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>		
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
3	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
4	セットオフェンス（ハーフコートにおける 3対2）
5	セットディフェンス（ハーフコートにおける 5対5）
6	オールコートにおける試合（班分けをする）
7	オールコートにおける試合（班分けをする）
8	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
9	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
10	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
11	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
12	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
2	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
3	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
4	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
5	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
6	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
7	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
8	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
9	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科目名	体育 (バスケットボール)	担当者名	檜山 康
-----	---------------	------	------

講義の目標	バスケットボールの技術向上とともに、ゲームを通じてバスケットボールの特性を学びながら、楽しさを知ること目標とする。		
講義概要	バスケットボールのゲームを中心に行い、その中で問題があれば練習で改善できるようにしていく。常にゲームを中心に考え、自分たちで練習内容を組み立てられるようにしていく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時、プリントを配布して学習を進めていく。	
評価方法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受講者に対する要望など	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ボール運動とドリブル ～様々なゲームを通して、ボールに慣れ、友達になろう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスとシュート ～色々なパスとシュートの方法を知ろう。正確に行えるようにしよう～
4	バスケットボールの動きに慣れよう(1) ・ステップワーク、ターン、ガーディングなどバスケットボール特有の動きを身につけよう。
5	バスケットボールの動きに慣れよう(2) ・ボールキープ、マークの方法などを身につけよう
6	基本を学ぼう(1) ・個人戦術の基本について a) パスアンドラン、b) まわりを見る、c) ボールを迎えに行く
7	基本を学ぼう(2) ・グループ戦術の基本 a) ボールをもった人をサポートする、b) 攻撃の方向を変える
8	基本を学ぼう(3) ・チーム戦術の基本 a) マンツーマンディフェンスとゾーンディフェンス
9	チームごとの練習と対抗試合(1) ・試合—反省—練習—試合というサイクルを作れるようにしよう
10	チームごとの練習と対抗試合(2)
11	チームごとの練習と対抗試合(3)
12	チームごとの練習と対抗試合(4)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1対1の攻防 ・フェイントの方法とディフェンス
2	2対1の攻防 ・パスのもらい方とスクリーンプレー
3	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスについて
4	3対2の攻防 ・ボールなしの動き、3人目の動き
5	3対3の攻防 ・マンツーマンディフェンスと各種攻撃プレー
6	速攻とその守備について
7	チームによるリーグ戦①
8	チームによるリーグ戦②
9	チームによるリーグ戦③
10	チームによるトーナメント戦①
11	チームによるトーナメント戦②
12	チームによるトーナメント戦③
備考	

科目名	体育 (バドミントン)	担当者名	梶野克之
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して、身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。</p>		
講義概要	<p>バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組み立てていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』、1983、ベースボールマガジン社 ・阿部一佳、渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店 	
評価方法	<p>評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために毎回出席して、努力してほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回は練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解し基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行いが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育(バドミントンⅡ)	担当者名	梶野克之
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの基本的プレーを充実させると同時により高いレベルの技術を練習を通して身につける。これらの過程を通して身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンの全般的な理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。</p>		
講義概要	<p>バドミントンについての技術やルールについてより深い理解をする。各種のストロークの技術を向上させ、より正確なショットを目指す。シングルス・ダブルスの試合を実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法についても理解を深める。ゲームの中で、練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた課題を克服してより高いレベルのゲームを求めていく。ダブルスのフォーメーションについて理解し、パートナーと協力して試合を組立てていく。審判法について理解し、自ら進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部一佳 渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』、1985、大修館書店 ・阿部一佳他訳、Jake Downey『ウィングバドミントン [ダブルス]』、1990、大修館書店 	
評価方法	<p>評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回の出席を原則とし、毎週新しい技術の修得を目指したい。より効果をあげるために努力してほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
3	前回は練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーと同じ構えから、シャトルをネット際に落とすドロップを理解して基本を練習する。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を練習する。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上速度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダ引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育 (バレーボール)	担当者名	小 俣 充
-----	-------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。		
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂	
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力したか他の努力を促したかにより評価。		
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育(バレーボール)	担当者名	中沢克江
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>
-------	--

講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。 ・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。 ・6人制のゲームを中心に、いろいろなゲームを楽しむ。
------	--

使用教材	テキスト	
	参考文献	

評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>
------	--

受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p> <p>内容については変更がありうる。</p>
-------------	---

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

科目名	体育(フットサル)	担当者名	檜山 康
-----	-----------	------	------

講義の目標	フットサルを通じて技術、体力を高め、その特性を学びながら楽しむことを目標とする。		
講義概要	<p>フットサルは、いわゆるミニサッカーやサロンフットボールと呼ばれているものである。すなわちサッカーを狭いスペースでも楽しめるようにルールやコート of 広さ、人数などを変化させたものである。そのためサッカーに似ている点も多いが、異なる点も多い。技術や戦術面でも非常に特徴あるスポーツである。</p> <p>授業では、フットサルの特性に触れられるように内容を組み立てていくつもりである。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時プリントを配布して学習を進めていく。	
評価方法	出席重視、欠席日数が全授業時数の1/3に達した場合、いかなる理由があっても、評価はしません。また全員にレポートを課す場合もある。		
受講者に対する要望など	服装などスポーツを行うのにふさわしいものを身につける。特に貴金属類、時計などは危険なので絶対にはずすこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ボールに慣れよう(1) ・ドリブルの練習 ～様々なゲームを通して、思い通りにボールを動かせるようにしよう～
3	ボールに慣れよう(2) ・パスの練習 ～パスの方法を学習し、思い通りにパスができるようにしよう～
4	ボールに慣れよう(3) ・ボールキープの練習 ～ボールをとられないようにしよう～
5	基本を学ぼう① a) パスアンドゴー、b) パスを受ける前に周りを見る、c) ボールに寄る ～手を使ったゲームで基本的な動きを覚えよう～
6	基本を学ぼう② ～①の課題を試合形式の練習で応用できるようにしよう～
7	基本を学ぼう③ ・サポート（ボールを持った味方を助ける）の動き ・3人で3角形をつくり協力すること
8	チーム対抗のゲーム
9	チーム対抗のゲーム
10	チーム対抗のゲーム
11	チーム対抗のゲーム
12	チーム対抗のゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アイコンタクトとは？
2	コーチングとリスニングとは？
3	攻撃のリズムや方向を変えるとは？
4	幅広く攻撃するとは？
5	1対1について ・ディフェンスの方法とフェイントの使い方
6	2対1の攻防 ・速攻とその対処の仕方
7	2対2の攻防 ・マンツーマンディフェンスの方法
8	3対2の攻防 ・オーバーラップ、スイッチプレーを使う
9	ゲーム①
10	ゲーム②
11	ゲーム③
12	ゲーム④
備考	

科目名	体育(フットサル)	担当者名	松原 裕
-----	-----------	------	------

講義の目標	『大学は学問を通じての人間形成の場である』という建学の理念に基づき、フットサルを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	世界に広がる多種多様なミニサッカー競技の呼び名を統一し、ルールも統一したのがフットサルです。選択の際には男女・技術レベルは問わないが、1チーム5人。うち1人はGKが基準となる。40名以上は抽選となる。スパイクは不可。アップシューズ等スパイクのないものを使用する。基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。		
使用教材	テキスト	・『FUTSAL OFFICIAL HANDBOOK』	
	参考文献	・VTR「君が主役だフットサル」 その他	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○VTRとボール慣れのトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1 VS 1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	スタイルを考えたゲーム
11	スタイルを考えたゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	リーグ戦①
4	リーグ戦②
5	リーグ戦③
6	リーグ戦④
7	リーグ戦⑤
8	リーグ戦⑥
9	リーグ戦⑦
10	リーグ戦⑧
11	リーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体 育 フリスビー (前期) ウィンドサーフィン (集中授業)	担当者名	和 田 智
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウィンドサーフィンでは、ウィンドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>
-------	--

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・フリスビー、ウィンドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・用具類はすべて大学で用意している。 ・ウィンドサーフィンは、必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・ウィンドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。 <p>集中授業は、期間：平成8年9月13日(金)～17日(火)4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家 現地集合・現地解散とする。</p>
------	---

使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画
	参考文献	

評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。
------	---------------------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育(ラグビー)	担当者名	天野和彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールの理解とゲームの展開方法を学習する。		
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科目名	体育理論	担当者名	勝 瀬 武
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>近年、機械化、自動化は年毎に進み、そのうえ車社会の発展は日常生活において体を動かすことを少なくしています。そこで本講義は、健康の維持、増進を目的とした、主として生涯スポーツについての講義を行う。</p>		
講義概要	<p>教室における講義のほか、自転車エルゴメータを使用して、各個人の自己体力を把握し、自分が将来健康な生活を送るための運動処方を作成する。また、運動障害における救急処置の方法を習ぶ。たとえば、ケガ予防あるいは応急処置としてのテーピングの技術を習得するなどスポーツ医学面の実習も行う予定である。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>評価は筆記テストにおいて60点以上を合格とする。また、授業に参加することを原則とし、1/3以上の欠席者は受験停止とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（講義概要ならびに評価についての説明）
2	運動の必要性
3	運動障害と救急処置
4	テーピングの理論
5	テーピングの実際（実習）
6	健康と運動
7	肥満と運動
8	生涯スポーツ
9	体力トレーニング
10	体力診断テスト（自転車エルゴメータを用いての自己体力の把握）
11	運動処方作成
12	総合テスト（筆記試験）
備考	

科目名	体育理論	担当者名	土井浩信
-----	------	------	------

講義の目標	<p>体育について正しい認識をしている人は少ない。学校教師でさえ、学校教育における体育が、体力運動技能習得の場と短絡的に認識している者が多い。こうした実情を踏まえて、身近な問題から「体育とは何か」「体育で学ぶことは何か」を考察していく。</p>		
講義概要	<p>講義全体を通してのキーワードは「人間」「教育」である。青年期の健康問題を、身近な問題点から明らかにしながら、人間の生き方に関わる体育というものを考えさせていく。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>授業への出席度と随時試験による評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業開始から15分を経た後の出席は認めない。授業開始後15分以内であれば遅刻扱いとする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カードの作成。
2	やせる、ふとる、脂肪沈着のとらえ方考え方。スポーツ選手は健康か。
3	肥満と運動。体格と体型と性格。肥満のとらえ方考え方。
4	消化吸収能、基礎代謝について。1日の基礎代謝量の計算。
5	有酸素、無酸素運動の効用。筋肉の性質。疲労のメカニズム。
6	人間の体力とは。体力の概念。自分の体力分析。
7	運動の心理と生理、技能習得のメカニズム。
8	知性と情性を結ぶもの。体育は道徳か。
9	学識教育、技能教育、人間教育の視点。「視、観、察」について。
10	上記のつづき。
11	生涯スポーツ、野外スポーツ、体育の原点について。福祉と体育の関係。
12	講義のまとめ。試験。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	中川 昭
-----	------	------	------

講義の目標	現在、人間が作り上げた文化の1つとして重要な位置を占めているスポーツについて理解を深め、今後のスポーツ活動をより有意義なものにすること。
-------	--

講義概要	まず文化としてのスポーツの意味をいろいろな角度から検討し、次に代表的なスポーツ種目を取り上げ、その歴史やルールを論じる。
------	--

使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	授業時に紹介する。

評価方法	出席状況、課題レポート、テストにより総合的に評価する。
------	-----------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	スポーツとは何か（その1）
3	スポーツとは何か（その2）
4	スポーツの分類論
5	個人スポーツ、その歴史とルールについて（その1）
6	個人スポーツ、その歴史とルールについて（その2）
7	対人スポーツ、その歴史とルールについて（その1）
8	対人スポーツ、その歴史とルールについて（その2）
9	集団スポーツ、その歴史とルールについて（その1）
10	集団スポーツ、その歴史とルールについて（その2）
11	集団スポーツ、その歴史とルールについて（その3）
12	まとめ
備考	

科目名	体育理論A	担当者名	本田 稔 祐
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>アウトドアレクリエーション活動を考える。</p> <p>余暇の過ごし方について考え、身体運動をともなったレクリエーション活動の実施方法、効果、注意点などを理解し、将来の生活に役立てようとするものである。</p>		
講義概要	<p>余暇の現状と、その過ごし方を考えるとともに、身体運動をともなったアウトドアレクリエーションにはどんなものがあるか、また、その中から特に一般的なものをとりあげて考察していく。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・不昧堂『新しい野外教育』 ・遊戯社『レクリエーションスポーツ種目全書』 他 	
評価方法	<p>レポートによる評価と、授業への出席度により評価する。なお4回以上欠席した者は、レポート提出しても単位の認定はしない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業の始めと終りは、挨拶ができるように、遅刻をしないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	授業計画の説明など、授業についてのガイダンス
2	余暇の現状と意義について
3	スポーツとレクリエーション
4	レクリエーションスポーツの効果
5	自然の中でのレクリエーション活動
6	散歩、ハイキング、トレッキング
7	登山
8	ゴルフ
9	水泳、キャンプ、サイクリング
10	スキー、スケート
11	自然環境の保護について
12	授業のまとめ、レポートのテーマ発表
備考	

科目名	体育理論B	担当者名	本田 稔 祐
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>運動不足が、からだにおよぼす影響について。</p> <p>運動不足がもとで起ると思われる障害について考え、運動の必要性和習慣を身につけ、健康な生活が送れることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>運動不足が、からだにおよぼす影響について、具体的に例をあげて説明をし、いわゆる運動不足病、成人病にかからないようにするには、どんな運動を、どのように実施したらよいかを考えて、必要な点は板書をして進めていく。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・道和書院『大学生の体育と保健』 ・教育の科学社『保健体育概論』 ・スキージャーナル『健康スポーツライフ』 他
評価方法	<p>レポートによる評価と授業への出席度により評価する。なお4回以上欠席した者は、レポート提出しても単位の認定はしない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業の始めと終りは、挨拶ができるように、遅刻をしないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	講義計画の説明など、授業についてのガイダンス
2	ビデオを観て、運動不足の影響について理解をする。
3	運動の概念と、日常生活の中での運動について。
4	運動不足による、体力、身体機能など、生体の変化。
5	運動不足による、疾病、障害とその症状について。
6	運動不足を解消するための対策。
7	運動の種類と健康との関係。
8	健康スポーツに適した種目と実施方法。
9	体力と体格のちがいと、健康的なトレーニング方法
10	運動と呼吸、循環の関係
11	運動と筋肉、神経のかかわりと、疲労の問題
12	授業のまとめ、レポートのテーマ発表
備考	

科目名	体育理論	担当者名	松本光弘
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人間の運動の発生のメカニズムを知ることにより、日常生活の在り方について学生各個人が自己観察できるようになることを目標とする。</p> <p>又、後半には日本及び世界のスポーツについてサッカーを教材として社会的観点からその存在のあり方や意義等について検討する。</p>		
講義概要	<p>各時間テーマに従って討論し、簡単なレポートを提出してもらう。このレポートが総合評価の大きなウェイトを占める。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	浅見俊雄著『スポーツトレーニング』朝倉書房	
評価方法	<p>毎時間提出のレポート、最終レポートによって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	調査書記入、講義の概要の説明
2	スポーツと筋肉
3	スポーツと呼吸
4	スポーツと循環
5	スポーツと血液
6	スポーツと神経
7	スポーツとホルモン
8	Jリーグ設立の経緯
9	Jリーグを取りまく諸問題
10	Jリーグの経済学
11	Jリーグを含む世界のサッカー
12	スポーツに含む人間的要素
備考	

科目名	体育理論	担当者名	山中邦夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>スポーツとは何か。スポーツと人間のかかわり方を理解し、各自の今後のスポーツ活動の向上や発展のための、何らかの知識や指針を得ること。</p>	
講義概要	<p>人間とスポーツのかかわり方をテーマに、スポーツに関連する諸科学的知識や結果について検討することを中心とする。特にチームスポーツを対象とし、技術・戦術・体力論的観点からの各種の測定・評価・分析結果を材とし、スポーツのトレーニング法について論じる。また、コンピュータやVTRを用いた分析結果も紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	授業時に、紹介する。
評価方法	<p>出席状況とテストにより評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	スポーツ、スポーツマン、スポーツマンシップとは スポーツ技術や戦術の歴史の変遷 スポーツ人口と競技力
3	スポーツのルール、競争、トレーニングについて スポーツのルールと審判法
4	スポーツ競技における三要素について
5	スポーツ種目と体力要素
6	チームスポーツにおけるプレーのスタイルとシステムについて
7	スポーツトレーニングプログラム作成方法（1） 概要について
8	スポーツトレーニングプログラム作成方法（2） 具体例について
9	スポーツマンと心理 セルフコントロールについて メンタルトレーニングおよびメンタルリハーサルについて
10	チームスポーツにおける管理運営法について 組織の戦略と戦術とコーチングスタッフ
11	スポーツにおけるデータ管理とQC手法
12	テスト
備考	

科目名	体育理論	担当者名	吉田卓司
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現在、我国は、男女ともに世界一の長寿国であり、高齢者社会になっている。本講義は、運動生理学の観点から基本的知識や正しい運動処方、生涯スポーツなどを通して、健康でより美しく老ゆるためには、どのようにしたら良いかを学習する。</p>		
講義概要	<p>体育理論の概要は、「健康、体力と運動」を中心に展開し、健康観、体力の構成、体力養成のためのトレーニング方法、正しい運動処方、スポーツと栄養、運動不足による肥満とその対策など、全般的に幅広く講義する予定である。また、長期間、運動することによって、形態的变化や機能的变化が起るスポーツ障害やスポーツ外傷の原因・テーピングの理論と実際について実習する。この講義が、学生諸君の健康維持・増進や安全対策に役立てば幸いであると考えている。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	必要に応じて、資料を準備する。	
評価方法	<p>テストの点数と出席状況から出席点を加味して、総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	健康と体力について
3	運動は必要か？
4	トレーニング法について
5	運動処方
6	スポーツと栄養 肥満の対策について
7	W-up と cooling-down の生理
8	スポーツ障害について
9	スポーツ心理（あがり、slump）
10	テーピングの理論と実際
11	生涯スポーツ
12	まとめ
備 考	

科目名	体育理論	担当者名	和田 智
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人生80年時代において労働時間は人生の1割、自由時間は2～3割へと増えつつある。現在から将来に向けて、この自由時間をいかに有効に使えるかが人生にとって重要な課題となるだろう。そこでこのクラスでは、自由時間をレジャーという観点からとらえ、自分のレジャーの将来像を考えていきたい。</p>
講義概要	<p>自由時間について、さまざま考え方を紹介し、各自の考え方を作文にまとめてもらう。また、レジャー実習として実際に体を動かしてもらうこともある。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>特に指定しない</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野孝次、『清貧の思想』、草思社 ・松田義幸他、『人生80年時代のライフスタイル』、日経マーケディア ・ミヒャエル・エンデ（大島かおり訳）、『モモ』、岩波書店
評価方法	<p>出席状況（40%）、テストの成績（60%）で評価する。</p>
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2	自由時間の意味の変遷
3	自由時間の現状
4	レジャーとレクリエーション
5	わたしの自由時間の過ごし方
6	わたしの自由時間の過ごし方
7	レジャー実習 その1
8	レジャーとライフスタイル
9	レジャーの実践のための手順
10	レジャー実習 その2
11	わたしのレジャーライフの創造
12	わたしのレジャーライフの創造
備考	

科目名	経済学	担当者名	小林 進
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>最近では経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮させるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。またカレントな経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	参考文献 講義の中で適時に指示する	
評価方法	<p>前期と後期の二回の試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

I マクロ経済学

国民所得概念

付加価値の定義 (単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意)

GNP = 雇用者所得 (賃金) + 営業余剰 (利潤) + (間接税 - 補助金) + 資本減耗分

GNP - 資本減耗分 = NNP (資本減耗分 = 減価償却費)

GNP と GDP (国内総生産) の相違 (海外からの要素所得 - 海外への要素所得)

GNP = C + I + G + X - Q (総需要)

(C : 消費, I : 投資, G : 政府支出, X : 輸出, Q : 輸入)

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか?

消費関数 $C = cY + A$ の性質

限界消費性向 $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$ ($0 < c < 1$ の経済的意味に注意)

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定 I. 単純モデル ($Y = C + I$)

①代数解

$$Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$$

②45度線図による理解

③貯蓄と天資の均等による図からの理解

(投資) 乗数理論

$$\Delta Y = \frac{1}{1-c} \Delta I$$

生産関数 $Y = F(K, N)$ (Kは資本, Nは労働)

短期生産関数 $Y = f(N)$ (Kは短期では一定と見なす, したがってNのみの関数)

インフレギャップとデフレギャップ

(完全雇用時の国民所得 Y_f と現実の国民所得の乖離)

国民所得の決定 II. 政府を含むモデル ($Y = C + I + G$)

可処分所得 $Y_d = Y - T$

貯蓄と投資の関係式 $I = S + (T - G)$

均衡予算乗数は1 ($\Delta Y = \Delta G$)

貯蓄のパラドックス (貯蓄は美德か?)

マネタリストの主張 (大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小)

資本の限界効率と投資関数

IS 曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数とLM曲線

IS・LM曲線と経済政策の有効性

貨幣数量説 (フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式)

マーシャルのkといわゆる「カネ余り」の問題

$$\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y} \quad (y: \text{実質国民所得})$$

短期及び長期のフィリップス曲線

II ミクロ経済学

経済主体 (消費者及び企業) の合理的行動 → 最大化行動

・消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率 (MRS) 逡減の経済的意味

予算線

最適消費点 → MRS = 価格比

所得効果、上級財 (正常財)、下級財 (劣財等)

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

豊作貧乏の理論的理解

Jカーブ効果

・企業の理論

総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)

平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)

利潤最大条件 → 価格 $P = MC$

個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止点

科目名	経済学	担当者名	田村申一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>テレビのニュースや新聞の記事から経済の動きに興味をもち、あるいは疑問を感じ、「なぜだろう」と考えること—これが、経済学の勉強をはじめるとき、一番、大切なことです。経済の理論や学説を暗記することではなく、経済社会の現実の出来事について、自分なりに問題を見つけ、解決への手掛りを探ることが大事なのです。ナマの経済問題に対処するためには、経済学的な考え方、分析の仕方を理解し、身につけておきましょう。この講義では、経済の動きに関心をもち、経済学の学習が面白くなるようなキッカケをつくりたいと思っています。</p>
講義概要	<p>経済に興味をもち、経済学を楽しく学ぶために、授業は原論や概論という形ではなく、物語的に進めます。前半では、現代の代表的な経済学であり、経済政策に影響力が強いケインズ、ケインジアン、フリードマン、マネタリスト達が経済をどうとらえ、経済政策をどう考えたか、これらを明らかにする中で、経済学の流れや考え方を学びます。同時に、彼等が活躍した時代の状況を把握し、経済学と現実の経済を絡めて、両者の関連も学びます。後半では、日本ばかりでなく世界的にも重要な今日の経済問題—経済成長と環境、財政赤字、国際通貨体制など—を中心とするテーマをとりあげ、日本やアメリカはじめ国際的な状況を検討し、21世紀に向かう経済のメガレンドを占ってみたいと思います。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・W・カール・ビブソン著、斎藤精一郎訳、『[物語・経済学] 誰がケインズを殺したか』日本経済新聞社、1990年、1,500円。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田経夫著、『経済学誕生』筑摩書房、1991年、1,600円。 ・根井雅弘著、『現代アメリカ経済学』岩波書店、1992年、2,000円。 ・レスター・C・サロー著、佐藤隆三訳、『デンジャラス・カレンツ』東洋経済新報社、1983年、1,800円。 ・ポール・ホルメロッド著、斎藤精一郎訳、『経済学は死んだ』ダイヤモンド社、1995年、2,300円。 <p>後半の部分については、各章ごとに提示します。</p>
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。前期レポートの提出期限は9月末日(教務課)、後期試験は定期試験の時間割で実施します。</p>
受講者に対する要望など	<p>出席状況と成績との間には、ほぼ正の相関関係がみられます。欠席すると、話のつながりが分らなくなります。授業には、必ず出席して下さい。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	この講義の狙い、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法などについてガイダンスしたあと、日本経済の現状に関するトピックスをとりあげ、イントロダクションとして説明します。
2	<u>第1章 ケインズは古典派を超えたか</u> 1 古典経済学とは何か
3	2 貨幣について古典派はどう考えたか 3 ケインズ対古典派
4	<u>第2章 ケインズ革命はどう波及したか</u> 1 「一般理論」の米国上陸 2 ケインズの政策の実験と浸透
5	3 円卓の騎士 4 フィリップ・カーブはいかに創られたか
6	5 円卓の騎士たちの「輝ける一瞬」 <u>第3章 マネタリズムの反革命</u> 1 社会問題としてのインフレーション 2 フリードマンとマネタリズム
7	3 ケインジアン対マネタリスト論争 4 マネタリズムとフィリップス・カーブ
8	5 合理的期待学派の登場 6 マネタリズムは今 <u>第4章 マネタリズムは金融政策をどう変えたか</u> 1 銀行とは何か
9	2 FRBの金融政策 3 マネタリストの凱旋 4 ボルカーはマネタリストか
10	5 金利対マネーサプライ 6 マネタリズムの失敗
11	<u>第1章～第4章のまとめ</u> スミス、ケインズ、フリードマンの時代の人間観、経済観
12	<u>第5章 経済成長のダイナミズム</u> 1 景気循環と経済成長 2 マイクロエレクトロニクス革命の衝撃
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	3 日本経済の成長と環境問題
2	4 シュムペーターのイノベーション論 5 経済成長のメカニズム
3	<u>第6章 財政赤字の経済学</u> 1 サプライサイド・エコノミクスとは何か
4	2 1981年レーガン税制改革 3 レーガノミックスのメカニズム
5	4 財政赤字のネガティブ効果 5 日本の財政赤字
6	<u>第7章 ドル体制は崩壊したのか</u> 1 貿易黒字と為替レート
7	2 すべては金本位制からはじまった
8	3 ブレントウッズ体制とは何か
9	5 金との訣別 5 「双子の赤字」の原因と結果
10	6 80年代前半のドル独歩高 7 「プラザ」以降のドル下落
11	8 EMSとEC統合 9 アジア経済における円
12	<u>第1章～第7章のまとめ</u> 日本型経済システムと日本経済の国際化
備考	

科目名	経済学	担当者名	波形昭一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学の学生でありながら、経済学にあまり興味を覚えないまま卒業してしまう人を多く見かける。それには種々の原因が考えられようが、最大の原因は、入学当初における経済学の授業のあり方にあるように思われる。その意味から本講義では、できるだけ経済学の面白さを感じ取ってもらえるような講義内容とした。</p>		
講義概要	<p>前期に資本主義社会の経済システムを理解するための基礎的理論を講義する。後期には、まず資本主義経済が世界史的にどのような発展段階をたどったかを論じ、さらにその世界史的環境の中で日本経済がいかなる特殊性を帯ながら展開し、現状に至っているかを講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・柴垣和夫著『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局、1995年</p>	
	参考文献	<p>・戸原四郎ほか共著『経済学概論』東京大学出版会</p>	
評価方法	<p>前期・後期とも定期試験をおこない、その総合点で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学というところは、経済学部に限ったことではないが、本を読まないことにはどうにもならない、つまり無意味な場所である。とにかく、本は一冊でも多く読むように心がけてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	資本とは何か
2	まず「商品とは何か」から学ぼう
3	貨幣の諸機能とインフレーション
4	市場経済と生産力の発展
5	「見えざる手」の働きとは何か
6	資本の利潤源泉としての労働力商品
7	労働力商品化の無理と資本主義の基本的矛盾
8	土地の所有と地代・土地価格の原理
9	銀行の成立とその機能
10	経済原論の世界
11	古典的資本主義の3段階
12	現代資本主義の歴史的位罫
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自由貿易主義と保護貿易主義
2	日米経済摩擦を考える
3	国際通貨制度と為替レート
4	重工業・株式会社・金融史本
5	アメリカの企業、日本の企業
6	中小企業問題と中小企業の新しい動向
7	農業・食料問題と農家経済
8	政府部門の比重と役割
9	日本資本主義の歩み(1)
10	日本資本主義の歩み(2)
11	日本資本主義の歩み(3)
12	「過剰富裕化」社会としての先進国
備考	

科目名	経済学	担当者名	益山光央
-----	-----	------	------

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。		
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はマイクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 未定	
	参考文献	近代経済学（非マルクス経済学）の文献であれば全て可。	
評価方法			
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	消費者行動の理論Ⅰ
3	消費者行動の理論Ⅱ
4	消費者行動の理論Ⅲ
5	生産者行動の理論Ⅰ
6	生産者行動の理論Ⅱ
7	生産者行動の理論Ⅲ
8	完全競争市場Ⅰ
9	完全競争市場Ⅱ
10	独占Ⅰ
11	独占Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の諸概念
2	消費関数と貯蓄関数
3	所得決定メカニズムⅠ
4	所得決定メカニズムⅡ
5	投資関数
6	利子率の決定（流動性選好説）Ⅰ
7	利子率の決定（流動性選好説）Ⅱ
8	貨幣供給メカニズム
9	IS 曲線と LM 曲線
10	金融政策と財政政策Ⅰ
11	金融政策と財政政策Ⅱ
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	松本正信
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。——経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>・根岸隆他共著『近代経済学—経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い。自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

年間講義予定

つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積もりである。

○ 序章 (プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり）、現代の経済思想。

○ 第Ⅰ部 ミクロ経済学（価格分析）

1 需要の理論

（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。

1章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

2 生産の理論

（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

3 市場；マーケット（交換の理論）

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケノ・メカニズム）の果たす役割、とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）

4 競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と、独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5 市場の限界と失販・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争。アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意見するもの、一般道路で通行料を徴収するか税では賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

○ 第Ⅱ部 マクロ経済学（所得分析）

6 国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7 貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率

8 中央銀行の機能と役割；金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9 政府の経済的役割；財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真のパラドックスなる由縁である。

分析：政府財制支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線

10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○ 終章（エピローグ）一結びにかえて一

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学	担当者名	山本美樹子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>イギリスの経済学者ジョー・ロビンソンは「経済学は人間の行動の原理である」という。さて日常の経済行動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論はそのような法則について取り扱う学問と考えればわかりやすいだろう。この講義は大学で経済学部に入學したばかりの一年生が対象である。経済学部の一年生の学生として最低限知っておいて欲しい経済理論の基礎を講義する。</p>		
講義概要	<p>経済理論は大きくミクロ経済理論、マクロ経済理論に分けられる。</p> <p>ミクロ経済理論：個々の消費者や社会の意志決定に遡り、各自の行動を分析する。ミクロ経済理論の背後には「限られた資源の効率的分配による経済的厚生を最大化」という経済学の究極目標がある。</p> <p>マクロ経済理論：経済全体、とくに一国レベルを、一つの巨大な単位と考え、その単位の各集計量（消費、投資 etc）の間の関係について扱う。</p> <p>前期はマクロ経済理論、後期はミクロ経済理論を講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	平成8年度は「エレメンタルミクロ経済学」「エレメンタルマクロ経済学」英創社を使う予定である。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷 巖 『入門マクロ経済学』 日本評論社 ・伊藤 元重 『入門ミクロ経済学』 日本評論社 ・福岡 正夫 『ゼミナール経済学入門』 日本経済新聞社 ・松下他 『チャートで学ぶ経済学』 有斐閣 ・福岡他 『経済原論』 世界書院 ・幸村 千佳良 『経済学事始』 多賀出版 	
評価方法	<p>前期、後期の期末試験</p> <p>毎回取る出席（前、後期あわせて5回以上休んだ場合には単位は出さない。）</p>		
受講者に対する要望など	<p>1年間でミクロ経済学、マクロ経済学両者を駆け足で講義するので、一回でも休むと授業についていけなくなる。できる限り欠席しないで講義を受けて欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

第一部

第1章 経済学とは何か (第1週)

- 1、経済学を学ぶ目的
- 2、経済学と経済理論

第2章 経済体制 (第2週)

- 1、混合資本主義体制の性格
- 2、社会主義体制の性格

第二部 マクロ経済の基礎理論

第3章 マクロ経済学の課題 (第3、4週)

- 1、マクロ経済学で取り扱うこと
- 2、ストックとフロー

第4章 国民所得とそれに関連する集計量 (第5、6週)

- 1、国民総生産、国民純生産、国民所得
- 2、三面等価の原則
- 3、国民所得集計上の留意点

第5章 有効需要の理論 (第7、8)

- 1、消費関数
- 2、投資関数
- 3、簡単な国民所得決定の理論
- 4、海外部門を含めた場合
- 5、政府支出を増加させた場合
- 6、海外からの輸入が増大した場合

第6章 貨幣の需要と供給 (第9、10週)

- 1、貨幣とは何か
- 2、貨幣の需要
- 3、貨幣の供給
- 4、信用乗数

第7章 IS-LM分析 (第11、12週)

- 1、IS曲線
- 2、LM曲線
- 3、IS-LM曲線の同時均衡の意味すること
- 4、財政政策の効果
- 5、金融政策の効果

第三部 ミクロ経済の基礎理論

第8章 ミクロ経済学(理論)の課題 (第1週)

第9章 消費者行動の理論 (第2、3、4)

- 1、効用、限界効用
- 2、無差別曲線
- 3、限界代替率、限界代替率逓減の法則
- 4、予算制約と消費者の効用極大化行動
- 5、財の分類
- 6、所得消費曲線と価格消費曲線
- 7、需要曲線、消費者余剰

第10章 生産者の行動の理論 (第5、6週)

- 1、等量曲線と限界代替率
- 2、生産者の利潤極大化行動
- 3、生産可能性曲線と限界変形率
- 4、消用関数
- 5、供給関数

第11章 市場価格の決定 (第7、8週)

- 1、市場価格の決定—均衡価格の決定
- 2、価格調整 ワルラス的調整 マーシャル的調整 蜘蛛の巣の理論

第12章 独占、寡占、独占的競争 (第9、10週)

- 1、完全独占
- 2、差別独占
- 3、独占的競争
- 4、寡占と複占
- 5、独占の弊害点

第13章 資源配分の効率性と市場の失敗 (第11週)

- 1、米価問題と間接税
- 2、市場の失敗 1 外部経済 2 収穫逓減産業のケース 3 公共財のケース

第14章 まとめ (第12週)

科目名	経済学	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指している実践的な学問である。経済学の研究は、皆さんが現実社会に対して日頃抱いている問題意識や疑問を経済学的な問題として捉えることから始まる。

この講義では、経済学の理論的フレームワークの修得を通して、現実の経済学の問題に実態的・理論的にアプローチするための基礎（分析道具）を得ることが目標である。

経済学は、分析対象の経済変数を決定し、経済変数間の相互依存関係を明らかにする学問である。前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする「ミクロ経済学」を講義する。ここでは、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。

後期は、GNP、物価水準、利子率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする「マクロ経済学」について講義する。ここでは、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにする。また、マクロ経済政策の効果の分析も行う。

テキスト	未定（次のものを予定している）。 【前期】奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。 【後期】中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。
参考文献	福岡正夫『ゼミナール経済学入門（第2版）』日本経済新聞社、1994年。 倉澤資成『入門価格理論（第2版）』日本評論社、1988年。 西村和雄『ミクロ経済学入門（第2版）』岩波書店、1995年。 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリ=3）、1993年。 広松毅・R.ドーンブッシュ・S.フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上・下）』マグローヒル、1989年。 なお、授業中に参考文献一覧を配布する。

成績評価は、前期および後期の定期試験に、レポートの得点を加味して行う。レポートは年間10回以上を予定している。

出席もせずに、試験だけとりあえず受けたような人で、試験ができたためしがありません。まず、出席して講義を聞いて下さい。でも、聞いているだけではだめです。自分で本を読んで勉強し、レポートで腕試しをして下さい。でも、勉強しっぱなしで、わからないところをそのままにしておいてはだめです。質問に来て下さい。以上のような努力をすれば、その努力は必ず結果につながるでしょう。

経済学は皆さんがこれから進んで行く専門分野の基礎となることを十分に認識して、わかろうとする努力をして下さい。その場しのぎで何とか単位が取ればいいと考えていると、後々苦労します。

なお、再履習の学生は、登録前に必ず授業に出席して、履修の許可を受けて下さい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 経済学とは？、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、成績評価の方法、前期講義の範囲
2	<p>1. 家計の行動と需要曲線</p> <p>効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、予算制約線、最適消費点の決定、所得の変化と需要の変化（所得消費曲線）、所得弾力性、正常財と劣等財、価格の変化と需要の変化（価格消費曲線）、個別需要曲線の導出、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、スルツキー分解（代替効果と所得効果）、ギッフェン財、代替財と補完財、与件の変化と需要曲線のシフト→テキスト第2章。</p>
3	
4	
5	
6	
7	<p>2. 企業の行動と短期供給曲線</p> <p>利潤とは？、生産関数（技術の制約）と利潤最大化、短期と長期、短期総生産物曲線、限界生産性逓減の法則、短期費用曲線、（短期）限界費用・平均費用・平均可変費用、利潤最大化と（短期）個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と供給曲線のシフト→テキスト第3章。</p>
8	
9	
10	
11	<p>3. 完全競争市場と効率性—部分均衡分析—</p> <p>完全競争市場とは？、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件の変化と市場均衡の変化、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財）、分配と公正→テキスト第4章および第1章。</p>
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の解説、後期講義の範囲の説明。
2	<p>1. GNPと物価指数</p> <p>GNP（国民総生産）とは？、三面等価の原則、ISバランスと財政収支・経常収支、貯蓄と投資の恒等関係、物価指数（パーシェ指数とラスパイレス指数）→テキスト第2章。</p>
3	
4	
5	<p>2. 財市場の分析</p> <p>財市場における数量調整、消費関数と貯蓄関数、45°線分析による国民所得決定の理論、乗数、均衡予算乗数の定理、財市場と貨幣市場の統合（投資の限界効率表）→テキスト第7章、その他 pp. 18-22, 83-85, 85-87。</p>
6	
7	
8	
9	<p>3. 貨幣市場の分析</p> <p>貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要（取引需要と資産需要）、債券価格と利子率の関係、資産需要と市場利子率（流動性選好表）、貨幣需要関数と貨幣市場の均衡、名目利子率と実質利子率→テキスト第4章、その他 pp. 87-88。</p>
10	
11	<p>4. IS-LM分析と総需要曲線</p> <p>IS曲線の導出、財市場における不均衡の調整、LM曲線の導出、貨幣市場における不均衡の調整、財市場と貨幣市場の同時均衡、財政金融政策の効果、労働市場との関係、不均衡からの調整過程、IS-LM分析のまとめ、総需要関数の導出→テキスト第8章。</p>
12	
備考	

科目名	経済原論（93年度以降） 経済原論Ⅰ（92年度以前）	担当者名	高橋 房二
-----	-------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本年は経済原論として現代経済理論にしたがってマクロ経済学の基礎を統一的に講義する。経済学科の専門課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の涵養をはかる。それと同時に現実経済の動きに関する認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学に関して取扱うべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられそれらの特質や問題点に関して講義が行われる。</p>		
使用テキスト	なし		
参考文献	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーンブッシュ、フィッシャー『マクロ経済学』マグローヒル ・バロー『マクロ経済学』多賀出版 ・中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 ・ホール・テラー『マクロ経済学』多賀出版 <p>他</p>	
評価方法	<p>定期試験、レポート、ミニテスト、出席状況</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済原論の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念 GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析
2	最終消費と貯蓄に関する基礎的關係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS
3	単純な国民所得の決定關係（Ⅰ） 貯蓄と投資による国民所得の決定（閉鎖体系）、広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論
4	単純な国民所得の決定關係（Ⅱ） 最終消費と投資による国民所得の決定（閉鎖体系）、均衡の存在と安定条件
5	インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論（Ⅰ）—閉鎖体系— 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学
6	乗数理論（Ⅱ）—閉鎖体系— 政府活動と乗数理論、その一般的關係、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果
7	乗数理論（Ⅲ）—開放体系— 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数
8	ケインズ経済学（Ⅰ） ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違、有効需要の原理
9	ケインズ経済学（Ⅱ） 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ
10	ケインズ経済学（Ⅲ） 貨幣需要、流動性、流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利子率、資産選好
11	消費関数の理論（Ⅰ） ケインズ型消費関数、相対所得仮説
12	消費関数の理論（Ⅱ） 恒常所得仮説、恒常所得とその導出、ライフサイクル仮説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのバリエティ、ストック調整モデル
2	経済成長の理論（Ⅰ） 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性
3	経済成長の理論（Ⅱ） カルドアによる定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、黄金時代均衡、最適成長、経済成長の促進策
4	景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル
5	IS・LM分析（Ⅰ） 生産物市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利子率の決定
6	IS・LM分析（Ⅱ） IS曲線のシフト、LM曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利子率の変化、IS・LM分析と金融政策
7	物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップ原理
8	失業とインフレ（Ⅰ） フィリップス曲線、インフレ期待、インフレ需要曲線とインフレ供給曲線
9	失業とインフレ（Ⅱ） 短期インフレ率、長期均衡への調整、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線
10	合理的期待仮説 合理的期待、合理的期待仮説とその評価
11	マネタリズムとケインズ学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違
12	国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定
備考	

科目名	経済原論（済93年度以降） 経済原論Ⅰ（済92年度以前）	担当者名	西村 允克
-----	---------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は一つの組織である。組織が永続的に機能するには、そこに秩序が維持されなければならない。経済学では、この秩序を市場均衡として把握する。それゆえ、市場均衡をいかに理解するかが、この講義の第一の主要課題となる</p> <p>だが、市場経済は単に均衡を維持するだけでなく、変動しながら成長する組織である。それゆえ、この変動と成長の過程を理解する論理システムを学ぶことが第二の主要課題となる。このようにして、現実の経済を理解するための論理システムを習得する。</p>		
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑である。複雑なシステムを理解するには、システムを、そのシステムを構成する基本的要素と基本的要素間の関係によって、複雑なシステムを理論的分析が可能なモデルに変える必要がある。1～8は経済を構成する基本的要素と要素間の関係を理解し、経済分析の基礎的分析ツールを学習する。9～16では、理論モデルに基づいて、基本的経済分析を行ない、現実経済分析のやり方を学習する。17～18では失業とインフレを問題とするが、それはこれまでのモデル分析を通じてなされる。19～24では、変動と成長の関係を取扱う。経済理論はマクロとミクロに分けられるが、講義はマクロに重点を置くが、ミクロも必要なかぎり論じられる。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル ・幸村千佳良『マクロ経済学事始』 多賀出版 ・J. P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル ・倉沢資成『入門価格理論』 日本評論社 	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題とその採点は講義において注意した点をよく理解しているかについてなされる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>学習効果は日々学習し、その学習成果を次の講義において役立てることによって完全なものとなる。講義に出席するには、必ずテキストの関連する部分を読んでいなければならない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎(1) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役、実物資産と金融資産
2	経済学を学ぶための基礎(2) 分析ツール 関数と曲線、関数の限界値、数式と図表の読み方、市場均衡と主体均衡、完全競争市場、独占的競争市場、不完全競争市場、独占市場
3	国民経済計算(1) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、三面等価の原則、内需と外需、グロスとネット
4	国民経済計算(2) 物価指数(デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 投入量と産出量 等産出量曲線 限界生産力、規模の経済
6	消費関数(1) 限界消費性向、限界貯蓄性向、平均消費性向、平均貯蓄性向
7	消費関数(2) 恒常所得仮説、合理的期待仮説、ライフサイクル仮説
8	投資関数 投資の限界効率 加速度原理(独立投資と従属投資) 技術革新(イノベーション)
9	市場均衡理論(1) 価格を調整変数とする場合 価格の決定と価格の変動理論(生鮮食料品はなぜ日々価格が変化するのか。工業製品の価格はなぜ変化しないかなどの問題を考える基礎理論)
10	市場均衡理論(2) 生産量を調整変数とする場合 国民所得の決定と国民所得の変動理論
11	市場均衡理論(3) 生産量を調整変数とする場合 投資乗数の理論を中心とした問題
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣と貨幣市場 マネーサプライ、その決定因、金融政策とマネーサプライ 貨幣数量説、ハイパワードマネー
2	貨幣供給と貨幣需要(貨幣市場の均衡理論) 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS・LM分析(1) 国民所得と利子率の同時決定 IS曲線とLM曲線の導出とその意味、国民所得、利子率の同時決定のメカニズム
4	IS・LM分析(2) 国民所得と利子率はどのように変化するのか。IS曲線とLM曲線を変化させる要因、これらの要因が変化すればどのように両曲線は変化するのか。財政・金融政策の効果
5	失業問題 自然失業率 フィリップス曲線
6	インフレーション マネーサプライとインフレ、スタグフレーション
7	成長と変動の理論(1) 景気変動、在庫循環、設備投資循環 リアル・ビジネス・サイクル
8	成長と変動の理論(2) 経済成長の理論。(ハロッドモデル、新古典派モデル)
9	成長と変動の理論(3) 戦後日本の成長と変動
10	国際マクロ経済理論 外国貿易乗数、外国為替相場制(固定相場制と変動相場制)、国際収支(貿易収支、貿易外収支、移転収支、経常収支、長期短期資本収支)
11	総供給・総需要分析(I) 総供給曲線と総需要曲線の導出
12	総供給・総需要分析(II)
備考	

科目名	日本経済史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、眞摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>				
講義概要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣</p> <p>6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の歴史的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にしたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店 	参考文献	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店 				
参考文献					
評価方法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」的で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。なお、受講生有志の強い希望があれば、(金5)に少人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
2	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
3	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
4	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
5	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
6	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
7	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
8	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
9	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
10	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
11	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
12	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	⑤ 社会経済史学の課題一
2	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
3	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
4	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
5	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
6	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
7	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
8	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
9	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
10	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
11	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
12	⑨ 総括一近代日本の批判的考察と現代日本への展望
備考	

科目名	経済地理	担当者名	犬井 正
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>				
講義概要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、前期、後期に各1回ずつのフィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式なども採り入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各2回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、論文の書き方の基本を習得する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>未定。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房 ・定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂 ・山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院 ・山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂 </td> </tr> </table>	テキスト	未定。	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房 ・定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂 ・山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院 ・山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂
テキスト	未定。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房 ・定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂 ・山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院 ・山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂 				
評価方法	<p>年間指定小論4作、および2回のフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。フィールドワークに出かけるため多人数では不可能なので、第1回目の講義時に受講者が50人を超えた場合は抽選を行う。したがって、受講希望者は第1回目の講義には必ず出席すること。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2	経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。
3	経済地理学研究のためのデータの収集とその活用方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4	農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5	農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。〈前期小論1提出〉
6	農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。
7	農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8	国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9	日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。〈前期小論2提出〉
10	東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
11	同上
12	前期のまとめと評価。前期フィールドワークのレポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の農業の特色と農業地域の概観。
2	首都圏の農業地域の構造と特色。
3	輸送圏芸農業地域の構造と特色。
4	米作地域の農業経営の特色と問題点。〈後期小論1提出〉
5	農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
6	イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
7	イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。
8	イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
9	農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。〈後期小論2提出〉
10	同上
11	草加市の綾瀬川流域沖積低地の伝統的農産物生産地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
12	1年間の講義のまとめと評価。後期フィールドワークのレポート提出。
備考	

科目名	経済政策	担当者名	伊藤正昭
-----	------	------	------

講義の目標	<p>資源配分のゆがみ、不公平な所得分配、経済の低成長、景気の変動、地価や内外価格差問題、そして、談合などにみられる企業の独占的な行動、消費者・生活者を重視した経済への体質転換（構造調整）、規制緩和など現代的な経済問題が山積している。こうした経済問題へのいわば処方箋を検討するのが経済政策（論）ということができるであろう。</p> <p>経済問題に関心をもつ者に、経済政策の理論と現実をできるかぎりやさしく解説することにより、受講者の経済政策をみる目を養うことを目的としたい。</p>
講義概要	<p>経済政策は応用経済学の一分野であり、マクロおよびミクロ経済学で蓄積された諸理論を応用することになる。経済政策の方法論から始め、マクロ経済学のエッセンスを学んだ後、財政学、金融論などを応用して財政、金融政策について学習する。ついで、マクロ経済学をベースにした経済成長政策、そして、景気循環や雇用・物価問題にかかわる経済安定政策を学ぶ。</p> <p>さらに、価格理論ともいわれるミクロ経済学をベースとする産業組織政策などに触れ、市場経済の役割、規制緩和の是非など現代的な経済問題へアプローチする。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川啓之・伊藤正昭他著『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年（予定） <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年 ・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年 ・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年 ・伊東正則・山崎良也編『基本経済政策』有斐閣、1987年 ・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学（上・下）』マグローヒル ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年 ・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行い、その結果で成績評価を行う。</p>
受講者に対する要望など	<p>経済学部必修科目である「経済学」の単位をすでに取得していることを前提に講義を進める。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策序説(1) 経済政策とはなにか(講義のフレームワークの説明とガイダンス) 資源の希少性、効率的な資源配分、経済問題、経済体制
2	経済政策序説(2) 戦後日本の経済政策のレビュー ブラザ合意以降の政策、財政・税制改革、規制緩和と自由化
3	政策の主体と経済政策思想(1) 政策主体と政策決定メカニズム 政治と経済、公共選択、政治家・官僚の行動原理、審議会
4	政策の主体と経済政策思想(2) 現代の経済政策思想—政府介入をどうみたらよいか— ケインズ、新古典派総合、新自由主義、サプライ・サイド
5	経済政策の目的と手段(1) 経済政策における価値判断の問題 ウェーバー、ピグー、パレート最適、厚生経済学の基本定理
6	経済政策の目的と手段(2) 政策の目的と階層性—目的間のトレード・オフ— 政策手段(財政・金融政策、経済的規制)の多様性と有効性
7	マクロ経済政策の原理(1) 完全雇用と政府介入の論理—ケインズのねらい— 古典派とケインズの雇用理論(2つの公準)、価格調整と数量調整
8	マクロ経済政策の原理(2) 国民所得決定の理論—マクロ経済政策の基礎理論— 有効需要、国民所得、消費(貯蓄)関数、投資乗数、 $I=S$
9	財政政策(1) 財政政策と手段 財政の機能、予算と財政投融资、財政制度改革、公債負担問題
10	財政政策(2) ビルト・イン・スタビライザーと裁量的財政政策 経済安定化政策、累進税制、政府支出乗数、政策のラグ
11	金融政策(1) 金融政策の理論的基礎 貨幣の需要と供給、流動性選好、マネー・サプライ、 $L=M$
12	金融政策(2) 金融政策の目的と手段 ハイパワード・マネー、マネー・サプライの管理、金融自由化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政政策と金融政策のIS-LM分析(1) 財政政策と金融政策の有効性と条件 生産物市場と貨幣市場の同時均衡、ポリシー・ミックス
2	財政政策と金融政策のIS-LM分析(2) 財政金融政策に関する諸見解 ケインジアンとマネタリストの論争、貨幣数量説、合理的期待
3	経済成長と経済安定の政策(1) 経済成長の基礎理論と政策 ハロッド=ドーマー/新古典派モデル、生産関数、技術選択
4	経済成長と経済安定の政策(2) 景気変動と政策 景気循環の理論、リアル・ビジネス・サイクル、景気動向指数
5	インフレーションの理論と政策(1) 総需要曲線と総供給曲線 物価水準、インフレ供給・需要曲線、スタグフレーション
6	インフレーションの理論と政策(2) ケインジアンとマネタリスト フィリップス曲線、自然失業率仮説、オーカンの法則
7	産業政策(1) 産業構造政策と産業調整政策 サプライ・サイド、保護主義、NAPとPAP、技術革新
8	産業政策(2) 産業組織論と独占禁止政策—日本とアメリカの比較— S-C-Pパラダイム、シカゴ学派、コンテストタビリティ、サンク・コスト
9	規制緩和と経済政策(1) 現代の市場システムと問題 市場の失敗、自然独占と規制の論拠、レント・シーキング
10	規制緩和と経済政策(2) 産業規制と規制緩和 規制緩和の経済理論、規制緩和のプラスとマイナス
11	国際協調の経済政策(1) 自由貿易と保護主義の論理と現実 GATTからWTOへ、国家主権、地域統合の時代
12	国際協調の経済政策(2) 経済摩擦の分析と政策 日米経済摩擦の3つの局面、経済政策摩擦、日本の経済体質
備考	

科目名	日本経済論	担当者名	波形昭一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>情報社会のゆえか、日本経済の現状に関する書物は巷に氾濫している。しかし、日本経済がどのような歴史的経緯をたどって現状に至っているのかという、そうした観点から書かれた良書は意外と少ない。若い学生諸君の弱点も、実はそこにあるように見受けられるので、この点に講義の重点をおきたい。</p>		
講義概要	<p>年間講義予定の欄に記したように、前期は主に戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後の再建過程を論ずる。後期では高度成長とその緒特徴、さらに70年代中期以降の構造転換の意味を論じつつ現在の日本経済の問題点を探りたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・竹内 宏『昭和経済史』ちくまライブラリー</p>	
	参考文献	<p>・佐々木隆爾編『昭和史の事典』東京堂出版</p>	
評価方法	<p>前期・後期とも試験を行ない、総合点で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>こんなことを要望すること自体、どこかおかしいのだが、最近とみに授業中の私語が多い。大学生でも、自己管理能力の低い人が多くなっているようである。「私語」は「死後」と同音である。同義にならないよう注意されたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本資本主義経済の成立(1) その産業・貿易構造
2	日本資本主義経済の成立(2) 金本位制成立の意義
3	金融恐慌から昭和恐慌へ
4	金本位制の崩壊、管理通貨制への移行
5	井上財政と高橋財政
6	戦時経済体制への突入
7	戦時統制経済の実態
8	戦後経済改革
9	戦後復興策とインフレ
10	ドッジ・ラインとシャープ勧告
11	朝鮮戦争と特需景気
12	戦後経済からの脱皮と55年体制
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	神武景気と岩戸景気
2	所得倍増計画からイザナギ景気へ
3	大衆消費社会の到来
4	高度経済成長と儒教精神
5	ドル・ショックと過剰流動性
6	第一次石油ショックと大不況
7	トリレンマからの脱出
8	世界経済秩序の転換
9	レーガノミックスとプラザ合意
10	円高進展とバブル景気
11	バブル崩壊の日本経済
12	未曾有の長期不況と再建への挑戦
備考	

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計 (2)初歩的な確率論と確率分布 (3)統計的推定 (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。また、出席状況やレポートも考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートを用意する。 電卓が必要です。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

※各週の〈 〉の中は、キーワードです。

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の「統計学」の講義について 〈教科書とノート、定期試験と出欠席、評価〉
2	統計的な考え方と例 〈国勢調査、品質管理、コンピュータ〉
3	統計学の発達と先駆者 〈コルモゴロフ、ピアソン、フィッシャー〉
4	データの整理(1) 〈尺度、平均値、標準偏差〉
5	データの整理(2) 〈中央値、範囲、四分位数〉
6	データの整理(3) 〈度数分布表、ヒストグラム、階級値〉
7	データの整理(4) 〈簡便法、平均値、標準偏差〉
8	データの整理(5) 〈散布図、相関係数、回帰直線〉
9	データの整理のまとめ
10	確率(1) 〈大数の法則、事象、組み合わせ〉
11	確率(2) 〈互いに独立、条件付き確率、乗法定理〉
12	確率分布(1) 〈離散型確率変数、二項分布、漸化式〉
13	確率分布(2) 〈連続型確率変数、正規分布、標準化〉
14	確率と確率分布のまとめ
15	前期試験

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果と復習
2	母集団と標本(1) 〈乱数、標本調査、無作為抽出〉
3	母集団と標本(2) 〈母集団分布、標本分布、中心極限定理〉
4	統計的推定(1) 〈推定、信頼係数、区間推定〉
5	統計的推定(2) 〈比率の推定、二項分布、サンプルサイズ〉
6	統計的推定(3) 〈母平均の推定、正規分布、最尤推定〉
7	統計的推定のまとめ
8	統計的仮説検定(1) 〈帰無仮説、第1種の過誤、有意水準〉
9	統計的仮説検定(2) 〈比率の仮説検定、片側検定、両側検定〉
10	統計的仮説検定(3) 〈 2×2 の分割表、独立性の仮説、 $r \times s$ の分割表〉
11	統計的仮説検定(4) 〈母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定、相関係数の検定〉
12	統計的仮説検定のまとめ
13	ノンパラメトリックな方法(1) 〈スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、適合度検定〉
14	ノンパラメトリックな方法(2) 〈符号検定、順位和検定、ウイルクソンの符号付き順位和検定〉
15	後期試験

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りの様々なデータを解析し、推論していく統計学の手法は経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義の目的は、統計学の基本的考え方と、それを具体的に応用していく方法を習得することである。</p>		
講義概要	<p>記述統計学によって、データの整理のし方を述べる。</p> <p>確率分布の準備のために確率の概念を述べる。</p> <p>一般的な確率分布の考え方を述べる。</p> <p>いくつかの特殊な確率分布について述べる。</p> <p>標本分布の考え方について述べる。</p> <p>推定について、点推点、区間推定の順に述べる。</p> <p>統計的仮説検定について述べる。</p> <p>2変量の統計的解析について述べる。</p> <p>ノンパラメトリックな検定について述べる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・拙著 『基本統計学』 産業図書</p>	
	参考文献	<p>・C. R. ラオ著 (藤越他訳) 『統計学とは何か』 丸善</p>	
評価方法	<p>前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>各自、専用のノートを用意し、講義内容を記録すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計的とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2	標本として得られるデータの整理の仕方について述べる。位置の尺度のとらえ方など。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3	ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の仕方について述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4	データ整理の方法を理解するための演習を行なう。
5	確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6	確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7	確率度数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8	確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9	2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10	ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11	連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12	正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2	標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3	カイ2乗分布およびスチュードントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4	母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5	母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。
6	母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7	統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8	2度数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9	回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10	カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
11	ノンパラメトリック検定の考え方を述べる。(符号検定、順位和の検定)
12	一年間の総復習を行なう。
備考	

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期は、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>
使用教材	<p>テキスト ・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</p> <p>参考文献 上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</p>
評価方法	前・後期二回の期末試験による。
受講者に対する要望など	講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
2	統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
3	データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
4	2つの変数の間の関係をさぐる－1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
5	2つの変数の間の関係をさぐる－2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
6	確率－1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
7	確率－2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
8	確率分布－1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布－超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
9	確率分布－2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
10	確率分布－3：(1)連続型確率分布－連続型確率分布の意味。(2)正規分布－分布の形状、特徴その他。
11	正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
12	データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	無作為標本(ランダム・サンプル)、母集団と標本－1：母集団と標本の意味は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
2	母集団と標本－2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
3	推定－1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する一方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
4	推定－2：(1)正規分布の母平均 μ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか－推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法－データから母数を探る。
5	統計的仮説検定－1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
6	統計的仮説検定－2：(1)比率の検定－考え方と手順。(2)2x2表－2x2表にもとづく検定の意味。
7	統計的仮説検定－3：(1)2x2表－モデルとの関連、タイプの異なる2x2表。(2)rxs表。
8	統計的仮説検定－4：正規分布の母平均の検定－母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
9	統計的仮説検定－5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意－具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
10	ノンパラメトリックな方法－1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
11	ノンパラメトリックな方法－2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
12	統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。
備考	

科目名	経済統計	担当者名	松本正信
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講義概要	<p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表 第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析 以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷）</p>	
	参考文献	<p>・講義の都度指示</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後期定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>まずは講義を聴き給え。きっと面白いぞ。</p>		

年 間 講 義 予 定

以下の、序論を含めた19の項目を年間を通じて1～3回にわたる講義で進める予定である。

序 論

経済と経済統計と経済学

第Ⅰ部 指数

- 1 指数について (指数理論)
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数 (付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式)
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例

第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス
(2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)
- 3 新SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析——トレンド (趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動——
- 3 時系列分析の方法——移動平協法、趨勢線のあてはめ、他——
- 4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス——
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

なお、学年末にいたって時間に余裕があれば、教科書の付録にある「ORの話」「ゲームの理論」にも触れることで、のちのちの経済学の勉学に資するようにしたいと思う。(昨年度はそれがあつた程度できたのである。)

科目名	情報処理概論（93年度以降） 情報処理論Ⅰ（92年度以前）	担当者名	各担当教員
-----	----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部の学生が4年間の学習・研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習を行なうものである。例えばレポート、卒論において</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章はワープロを使用 ○文献は図書館のデータベースを使用して探す ○データは統計計算等による処理を通してグラフ等に整理する <p>等々がコンピュータを通してできることを指す</p>		
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	各教員が適宜に指定する。	
評価方法	原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要な考慮ポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。		
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れろ”です。くり返しの勉強（復習）が必要でしょう。例年受講希望者が多く抽選により決めています。（毎年改善をしていますが残念なのですが教室の数、機材の数、教員の数に限界があり、本年度も多分抽選になると思います。）このため何回も抽選に外れてしまう学生さんもいます。抽選に外れて受講したくても出来ない友人もいるということを考え、安易に受講希望をしないで欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション
2	情報化社会（コンピュータの歴史、情報と産業、コンピュータの将来） 情報と倫理
3	入力装置とキーボード
4	QWERTY 配列 マウス 他
5	日本語ワードプロセッサ
6	カナ入力、ローマ字入力 編集（複写、移動、文字サイズ等々）
7	MS-DOS
8	ファイル管理等々
9	表計算
10	スプレッド・シート 統計処理 等
11	コンピュータ概説
12	ハードウェア・ソフトウェア コンピュータの仕組、等
13	情報の表現とコンピュータ
14	文字コード 等
15	ネットワーク
16	ビットネット
17	データベース
18	図書検索 等
19	コンピュータ・システム
20	オンライン、TSS、etc.
備考	各テーマの順序、時間配分は教員により異なる。上記以外のテーマも各教員ごと扱います。

科目名	計量経済学	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	計量経済学は時に統計学的方法を使うが、とくに重要な点は、計量経済学は実証経済学として展開されるという事の理解を目標とする。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> (1) 計量経済学とは何か (2) 計量経済学の展開 (3) <ul style="list-style-type: none"> a) 生産物 b) 労働 c) 資本 の価格と量のきまるしくみの実証的、量的モデル (4) 計量経済学と経済政策 <ul style="list-style-type: none"> 前期は(1)(2)と(3) 後期は(3)の(b)(c)と(4)を中心として講義する。 		
使用教材	テキスト	小尾『計量経済学入門—実証分析の基礎—』(日本評論社)	
	参考文献	小尾・尾崎『統計学』(筑摩書房) テキスト参考文献は適時、適当なコピーをつくり配布する。	
評価方法	図や式も必要であるが、内容の全体的理解度を重視する。		
受講者に対する要望など	同上		

科目名	国民所得論	担当者名	安藤 登
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>こんにちは、国民経済の動向に関する多種多様な情報と経済指標の利用によって経済の現状分析が活発に行なわれ、時々刻々、茶の間にも届けられている。そのさい多くのマクロ的経済指標が利用されていることに気づくであろうし、それらを作り出す基礎的枠組が GDP などを含む国民経済計算であることが分かる。国民経済計算こそ実際のマクロ経済分析の基礎（経済の解剖学）なのである。</p> <p>本講義ではこれが学習の上に、「経済の生理学」たるマクロ経済学へと可能なかぎり学習を進めてゆくことを目指すのである。</p>				
講義概要	<p>「国民所得」の略史から始める。簡単に一瞥したのちは、太平洋戦争終結後、輸入学問として入ってきた国民所得分析（ラッグルスによれば「国民所得勘定と所得分析」）があり、その後年を経るにつれて、現在の「SNA」が形成・発展・利用されてきた経過を講義する。現実経済の発展に伴って改訂と展開をいまもなおつづけている状況もつけ加える。</p> <p>つづいて国民所得分析理論（マクロ経済学）について、上記ラッグルスの時代に比べれば、はるかに多様多彩となった理論を、極めて入門的なところから始めて、可能なかぎり最近までの動向についてできるだけ分かりやすい講義にするように努力する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・藤岡文七・渡辺源次郎『テキスト国民経済計算』 大蔵省印刷局 ・新開陽一『マクロ経済学 第2版』 東洋経済新報社 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・白川一郎・井野靖久『SNA 統計一見方・使い方』 東洋経済新報社 ・中谷巖『入門マクロ経済学 第3版』 日本評論社 </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤岡文七・渡辺源次郎『テキスト国民経済計算』 大蔵省印刷局 ・新開陽一『マクロ経済学 第2版』 東洋経済新報社 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・白川一郎・井野靖久『SNA 統計一見方・使い方』 東洋経済新報社 ・中谷巖『入門マクロ経済学 第3版』 日本評論社
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤岡文七・渡辺源次郎『テキスト国民経済計算』 大蔵省印刷局 ・新開陽一『マクロ経済学 第2版』 東洋経済新報社 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・白川一郎・井野靖久『SNA 統計一見方・使い方』 東洋経済新報社 ・中谷巖『入門マクロ経済学 第3版』 日本評論社 				
評価方法	前・後期定期試験の成績によって評価するが、受講態度も勘案する。				
受講者に対する要望など					

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得から国民経済計算へ——国民所得推計の沿革、国民所得から国民所得勘定へ、アメリカ方式から国連方式へ（旧 SNA と新 SNA）。
2	各種の国民経済計算の成り立ちと発展——各種経済計算体系の導入と試算。
3	リチャード・ストーン博士と SNA——ケインズの直弟子、“ストーン・エイジ”を築く、さらなる発展への展望。
4	SNA でみる経済循環の姿——わが国経済の循環を計数入りでトレースする。
5	個別の経済計算体系の構造と特徴——国富と資本ストック、概念と構造。
6	同上——産業連関表、概念と構造、W・レオンチェフの創意、国民経済の一大フロー・ダイアグラム。
7	同上——資金循環勘定、概念と構造、M・コーブランドの創意、資金過不足分析。
8	同上——国際収支表、概念と構造、IMF 方式。
9	マクロ経済学の課題——古典派とケインズ、マクロ経済政策の目標と効果。
10	国民所得決定のケインズ理論——有効需要の原理、乗数、消費、投資、純輸出、経済安定化政策。
11	消費関数——絶対所得仮説、相対所得仮説、恒常所得仮説、生涯所得仮説。
12	投資関数——資本の限界効率、加速度原理、ストック調整原理、トービンの q 理論。
講義	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	IS・LM 分析について——J. R. ヒックスの書評論文、その後の経緯。
2	IS 曲線の導出——かんたんな投資関数と総独立支出関数、IS 曲線の導出、IS 曲線のシフト。
3	LM 曲線の導出——資産市場、貨幣供給、貨幣需要、貨幣需給の一致、LM 曲線の導出、LM 曲線のシフト。
4	所得と利子率の同時決定 (IS-LM の同時均衡)
5	IS・LM 分析——財政政策の効果、クラウディング・アウトとクラウディング・イン
6	同上——貨幣・利子理論再論
7	同上——金融政策の効果
8	IS・LM 分析理論再考
9	インフレーションと失業
10	景気循環
11	経済成長
12	マクロ経済学の動向
講義	

科目名	経済変動論	担当者名	松本正信
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形式学派・新古典派などの諸説を年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>		
講義概要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p>		
使用教材	テキスト	私の「講義ノート」による。	
	参考文献	講義の都度、指示する。	
評価方法	後期定期試験によって評価する		
受講者に対する要望など	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>		

年 間 講 義 予 定

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

序論 経済変動論の現代的課題

- 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環
- 2 経済変動の歴史的素描
産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題
- 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描
資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論
- 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制へ、WTO体制と自由貿易
- 5 経済変動要因の理論的類別
- 6 有効需要拡大の「拡大」解釈——グローバル化——

I 均衡成長とその不安定性論

- 1 経済成長の不可避的要素と必要性
古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーターの動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義
- 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論
- 3 独立投資と誘発投資
- 4 外生要因と内生要因

II 景気循環のメカニズム

- 1 定常状態の経済
- 2 新投資の循環（更新投資循環）
- 3 在庫投資の循環
- 4 ヒックスの景気循環モデル
- 5 カレッキーの景気循環論
- 6 カルドアの景気循環論
- 7 景気変動への安定化要因
- 8 景気循環論の類型と循環の局面
- 9 景気循環と経済諸変量
- 10 景気の転換点と景気動向指数

III 経済成長と景気循環

- 1 成長経済における「定型化された事実」
- 2 新古典派成長理論の登場
- 3 新古典派の経済成長理論
- 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）

IV 現代景気循環論（付論）

- 1 現代ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派
- 2 経済成長軌道は安定か不安定か
- 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題
- 4 これからの景気循環への展望

科目名	近代経済学（93年度以降） 理論経済学（92年度以前）	担当者名	小林 進
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。		
講義概要	経済学（必修）及び経済原論Ⅰをすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を中心に講義し、最後にマクロ経済学の特にオープンモデルへの展開についても触れる。最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史における役割を簡潔に説明する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示する。	
評価方法	前期と後期の二回の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

1. ミクロ経済学

消費者は効用関数を最大にするように行動する。

効用関数 $U = U(X, Y)$ の定義とその性質

(序数的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)

無差別曲線と予算線の接点 $\rightarrow MRS = P_x/P_y$

予算線 \rightarrow 所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。

所得効果と代替効果

(この概念の理解が重要であることを強調する)

労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的なき時の賃金率と供給量の関係

労働所得がある場合の労働供給曲線

失業保険と労働供給曲線

二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係

需要の価格弾力性 e と支出額 Z の関係

$$\frac{dZ}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$$

この関係のJカーブ効果への応用

競争市場の企業の最適化行動 $P = MC$

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

剰余分析 (消費者剰余 + 生産者剰余) と完全競争の最適性

応用として自由貿易の問題、関税と補助金の相違

バレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の利潤最大条件 $MR = MC$ (限界収入 = 限界費用)

$$MR = P \left[1 - \frac{1}{e} \right]$$

クーナーの独占度 $1/e$

二つの分離した市場に直面した独占者 $MR_1 = MR_2$ より $e_1 > e_2$ ならば

$P_1 < P_2$ (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル (価格協定)

独占と剰余分析

独占の規制 \rightarrow 制限価格の設定

独占と屈折需要曲線

ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、フォーク定理

1. マクロ経済学

付加価値と国民所得概念の解説

一般消費税の本質は付加価値税である。

市場の不完全性とケインズ経済学、有効需要の原理

$$Y = C + I + G + X - Q$$

限界消費性向 c 、限界租税性向 t 、限界輸入性向 m

$$\text{そのときの乗数} = \frac{1}{1 - c(1 - t) + m}$$

IS-LM 分析と国際経済学

経常収支は為替レート π と国民所得に依存

資本収支は国際間の利子率格差に依存

国際収支の均衡 \rightarrow 経常収支 + 資本収支 = 0

これが不均衡のとき、たとえば赤字からドルの流出 (貨幣量の減少)。

資本移動が完全ならば、世界的に利子率は一価となる (このときの経済政策は、金融政策が有効で財政政策は無効)。

科目名	経済社会学（93年度以降） 経済原論Ⅱ（92年度以前）	担当者名	高橋 善四郎
-----	--------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>経済社会学は、経済学と社会学の両サイドから乗り入れた、学際的学問である。経済学はもともと、古典学派において「政治経済学」と呼ばれていたように、今日の純粹に経済的側面を学問の対象としたものではない。貨幣的現象の背後に社会を問う、経済社会学の視点は、法社会学、体制論、経済哲学、ビジネス・エシックス、社会と経済（近代化論を含む）、経済文化論、福祉社会論、女性論などから、雑々であり、統一された視点というものはない。ただ、漠然としているが、『近代』とその限界の認識を問うことにおいて、共通した心情を見出せるように思う。社会学の概念化が進み、社会学者が経済社会の認識を再構築しようと努力していることは、注目すべきである。</p>		
講義概要	<p>——ウェーバーとマルクス——この講義は、経済原論から移行したこともあって、しばらくはそのまま体制思想の形を継続するつもりである。二人の偉大な近代資本主義の認識は、二つの明確なそして対立する方法論と資本主義観を提示することにおいて、それぞれの、政治、思想、諸科学に及ぼしている、影響は極めて大きい。前期では、初期マルクスの文献を通じて唯物史観と『資本論』第一巻の資本主義観とを講義する。後期では、マックス・ウェーバーの社会科学論と経済倫理（「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」など）を講義する。</p> <p>講義は、原典解説を通じて、一つの思想像を形成することを目指す。</p>		
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。	
	参考文献		
評価方法	期末試験と出席を評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のガイダンス
2	カール・マルクス
3	ヘーゲル批判と「ドイツイデオロギー」
4	
5	
6	「経済学哲学草稿」
7	
8	
9	「経済学批判」序論
10	「資本論」 (商品、貨幣、資本、そして剰余価値)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マックス・ウェーバー
2	「職業としての学問」
3	
4	「社会科学の価値自由性の意味」
5	
6	「社会科学的認識における『客観性』」
7	
8	「職業としての政治」
9	経済倫理——「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
10	
11	試験について——予備
12	試験について——予備
備考	

科目名	経済学史	担当者名	鈴木 勇
-----	------	------	------

講義の目標および概要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで遡って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を促える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・（前期）鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年 ・（後期）鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年 	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	評価は定期試験の成績をもって行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	アリストテレスの経済学
3	聖トマス・アキナスの経済学とスコラ学者の価値論
4	近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革
5	ヘイルズの王室重商主義論
6	マンの貿易差額論と国富増進論
7	ベティの財政論と価値論
8	ロックの所有論と利子論
9	16-17世紀の効用説……自然法哲学者と経験主義者
10	カンティロンの経済学と価値論
11	ステュアートの重商主義論
12	ケネーの重農主義論
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス産業革命と経済社会の変化
2	スミスの道徳哲学体系
3	スミスの経済学と価値論
4	産業革命期の経済学(1)
5	同 上 (2)
6	ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1)
7	同 上 (2)
8	マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1)
9	同 上 (2)
10	同 上 (3)
11	メンガーの限界効用説
12	まとめ
備考	

科目名	経済哲学	担当者名	高橋善四郎
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済哲学の学問的動機は、社会科学としての経済学の世界像の根底にある人間存在の基盤を哲学的に問い直そうとするところから生まれてくる。また、その時代の経済社会、経済体制の中で生きる人間の人生の意味を問う姿勢からも与えられるであろう。そこから、その時代の思想的状況の中で、経済哲学は、人間的限界状況の認識に迫ろうとするであろう。従って、経済哲学は、人間存在の基盤を問う認識論は避け難い課題であるが、経済学説史、経済政策論、体制論へも浸透していくことにもなる。さらに、自然環境、生活環境も経済哲学的思惟の射程の中に捉えてよい筈である。</p>		
講義概要	<p>この講義は、経済哲学を『自由の哲学』として主張する。19世紀から20世紀におよぶ思想的脅威を、「理性の倨傲」として咎めながら、「理性のinfallibility（誤り得ないこと）の否定」に立脚した、自由の思想を探究する。J・S・ミルの自由と功利、F・A・ハイエクの自由論、カール・ヤスパースの実存哲学を自由の哲学として証明しようとするのが、私の研究（従って、講義）の目的であるが、今は、ミルの講義を終えた後で、ヤスパースの『哲学入門』を利用して、実存哲学を語ることにする。ハイエクはしばらく見せたい。J・S・ミルは、最近吹米で読み直されており、ここでは彼の人生の最後の二つの文献、「自由論」と「功利主義」を中心にして、一つの思想像として探究しようとする。</p>		
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。	
	参考文献	<p><J・S・ミル> ・朱牟田夏雄訳『ミル自伝』岩波文庫 ・塩尻公明 木村健康訳『自由論』岩波文庫 ・世界の名著 38 「ベンサムとJ・S・ミル」 中央公論社 <K・ヤスパース> ・林田新二訳『哲学とは何か』白水社</p>	
評価方法	期末試験と出席を評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のガイダンス
2	J・S・ミル
3	「自伝」より
4	
5	
6	「経済学原理」より
7	
8	「自由論」(1～4章)
9	
10	
11	(5章)
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「功利主義」(1～4章)
2	
3	(5章)
4	
5	カール・ヤスパース
6	「哲学入門」
7	
8	
9	
10	
11	試験について——予備
12	試験について——予備
備考	

科目名	一般経済史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	近代的工業化社会の成立にいたるまでの人間社会の経済の歴史の跡を、原始時代からたどることを目的とする。		
講義概要	まず経済史の課題について述べ、次に人口変化と経済変化の歴史的關係について述べる。その後には世界の様々な文明圏における経済発展の歴史を産業別に講義する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・マルサス著、高野岩三郎・大内兵衛訳、『人口の原理』岩波文庫、1935。 ・石南國、『人口論—歴史・理論・統計・政策』創成社、1993。 ・村上陽一郎、『ペスト大流行—ヨーロッパ中世の崩壊』岩波新書、1983。 ・ボズラップ著、安澤秀一・みね訳、『農業成長の諸条件—人口圧による農業変化の経済学』ミネルヴァ書房、1975年。 ・中尾佐助、『栽培植物と農耕の起源』岩波新書、1966。 ・スチュアート・ヘンリ編著、『世界の農耕起源』雄山閣、1986。 他多数。 	
評価方法	前期試験および学年末試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済史の課題：経済発展の歴史的考察の方法
2	人口の歴史：人口変化と経済変化の歴史的関係
3	農業の起源と古代世界の農業：最初の経済革命、栽培植物と農耕の起源、古代中国の農業、古代地中海世界の農業
4	中世の農業：東アジアの農業、イスラム圏の農業
5	同 　　：ヨーロッパ封建制度下の農業
6	近・現代の農業：イギリスの農業革命とヨーロッパ大陸諸国の農業
7	同 　　：アジア、大洋州、アフリカの農業
8	同 　　：アメリカ大陸の農業
9	工業の歴史の開始と古代の工業：新石器革命と日用品の製作、中国、オリエント、ギリシャ、ローマの工業
10	中世の工業：中国とヨーロッパの手工業と東から西への技術の伝播
11	近代ヨーロッパ工業：イングランドの早期産業革命
12	同 　　：イギリスの産業革命
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近代ヨーロッパ工業：産業革命の世界への波及
2	後発工業国の前進：英国経済の相対的な衰退
3	商業の起源と古代の商業：ヒックスのモデルと古代アジアと地中海地域の商業
4	中世の商業：東アジア、イスラム圏の商業
5	同 　　：ヨーロッパの商業：初期の停滞と復活
6	近代の商業：16世紀の商業革命：世界貿易の開始
7	国民経済の衝突：重商主義
8	世界経済の成立：工業化と国際分業
9	大企業の時代：流通システムの整備と株式会社の増加
10	近代社会の貧困：救貧法の歴史
11	同 　　：福祉国家の形成
12	工業化の功罪：生活水準の向上と環境破壊
備考	

科目名	日本社会史	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>11・12世紀から16世紀にいたる中世の全時代を通して、日本社会の基本構造を観察する。そのさい、土地をめぐる経済システムと、これを土台に組み立てられた社会と国家を注目の重要な観点となろう。今年度は鎌倉期が講義の対象となろう。</p>		
講義概要	<p>中世成立期の土地制度の構造に決定的な影響を与えたのは、この時期にみられた広汎な耕地開発、あるいは荒廃田の再開発であった。この開発が前提となって、「土地所有」をめぐる諸関係は、荘園制的な社会編成をおしすすめる。それは、「職」の重層構造と、地方的世界と都市的世界をつなぐ交通体系となってあらわれる。当然鎌倉期社会には、武士のほかにも、農民ならびに分業・交通従事の諸階層のすがたが大きくクローズアップされることになる。14世紀後半以降の中世後期の時代、民衆の政治的力量の増大は、在地における自治団体=惣村をうみ出す。この団体の結合原理を核とする農民の一揆運動は、国内統治を固めようとする戦国大名と矛盾する。大名は一揆を克服するなかで封建国家をつくる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・永原慶二『日本中世の社会と国家』（増補改訂版）青木書店</p>	
	参考文献	<p>・永原慶二『日本の中世社会』岩波書店</p>	
評価方法	<p>評価は、後期試験の成績をもっておこなう。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	律令制農村における富豪層の活動
2	平安時代の農村景観 河川の氾濫、自然堤防、畠作、堀内、片荒し農法
3	開発と寄進、浪人招据え、労働編成、鹿子木荘
4	領主権の重層性、散在性、皇室領荘園、八条院領荘園群
5	「職」の秩序と百姓名編成、「職」とはなにか、「職」の秩序の特質、名主職なるもの
6	荘園領主経済の構造、都市貴族の経済生活を支える荘園制の交通・支配の体系
7	鎌倉幕府の成立と地頭設置
8	承久の乱と新補地頭
9	荘園農村の人びとの生活、非農業部門の生業、河川漁業、山の仕事、荘園の管理役人
10	百姓名の経営と負担Ⅰ、名の発生、名の本質
11	百姓名の経営と負担Ⅱ、黒田荘の66名体制、名体制の破たん
12	職人的武士と領主的武士、武士の存在形態、イエ、所領、武器
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	百姓の結合と在地領主の運動、阿弖川荘、百姓申状、太良荘
2	在地領主制の発展と封建制、辺境の領主、所領、在家、堀ノ内、惣領制、主従制
3	悪党と惣百姓Ⅰ、黒田荘、大江清定、観俊、金王兵衛盛俊
4	悪党と惣百姓Ⅱ、矢野荘、寺田法念、実長、起請文
5	南北朝内乱と農民生活、軍勢の通る村、美濃国大井荘、野伏、刈田、路次狼藉、北陸地方の事例
6	守護、国人と半済令、畿内国人の土地給与、戦争遂行の条件、兵糧確保
7	東寺領荘園群の消長、永原慶二の業績、網野善彦の業績、二人の見解の相違、内乱期理解のちがひ
8	中世の一揆Ⅰ（正長の土一揆）比叡山山徒と大津馬借の関係
9	中世の一揆Ⅱ（伊賀惣国一揆）地侍、農民、共同体、織田信長
10	中世の一揆Ⅲ（一向一揆、石山戦争）
11	大名領国制の展開、後北条氏の関東支配、支城、道路、常備軍
12	太閤検地、荘園制の終焉、石盛、石高、身分編成
備考	

科目名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパ（ロシア、東欧を含む）およびアメリカを対象地域として、資本主義経済の成立と発展の要因を考察する。これを基礎に、19世紀後半以降のイギリスを核とする資本主義的世界体制の構造を解明する。必要に応じて非ヨーロッパ地域も対象に含めて講義する。</p>		
講義概要	<p>前期：イギリスにおける資本主義の成長発展を中心に、資本主義経済の古典的モデルの特徴を分析する。具体的には、資本主義農業の成立、農村工業の展開、商業革命、絶対王政の歴史的役割、市民革命、重商主義政策などをとりあげる。</p> <p>後期：イギリス産業革命を出発点とし、その前提条件、展開過程、特質と問題点などを考察する。同時に後発諸国の対抗的工業化（産業革命）の特徴を分析する。これらを前提に、世界市場の成立、大不況期と資本主義の変容、資本主義的世界体制の構造などについて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年</p>	
	参考文献	<p>最初の講義の時に指示する。</p>	
評価方法	<p>出席および定期試験（前期後期の2回）の成績を基に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>事情により講義内容の予定が変更される場合がある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論。参考文献の紹介。
2	I 資本主義経済の起点。1 農業土地制度の変容。
3	2 大航海時代と商業革命。
4	II 資本主義経済の成立。1 産業資本の形成。(1)農村工業の展開。
5	1 産業資本の形成。(1)農村工業の展開。(続)
6	1 産業資本の形成。(2)イギリス毛織物工業の展開。
7	1 産業資本の形成。(2)イギリス毛織物工業の展開。(続)
8	2 絶対王政と市民革命。
9	2 絶対王政と市民革命。(続)
10	3 重商主義政策。
11	3 重商主義政策。(続)
12	III 産業革命と工業化社会。1 産業革命前夜のイギリス経済。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III 産業革命と工業化社会。2 イギリス産業革命。
2	2 イギリス産業革命。(続)
3	2 イギリス産業革命。(続)
4	3 対抗的工業化の諸相。(1)フランス産業革命。
5	(1)フランス産業革命。(続)
6	(2)ドイツ産業革命。
7	(2)ドイツ産業革命。(続)
8	(3)ロシアの工業化。
9	(4)アメリカ産業革命。
10	IV 世界市場の成立と構造。
11	V 19世紀末の「大不況」と資本主義の変容。
12	VI 資本主義的世界体制の構造。
備考	

科目名	東洋経済史	担当者名	田中正俊
-----	-------	------	------

講義の目標	中国における経済的社会構成体の歴史的継起の過程を、古代より近代にわたり通史的に考察する。これらの考察を通じて、しばしば「アジア的停滞社会」といわれた中国社会に見られる、主体的な歴史発展の特殊・具体的な様相について明らかにしたい。		
講義概要	講義においては、近代以前の中国経済の基本的産業である農業に即して、生産関係、土地所有関係、農村共同体、農村工業、商人資本、農民闘争、また列強資本主義の侵入と中国の《近代化》との関係などの諸問題が考察の対象となる。講義中のキーワードは、モンスーン地帯、早地農法、氏族共同体、鑄鉄製農具、専制皇帝支配、国家的土地所有、均田制、律令制、藩鎮、荘園、両税法、地主一佃戸関係、水田（稲作）開発、零細過小農的経営、農村共同体、里甲制、商品作物、一条鞭法、一田両主制、郷紳地主、農村家内工業、客商資本（前期的商人資本）、問屋制前貸生産、抗租運動、西洋資本主義の衝撃、外商資本、半植民地的経済、民族資本、土地改革、などである。		
使用教材	テキスト	プリント（田中正俊『東アジアの経済発展』——中国〕〔「経済学大辞典」第3巻、東洋経済新報社、所収）を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・田中正俊『中国近代経済史研究序説』東京大学出版会 ・今井駿・久保田文次・田中正俊・野沢豊『中国現代史』山川出版社 	
評価方法	出席状況を重視するほか、前期・後期に試験を実施する。		
受講者に対する要望など	授業の前に、あらかじめテキストを学習しておくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジア・モンスーン地帯の風土とアジア的農業社会について。
2	氏族共同体の構造とその解体について。
3	専制皇帝の登場とその中央集権的農民支配について。
4	東アジア古代帝国の成立と均田・律令体制について。
5	均田農民範疇の解体について。
6	封建的な地主—佃戸制の成立について。
7	江南における水田稲作の開発と零細過小農経営および農村共同体について。
8	14世紀末以降の里甲制農村とその崩壊について。
9	郷紳の大土地所有の社会的構造について。
10	農家家内工業の展開と農村手工業の成立について。
11	商人高利貸資本の利潤抽出構造について。
12	抗租奴変・民変について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	啓蒙思想以降の西欧から見た中国社会経済論について。
2	イギリス東印度会社と広東貿易システムについて。
3	近代資本主義の世界経済循環構造と中国市場問題について。
4	「アジア社会停滞論」の発生について。
5	不平等条約体制下における中国経済の半植民地化について。
6	近代世界史のなかにおける日本の《近代化》と東アジアについて。
7	日清戦争＝下関条約の世界史的意義について。
8	近代世界史のなかにおける中国経済社会の《近代化》について。
9	日中紡績戦争としての日中戦争について。
10	中国における土地改革について。
11	「アジア社会停滞論」のイデオロギー的崩壊について。
12	21世紀における東アジア経済発展への展望について。
備考	

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	産業構造論	担当者名	山越 徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化すること、またその変化がより一層の発展を促すことはよく知られた事実である。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変化を注視し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、これらを支える様々な経済構造、相互依存関係を考察し、かつての高度経済成長や重工業化の意味を考える。そして石油危機以降の構造変化、サービス化、ソフト化、情報化、国際化などの分析を通して、これまでの産業構造の捉え方や分析指標の意味とそれにとってかわるべき捉え方、指標を考察していく。</p>		
講義概要	<p>経済発展、経済成長に伴う産業構造および最近の経済の構造変化の実態とそこでの議論を一層身近なものにするため、各国の経済成長や産業構造の変化に関する実証分析や、短期間に後進国からトップクラスの先進工業国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、構造変化の意味を考察していく。またその際、産業構造および相互依存関係、技術構造等を分析する上で有効な手段の一つである投入一産出表についてその基本的考え方、内容、利用の仕方、実際の分析例など、実際の統計表を用いながらみていくことにする。</p> <p>なお今年の講義は前期集中のため、1週に2コマずつ進めていくことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社</p>	
	参考文献	<p>・篠原三代平著『産業構造論』筑摩書房 第二版 経済学全集18</p> <p>・W. レオンチェフ著／新飯田宏訳『産業連関分析』東京大学出版会</p> <p>この他の参考書および各項目の参考書はその都度、講義の中で紹介する。</p>	
評価方法	<p>現実の経済発展、経済成長に伴う経済構造の変化への理解がどの程度深めたか、あるいは実際のデータからそれらをどの程度読みとることができるかなどについて、試験答案を通して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済成長、産業構造、各国の経済状況とくに日本経済の最近の動向や課題に関して、関心を持つとともにそれらについての文献等にできるだけ触れてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 半

回	主 要 テ ー マ
1	産業および経済構造 産業の概念、生産構造、技術、商品、産業分類、産業社会、産業革命、経済構造の変化、工業化
2	経済発展、経済成長 経済成長とは、近代的経済発展、1人当り国民所得、労働生産性、産出規模、進歩と変化、高度化、多様化、進歩の指標
3	経済発展の構造 経済進歩の歴史過程、三部門分類、ベティの法則、AMS分類
4	産業と職業、農業の位置、労働力構成と所得構成、所得弾性 成長の弾索性、時系列とクロスセクション
5	経済成長と産業構造の変化 経済成長と製造業、経済発展段階説、製造業内部の発展・構造変化
6	迂回生産、消費財と投資財、最終財と中間財、工業用原材料
7	生産規模と経済効率、雁行形態、輸入代替、重化学工業化 加工度、生産過程、分業構造
8	分析用具としての投入-産出表 投入-産出表とは、フローとストック、中間投入、中間需要
9	最終需要、付加価値、投入係数、産出係数、逆行列、逆行列係数
10	直接および間接波及、投入係数の固定性、中間投入構造と生産技術
11	U表とV表、商品ベースと企業ベース 感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、相互依存関係 輸入と輸出、スカイライン分析
12	投入-産出表による分析 I 構造変化の要因分析、投入係数変化の意味、技術変化
備考	

後 半

回	主 要 テ ー マ
1	投入-産出表による分析 II 生産過程と素原材料系統、ブロック化、三角形化、経済の基本構造
2	資本マトリックス、雇用および産業職業マトリックス、
3	規模別 I-O 表、地域 I-O 表、国際 I-O 表、 公害 I-O 表、情報 I-O 表
4	産業構造の新しい方向 サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化
5	財とサービス、有形財と無形財、家計内サービスの外部化、 構造変化の流れ、豊かさと進歩、構造変化の指標
6	産業内部の構造変化——ケース・スタディ 3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、FAとOA
7	高度経済成長期の生産技術と'80年代の生産技術
8	生産技術とインフラストラクチャー、リストラクチャリング 事例：鉄鋼、電気、工作機、自動車、時計、印刷、銀行、商社など
9	構造変化と就業構造 労働力の需要と供給、人口構造、基幹労働力と縁辺労働力、
10	日本の労働市場、新規学卒労働力、雇用制度、雇用慣行、
11	労働力の属性（性、年齢、学歴、技能）、産業と職業、 構造変化と労働力移動、経済動向と雇用調整
12	日本の産業政策 経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき
備考	

科目名	産業組織論	担当者名	青木雅明
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>①現実の個別の産業を基礎統計、文章、実感によって認識できるようになる。</p> <p>②現実の産業に基いて産業組織論の基本的考え方を理解する。</p> <p>③産業組織論の視点から競争政策、規制緩和などの政府の政策を理解する。また、企業の行動のあり方を認識する。</p> <p>④産業組織論、産業事情などのレポートをまとめる能力を養う。</p>				
講義概要	<p>日本において近年にわかに重視されるようになった「競争政策」（「独禁政策」、「反トラスト政策」。なお「規制緩和」はその一分野）の理論的基礎を体系化した経済学が「産業組織論」である。</p> <p>それは、個別産業の内部組織である企業行動の相互関係、あるいは市場のはたらきを分析するが、その目的は資源配分効率、生産効率、技術進歩など各種の基準により、産業および企業活動を評価するとともに、改善の方策を提言することである。</p> <p>前半は基本的、伝統的な考え方や分析手法を日本の実情に沿って講じ、後半は最近の発展分野と競争政策の実際について講ずる。できれば現地調査も行いたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 <p>各種の資料、とくに産業、経済、政策の実情についての資料を別に配布</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 <p>その他については必要に応じて提示</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 <p>各種の資料、とくに産業、経済、政策の実情についての資料を別に配布</p>	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 <p>その他については必要に応じて提示</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房 <p>各種の資料、とくに産業、経済、政策の実情についての資料を別に配布</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 <p>その他については必要に応じて提示</p>				
評価方法	<p>評価の前提は出席15回以上（開始時刻20分以内到着）。基本的事項についての理解度テスト（筆記試験）の得点、および選択テーマのレポートの評点による。</p>				
受講者に対する要望など	<p>静かに講義を聞くこと。開始時刻に遅れないこと。現実の産業、企業行動、経済政策に関心を持つこと。ノートを取ることを。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現実の産業のプロフィール①
2	現実の産業のプロフィール②
3	産業分類、商品分類、産業別生産額
4	市場、市場機構、市場経済
5	産業組織論の課題と方法
6	市場構造と市場集中
7	市場構造と製品差別
8	市場構造と参入障壁
9	市場行動としての価格設定
10	プライス・リーダーシップ、管理価格
11	市場行動としてのカルテル
12	企業統合と企業系列
備 考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	資源配分効率からみた市場成果
2	日本における競争政策（独占禁止・公正競争政策）
3	米国における競争政策（反トラスト政策）
4	EUにおける競争政策
5	産業組織論の発展型①——コンテストアビリティ
6	産業組織論の発展型②——動態的競争
7	産業組織論の発展型③——多角化
8	産業組織論の発展型④——技術革新
9	規制緩和①
10	規制緩和②
11	民営化
12	対外的市場開放と国際的競争政策
備 考	

科目名	流通経済論	担当者名	西村 允克
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講義概要	<p>指定したテキストには、流通経済に関連する統計データが多く含まれている。講義はこれらの統計データを基礎として進められ、テキストに不十分な点をカバーしながら進行するから、テキストを読んでいることを前提としている。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・岡田千尋・岩永忠康・尾崎真編『現代日本の商業構造』ナカニシヤ出版 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本流通新聞社編『流通現代史』 日本経済新聞社 ・日経流通新聞社編『流通経済の手引 96』 日本経済新聞社 (本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている) ・マクネア、メイ著 清水猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣 ・林 周二著『流通』 日経文庫 ・鈴木安昭 関根孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣 	
評価方法	<p>{ 前期 レポート 後期 試験</p> <p>両者を総合して判断 (一方のみは不可)</p>		
受講者に対する要望など	<p>流通現象の多くは、日々受講者の生活環境のなかで生起しているものであるから、講義内容を生活体験を通じて追体験して理解を深められたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	流通経済分析の基礎理論(1) 主要な用語について 流通経済とは、流通主体、流通チャネル、流通費用、リベート、流通市場
2	流通経済分析の基礎理論(2) 価格を中心として
3	流通経済分析の基礎理論(3) 前回のつづき
4	流通経済分析の基礎理論(4) 統計データの読み方を中心として
5	小売業の変化(1) 流通革命論を中心として、第1次流通革命、第2次流通革命
6	小売業の変化(2) チェーン・ストアを中心として
7	卸売業 卸売業とは、卸売業の現状
8	百貨店
9	スーパー(1)
10	スーパー(2)
11	コンビニエンス・ストア
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	専門量販店
2	ショッピング・センター(1)
3	ショッピング・センター(2)
4	小売商業間競争と商店街
5	青果物と米の流通構造(1)
6	青果物と米の流通構造(2)
7	消費生活協同組合
8	流通規制の問題(1) 大店舗法を中心として
9	流通規制の問題(2) 再販売価格維持制度を中心として
10	流通規制の問題(3) 消費者保護を中心として
11	96年度の流通問題 96年度に発生した流通問題を取り上げ、これまでの学習成果を再確認する。
12	まとめ
備考	

科目名	交通経済論（済） 交通論（営）	担当者名	岡田 博
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>交通は社会活動には不可欠なサービスであり、交通網は社会活動の基盤として、その活動を支えている。このように重要な役割を担っている交通を研究対象として、それを国民経済との関係において捉えることによって、交通の果している役割と機能を解明する。</p> <p>また現代の交通ネットワークは複雑な構造を形成しており、交通も多くの問題を抱え、それらは複雑多岐に亘っている。これらの問題、例えば環境問題等にも言及しながら現代の交通に対するアプローチの方法、基本的な視点等を講義したい。</p>		
講義概要	<p>本講義は交通を、その制度を含めて研究対象として、これを経済学のツールを用いて分析していくところの経済分析、経済理論である。</p> <p>講義の主な内容は、交通を経済学的に把えて、その分析を行うものであるが、あくまでも経済学の一分野としての理論である点を強調したい。講義項目として、交通経済論の方法、交通諸制度についての分析、交通活動の実績とその分析、交通問題とその対策について、等々であって交通全般に及ぶものである。</p>		
使用教材	テキスト	未定、講義の最初に指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡野行秀編『交通の経済学』 有斐閣 ・斎藤峻彦著『交通市場政策の構造』 中央経済社 	
評価方法	<p>学年末、および前期の定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、これも評価に加える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に欠席しないこと。授業で勉強したことは、図書館で関連の書物を見て、それらに関する知識を深めていく習慣を身につけてもらいたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通経済論・交通論の方法について、交通の概念、交通の生産物等について
2	交通需要Ⅰ 交通需要の特性、派生需要の弾力性について
3	交通需要Ⅱ 交通の需要予測
4	交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給の史的概観
5	交通サービスの供給Ⅱ 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態
6	交通市場Ⅰ 交通市場の特性
7	交通市場Ⅱ 交通市場の構造
8	運賃・料金Ⅰ 運送価値説と差別運賃、ピグーの差別価格論
9	運賃・料金Ⅱ 運賃費用説
10	運賃・料金Ⅲ 限界費用運賃
11	交通の社会的費用Ⅰ 交通の社会的費用の概念、交通の社会的費用の実態（具体例とその対策）
12	交通の社会的費用Ⅱ 社会的費用の内部化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通投資と資金調達Ⅰ 交通投資の経済効果
2	交通投資と資金調達Ⅱ 資金調達方法について
3	交通調整Ⅰ 交通調整の歴史
4	交通調整Ⅱ 交通調整の原理と枠組
5	交通政策Ⅰ 交通政策の理論
6	交通政策Ⅱ 規制と補助の根拠、費用、形態等
7	国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長
8	国民経済と交通Ⅱ 交通と地域開発
9	国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化
10	国民経済と交通Ⅳ 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量配送の増大と問題点
11	交通安全対策について
12	おわりに
備考	

科目名	経済開発論	担当者名	千代浦 昌道
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済問題の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講義概要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定しない。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・総務庁統計局編『1996世界の統計』1995、大蔵省印刷局 ・西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学』1993、有斐閣 ・E. F. シューマッハー〔小島慶三、酒井 懋訳〕『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫（1986） ・早稲田大学世界経済研究会編『ポケット世界経済辞典』有斐閣（1989） ・W. エルカン（渡辺利夫他訳）『開発経済学』1988、文眞堂 ・C. キンドゥルバーガー、B. ヘリック（山本 登監訳）『改訂 経済発展論』1981、好学社 	
評価方法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

題	主 要 テ ー マ
1	経済開発論の基礎的概念 (経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度)
2	発展途上国の基本問題 (発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存)
3	発展の非経済的側面 1 (経済発展の政治的側面、経済発展の社会的文化的要因、発展の社会学的把握)
4	発展の非経済的側面 2 (家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展)
5	発展の非経済的側面 3 (開発と女性の役割、発展途上国の環境問題)
6	先進工業国経済発展の教訓 1 (先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化)
7	先進工業国経済発展の教訓 2 (ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化)
8	人口と経済開発 (人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策)
9	雇用と失業 (発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用)
10	教育と発展 1 (教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困)
11	教育と発展 2 (教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発)
12	都市と農村 (発展途上国の都市と農村、農村—都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門)
備考	

後 期

題	主 要 テ ー マ
1	経済発展のモデル 1 (古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド=ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説)
2	経済発展のモデル 2 (新古典派の成長モデル、チェネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ=シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整)
3	農業と開発 (農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発)
4	工業化と開発戦略 (均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替工業化と輸出促進工業化)
5	貿易と発展 1 (絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化)
6	貿易と発展 2 (南北問題とプレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序)
7	貿易と発展 3 (自由貿易とNIEESの発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展)
8	多国籍企業と発展途上国 (直接投資の利益、多国籍企業についての利害得失、新国際経済秩序と多国籍企業)
9	国際収支と債務問題 (国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態)
10	発展途上国債務問題への国際的対応 (世銀・IMFの融資、債務=環境スワップ)
11	国際援助と経済開発 1 (途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展)
12	国際援助と経済発展 2 (草の根援助とNGOの役割、援助の功罪、これからの国際援助)
備考	

科目名	地域経済論(1) 北米 (93年度以降) 地域経済論 (92年度以前)	担当者名	本田浩邦
-----	--	------	------

講義の目標	現代アメリカ経済論を講義する。大恐慌以降現在までを対象にマクロ経済の発展過程を概観し、各段階における資本蓄積および経済政策の問題点を検討する。		
講義概要	講義の内容は、29年恐慌の分析をつうじて新古典派、ケインジアン、マルクス経済学、その他の経済理論、経済政策論の対立点を把握し、それを基礎に戦後の景気循環のプロセスを分析するという前段と、80年代の経済不均衡の諸側面を分析する後段とに分かれる。講義をつうじて、つかんでほしいと思っている点は、アメリカにおける既存の経済政策体系がいかなる現実的背景と理論的根拠をもって出現し、それらが各段階の資本蓄積とのかかわりでどのような意義と限度を持ったかということである。		
使用教材	テキスト	・平井規之他著『概説アメリカ経済』有斐閣、1994年刊	
	参考文献	・佐藤定幸『20世紀のアメリカ資本主義』新日本出版社、1993年刊 ・『アメリカ経済白書(96年度版)』(『週刊エコノミスト』臨時増刊号、4月上旬発売予定)	
評価方法	前期および後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	応用的な性格の強い科目であるが、必要に応じて基礎的なことがらから説明するつもりなので、意欲的に参加してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代アメリカ経済論をなぜ学ぶか アメリカ経済研究の現状/講義の課題と構成/すすめ方と注意事項/テキストおよび参考文献について (＊出席者はテキストとシラバスを持参すること)
2	1920年代のブームから大恐慌の発生・波及 20年代の繁栄とその国際的背景/住宅・耐久消費財/国内経済の破綻/国際金融危機/労資関係の変容と政治的危機/33年・35年銀行法と金融制度改革
3	ニューディールの展開過程 第1期(1933~35)/第2期(1935~37)/第3期(1938~39)/ローズベルトの対外政策/再建金本位制の崩壊からブロック経済へ/ロンドン世界経済会議(1933)
4	29年恐慌とニューディールの理論—資本蓄積と経済政策 ブルッキングス研究所・ケインジアン/マネタリスト/マルクス経済学/29年恐慌の国際的位置/キンドルバーガー「覇権安定化理論」/1920年代のフラン問題
5	戦後アメリカの経済政策とケインズ経済学 ケインズ経済学の形成と背景/『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)/ケインズの世界経済認識/ケインズ経済学にたいする批判/ケインズ以降のケインズ経済学
6	戦後世界体制の再編とアメリカ 戦後世界体制の政治的枠組み/「大西洋憲章」(1941.8)/トルーマン・ドクトリン(1947.2)/朝鮮戦争(1950.6~53.7)
7	戦後世界経済の枠組みと戦後初期における経済成長の国内的条件 マーシャル・プラン(1947.6)/IMF・GATT体制/戦後初期の発展過程の概観/「1946年雇用法」/戦後の国債価格支持政策
8	ベトナム戦争とアメリカ社会 アイゼンハワーからケネディへ/「軍産複合体」と宇宙開発競争/ベトナム戦争・人種問題/「偉大な社会」の矛盾
9	ケネディ政権期の経済政策と経済成長 「ニュー・エコノミクス」による成長政策/基本内容/1964年減税その他一連の経済政策をめぐって/オペレーション・ツイスト/インフレーションとドル過剰、IMF体制の動揺
10	1967~79年のアメリカ経済の発展過程 スタグフレーションと1974~75年恐慌/国際収支危機/「第二次石油危機」と二桁インフレ/金融自由化/景気循環過程の分析
11	マネタリズムとサプライサイド経済学 アメリカの経済的停滞と経済学の混迷/マネタリズムの主要な政策論/合理的期待形成学派/問題点/サプライサイド経済学/減税路線とラフファー曲線
12	前期全体のまとめ、質疑
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期全体の概説と時事問題
2	レーガノミクスと1980年代のアメリカ資本主義 「経済再建プログラム」(1982.2)/1981~82年のリセッション/1980年代のマクロ経済の概観—家計・企業・政府部門/貯蓄・投資バランスからは見えない問題
3	アメリカ財政の現状と問題点 1980年代の財政政策の展開/グラム=ラドマン=ホリングス法(1985)/1986年税制改革法/1990年包括財政調整法/1996年度予算案の分析/財政赤字の国際的なファイナンスと日本
4	財政の理論的分析—財政赤字および公債をめぐる議論 財政赤字肯定論(ロバート・アイスナー、リカード=パローの等価定理)/財政赤字の批判(たとえばクルーグマン)/財政赤字はどのような意味で問題か
5	アメリカの金融制度改革と金融政策 第1段階(1979~82)/第2段階(1982.8~1985.9)/第3段階(1985.9~)/金融政策の事後的評価/途上国債務問題/貯蓄貸付組合(S&L)の破綻/商業銀行の破綻
6	金融危機の国際的側面 ハードランディング・シナリオ(P・クルーグマンとS・マリス)/金融不安と実態経済(H・ミンスキー「金融不安定仮説」)
7	1980年代アメリカの産業と産業金融 産業再編をめぐる議論の特徴/産業再編の特徴と第4次M&Aブーム/企業戦略の国際的条件/リストラクチャリングと金融・資本市場
8	アメリカにおける国民生活の実態 貧困の定義/家計の貯蓄・債務の水準/経済的不平等の進行とアメリカン・ドリームの終焉/人種差別・性差別/ポスト・ケインジアンによる所得格差の分析
9	クリントン政権の国内経済政策 国際競争力の定義/アメリカ企業の多国籍化と国際収支/国内経済の空洞化/クリントン政権の国際競争力強化策
10	クリントン政権の対外経済政策 日米経済関係/NAFTA/APEC/EU/発展途上国/対外不均衡と国際的資金循環の制約/ドル暴落・インフレ爆発の可能性と政策協調
11	世界経済のなかのアメリカと日本 貿易面での相互関係/日本企業の対外進出とアメリカ/日米構造協議、MOSS協議から日米包括経済協議へ
12	講義全体のまとめ、質疑
備考	

科目名	地域経済論(2) 西ヨーロッパ (93年度以降) 地域経済論 (92年度以前)	担当者名	大島 通義
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパは今、アジアとアメリカとならんで、世界経済の三極化の一つの中心をなしている。その原動力はドイツにあり、第二次世界大戦後には、ドイツとフランスの協調関係のうえにヨーロッパ共同体が築かれてきた。しかし、この大戦の以前にまでさかのぼるならば、そこではドイツとフランスは政治的にも経済的にも対立し競合していた。列強の対立から協調へとこのように大きな転変をとげるヨーロッパ経済の歴史を、前世紀後半以来の時期について振り返り、現在の状況を見るのが、この講義の目的である。</p>
講義概要	<p>前期においては、19世紀後半期以来第一次世界大戦まで、両大戦間の時期、第二次世界大戦後の時期にわけて、ヨーロッパにおける諸国の経済関係がどのように発展してきたかを概観し、かつては対立・競合していた列強諸国が戦後になって経済の統合へと転換していく過程を明らかにする。戦後のマーシャル援助にはじまり、最近の通貨統合までの統合の諸段階をおって、その発展の跡をたどることとする。</p> <p>後期には、この地域にあるおもな国をとりあげて、その近年の発展を概観する。予定では、イギリス、フランス、ドイツ、北欧諸国などについて、その戦後の経済体制と政策の推移をあきらかにし、とくに1980年代初頭以来のその政治経済の動向を紹介する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。講義の進行におうじて必要な文献を指示する。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大西健夫・岸上慎太郎編『EU統合の系譜』『EU制度と機能』『EU政策と理念』早稲田大学出版部、1995年。 ・田中友義・河野誠之・長浜貴樹『ゼミナール 欧州統合 歴史・現状・展望』有斐閣ビジネス、1994年 ・梶田孝道著『統合と分裂のヨーロッパ』岩波新書、1993年 ・中木康夫・河合秀和・山口定『現代西ヨーロッパ政治史』有斐閣、1990年
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ2回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>
受講者に対する要望など	<p>経済原論と経済史の一般的な知識を備えていることを期待する。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	①第一次世界大戦以前のヨーロッパ経済 (1) 国民国家と国民経済の形成
2	② 同 (2) 勢力均衡と市場獲得競争
3	③両大戦間期のヨーロッパ (1) ヴェルサイユ体制のもとでの欧州経済
4	④ 同 (2) 世界大恐慌とブロック経済への転換
5	⑤ 同 (3) 第二次世界大戦による地域経済の変貌
6	⑥戦後体制の準備とその制度化 (1) 連合国による戦後構想
7	⑦ 同 (2) 戦後復興の開始
8	⑧ 同 (3) 統合への始動と反動
9	⑨ヨーロッパ共同体の形成過程 (1) 域内市場統合の完成まで
10	⑩ 同上 (2) その後の発展
11	⑪ヨーロッパ共同体の現状
12	⑫ヨーロッパ共同体の今後
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	①各国経済の動向 (1) ドイツ
2	② 同上
3	③ 同上
4	④ 同上 (2) イギリス
5	⑤ 同上
6	⑥ 同上
7	⑦ 同上 (3) フランス
8	⑧ 同上
9	⑨ 同上 (4) 北欧三国
10	⑩ 同上
11	⑪国境を超える経済問題 (環境、労働、地域開発など)
12	⑫ 同上
備考	

科目名	地域経済論(3) 東ヨーロッパ (93年度以降) 地域経済論 (92年度以前)	担当者名	鈴木 勇
-----	--	------	------

講義の目標	<p>この地域の諸国は社会主義体制の崩壊と資本主義体制への移行という大転換期に直面している。社会主義の崩壊という現実、マルクス主義の見方からすれば、歴史の歯車の逆転であって起るはずのない出来事であった。にもかかわらず、ソ連・東欧の社会主義は崩壊してしまった。「なぜ崩壊したのか」、「社会主義とは一体何であったのか」。これらの問題を考察することが本講義の第一の目標である。もう一つの目標は、転換期のただ中にあるこれらの国が、どのような状況にあり、どのような問題を抱えているのか、体制転換の展望と意義を探ることにある。</p>		
講義概要	<p>つい近年まで、この地域の諸国は社会主義体制のもとにあったが、同じ社会主義といっても経済システムの特徴からすると著しく性質を異にするものであった。まず、ソ連型の国家管理社会主義と旧ユーゴスラヴィアの労働者自主管理社会主義、それに1968年改革後のハンガリーの経営者管理社会主義の三つに大別できる。本講義ではこの点に着目して、これら三つのパターンを中心に考察し、マルクスの社会主義モデルとの比較検討も加えて、上記の講義目標に接近したいと思っている。この地域の最近の経済事情に関しては、本年度はロシア経済と新ユーゴ経済を中心に考察する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・鈴木勇『市場的社会主義とマルクス主義』(増補改訂版)学文社、1988年</p>	
	参考文献	<p>その都度指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は定期試験の成績をもって行う。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	社会主義経済システムの比較研究のための準備的考察
3	マルクスの社会主義・共産主義モデル
4	ロシア革命 (1917年)
5	戦時共産主義と新経済政策 (NEP) の時期
6	集権型国家管理社会主義の形成と経済構造 (1)
7	同 上 (2)
8	ソ連の経済改革 (1965年)
9	第2次世界大戦後の東欧諸国
10	旧ユーゴスラヴィア (1) 対ソ決裂から独自の道へ
11	同 上 (2) 労働者自主管理社会主義の形成
12	同 上 (3) 1980年代までの変遷過程
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ハンガリー (1) 1968年の経済改革
2	同 上 (2) 経営者管理社会主義の経済
3	市場的社会主義の理論 (1) (B. ホルヴァート)
4	同 上 (2) (O. シク)
5	ベレストロイカと国有企業法 (1)
6	同 上 (2)
7	社会主義の崩壊 (ソ連・東欧諸国)
8	ソ連邦崩壊後のロシア経済 (1)
9	同 上 (2)
10	旧ユーゴスラヴィアの解体と現状 (1)
11	同 上 (2)
12	総 括
備考	

科目名	地域経済論(4) アジア・オセアニア (93年度以降) 地域経済論 (92年度以前)	担当者名	森 健
-----	---	------	-----

講義の目標	<p>アジア太平洋に位置する様々な国・地域（今年度は主にオーストラリア）の経済を学ぶことによって、要素賦存状況、発展段階、政治社会状況、価値観などの相違が、各国・地域の経済をどのように規程するのか、多様な経済構造の中で経済原則はどのように貫徹しているのかを理解する。</p>		
講義概要	<p>今年度の講義ではオーストラリアを取り上げ、ニュージーランドと共に「アジア太平洋地域にあるアングロ・サクソン系の白人国家」であったオーストラリアが、近年、経済自由化、多民族国家化を推進し、政治的にも急速に「アジア太平洋国家化」している現状を、多方面から検討する。そして、この「変革」が文明史的に見て極めて先駆性に富んだ新しい実験であることを確認する。これに続く授業の主なテーマは、「オーストラリアが何故このような変革を遂げようとしているのか」、「そもそもオーストラリアとはどのような社会であったのか」、「日本を含むアジア太平洋諸国（主に APEC 加盟諸国・地域）は今までどのようにオーストラリアと関わってきたのか」、「オーストラリアの先駆的実験は日本を含む他の国々にどのような意味を持つのであろうか」というものになる。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田いさみ、森健共編、『オーストラリア入門』、東京大学出版会、1996年（予定）。 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・関根政美、鈴木雄雅、竹田いさみ、加賀爪優、諏訪康雄著 『概説オーストラリア史』 有斐閣、1988年。 ・小島清・日豪調査委員会編 『豪州経済ハンドブック』 日本経済新聞社、1981年。 ・マニング・クラーク著、竹下美保子訳 『オーストラリアの歴史：距離の暴虐を超えて』 サイマル出版会、1978年。 ・川口浩、渡辺昭夫編 『太平洋国家オーストラリア』 東大出版会、1988年。 ・ウォーレン・リード著 『オーストラリアと日本』 中央新書、中央公論社、1992。 	
評価方法	定期試験		
受講者に対する要望など	<p>「講義の目標」に記したように、我々が海外の経済社会について学ぶ目的は、海外事情通になるためではなく、それぞれ条件が異なる国においても普遍的に見られる経済原則が存在すること、但し、条件の相違によって、その原則の発現のされ方が異なっていることを学ぶ点にあることに留意して受講して欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：総論(1) 多民族国家志向、増加するアジア移民、マボ判決
2	近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：総論(2) 経済自由化、規制緩和、地域外交、地域安全保障、共和制移行案
3	オーストラリアの地理と歴史(1) クック、米国独立とフィリップ、牧羊業
4	オーストラリアの地理と歴史(2) ゴールド・ラッシュ、移民、中国人排斥、労働者と牧羊資本
5	オーストラリアの地理と歴史(3) ナショナリズムと英帝国、1890年代の恐慌、仲間主義と平等主義
6	オーストラリアの地理と歴史(4) 地理
7	オーストラリアの政治と外交(1) 立憲君主制度、圧力団体、官僚機構
8	オーストラリアの政治と外交(2) 労働党政治：経済自由化、新労使関係
9	オーストラリアの政治と外交(3) 多国間外交、移民・難民政策、援助政策
10	オーストラリアの政治と外交(4) 近世外交略史：日英同盟とオーストラリア、冷戦とベトナム戦争、ウィットラムとフレーザーによる自主路線
11	オーストラリアの社会(1) 多文化社会への変容、アボリジニとマイノリティ、反多文化主義論とその鎮静
12	オーストラリアの社会(2) オーストラリアのメディアと多文化主義、教育制度
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オーストラリアの社会(3) 労使関係の新展開：強制仲裁制度とアコード
2	オーストラリアの社会(4) 女性の社会進出、社会福祉制度
3	オーストラリアの文化
4	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(1) 経済成長とマクロ経済政策
5	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(2) 財政と金融通貨
6	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(3) 産業構造と産業政策
7	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(4) 対外経済関係：貿易構造
8	オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(5) 対外経済関係：外国投資と対外経済政策
9	日豪関係(1) 貿易関係、投資関係、経済交渉
10	日豪関係(2) 外交関係、文化交流
11	近年のオーストラリアの変革の持つ意義
12	(予備)
備考	

科目名	地域経済論(6) ラテンアメリカ (済94年度以降) 地域経済論 (済92年度以前)	担当者名	山本正三
-----	---	------	------

講義の目標	日本経済と深いつながりのあるラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情を、自然的基盤、歴史的発展過程、資源と産業、国内諸地域の地理的、経済的、社会的諸特性を分析し、考察することが目標で、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても考察を進めていく。		
講義概要	前期にはラテンアメリカ経済の現状とその自然的基盤との関連、歴史的経緯、経済活動を一般的に説明し、後期にはこの地域の経済発展の諸相、経済問題、産業と企業の特質について説明する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. ギルバート『ラテンアメリカ入門』二宮書店、1996 ・ 小池洋一、西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論社、1993 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加茂雄三編『ラテンアメリカ・ハンドブック』講談社、1982 ・ 細野昭雄『ラテンアメリカの経済』東大出版会、1983 ・ 染田秀藤編『ラテンアメリカ』世界思想社、1993 	
評価方法	定期試験の成績と、前期と後期それぞれ1～2回のレポートおよび出席を加味して行う。		
受講者に対する要望など	テキストを必ず用意すること。私語をつつしむこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラテンアメリカ経済の一般的・地域的特質
2	経済の一般的条件 (1) 自然条件——位置、地形
3	経済の一般的条件 (2) 自然条件——気候の地域的差異と経済への影響
4	経済の一般的条件 (3) 歴史と住民——住民の構成、歴史的発展過程
5	経済の一般的条件 (4) 歴史の住民——先住民とその文化・経済、植民の展開
6	経済の一般的条件 (5) 住民の社会的特質
7	経済の一般的条件 (6) 人口増加、分布状態、都市の発展
8	経済活動 (1) 農牧業——土地所有、農場規模構造、生産構造、生産物の経済的特性
9	経済活動 (2) 農牧業——農牧業の地域分化、生産の地域的特性
10	経済活動 (3) 鉱山業——経済における鉱山業の地位、発展過程、主要鉱山業地域
11	経済活動 (4) 商業・貿易——輸出業の盛衰、その特質
12	経済活動 (5) 工業——工業化の進展、経済における工業の地位の変遷、工業地域の形成過程と地域的特質
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済発展の諸相 (1) ラテンアメリカ農牧業の特質——大土地所有制、輸出指向、近代化と農村人口減少、農村の貧困
2	経済発展の諸相 (2) 一次産品輸出経済——その形成過程と要因、温帯工業国との関連
3	経済発展の諸相 (3) 工業化戦略の展開——輸入代替工業化戦略、自由主義戦略
4	経済発展の諸相 (4) 経済発展と所得分配——現状と歴史的、社会的構造的要因
5	経済発展の諸相 (5) 都市のインフォーマルセクター——その実態とその社会経済的意義
6	ブラジルの経済 (1) ブラジル経済の特質、その形成過程、自然的基盤
7	ブラジルの経済 (2) 経済発展の地域的特質、地域較差と地域開発計画の進展
8	ブラジルの経済 (3) ブラジル経済における日系人
9	アンデス諸国の経済的特性——とくにペルー、コロンビア、ベネズエラ、ボリビアの経済的特性
10	温帯ラテンアメリカの経済——アルゼンチン、ウルグアイ、チリその経済的発展
11	メキシコの経済——アメリカ合衆国との関係
12	ラテンアメリカ経済と日本との関連——歴史的過程、日系企業の進出、相互依存関係
備考	

科目名	地域産業政策論	担当者名	伊藤正昭
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>これまで、産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきた。もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。</p> <p>こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとしたい。</p> <p>とくに、わが国の例を参考にしながら、産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>
講義概要	<p>わが国では産業政策 (industrial policy) という言葉がよく使われる。しかし、産業政策は、経済政策のなかでも位置づけが曖昧で、理論的な基礎も確立していない。わが国ではなじみの深い産業政策は、先進各国では最近になって注目するようになったものである。</p> <p>講義では、わが国の産業政策の実態を分析しながら、産業政策の体系的な理解に努める。これによって産業構造政策の特異性が明らかになるであろう。ついで、産業組織政策 (独占禁止政策) の意義と内容に触れ、産業構造政策との関係を明らかにする。</p> <p>さらに、地方分権化、地域の自立、地域産業をキーワードにしなが、地域経済のあり方を多面的に検討してみたい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小宮隆太郎・奥野正寛他編『日本の産業政策』東大出版会、1984年 ・伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年 ・今井賢一・小宮隆太郎編『日本の企業』東大出版会、1989年 ・三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年 ・チャーマーズ・ジョンソン/矢野監訳『通産省と日本の奇跡』TBSブリタニカ ・マイケル・ダートウズス他/依田直也訳『Made in America』草思社、1990年 ・O. E. ウィリアムソン/浅沼・岩崎訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行って、成績の評価を行う。</p>
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済政策</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策と産業政策の関係—産業政策はセミ・マクロの経済政策—
2	産業政策の意義と問題点(1)—産業政策の3つの領域—
3	産業政策の意義と問題点(2)—現代の自由主義と保護主義—
4	日本の産業政策の特徴と変貌—旧産業政策から新産業政策へ—
5	戦後における産業政策の展開—政府主導の産業育成政策の実態と評価—
6	諸外国の産業政策—イギリス、EU、アメリカ、ASEAN、中国—
7	産業調整の意義と問題点—構造的不況業種の撤退と縮小—
8	積極的調整政策の構造—衰退産業の活性化、OECDの戦略—
9	産業構造の高度化と産業調整—日本の経験からなにが学べるか—
10	産業政策の変質—規制緩和、行政指導の制限、PL法、官僚の役割—
11	産業組織と政策(1)—産業組織論（ハーバード学派とシカゴ学派）
12	産業組織と政策(2)—規制緩和によって産業組織はどう変わるか—
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	産業政策としての中小企業政策—産業政策との連動性—
2	中小企業政策の成立根拠—諸外国の中小企業政策の比較から学ぶ—
3	産業構造政策からみた中小企業—中小企業基本法と近代化政策の役割—
4	産業組織政策からみた中小企業—下請分業システムの取引コスト分析—
5	中小企業政策の透明性と国際性—産業政策としての有効性の検討—
6	地域政策の理念と現実—市場原理による地域間分業構造と地域格差—
7	地域政策における課題—地域経済への政府介入はなにをもたらしたか—
8	地域構造の調整と政策—日本の地域開発政策における問題点—
9	地域の自立と地域主義—地方分権の必要性和条件、地域の主体性とは—
10	地域の活性化と地域産業—地域の論理と産業の論理のずれと政策—
11	地域産業起こしと地場産業—産業活性化と地域活性化のケース・スタディ—
12	まとめ
備考	

科目名	社会政策	担当者名	桑原靖夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>社会政策 (Social Policy) とは一体いかなる学問なのか。講義名を聞いて直ちにその内容を類推することができる人はきわめて少ないだろう。元来、社会政策という学問は明治期にドイツから輸入された政治経済学であり、資本主義の発展に伴い、展開してきた様々な労働問題を対象とする政策科学として成立・発展してきた。今日では、社会政策が対象とする領域も大きく変わり、多くのチャレンジングな問題が提起されている。講義では新しい視点から広く「労働」(働くこと)にかかわる現代の様々な政策課題を検討する。</p>				
講義概要	<p>今日、世界の労働の分野では、きわめて多くの注目すべき変化が展開している。雇用機会の空洞化現象、国際労働力移動(外国人労働者)、開発途上国の低賃金、技術革新の雇用に与える衝撃、高齢化、女子労働者の増加、労働時間短縮、サービス経済化など、枚挙にいとまがない。人生において、労働(雇用)の次元はしばしば最も重要な時期を占めている。21世紀に向けて我々の社会における労働のあり方はいかなる変貌をとげるのだろうか。</p> <p>講義では、いまやきわめて広範な領域にまで拡大した労働の問題を整理し、新たな実証分析の成果を加えて解説する。並行して開設される「労働経済学」が理論的・実証的アプローチを主とするのに対して、「社会政策」ではより幅広く問題の政策的アプローチを主とすることにしたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』(日本労働研究機構)の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G. バンバー、R. ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年 </td> </tr> </table>	テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』(日本労働研究機構)の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。	参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G. バンバー、R. ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年
テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』(日本労働研究機構)の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。				
参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G. バンバー、R. ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年 				
評価方法	原則として年1回ないし2回のテストによる。				
受講者に対する要望など	講義で取り上げる課題は多くの点で、受講生諸君の今後の人生のあり方、設計に関連する重要な意味を内包している。受け身で授業に出るのではなく、積極的に問題を発見する意欲を持って出席してほしい。				

年 間 講 義 予 定

- 1 社会政策とはいかなる学問か
社会政策学の歴史、産業の発展と社会政策の対象とする内容の変遷を取り上げる。
- 2 第二次大戦前の社会政策（2回）
戦前日本の工業化と社会政策の課題について説明する。あわせて、戦後の一時期、学会の中心的テーマであった社会政策論争といわれる論争の評価を行う。
- 3 現代の社会政策の展望
高度な段階にまで到達した工業化社会における労働の特徴、ポスト工業化時代の到来と社会政策が対象とする課題の変化について検討する。
- 4 国家の盛衰と労使関係（2回）
第二次大戦後の極貧の時代から「世界の先端モデル」とまで言われ、いまや頂点へ立つことになった日本経済の発展過程における労使関係の役割について評価を行う。
- 5 日本労使関係：歴史の変遷（2回）
労働問題の中心的課題のひとつである労使の関係は、戦後の「労使対決」の時代から「労使協調」の時代へと変容した。この変化の過程を新たな視点から解剖してみたい。
- 6 変化する雇用・労働の世界（展望）
現代日本の労働市場では、サービス化・情報化、高齢化、女性化など、雇用の仕組みの再編が進行している。これらの構造的変化と労働市場への影響を展望する。
- 7 雇用機会としての企業（2回）
企業は労働者がそこに雇用され、賃金・俸給を得る場所以上の意味を持っている。生き甲斐発見の場、スキル蓄積の場としての企業の意味、日本人が企業に期待するものはなにかを考察する。
- 8 現代日本の経営構造と労使（2回）
働く場としての日本の企業は、経営の構造・編成という点でいかなる特徴を持っているのか。日本的雇用慣行といわれる大企業に特有な制度、慣行の実態を新しい角度から分析する。
- 9 中小企業の労使関係
日本の雇用機会の大部分を構成するのは、中小企業である。この領域における雇用についての通念と現実の差異、雇用労働の特徴を分析する。
- 10 採用と配置・昇進
企業における採用、配置、昇進のあり方は、労働者の勤労意欲、報酬、効率などに重要な意味を持つ。今日求められている公正な採用、配置、昇進とはいかなる内容のものか。
- 11 変わりゆく労働組合：新しい労使関係の枠組み
伝統的労使関係は、労働組合と使用者（団体）の関係を意味してきた。しかし、今日では組織率の低下など、労使の関係は実態および概念の双方において再編を迫られている。
- 12 景気循環と賃金・雇用調整
資本主義経済においては景気循環は避けがたい現象である。企業が実施する賃金・雇用調整の仕組みを分析し、日本の特徴を明らかにする。
- 13 技術革新と変貌する職場
1970年代以降、マイクロエレクトロニクスなどの技術革新の展開で、日本の職場は大きく変貌した。これらの技術変化が雇用や仕事の内容に与える影響を考える。
- 14 サービス化・情報化と労働のあり方
サービス化の進展はホワイトカラーの増加、労働の質的・量的変化、労働時間の弾力化など、多くの変化を雇用の場にもたらした。今日の国民的課題ともいえる時間短縮についても考察する。
- 15 高齢化時代の経営と労働
21世紀初頭には世界有数の高齢国となる日本では、従来の雇用慣行にも様々な修正が迫られている。高齢者に適した職場の再編・処遇、生き甲斐などについて考える。
- 16 国際化と労使関係
日本企業の海外直接投資の拡大にともない、日系企業に働く現地従業員の数も増加した。この新しい環境における日本の経営・労使関係を検討する。
- 17 外国人労働者と日本（2回）
1980年代から急速に増加した外国人労働者は日本社会に大きな衝撃をもたらした。その実態と政策のあり方について考察する。
- 18 新しい働き方を求めて
21世紀に向けて、真に人間らしい仕事と生活の両方を求めて、「新しい働き方」の模索が始まっている。その現状と方向性について展望を試みたい。

科目名	労働経済論	担当者名	桑原靖夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する次元、いかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。</p>		
講義概要	<p>労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新しい問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。医学でいえばいわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには1年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。受講者が終了段階で今まで見えなかった世界への分析武器を身につけることが出来たと実感できるように、インテンシブな講義を目指している。講義では現代労働経済学の主要領域をカバーし、さらに上級段階へ登頂するための手がかりを準備したい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本講義の全体をカバーするテキストはないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成8年 労働白書』日本労働研究機構、1996年6月頃刊行予定。</p>	
	参考文献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学の主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献のいずれかに目を通すことを勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年） ・西川俊作『労働市場』（日経文庫、1980年） ・小野旭『労働経済学』（東洋経済新報社、1994年） 	
評価方法	<p>原則として年1回ないし2回のテストによる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義はできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。計量経済学、社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

- 1 労働経済学とはいかなる学問か
臨床医学・基礎医学との対比
制度学派、社会政策学との関連
応用経済学としての特徴
- 2 労働経済学の発展
イギリス、アメリカなどにおける学問的発展
マクロ・ミクロ経済理論との関係
経済統計の見方、使い方
- 3 労働市場の理論（学説史的考察）
学問的系譜
制度学派、新古典派、組織の経済学
- 4 労働市場理論の展望(1)
制度学派の貢献、分析のための道具箱の充実
- 5 労働市場理論の展望(2)
新古典派の労働市場についての見方
- 6 労働市場理論の展望(3)
組織の経済理論、組織論
理論の統合は可能か
- 7 労働供給の理論(1)
家計の経済学的意味、所得・余暇選好の理論、労働供給の理論→供給曲線の導出、供給曲線の形状と意味、所得効果と代替効果
- 8 労働供給の理論(2)
日本の経済学者の貢献、新しい発展→新家庭経済学 (New Home Economics)
家計内生産 (home production) の意味
- 9 労働需要の理論(1)
派生需要としての労働需要、企業の行動様式の理論化、企業の労働需要曲線の導出、産業・社会全体の労働需要
- 10 労働需要の理論
不完全競争下の労働需要、投資と雇用
- 11 労働市場の構造と機能（2回）
労働市場における需給調整、調整の速度、制度的要因
分断的労働市場 (Segmented Labour Markets) の理論
- 12 労働移動（2回）
労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働移動の理論と実証
無制限的労働供給の理論（ジョブ・サーチの理論）
- 13 賃金決定・賃金構造（2回）
賃金決定の理論、賃金構造（賃金格差）、賃金プロファイル、最低賃金制度、労働組合と賃金決定
- 14 雇用と賃金の理論(1)
古典派理論、ケインズ理論、新古典派理論の展開
失業の概念→自発的失業、非自発的失業、摩擦的失業
- 15 雇用と賃金の理論(2)
失業とインフレーション、フィリップス曲線、自然失業率の概念、所得政策、効率賃金仮説、暗黙の契約理論
- 16 雇用調整のメカニズム
雇用調整の速度と範囲、雇用保険制度の機能
- 17 人的資本の理論
理論の基本的骨組み、熟練と訓練、一般的熟練と企業特殊的熟練
教育の経済学→教育投資と生涯賃金、応用問題：差別の経済分析
高齢化と定年制
- 18 労使関係の理論（2回）
労働組合の構造と機能、団体交渉、労使協議、苦情処理
耐立と協調、シェア・エコノミーの概念

科目名	財政学	担当者名	大島 通義
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>政府は年々予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これを外交や軍事、社会福祉や教育、公共投資、さらには対外援助などに当てている。「財政学」とは、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。公共部門の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えているのと同時に、政府の意思決定にかかわる制度の問題にも目を向けることが必要になる。このような観点から、家計、企業、国際経済に大きな影響を及ぼしつつある現代財政についての理解を深めることを、この講義は目的とする。</p>		
講義概要	<p>I 財政論の歴史——政府論の二つの流れ、最近の政府論の諸潮流 II 公共財政の制度とその収支——政府の経済活動の計画、そのバランスシート、国および地方公共団体の予算、国民経済計算における政府部門の構成とその収支 III 政府の役割——現代における政府の役割、「公共財」の性格、その供給のメカニズム、社会の高齢化と財政の役割、経済の国際化のもとでの財政 IV 租税論——租税とは何か、租税の歴史とその体系、課税ベースから見た租税（所得税、法人税、消費税、資産税等） V 地方財政論——国と地方の財政関係、地方財政の諸問題</p>		
使用教材	テキスト	<p>・貝塚啓明・宮島洋『財政学』（放送大学教材）。 その他、講義の必要に応じて、参考文献目録、資料等を配布する。</p>	
	参考文献	<p>・林健久・今井勝人編『日本財政要覧』東大出版会 ・本間正明編『ゼミナール現代財政入門』（改訂版）日本経済新聞社</p>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求めることがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提して講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	I 財政とは何か(1): 最近の財政問題を例として
2	I 財政とは何か(2): 財政学のおもな流れ
3	I 財政とは何か(3): 「大きな政府」論と「小さな政府」論、または「市場の失敗」と「政府の失敗」
4	II 財政の制度(1): 公共財政の制度的構成——予算と国民経済計算、国の財政と地方公共団体の財政
5	II 財政の制度(2): 日本の財政システム、租税制度、政府支出の概観、財政投融资計画
6	II 財政の制度(3): 予算政策決定の制度的仕組みとその過程
7	III 公共支出(1): 「公共財」と「私的財」、「公共財」の供給
8	III 公共支出(2): 「公共財」の最適供給水準は如何にして決まるのか、政府と議会の役割
9	III 公共支出(3): 政府支出の効率化を目指して、費用便益分析、「効率化」のための予算改革
10	IV 社会保障財政(1): 「福祉国家」の形成過程、社会保障システム
11	IV 社会保障財政(2): 社会保険の負担と給付、高齢化社会と社会保障財政
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 租税論(1): 序論——租税とは何か、租税政策がよるべき原則
2	V 租税論(2): 租税制度の仕組み、租税体系の構成
3	V 租税論(3): 個人所得税、支出税
4	V 租税論(3): 同上
5	V 租税論(4): 法人税
6	V 租税論(5): 個別消費税、一般消費税
7	V 租税論(6): 資産保有税、資産移転税
8	V 租税論(7): 課税の作用についての経済学的分析
9	V 租税論(8): 課税の作用についての社会学的分析
10	VI 地方財政論(1): 財政における集権と分権
11	VI 地方財政論(2): 財政調整制度の構成と役割
12	VI 地方財政論(3): 地方財政の最近の動向
備考	

科目名	日本財政論	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	公共部門が経済活動、社会生活にどのような関連をもっているか、理論的・実証的に明らかにする。		
講義概要	財政の役割と機能を図や表を多用しながら講義する。現在英国で研修中であり、英国財政との比較やケンブリッジでの生活中経験したことなども含める予定である。		
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評価方法	年度末試験の成績および中間での小テストの成績によって決める。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

後期完結（週2コマ開講）

週	主 要 テ ー マ
1	公共部門の範囲—財政とは何か
2	文献紹介
3	財政の役割と機能
4	① 資源配分機能
5	② 所得配分機能
6	③ 経済安定機能
7	日本財政の現状
8	① 中央・地方の財政規模
9	② 財政の国際比較
10	③ 本年度予算の特色
11	わが国の財政の歩み
12	① 明治期
13	② 大正から昭和初期
14	③ 戦後
15	予算制度—機能原則
16	政府支出の内容と規模
17	① 政府支出の内容と変化
18	② 政府支出の効率化
19	政府収入の内容と規模
20	① 財政赤字の増大
21	② 租税の意義と分類
22	③ 租税原則
23	④ 租税構造
24	公債
25	① 公債の制度と機能 ② 公債の累積と公債政策の推進
26	財政的融資
27	① 財政投融资の役割 ② 規模と運用
28	地方財政
29	① 地方財政の特色
30	② 国際比較
31	③ 国・地方間の事務配分と税源配分
32	④ 財政調整制度
33	⑤ 国・地方債
34	財政の今後の課題
35	備考

科目名	金融論	担当者名	田村申一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>金融論は理論経済学と違い、抽象的な理論の枠にとどまっていたら意味がなく、いま動いているナマの姿をとらえて分析して、はじめて生きてきます。とはいっても、金融論は応用経済学の一分野ですから、理論の裏付けがなければ、ただの時事解説になってしまいます。金融のさまざまな出来事をバラバラではなく、理論をもとに体系的に把握することによって、金融の姿が立体的に分るのです。この講義では、最小限の現代理論をベースにし、理論分析と現状分析を絡めながら、激動する金融の世界を解明し、分り易く面白く説明していきたいと思っています。</p>				
講義概要	<p>金融を理解するためには、金融システム、金融行動、金融市場、金融政策の4本柱を一体的にとらえ、それらの相互関係を把握することが最も大事です。時代環境は金融システムを規定し、その中で各経済主体の最適な金融行動が決まり、結果的に行われる金融取引が金融市場を動かします。金融市場の動向は金融政策を発動させ、政策は金融行動や市場を望ましい方向に誘導します。このような観点から、講義ではこれら4本柱を順次説明し、それらの体系的な理解が得られるようにしたいと思います。講義のもう一つの視点は、これら4つのテーマを全体として一つの大きなテーマで包括することです。いま、日本では金融自由化、証券化、国際化が急速に進んでいますが、これらを軸にまとめてみます。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>未定。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・山田良治・田村茂・田村申一・花輪俊哉著『金融入門』有斐閣、1989年。 ・堀江康熙・吉野直行著『金融』東洋経済新報社、1991年。 ・池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顕著『金融』（新版）有斐閣、1993年。 ・柴沼武・森映雄・藪下史郎・書間文彦著『金融論』有斐閣、1993年。 ・岩田規久男著『金融入門』岩波書店、1993年。 <p>あとは各章ごとにその都度提示します。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	未定。	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山田良治・田村茂・田村申一・花輪俊哉著『金融入門』有斐閣、1989年。 ・堀江康熙・吉野直行著『金融』東洋経済新報社、1991年。 ・池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顕著『金融』（新版）有斐閣、1993年。 ・柴沼武・森映雄・藪下史郎・書間文彦著『金融論』有斐閣、1993年。 ・岩田規久男著『金融入門』岩波書店、1993年。 <p>あとは各章ごとにその都度提示します。</p>
テキスト	未定。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山田良治・田村茂・田村申一・花輪俊哉著『金融入門』有斐閣、1989年。 ・堀江康熙・吉野直行著『金融』東洋経済新報社、1991年。 ・池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顕著『金融』（新版）有斐閣、1993年。 ・柴沼武・森映雄・藪下史郎・書間文彦著『金融論』有斐閣、1993年。 ・岩田規久男著『金融入門』岩波書店、1993年。 <p>あとは各章ごとにその都度提示します。</p>				
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。前期レポートの提出期限は9月末日（教務課）、後期試験は定期試験の時間割で実施します。</p>				
受講者に対する要望など	<p>出欠状況と成績との間には、ほぼ正の相関関係がみられます。欠席すると、内容の理解が困難になってきます。授業には、必ず出席して下さい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス この講義のねらい、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法など 序章 金融の現況と問題点
2	第1章 金融システム 1 マネー (1)マネーの機能 (1A) 古典派、ケインズ、ケインジアン、マネタリストの貨幣観、(2)マネーサプライ
3	(3) 金融自由化とマネー 2 資金循環 (1)資金過不足
4	(2) 金融の機能と金融方式 (2A) 間接金融の優位
5	(3) 金融構造の変化 3 金融制度 (1)戦後、日本の金融制度
6	(2)金融制度改革 (2A) 金融制度改革の実施状況
7	(3) 金融国際化と今後の金融制度 第2章 金融行動 1 資産選択 (1)個人・企業の貨幣需要
8	(2)投資家のポートフォリオ・セレクション (3)個人部門の資産選択の推移
9	2 企業金融 (1)企業の資金調達 (2)金融方法と資金コスト
10	(3)企業金融の変容 3 銀行行動 (1)銀行の機能
11	(1A) メインバンクの機能 (2)銀行の業務
12	(3)信用創造のメカニズム (4)銀行の経営原則と行動原理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1章～第2章のまとめ 金融システムと銀行行動をめぐる課題と展望
2	第3章 金融市場・金利 1 金融市場 (1)金融取引と金利裁定 (2)マネーマーケット
3	(2A) マネーマーケットの自由化 (3)公社債市場
4	(4)金融派生市場 (4A) 先物取引、オプション取引の拡大
5	2 金利 (1)利率水準 (2)預金金利、貸出金利と金利自由化
6	(3)金利の期間構造 (3A) 利回り曲線の推移
7	第4章 金融政策 1 金融政策の目標 (1)政策目標 (1A) 国際政策協調と国内政策目標
8	(2)運営目標 (2A) マネーサプライ重視の金融政策
9	2 金融政策の手段 (1)貸出政策 (2)オープン・マーケット・オペレーション
10	(2A) 日本銀行の金融調節 (3)準備預金制度
11	3 金融政策の有効性 (1)金融政策の波及経路 (2)金融自由化・国際化と金融政策の有効性
12	第3章～第4章のまとめ 市場規律と公的規制、セーフティネットをめぐる課題と展望
備考	

科目名	国際金融論	担当者名	山本美樹子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じである。ただ、国際間では通貨単位が異なるため国内金融とは異なる様々な問題が生じてくる。本講義では国際金融にスペシフィックな事柄をあてて説明し、これから社会に出ていく諸君が日々の新聞やニュース等をにぎわしている国際金融に関連した記事を読みこなしていくことができるようにしたいと考えている。</p>	
講義概要	<p>これから国際金融論を学ぶ上で最低限覚えていて欲しい事柄について、例えば為替レートはどのように決まるのか、政府の介入行為とは、投機行動とは、といった点についてある程度詳しく、理論的に一つ一つのテーマを説明した上で、応用編に入っていく。</p> <p>応用編では、現在の国際金融制度が設立されるまでのいきさつ、経過といった歴史的な側面と、世界的に注目を浴びている国際マクロ政策協調、国際的な資本移動、発展途上国の累積債務問題といったテーマを取り上げて説明していく。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	<p>標準的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺福太郎編『エレメンタル国際経済学』英創社 ・伊藤元重『ゼミナール国際経・経済入門』日経新聞社 ・高木信二『入門国際金融論』日本評論社 ・須田美矢子『国際マクロ経済学』日経新聞社 <p>上級のなもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イーシア 大田博史他訳『現在国際経済学 国際マクロ』多賀出版 ・ニーハンス『国際金融のマクロ経済学』東大出版
評価方法	<p>後期の試験と出席</p> <p>前期末には夏休みのレポート課題を出す。後期試験に失敗したものについてはレポートを加味して評価を出す。</p>	
受講者に対する要望など	出席をきちんとすること。	

年 間 講 義 予 定

講義を始めるにあたって (第1週)

第一部 国際収支 (第2、3週)

第1章 国際収支とは何か

1. 国際収支表
2. 経常収支とは
3. 経常収支の金融的側面
4. 経常収支の変動メカニズム

第二部 外国為替取引と為替レート

第2章 外国為替取引と為替レート (第4～10週)

1. 外国為替、為替レートとは何か
2. 為替リスクとヘッジング
3. 為替投機
4. 外国為替市場への介入

第3章 為替レートの決定と変動の理論 (第11、12週)

1. 購買力平価説
2. フローアプローチ対アセットアプローチ

第4章 固定相場制とは何か (第1、2週)

1. 固定相場制とは何か
2. IMF とブレトン・ウッズ体制
3. 固定相場制のメカニズム
4. 固定相場制はなぜ崩壊したのか
5. 世界の通貨制度

第三部 開放マクロ経済学 (経済政策)

第5章 開放マクロ経済学 (経済政策) (第3～5週)

1. 外国貿易乗数の理論
2. 固定相場制の開放マクロ経済学
3. 変動相場制の開放マクロ経済学

第四部 国際資本移動の拡大

第6章 国際金融取引拡大の背景 (第6～8週)

1. 国際金融取引とは何か
2. 国際資本移動とは何か
3. 国際投資と為替レート
4. 外国為替のスワップ取引の具体的形態
5. オプション取引

第7章 ユーロ取引 (第9、10週)

1. ユーロ市場、ユーロ取引とは何か
2. ユーロ市場の始まり
3. ユーロダラーの信用メカニズム
4. ユーロダラーの発展

第8章 発展途上国の累積債務問題 (11週)

1. 途上国の累積債務問題がなぜ顕在化したのか
2. 途上国が先進国から資金を借りる際の問題点
3. ソブリンデフォルトとはなにか
4. デフォルトに対する対応方法
5. 債務国、債権国に今後求められる課題

講義をしめくくるにあたって (12週)

科目名	社会科学概論（93年度以降） 社会科学方法論（92年度以前）	担当者名	宮澤 清
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	
講義概要	<p>誕生期経済学の思想的基盤となったのは、「自然法理論」と「自然秩序」の思想である。ここでは、存在と当為が、現実と価値が直接にかつ論証も経ないで同一視された。19世紀末葉の「限界革命」と呼ばれる経済学は、経済現象を専ら個人の主観的な行為にまで遡って分析する。そこでは、現実と価値、事実と当為が峻別されるという論理が働いている。ケインズの『一般理論』は現実に直面している経済現象を病理現象であるとみなし、その病気についての診断と治療を提示した点にその特徴がある。人間の経済学は、経済学に人間性を賦与し、人間の優位を確立し、人間らしく生きるための批判的精神と何ごととも論議によって解決することを基本信条とする批判的経験主義を保持するということである。</p>
使用教材	テキスト ・拙著『社会科学方法論』白桃書房
	参考文献
評価方法	期末テストによる。
受講者に対する要望など	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	序論：社会科学としての経済学成立の基盤となったのは、近代自然法論と近代自然科学理論であるが、それにもまして重要なのは、それまでの自然法哲学である。それは歴史のなかで永劫回帰するものだからである。
2	ピュシスとノモス：自然法の観念はギリシャ哲学に溯るが、ピュシスとノモスとの最初の理論上の対置は、ギリシャ自然学に見出される。その対置はソフィストに用いられ、プロタゴラスによって実践的に唱えられた。
3	形相理論：プラトンにおいては、ピュシスは「イデア」と同じ意味で用いられ、事物そのものの本質を意味した。その本質基準にもとづいて真と偽との、実在と現象との、エピステーメとドクサとの対立が明示された。
4	目的原理：アリストテレスにおいても、形相は事物の本質であるが、個物に対して超越的ではなく内在的である点でプラトンと異なる。その形相は、質料と結びついて事物に内在し、潜在態から顕在態へと展開する。
5	ロゴス：自然法を最初に理論化したのはストア学派である。創始者ゼノン、万有を貫く捷は「ロゴス（理性、理法）またはピュシス（自然）に従って生きよ」ということであると唱え、感覚に対して理性を重視した。
6	ストア的理性：キケロやセネカは、法の基礎はドクサ（臆見）ではなくピュシス（自然）であり、理性によって認識されるという。ここに、理性によって平和を保持するというストアの自我を重んずる精神がみられる。
7	純粹形相：トマス自然法論は、アリストテレスの目的論的自然観をその哲学的支柱として、宇宙の目的論的秩序の頂点に自ら動くこともなく、一切の世界生起の元となる純粹形相としての不動の神が存在すると説く。
8	形相→質料：近代になると、ガリレオやデカルトによって自然の概念は一変し、形相が質料にとってかえられ、新たな自然認識の方法が確立された。なかでも、数理的手法を認識のモデルとしたのはニュートンであった。
9	自然権：ホッブズの哲学は機械論的社会観である。そこでは各人が己の欲するままにその力を用いる自由が自然権と規定され、それをコントロールするために理性によって人為的に作り出された戒律が自然法とされた。
10	自然的自由：ロックは、この世に地上の人びとを裁く絶対的な権威をもつ者がたとえいなくとも、理性によって、人びとの生活が互いに自由であり、平等であり、人びとの生命や財産も尊重される権利を自然権とする。
11	コンベンション：ヒュームは、ホッブズにならって「人間の本性は利己心である」とし、この利己心を抑える便宜的な取決めをコンベンションと呼び、これによって成立する社会の基本的ルールが自然法であるとした。
12	自然的秩序：誕生期における経済学の思想的基盤は自然法哲学である。この概念にもとづいてケネーが経済学に採用したのは、重農学派の哲学的基礎としての自然法であり、普遍的法則概念としての自然的秩序である。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	自然的自由：アダム・スミスが経済学の基礎に据えたのは、自然的秩序と自然的自由の概念であり、利益の自然調和の理論である。この理論で看過しえないのは、ニュートン力学とライブニッツの神の予定調和である。
2	自然価格：スミスが重視したのは、価値の最善の尺度としての労働と規範としての自然価格である。労働はビューリタンの禁欲主義的なエートスの反映であり、自然価格はその属性が自然法思想の一つの顕在態である。
3	限界革命：19世紀後半における経済学近代化の動きは「限界革命」と呼ばれる。その理論は、古典派になかった限界分析や一般均衡の分析という二つの新しい理論を生み出したという思想上の革命であったからである。
4	目的と手段：ワルラスの一般均衡理論とパレートの無差別曲線の理論は、ともにマックス・ウェーバーの没価値性の理論と同じように目的と手段との関係の論理によって規定される合理的行動の論理によって貫かれている。
5	関数概念：19世紀後半以降の経済学は、マッハの「要素一元論」とカントラーの「実体概念と機能概念」において端的に示される。彼らが試みたのは、実体（因果）から機能（関数）への移行の重視ということである。
6	名目論：新古典派経済学は方法論的個体主義である。そこでは「経済人」の仮定が本質的なものから名目論的なものにとってかえられたからである。ジュヴォンズ、メンガー、ワルラスの理論がそれを巧みに論証している。
7	ケインズ革命：ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』がケインズ革命と呼ばれるのは、アダム・スミスの「見えざる手」の論理にもとづいて展開された経済学を排して不況を克服する理論であったからである。
8	自然と人間：カール・ポランニーが提起したのは、人間の経済学を主題としての、「経済的」という言葉の形式的な意味から実質的な意味への再認識ということであった。その意味とは、自然と人間との共存のことである。
9	人間の経済学：現実のさまざまな「危機」を克服し、経済学および社会科学に人間性を賦与するには、経済学および社会科学が人間を出発点とする方法論、つまり方法論的人間主義にもとづくものでなければならない。
10	認識の客観性：この講義で最も重要なのは、社会科学における認識の客観性についての問題である。そこでのポイントは、科学は認識の作用であり、その任務は、支配ではなく説明であり、世界を記述することである。
11	方法：社会科学という「方法」とは、社会ないし歴史における技法ではなく、科学的知識が知識として受け入れられるための論理的根拠を問うという意味であるから、いかなる科学も、その方法は、原理上同じである。
12	同質性：社会科学と自然科学を質的な違いとしてではなく程度の違いとして連続的にとらえることによって、自然科学と同じ範疇の客観性（論理による批判と経験による批判）が社会科学においても可能となるのである。
備考	

科 目 名	地域精神衛生論 —暮らしの中の精神衛生—	担当者名	佐々木 雄 司
-------	-------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「地域精神衛生」とは、コミュニティメンタルヘルス (CMH) の日本語訳である。私は精神科医で、CMH のパイオニアの1人である。</p> <p>CMHの基本思想は、メンタルヘルス活動の輪を、「医療の場」の専門スタッフから、「生活の場」の一般社会人にまでひろげることである。私自身、日頃の実践の中で、あらゆる生活の場（地域、職場、学校）に、精神衛生の基礎知識をもった仲間が1人でもいてくれたら……と思うことの連続である。産業精神衛生は、すでに現代の企業の重大問題の1つ。</p> <p>本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>「暮らしの中の精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっているありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての30数年間の私自身の実践や研究やフィードワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。</p> <p>我国は、急速な都市化・現代化のみではなく、高齢化の問題も加わり、高度のストレス社会に突入している。こうした現在、本授業が、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の1つともなれば幸である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木 雄司『宗教から精神衛生へ』金剛出版、1986 ・厚生省精神保健課『我が国の精神保健』厚健出版（最新版） 	
評 価 方 法	2回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと、参加することが基本要件。従って、先にも述べた講義形態のこともあり、遅刻は厳禁。なお、ゼミ生（地域精神衛生論）は、本授業も受講されたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
3	そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
4	" (2) まとめ
5	信仰と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) スライド
7	" (3) Video、まとめ
8	精神医学の知識 (1)具体例、グループ討論
9	" (2) スライド
10	" (3) Video、まとめ
11	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
12	" (2) スライド
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (3) Video、まとめ
2	家庭の精神衛生
3	学校の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
4	" (2) まとめ
5	職場の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) まとめ
7	加齢と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
8	" (2) まとめ
9	日本の医療の現状
10	医師、医療機関の選び方
11	総括 (1) 新聞記事、グループ討論
12	" (2) Video、まとめ
備考	

科目名	経営学	担当者名	河野重榮
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学科の学生が経営学に関する全般的な理解を得られるようにするために、この講義は設けられている。経営学では企業と経営を分けて考えているが、それは現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、解が与えられないからである。この「経営とは何か」を研究対象とするのが経営学である。</p>		
講義概要	<p>①はじめに経営学の対象と方法について述べ、②ついで明治維新以降の我が国における経営問題認識の過程を展望する。併せて、欧米とくにアメリカにおけるマネジメントの発展とそのわが国への導入に關説する。③さらに経営の職能論的理解にもとづき、経営の職能構造と経営者機関について述べ、経営活動が行われる制度的環境について考える。④最後に経営問題の今日的課題をとり上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・河野重榮著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</p>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義を正確に理解し、キチンと講義ノートをとるようにして欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営学の対象と方法 ①「経営」とは何か
2	②経営経済学とマネジメント論
3	③経営の実際・実践・原理
4	経営問題認識の進展 ①近代産業人の養成と経営経済学の導入
5	②初期マネジメントの導入
6	マネジメント論の発展 ①テイラー・システム
7	②テイラー・システムの問題点
8	③フォード・システムとオートメーション
9	④スタッフ論とファヨールスム
10	⑤フォレットの機能的統一体論
11	⑥人間関係の科学
12	国際化と日本的経営
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営職能構造 ①経営職能構造の形成
2	②有機的機能の分化と経営職能
3	経営者機関 ①株式民主主義と取締役会
4	②専門経営者の出現
5	③取締役会から常任執行委員会へ
6	④利害者集団論とコーポレート・ガバナンス
7	⑤CEOの職務と役割
8	マネジメント・リーダーシップ①マネジメント要素論
9	②マネジメントのフィードバック・モデル批判
10	③近代組織論と戦略的事業単位
11	④組織の活性化と人間資源管理
12	経営問題の今日的課題
備考	

科目名	保険論	担当者名	岡村国和
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>保険現象および保険理論の経済的・経営学的分析を以下の3点を中心に学習する。</p> <p>①金融環境の変化と保険規制の基本的枠組を視野に置いた総合的な問題の解釈。</p> <p>②従来の保険理論では理解しにくかった新たな保険現象を取り上げて、これを新しい理論的枠組で解釈すること。</p> <p>③高齢化社会の問題を含めながら、これと保険との関わりの探求。</p> <p>第1部 保険の基礎理論の理解 第3部 保険企業の行動理論の理解 第2部 保険各論の概観 第4部 保険市場の解釈—応用編</p>	
講義概要	<p>保険の発展はいわゆる保険の限界を縮小し、付保可能領域を拡張する事から始まった。たとえば、生命保険の分野では基本的な保障形態が制限されたり、企業の活動領域が制限されたりしている。損害保険の分野においても同様に、その本質的部分において従来の損害保険の把握の仕方では捉えきれない大きな変化が現われている。この原因として第1に保険業法をめぐる理論的かつ実務的問題がある（領域の重複、いわゆる第3分野問題など）。次いで企業環境としては、加速化する高齢化社会への対応や、諸規制、金融期間としての保険企業の「保障」と「金融」をめぐる経営戦略の転換などがあげられる。本年度はまず保険原論を学習した上で次のステップ（応用編）に進む予定である。</p>	
使用教材	テキスト	・庭田範秋編『保険学』成文堂、1991年
	参考文献	参考文献は、講義の中でその都度指示する。
評価方法	<p>原則として定期試験（前期集中）のみで評価する。但し、レポートの提出を許可する。このレポートは強制ではなく任意であるので、未提出者にペナルティを課すことはない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>集中講義なので、連続して学習しないと復習が困難になることが予想される。また、以下のキーワードを最低限理解すること。①保険均衡式、②保険における価値循環の転倒性、③カルテル料率、④規模の経済性、⑤キャッシュ・フロー・アンダーライティング、⑥ギャランティ・ファンド、ALM（資産・負債管理）。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期 の み (週2回)

回	主 要 テ ー マ
1	講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。
2	「保険現象の分析」：保険現象を考究するための目的、対象、分析用具の吟味を行う。
3	「リスクの基礎理論（１）」：日常生活をめぐるリスクの性格や対応につき検討する。
4	「リスクの基礎理論（２）」：リスクの源泉の把握とリスクの分類をおこなう。
5	「リスクと保険」：保険可能リスク、ダウンサイド・リスクについて論じ、付保決定基準について考察する。
6	「保険の理論構造（１）」：情報経済学との関連から、保険現象のモデル化を試みる。
7	「保険の理論構造（２）」：保険の理論体系を構築する諸原理・原則の概説を行う。
8	「保険の理論構造（３）」：保険は経済学的には「条件付き請求権」として扱われるが、現実の保険行為は「法的契約」であるので、この点につき若干の解説を行う。
9	「保険の理論構造（４）」：危機負担の一般原則についての諸問題を講義する。
10	「保険の理論構造（５）」：損害補填の一般原則についての講義を行う。
11	「保険の理論構造（６）」：保険における情報の非対称性につき講義する。
12	「保険各論（１）」：保険各論の手始めとして保険の分類につき講義する。
13	「保険各論（２）」：生命保険の仕組みや機能、経済効果などについて講義する。
14	「保険各論（３）」：伝統的な損害保険種目と新種保険のうちでも自動車保険・自動車損害賠償責任保険、自賠責保険および傷害保険について講義する。
15	「保険各論（４）」：高齢化社会における社会保障の財政赤字の原因について保険との関係につき講義する。
16	「保険経営（１）」：保険経営の特殊性と保険商品の「価値循環の転倒性」につき講義する。
17	「保険経営（２）」：保険マーケティング、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングなどにつき講義する。
18	「保険市場論（１）」：応用ミクロ経済学の立場から保険市場を分析する。
19	「保険市場論（２）」：保険市場が寡占市場であることを検証し、完全競争理論、不完全競争理論を概観した上で保険業における価格競争及び非価格競争を取り扱う。
20	「保険の限界とその拡張」：保険過程のダイナミズムの中で生ずる保険の限界とその拡張について講義する。
21	「保険政策論」：保険の公共性の検討と保険政策・保険規制について講義する。
22	「保険業の規制」：金融自由化に伴う規制緩和と新しい保険行政のあり方を考える。
23	「講義のまとめと結び」
備考	

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標		
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみだすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するという事、つまり合理的行動の基礎が必要となってくる。結局、そこに要請されるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎としての情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著『財務会計論』。なお、『財務会計基礎理論』でも可。いずれも白桃書房
	参考文献	
評価方法	期末テストによる。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2	測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3	伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4	会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定されるところの客体が会計単位といわれる。
5	継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6	貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7	真実性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真実性の原則と呼ばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8	剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則と呼ばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。それらが立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9	明瞭性：財務諸表のうえで利害関係者に必要な会計事実をはっきりと表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則と呼ばれる。
10	継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと「相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五の継続性の原則である。
11	保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12	単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念（形式）のない直観（内容）は盲目であり、直観（内容）のない概念（形式）は空虚である」ということである。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
2	情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債務者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
3	情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、情報の利用者に対する真の保証となるのである。
4	比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語ることができるが、比較的可能性は単独では語ることができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
5	コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。要するに、この二つは常に比較される言葉である。
6	資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
7	負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
8	持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつのである。
9	包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
10	認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
11	真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうるが、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
12	認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心（関心方向）つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。
備考	

科目名	応用統計学	担当者名	本田 勝
-----	-------	------	------

講義の目標	この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をベースにして、多変量統計解析の考え方を習得することを目的とする。		
講義概要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを要約し、その背後にある総合特性を探し出し、判断あるいは評価の道具に利用することである。この分析ではコンピュータを抜きにしては考えられないので、本講義では併行してコンピュータによる分析も実際に行なう。		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献		
評価方法	各テーマ毎に頻繁に課すレポートと、毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。		
受講者に対する要望など	「統計学」および「情報処理概論」を既修であることが好ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

No.	主 要 テ ー マ
1	多変量解析とは何かについての概観を行なう。
2	統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
3	統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化)
4	行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法)
5	行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル)
6	単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法)
7	単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数)
8	実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行なう。(分散分析表の見方、決定係数)
9	重回帰分析への拡張を行なう。(係数の推定と検定)
10	実例データを用いて重回帰分析の演習を行なう。(データの収集)
11	重回帰分析演習 (結果の解釈)
12	回帰分析における変数選択の方法について述べる。(変数増加法、変数減少法)
備考	

後 期

No.	主 要 テ ー マ
1	2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(幾可学的解釈、係数の重み、主成分)
2	P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(ラグランジュ未定係数法、固有値、固有ベクトル)
3	実例データを用いて主成分分析にかける。主成分の解釈の仕方について述べる。(寄与率、累積寄与率)
4	各自データを収集し、主成分分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
5	分析結果の解釈および検討。
6	2変量判別分析の考え方とその数式化を行なう。(線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率)
7	実例データを用いて2変量判別分析の演習を行なう。
8	P変量判別分析の数式化を行なう。
9	実例データを用いてP変量判別分析の演習を行ない、分析結果の解釈をする。
10	各自データを収集し、判別分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
11	分析結果の解釈および検討。
12	クラスター分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。(クラスター、デンドログラム、類似度の尺度)
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	高柳敏子
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、非常に単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、架空のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングおよび実習を通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み、またコンピュータ内部での情報の表現、そして基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコン言語の一つとしてコンパイラ言語の C++ を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++ によるプログラミングを、Turbo C++ for Windows を使用して実習しながら勉学する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献</p> <p>田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社、1993。</p> <p>『CASL Programming』ITEC (情報処理技術者教育センター)、1994。</p> <p>B. ストラウストラップ著、斎藤・三次・追川・宇佐美共訳『プログラミング言語 C++』第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ-40、1993。</p> <p>K. Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』アスキー出版局、1994。</p> <p>『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。</p>
評価方法	<p>前・後期各1度の実習テストと、Internet による前・後期各4～5回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部)、法学部 (法学部)、コンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理 I (英語学科) を既修のこと。また、コンピュータルームの台数に合わせて受講人数を制限するので、第1回の授業には必ず出席すること。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1):ハードウェア。ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。
2	コンピュータの歴史(2):ソフトウェア。総領事館言語、オペレーティングシステム。
3	コンピュータの構成:中央処理装置、制御装置、演算装置 記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置。
4	COMET の処理装置(1):語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)。
5	COMET の処理装置(2):レジスタ、汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)。
6	情報の表現(1):数値の内部表現。整数と2の補数表記、16進表現。
7	CASL プログラミング(1):CASL の命令、疑似命令、マクロ命令、機械語命令 命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈。
8	CASL プログラミング(2):CASL プログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保。
9	CASL シミュレータとその実行:プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し。
10	CASL プログラミング(3):乗除算処理(1) シフト演算命令。
11	CASL プログラミング(4):乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ。
12	CASL プログラミング(5):繰り返し処理。指標レジスタの使用。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASL プログラミング(6):情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード。
2	CASL プログラミング(7):入出力命令。コード変換と論理演算。
3	CASL プログラミング(8):サブプログラム(1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し。
4	CASL プログラミング(9):サブプログラム(2) スタックを利用したデータの受け渡し。
5	アセンブラとコンパイラ:プログラムの翻訳と実行。例題と Turbo C++ for Windows の操作。
6	C++ プログラミング(1):C++ 言語とは。 C++ 言語の基本事項。
7	C++ プログラミング(2):出力処理。四則演算と演算子、シフト演算。
8	C++ プログラミング(3):判断・分岐演算。関係演算子、論理演算子。
9	C++ プログラミング(4):繰り返し演算。配列。
10	C++ プログラミング(5):入力処理。文字と文字列の扱い。
11	C++ プログラミング(6):関数 (メインプログラムとサブプログラム)。サブプログラムにデータの値を渡す。
12	C++ プログラミング(7):関数(2) サブプログラムにデータのアドレスを渡す。
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	立 田 ル ミ
-----	----------	------	---------

講義の目標	現在ワープロや表計算ソフト等の様に、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目標とする。				
講義概要	現在コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、ビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすれば良いかを、オブジェクト指向言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説する。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行う。				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・立田ルミ『BASIC プログラミングの基礎』朝倉書店 ・川井義治『完全マスター Visual Basic』サイエンス社 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知雄編『情報処理の基礎』朝倉書店 </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・立田ルミ『BASIC プログラミングの基礎』朝倉書店 ・川井義治『完全マスター Visual Basic』サイエンス社 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知雄編『情報処理の基礎』朝倉書店
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・立田ルミ『BASIC プログラミングの基礎』朝倉書店 ・川井義治『完全マスター Visual Basic』サイエンス社 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知雄編『情報処理の基礎』朝倉書店 				
評価方法	<p>前期、後期の試験：60%</p> <p>レポート1、2　：30%</p> <p>出席　　：10%</p>				
受講者に対する要望など	情報処理論(3)を並行して履修（または既習）することが望ましい。				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のガイダンスとコンピュータの歴史 コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ
2	ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの利用 入力装置、CPU、記憶装置、記憶方式、ビット、バイト、KB、MB、GB、サイクルタイム、アクセスタイム
3	ソフトウェアの歴史と概略 ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム
4	情報処理におけるコンピュータの役割 自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
5	システム開発とプログラム開発の手順 システム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間
6	詳細設計とその手法 プログラムのモジュール化設計、モジュールの論理設計、プログラム流れ図、NS チャート、木構造チャート、HIPO
7	プログラム言語の種類と利用目的 機械向き言語、問題向き言語、オブジェクト指向言語、システム開発用言語、シミュレーション言語
8	第四世代言語と CASE ツール 現在開発されている第四世代言語、ソフトウェアの生産性と信頼性
9	各種プログラム言語の使用推移とパソコンソフトウェア各種言語の推移、パッケージソフトの概要、出荷実績
10	Visual Basic とは オブジェクト指向言語、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウィンド
11	簡単なプログラム作成の手順 アプリケーション開発手順 Visual Basic 開発環境
12	アプリケーションの構築(1) アプリケーションの設計 コントロールの扱い方 プログラム設計の選択
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アプリケーションの構築(2) プロパティをフォームに割り当てる プロパティをコントロールに割り当てる メニューのプロパティ
2	アプリケーションの構築(3) イベント駆動型プログラミングモデル Visual Basic と他のバージョンの Basic プログラム編成
3	アプリケーションのデバッグとコンパイル 実行エラーの修正 アプリケーションのコンパイル
4	入出力のテクニック データをキーボードから入力する データをディスクに書き込む 売上のグラフを描く
5	データ構造とコントロール 動的データ配列の使用 コントロール配列の使用 データの印刷
6	ランダムアクセスファイル レコードのフィールドへの入力 データベースファイル プロシージャとメソッド
7	いろいろな機能を使う ピクチャーボックス グラフィクス タイマーコントロール
8	日付と時刻 日付と時刻の値を利用する
9	ファイル、ディレクトリ、ドライブコントロール 円グラフを描く
10	動的データ交換 シートを印刷する
11	ドラッグアンドドロップ操作 プログラム一覧表を作成する
12	Visual Basic とネットワーク Visual Basic からネットワークを使う
備考	

科目名	情報処理 (済94年度以降) 情報処理(1) (済93年度・営93年度以降) 情報処理論Ⅱ (済・営92年度以前)	担当者名	高柳敏子
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義では、データベースの基礎知識を理解するために、初めにデータベースの前段階としてのファイル処理を、C++言語のプログラミングを通して学習し、ファイル処理の基本を理解する。</p> <p>続いてファイルを高度化した情報処理システムとしてのデータベースについて、ファイルとの違いを含め基礎的な知識を学ぶとともに、データベースの作成およびその取扱いを、データベースソフトを使ってコンピュータで実習しながら勉学する。</p>
講義概要	<p>前期は、Turbo C++ for Windowsを使ってC++言語によるファイル処理の基礎を実習しながらを学ぶ。</p> <p>後期は、まずMS-Excelのデータベース機能を使って、データベースの持つデータ管理機能を概観する。続いてデータベースの特徴と、特に汎用機からパソコンまで多くのソフトが開発されたリレーショナル・データベースおよびその取り扱い言語のSQLを、実際にMS-Accessを使いながら学ぶ。また、本学で利用できるデータベースについては、図書館検索やCD-ROM検索を含めできるだけ講義のなかで使用していく。</p> <p>課題の出題や資料の配布、レポートの提出および出席にはInternetを利用する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前田功雄編『Windowsを活用し情報処理』共立出版、1995。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B. ストラウストラップ著、斎藤・三次・追川・宇佐美共訳『プログラミング言語C++』第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ40、1993。 ・K. Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』アスキー出版局、1994。 ・C. Date 著、芝野・岸本共訳『標準SQL』改定第2版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ9、1990。 ・『データベース標準用語辞典』オーム社、1991。 ・『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。
評価方法	<p>前・後期各1回の実習テスト、Internetによる前・後期各4～5度程度のレポート提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部)、情報処理 (法学部)、コンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理Ⅰ (英語学科) を既修のこと。また、コンピュータルームの台数に合わせて受講人数を制限するので、第1回の授業には必ず出席すること。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Internet 操作(1)：ホストコンピュータの取り扱い。mail の受信と送信。
2	Internet 操作(2)：file の受信と送信。パソコンからのファイルのアップロードとダウンロード。
3	C++ 言語(1)：Turb C++ for Windows の操作。例題プログラムの実行。
4	C++ 言語(2)：C++ 言語の基本事項。
5	ファイル処理(1)：C++ 言語(3) ファイルからデータを入力する。
6	ファイル処理(2)：C++ 言語(4) ファイルへ結果を出力する。
7	ファイル処理(3)：C++ 言語(5) メインプログラムとサブプログラム。
8	ファイル処理(4)：C++ 言語(6) 基本的なファイル技法とは。ファイル、レコード、アイテム、フィールド、キー
9	ファイル処理(5)：C++ 言語(7) ソート(1) データを整列する。
10	ファイル処理(6)：C++ 言語(8) ソート(2) データの整列順位を求める。
11	ファイル処理(7)：C++ 言語(9) マージ。整列されているデータを合併する。
12	ファイル処理(8)：C++ 言語(10) 検索。必要なデータを探索する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	MS-Excel のデータベース機能(1)：レコードの並べ替え。条件によるレコード抽出。
2	MS-Excel のデータベース機能(2)：データベース関数の利用。最大値、最小値、平均、標準偏差。
3	MS-Excel のデータベース機能(3)：クロス集計。条件付きのクロス集計。
4	データベースの検索利用(1)：個人資料を作成する(1) 図書館データベースの利用。
5	データベースの検索利用(2)：個人資料を作成する(2) CD-ROM 検索、外部データベースの検索利用。
6	データベースの基礎知識(1)：論理データと物理データ。データ構造 (階層型、ネットワーク型、リレーショナル型)。
7	データベースの基礎知識(2)：データベース言語とデータベース管理システム (DBMS)。
8	データベースの基礎知識(3)：リレーショナル・データベース。集合演算と関係演算、SQL 言語。
9	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(1)：MS-Excel からデータを入力。
10	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(2)：テーブル間のリレーションを作成する。
11	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(3)：選択のためのクエリーを作成する (QBE) クエリーと SQL。
12	MS-Access によるリレーショナル・データベースの利用(4)：クロス集計と SQL。クロス集計のためのクエリーを作成する
備考	

科目名	情報処理（済94年度以降） 情報処理論(3)（済93年度・営93年度以降） 情報処理論Ⅱ（済・営93年度以前）	担当者名	立田ルミ
-----	---	------	------

講義の目標	最近のソフトウェアがどのように作成されているかを理解し、オブジェクト指向言語のひとつである Visual Basic を用いて教育用のソフトウェアを作成する。また、ネットワークを用いた教育についても理解することを目的とする。プログラミングを実際に行うことで、マルチメディア、ネットワークを理解して欲しい。		
講義概要	教育におけるコンピュータの利用の例をいくつか取り上げ、その中で基本的な情報処理の手順およびプログラミングについて講義する。90分の授業のうち、前半は講義を行い、後半は Windows の Visual Basic を用いてプログラミング演習を行う。前期、後期を通じていくつかの課題について実際にプログラミングを行ってもらおう。		
使用教材	テキスト	・ 宍倉幸則『Visual Basic』技術評論社	
	参考文献		
評価方法	授業時に指定されたレポート：30% 前期、後期の試験：50% 出席状態：20% これらの合計の60%を満たさない者は、単位を取得出来ない。		
受講者に対する要望など	情報処理概論を既習のこと。プログラミング論を履修すること。コンピュータの操作およびキーボードの操作に習熟していること。Windows を使い慣れていること。講義以外の時間にもコンピュータを使わなくてはならないので、かなりハードな授業になる。時間的余裕のある学生を望む。コンピュータを使用するので、人数が60名以上の場合は抽選する。第1回講義には必ず出席のこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとコンピュータの概略 ホストコンピュータ、端末装置、LAN、ネットワーク
2	教育におけるコンピュータの利用と情報処理 マルチメディア、ネットワークでの利用 CD-ROMのいくつかを取り上げる
3	Visual Basic 概要と特長 Visual Basic の歴史、言語の特長、プログラム作成方法 構造化プログラミング
4	Visual Basic の簡単なプログラム プログラムの作成過程 プログラムの実行 プログラムの修正
5	Visual Basic の簡単なプログラム作成 イベントプロシージャー アプリケーションの開発 アプリケーションのコンパイル プログラムリストの作成
6	Visual Basic でファイルを使う フォームモジュール コードモジュール プロジェクトファイル インクルードファイル
7	変数の宣言 COMMON 文 DIM 文 REDIM 文 SHARE 文
8	プロシージャー イベントプロシージャー ジェネラルプロシージャー プロシージャーの記述
9	プロシージャーの呼び出し プロシージャー側の振りパラメータ DECLARE 文 DECLARE 文の自動生成
10	変数のスコープと共有 モジュール内で変数を共有する モジュール間で変数を共有する 変数の記憶クラス
11	課題の説明 プログラムの説明 どのようにプログラミングすればよいか
12	Visual Basic のいろいろな機能を使って課題を作成する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コントロール チェックボックスコントロールの状態 グループ化
2	テキストボックスコントロールの状態 テキストボックスへのアクセス テキストのカットアンドペースト テキストボックスコントロールの行数 テキストのスクロール
3	リストボックスコントロール リスト項目の編集 リスト項目へのアクセス
4	コンボボックスコントロール ドロップダウンコンボ シングルコンボ ドロップダウンリスト
5	ドライブルストコントロールボックス リスト項目へのアクセス ディレクトリリストボックスコントロールへの対応
6	ディレクトリリストボックスコントロールへの対応 リスト項目へのアクセス ファイルリストボックスコントロールへの対応
7	ピクチャーボックスコントロール ASCII 文字の表示領域としての利用 コントロール
8	フレームコントロール、コマンドボタンコントロール フレームコントロールに配置されたコントロール コマンドボタンコントロールの見だし イベントを発生させる デフォルトの処理
9	オプションボタンコントロール グループ化 オプションボタンの状態
10	他のコントロール ラベルコントロール、スクロールバーコントロール タイマコントロール
11	プロパティ プロパティの種類 いろいろなプロパティを使う
12	教育利用ソフトの試作 教育に利用できるソフトのプロタクトタイプを作成する。
備考	

科目名	情報処理（済94年度以降） 情報処理論(2)（済93年度・営93年度以降） 情報処理論Ⅱ（済・営92年度以前）	担当者名	富田幸弘
-----	---	------	------

講義の目標	情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶ。また、コンピュータを利用した具体的なプログラムについても学び、より高度な利用法についても体験学習することを目標としている。		
講義概要	出来るだけ具体的な例を示しながら、同時に、情報処理のためのコンピュータの利用についても講義する。その内容は、おおむね以下のようなものである。 (1) 経営科学の必要性 (2) 時系列分析と需要予測 (3) 在庫管理 (4) 日程計画 (5) 待ち行列 (6) シミュレーション (7) ビジネス・ゲーム		
使用教材	テキスト		
	参考文献	・宮川公男・野々山隆幸・佐藤修共著 『経営科学と情報処理』実務出版 ・高橋三雄・藤森洋志共著 『ビジネス・ゲーム入門』日本経済新聞社	
評価方法	前期・後期のレポートおよび出席状況等により評価する。		
受講者に対する要望など	情報処理概論の既修者を対象にしています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の講義内容と評価について
2	経営科学の利用例
3	情報処理とコンピュータ
4	統計データの整理・分析 〈度数分布表、平均値、分散〉
5	統計的推定・検定 〈区間推定、仮説検定、適合度検定〉
6	乱数の発生と検定 〈合同法、周期、無相関検定〉
7	時系列分析 〈変動、移動平均法、指数平滑法〉
8	需要予測 〈相関、回帰、段階的接近法〉
9	在庫管理(1) 〈在庫の種類、在庫の費用、在庫問題の分類〉
10	在庫管理(2) 〈需要と発注、発注システム、最適在庫〉
11	在庫管理(3) 〈ABC分析、在庫管理ゲーム〉
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日程計画 〈PERT、クリティカル・パス〉
2	待ち行列(1) 〈待ち行列の例、待ち行列問題の基本構造〉
3	待ち行列(2) 〈待ち行列問題の分析、シミュレーションによる解法〉
4	シミュレーションゲームについて
5	生産管理ゲーム
6	販売管理ゲーム
7	資金繰りゲーム
8	ビジネスゲーム(1) 〈作成手順、市場構造〉
9	ビジネスゲーム(2) 〈モデルの数式化〉
10	ビジネスゲーム(3) 〈競争力の決定構造〉
11	ビジネスゲーム(4) 〈市場調査、経営分析〉
12	後期のまとめ
備考	

科目名	民法	担当者名	椿 久美子
-----	----	------	-------

講義の目標	<p>民法は、大きく分けると売買・賃貸借など取引に関することを定めている財産法と結婚・離婚・親子関係・相続などを定めている家族法とがある。本講義では、そのうち財産法について、基礎的な事柄をしっかりと学んでもらい、我々の日常生活におこるトラブル、たとえば交通事故にあった、だまされて不当な内容の契約をしてしまったなどの場合において、ある程度自分で対処できるようになってほしい。</p>		
講義概要	<p>民法1条から724条までが財産法の規定であるが、これらをすべて一年間で講義することは不可能である。まずは、理解しやすい不法行為責任（たとえば、薬の副作用で死亡した場合に製薬会社にどのような責任を負わすことができるのかなどの問題）から始め、教科書の目次の順番に講義していく。判例にもできる限り言及する。一方的に講義をするという形式をとらないで、受講者と私との間で互いに質問・討議しながら進めていきたい。</p>		
使用教材	テキスト	椿寿夫『民法（財産法）25講』有斐閣	
	参考文献	講義の際に指示する。	
評価方法	前期・後期試験の結果と討論の参加度により総合評価する。		
受講者に対する要望など	六法全書を必ず持参すること。予習・復習をするなど意欲的に勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス（講義内容の概要、教科書・参考書の指示その他）、受講生の講義への希望を聞くことなど。
2	信義則と権利濫用の禁止、物権と債権
3	不法行為による損害賠償（Ⅰ）
4	不法行為による損害賠償（Ⅱ）
5	使用者責任と土地工作物責任
6	契約および法律行為（Ⅰ）——契約自由の原則とその制限
7	契約および法律行為（Ⅱ）——意思表示、行為能力
8	契約および法律行為（Ⅲ）——契約の成立、契約の無効と取消
9	契約および法律行為（Ⅳ）——契約の無効と取消、条件と期限、契約の効力
10	売買（Ⅰ）——売買契約の成立、贈与
11	売買（Ⅱ）——売主および買主の義務、財産権の移転
12	売買（Ⅲ）——売主の担保責任
備 考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	売買（Ⅳ）——特殊な売買
2	賃貸借（Ⅰ）——賃貸借のあらまし
3	賃貸借（Ⅱ）——賃貸借の存続期間
4	賃貸借（Ⅲ）——貸主と借主のあいだでの権利義務
5	賃貸借（Ⅳ）——不動産賃貸借権の対抗力と妨害排除力、賃借権の譲渡と転貸
6	消費貸借契約、請負契約
7	契約・法律行為の代理
8	表見代理と無権代理
9	債務不履行（Ⅰ）
10	債務不履行（Ⅱ）
11	保証と連帯
12	抵当・根抵当
備 考	

科目名	商 法	担当者名	坂 本 延 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	最近の重要な判例・立法・理論を通じての株式会社法の平易な理解。		
講義概要	本年度の講義内容は、商法のうち株式会社法を中心に行う。講義方法は、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しうるよう努める。商法のうち特に会社法を講義内容として選んだのは、法学部以外の学生さんが、将来、会社企業に就職した場合、そこで生じる可能性の高い法律問題の解決について、目安となるような知識を習得してもらいたいからである。		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説会社法』〔二訂新版〕、嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の経済的意義〔Ⅰ〕
2	株式会社の経済的意義〔Ⅱ〕
3	会社の法概念
4	会社の権利能力
5	会社の種類
6	株式会社の意義〔Ⅰ〕 1. 株式 2. 有限責任 3. 資本
7	株式会社の意義〔Ⅱ〕 1. 株式会社の弊害 2. 社会的責任
8	株式会社の設立〔Ⅰ〕
9	株式会社の設立〔Ⅱ〕
10	株式〔Ⅰ〕
11	株式〔Ⅱ〕
12	補講
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	株式会社の機関〔Ⅰ〕——所有と経営の分離
2	株式会社の機関〔Ⅱ〕——機関の分化と権限の分配
3	株式会社の機関〔Ⅲ〕——株主総会
4	株式会社の機関〔Ⅳ〕——取締役会・代表取締役
5	株式会社の機関〔Ⅴ〕——監査役
6	株主の代表訴訟
7	株式会社の資金調達〔Ⅰ〕——新株発行〔Ⅰ〕
8	株式会社の資金調達〔Ⅱ〕——新株発行〔Ⅱ〕
9	株式会社の資金調達〔Ⅲ〕——社債
10	補講〔Ⅰ〕
11	補講〔Ⅱ〕
12	補講〔Ⅲ〕
備考	

科目名	国際法	担当者名	廣部 和也
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>国際法という国際社会の法を通して、国際社会における諸現象をみることができ、国際社会も一定の法（規律）に基づいて諸活動が成り立っていることを知ってもらうこと。</p>		
講義概要	<p>国際社会において、法的規律がどのように行なわれているか、国際法の形成・発展をはじめとして、その基本的事項、特に、国家の活動との関係で国際法の基本的事項を扱う。時には、実際に生じた事件を取り上げ、生きた国際法についても解説する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・寺沢一 他編著『標準 国際法（新版）』青林書院 ・石本泰雄 他編『解説 条約集（第5版）』三省堂 	
	参考文献		
評価方法	<p>筆記試験による。日常点（例えば、出席など）も考える。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と勉強する場合に心がけておくこと、及び、授業態度などについて述べる。
2	近代国際社会の構造と国際法の出現及び発展について述べる。(教科書、Ⅰ、pp.3-23)
3	国際法がどのような形式で存在するかについて述べ、特に、国際慣習法を取り上げる。(教科書、Ⅱ、pp.29-51)
4	前回に引き続き国際法の存在形式について述べ、特に条約を取り上げる。(教科書、Ⅶ、pp.337-345)
5	前回に続き、条約を取り上げる。(教科書、Ⅶ、pp.356-373)
6	国際法と国内法の関係(教科書、Ⅱ、pp.58-73)
7	国家とは何か。国家はどのようにして成立するのか。(教科書、Ⅲ、pp.74-92)
8	国家の権利義務について、特に、国家主権、管轄権などについて。(教科書、Ⅳ、pp.105-112)
9	前回に続き、不干渉義務について。(教科書、Ⅳ、pp.113-116)
10	国家の領域について、領土とは何か、国境とは何か、また、領域権の性質などについて。(教科書、Ⅵ、pp.201-217)
11	海洋の国際法について、領海、経済水域、大陸棚など。(教科書、Ⅷ、pp.229-253)
12	海洋の国際法の続き、公海、深海底などを中心に。(教科書、Ⅷ、pp.225-228、254-278)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	空の国際法について、航空機の地位、宇宙と人工衛星など。(教科書、Ⅶ、pp.222-224、279-283)
2	人の国際的移動と国際法の関連について。国籍、出入国、難民などの問題。(教科書、Ⅹ、pp.288-298)
3	人権の国際的保護の問題。(教科書、Ⅹ、pp.306-311)
4	国際犯罪について。
5	外交使節と領事。(教科書、ⅩⅠ、pp.317-331)
6	国際組織の構造と活動、その国際的地位について。(教科書、Ⅴ、pp.129-156)
7	国際責任の問題、国際違法行為があれば、責任をとらなければならない。(教科書、ⅩⅢ、pp.373-389)
8	国際環境の保護と国際法。(教科書、ⅩⅣ、pp.395-420)
9	国際紛争の解決はどのようになされるか。(教科書、ⅩⅤ、pp.421-431)
10	国際裁判について。(教科書、ⅩⅤ、pp.432-450)
11	戦争と国際法について、戦争の法的性質、その違法化の問題。(教科書、ⅩⅥ、pp.451-466)
12	国際連合と集団安全保障。(教科書、ⅩⅥ、pp.477-510)
備考	

科目名	政治学総論	担当者名	小野修三
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義はわれわれ政治の主体ないし主人公が実は政治については学ばぬ限り政治の主体ないし主人公であることすら知らぬ存在だという現実を見据えるところから出発する。政治の主体の側が自分たちの方に奉仕すべき側から“裸の王様”に過ぎないと笑われてしまう危険に常に曝されているのである。政治の主体は笑われ、操られて、政治の客体に転化し易いのである。本講義はこうした政治の現実に敢然と立ち向った人類史上に名を残す何人かの人々を紹介するので、受講する諸君も主体的に勉強することを期待している。</p>		
講義概要	<p>まず最初に紀元前399年に死刑に処せられたアテナイの市民ソクラテスを紹介する。そしてそのソクラテスの生涯を見ていた同じアテナイのプラトンにおける、ソクラテスとの連続と不連続つまりソクラテスのどこを学び、どこを学ばず自分自身の思想を打ち出していったのかを明らかにする。こうした二人の間の連続と不連続をさらにアリストテレス、また古代ユダヤ教の歴史のなかでイエスまた中世のアッシシのフランチェスコ、そして近代のマキアベリ、ホッブズ、ロック、アダム・スミス、ヘーゲル、マルクス、ウェーバーといった人々の著作を紹介しつつ、検討してゆきたいと考える。</p>		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	<p>全体を見渡せるものとしてシェルドン・ウォーリンの『西欧政治思想史』（邦訳、福村出版）がある。本講義においては随時原典（邦訳されたもの）を配布し、それらを読みつつ私の講義を聞くことになるので、一年間で諸君の手元には相当数のコピーの束が出来て、資料集が作られることになる。</p>	
評価方法	<p>前期と後期に各一回、計二回の論文形式の試験（持ち込み不可）を行なう。その他に前期、後期とも数回の小テストを行ない。それらを総合して評価を行なう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教科書はないので出席をよくしなければ年二回の試験には何も書けないだろう。こちらの出題以外のことをいかに正確かつ大量に書いても一切評価しないことは予め断っておく。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義計画の紹介。
2	ソクラテス以前の思想家。
3	政治家ソクラテス (I)ソクラテスの生き様。
4	(II)ソクラテス裁判。
5	逃亡者プラトン。
6	政治学者アリストテレス。
7	ボリスの時代から帝国の時代へ。
8	古代ユダヤ教——旧約聖書の世界。
9	イエスの思想 (I)福音書によるイエスの生涯。
10	(II)意識革命と暴力革命。
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アインシのフランチェスコ——最初の宗教改革者。
2	トーマス・モア——中世人と近代人の共存。
3	ニコロ・マキャベリと stato。
4	ルターとカルヴァン——キリスト教の民衆化。
5	トーマス・ホッブスと Leviathan。
6	ジョン・ロックにおける国家と社会 (I)統治二論。
7	(II)寛容についての書簡。
8	アダム・スミス——国家なしの秩序形成原理。
9	ヘーゲルの『法哲学』。
10	マルクスの『ユダヤ人問題』。
11	ウェーバー (I)宗教社会学。
12	(II)支配の社会学。
備考	

科目名	ドイツ語 I (総合) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部と法学部の1年1組を合併して授業を行います。</p> <p>対象は、ドイツ語の基礎を高校(中学)で学んだことのある人か、ドイツ語圏に滞在しドイツ語の知識のある人です。</p> <p>ドイツ語の基礎的な力を確実なものにし、さらに高度な能力にのばすように指導します。</p> <p>文法を中心に勉強してきた人は、聞いたり話したりする力をつけましょう。また、耳からドイツ語を覚えてきた人は、正確な文章を話し、書くことができるように練習しましょう。</p>		
講義概要	<p>ドイツ人教員と日本人教員がペアを組み、緊密に連絡し合いながら指導します。</p> <p>日本人教員が、文法と語彙の説明、テキストの意味の確認を行います。次に、ドイツ人教員が、それらの知識をもとに、発音、反復、聞き取り、簡単な対話の練習を指導します。さらにわからないことがあれば、次の時間に日本人教員が質問に答え、説明します。</p> <p>教科書は、下記のものを使いますが、参加者の希望とレベルに応じて何課から始めるか決めたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag), および Arbeitsbuch</p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典 (中型のもの)</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト・前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの紹介と今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語Ⅱ（総合）（一外）	担当者名	各担当教員
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>ドイツ語学科の2年5組（既習者クラス）と合併で授業を行います。2年5組の「総合ドイツ語」（週に2コマ）のクラスに出席して下さい。</p> <p>5組は皆さんと同じく高校でドイツ語を学んだか、滞在経験のある人のいるクラスです。ここでも、1年次に修得した基礎知識をさらに高度なものにのばせるように指導します。</p>		
講義概要	<p>ドイツ語学科での授業も、皆さんが1年次に履修した「総合」と基本的には同じです。教科書はもとより、進度もほぼ同じです。ただ、2コマともにドイツ人の先生が指導します。</p> <p>2年5組には、他に「講読S」（「総合」の授業を日本人講師が補います）、「文法」、「講読」、「LL」の授業があります。これらも必要と感じたら出席して下さい。ただし「他学部履修」ということとなります。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag)、および <i>Arbeitsbuch</i></p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典（中型のもの）</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト・前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (会話) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	英語でコミュニケーションを行なう能力を身につけることを目標とする。つまりナチュラルスピードの英語を聞き、内容を理解し、基本的な日常会話を英語で行なえるようになることを目指す。		
講義概要	前・後期ともアメリカを舞台にした後述のビデオ教材を使用する。一つのエピソードが三幕(アクト)から成り、一回の授業で一幕ずつ進む。前期はエピソード1~4、後期はエピソード5~8を学習する。授業ではビデオの内容理解、文法・重要表現・発音の練習、およびペアワークや質疑応答などのコミュニケーション練習を行なう。受講者はスクリプトの内容や重要表現などについて予習すること。毎回授業の最後にヒアリングクイズを行なう。		
使用教材	テキスト	Family Album, U. S. A. (会話で学ぶアメリカライフ) NHK 出版	
	参考文献	なし	
評価方法	前・後期の定期試験(ヒアリング)の結果および平常点による。 出席は特に重視される。		
受講者に対する要望など	テープを持参すること。 遅刻者は教室への入室を認めない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の概要および機器の使い方について Episode 1 ACT 1 : 自分や他人の紹介の仕方について
2	Episode 1 ACT 2 : "
3	Episode 1 ACT 3 : "
4	Episode 2 ACT 1 : 指示の従い方、食物の注文などについて
5	Episode 2 ACT 2 : "
6	Episode 2 ACT 3 : "
7	Episode 3 ACT 1 : 時制、前置詞の使い方などについて
8	Episode 3 ACT 2 : "
9	Episode 3 ACT 3 : "
10	Episode 4 ACT 1 : イディオム表現などについて
11	Episode 4 ACT 2 : "
12	Episode 4 ACT 3 : "
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Episode 5 ACT 1 : 否定の Yes/No Question、天気の話などについて
2	Episode 5 ACT 2 : "
3	Episode 5 ACT 3 : "
4	Episode 6 ACT 1 : 可能性の表現などについて
5	Episode 6 ACT 2 : "
6	Episode 6 ACT 3 : "
7	Episode 7 ACT 1 : if を使った表現や完了形などについて
8	Episode 7 ACT 2 : "
9	Episode 7 ACT 3 : "
10	Episode 8 ACT 1 : 健康についての話題、付加疑問文などについて
11	Episode 8 ACT 2 : "
12	Episode 8 ACT 3 : "
備考	

科目名	英語 I (講読) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、経済学部専門書のみならず、英語で書かれた新聞、雑誌、小説など様々なジャンルの文章を読みこなすことができるようになるための文章の読解力を養うことを目的とする。周知の通り英語で書かれた文章には様々なものがあるが、いずれの文章を読むにしても英語の文法、語彙などについてたゆまざる学習が基本にあることは言うまでもない。様々な文章を通して自由自在に英語が読める力を身につける。外国語の学習には王道は一つしかないこと、それは着実にかつ確実に学習することが不可欠であることを前提に講義を進めて行く。</p>		
講義概要	<p>講義の内容は、各講師が学生の英語力を考慮した上で適切と思われる英語教材により講義を行なう。教材は現代英語で平易に書かれた様々な種類のものを用い、講義の形態は英文の読解力を養う上で最も基本となる文章理解が中心となり、訳読、要約、文法チェックなど総合的に英語力をつけるものとする。これにより、経済学部専門書が読めることを可能とする英語の基礎力をつける。本講義では英語読解力の基礎を養うことが目的であるので、経済学部の専門書を教材とするものではない。これは本講義で学ぶ読解力と経済学の専門知識を身につけた上で各分野の専門の講師による「外書講読」で学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>使用する教材は各担当講師が「講義の目的」に沿ったものを選択し、使用する。</p>	
	参考文献	<p>参考文献は各講師の指示による。</p>	
評価方法	<p>評価方法は各講師による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>外国語学習には予習・復習が不可欠であること、また積極的に学習することが基本であることなどを念頭に入れて学習して欲しい。 年間予定は第1週時に指示する。</p>		

科目名	英語 I (会話特別)	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test would find themselves in the Advanced Conversation course. The great majority of students in this course will most likely be made up of returnees, and as such will already be competent in listening skills. More time should therefore be spent on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc.</p> <p>As the native English-speaking staff teaching here are considered to be professionals with expertise in teaching, particularly in the area of English conversation, it has been decided to give the instructors in this program the freedom to teach as they see best, but with regard to the course goals.</p>		
使用教材	テキスト	Up to the discretion of each individual instructor	
	参考文献		
評価方法	Up to the discretion of each individual instructor		
受講者に対する要望など			

科目名	英Ⅱ（一外）	担当者名	秋山 武夫（前期） 富士川和男（後期）
-----	--------	------	------------------------

前期

講義の目標	現代アメリカの諸問題を探ってみたい。かつてのアメリカは努力によって成功できるという「アメリカの夢」があったが、特に1960年代以降社会は低迷し、複雑な問題に苦しむようになった。その実状をすこしでも、深く考えてみたい。		
講義概要	テープを聞きながら、速読によって英文の内容を掴み、問題点を捕えていく。過去の歴史、文化と現代を比較し、広い視野を得るように概説する。		
使用教材	テキスト	Joan McConnell 著、雨宮 剛 編著（金星堂） <u>Understanding the United States</u>	
	参考文献	その都度、指示する。	
評価方法	出席、指名された発表、テストによる。		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	比較的平易な教材を使い、英語の構文と語感に対する習熟度を高め、基礎的な語学力の充実に努める。		
講義概要	授業は講読形式。毎回訳読を10名ぐらいの学生諸君に割り当てるので、予習を欠かさぬこと。内容的に必要とあれば、英語文化の背景など解説を加える。		
使用教材	テキスト	現在ロンドンで研修中なので、使用テキストは9月10日頃、学部掲示板で告知する。授業開始時まで購入しておくこと。	
	参考文献	期末テストと平常の授業参加による。	
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

通	主 要 テ ー マ
1	「アメリカン・ドリーム」とは？
2	豊かさの国アメリカ。
3	「人間はすべて平等に創られている」
4	偉大なアメリカの女性。
5	アメリカ人の労働倫理
6	アメリカのコンクリート・ジャングル。
7	アメリカの教育危機。
8	世界におけるアメリカの地位。
9	「アメリカン・ドリーム」はほんとうに消えたか。
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ（一外）	担当者名	近藤 ヒカル
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>この授業では、経済学部学生として必要な実用的な英語の知識を扱います。つまり学生としては海外旅行や留学、または外国人との文通等に必要な届書や手紙の書き方の知識、そして卒業し就職してからの実社会に必要な商業通信文や公文書等の書き方の知識を皆さんに知ってもらうことを目標としております。</p>	
講義概要	<p>1. まず英文を書くにあたっての句読点や略字、綴りの切り方等の、英語でどうしても知っておかなくてはならない基礎事項</p> <p>2. 手紙や諸書式（領収書、借用書、欠席届、履歴書等）、またレポートの書き方</p> <p>3. 貿易英語の知識、商業通信文の書き方――</p> <p>等を毎時間新しい項目によってつぎつぎと扱っていきます。以上の講義内容は下記の参考文献を見ていただければわかるでしょう。そして実際に学生の皆さんに手紙・書式・通信文等をレポート形式で作成してもらうことにより、身につけてもらいます。</p>	
使用教材	テキスト	<p>（すべてプリント配布します）</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『英文手紙の公式』北川大憲、ジャパンタイムス ・『英語論文とレポートの書き方』鳥居・宇山、英潮社 ・『ビジネス英語の公式』羽田三郎、ジャパンタイムス ・『貿易英語入門』石田・桜庭、実教出版 ・『貿易英語セミナー』藤田栄一、創元社 ・『国際貿易英語』鳥谷剛三、成美堂 ・『英文手紙ハンドブック』高橋盛雄・高橋寛、大盛堂
評価方法	<p>レポート、および定期試験によります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎時間新しい項目を扱いますので、出席を重視します。</p>	

科目名	英語Ⅱ（一外）	担当者名	須賀川 誠 三
-----	---------	------	---------

講義の目標	現代の若者が興味を持っているトピックー海外旅行・漫画・人気作家・人気歌手・マスメディア・交通ーなどに関する英文を読み（または聴き）、理解力を養うことを第一の目標とする。同時に、自分の考えを平明な英語で表現し、英語でのコミュニケーションが可能になるようにする。
-------	---

講義概要	上記の目標を達するために、英文の直読直解の訓練をし、速読の力を養う。また視覚的・聴覚的な面からも理解力・表現力を養うために練習問題を課す。従って、テープで英語を聴いて理解力を試す問題（小テストなど）を随時行う。 進度は、1時間1課を原則とし、年間20課を扱う予定。
------	---

使用教材	テキスト	谷口/S. Hartly: <i>Joyful English Course</i> (桐原書店) ¥1,140
	参考文献	

評価方法	前期・後期2回の試験と平常点による。出席は、重視する（年間10回以上の出席を要する）。
------	---

受講者に対する要望など	真面目に出席して、授業に熱意と興味をもつことが望ましい。受講希望者は、第一回目の授業に出席し、必ず受講承認を得ること。
-------------	---

科目名	英語Ⅱ(一外)	担当者名	原 成 吉
-----	---------	------	-------

講義の目標	第2次大戦後のイギリスが生んだ最大の文化的ヒーロー、The BeatlesのBiographyを読みながら、1960年代の時代精神と文化状況を考察する。講読中心の授業になるが、英語を日本語へ置き換えるという作業ではなく「自分の言葉」による内容理解をめざす。		
講義概要	内容理解を深めるため Audio-Visual を使いながら授業を進める。		
使用教材	テキスト	・ <i>The Beatles Story</i> (Macmillan) の他 <i>Newsweek</i> などのプリント。	
	参考文献	・ Jon Wiener, <i>Come Together : John Lennon In His Time</i> , London (Faber & Faber, 1982) ・ <i>The Beatles Lyrics Illustrated</i> (Dell Publishing Co., Inc.)	
評価方法	授業への参加度と年2回の定期試験による。		
受講者に対する要望など	最初のクラスで英語力診断テストを行うので、受講希望者は必ず出席のこと。年間講義予定は診断テストの結果を考慮しながら進める。		

科目名	英語Ⅱ（一外）	担当者名	宮川 淑
-----	---------	------	------

講義の目標	英字新聞の主として経済記事の読み方を身につけ、同時に日本および世界の今日の経済問題について理解を深める。		
講義概要	テキスト掲載の新聞記事を訳読しつつ、解説も加える。		
使用教材	テキスト	<i>News Flash, Summer 95</i> 他 (Macmillan)	
	参考文献		
評価方法	日常の授業への参加および年2回の試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Sarin on subways kills 63,221 hurt on 3 Tokyo lines
2	Aoshima wins Tokyo governorship
3	U. S., partners set up nuclear consortium
4	Fujimori wins second term in Peru
5	Nomo makes historic debut
6	Discount rate cut to record low 1%
7	Dollar plunges below ¥80
8	Japan-US auto trade talks fail
9	CHIRAC CAPTURES FRENCH PRESIDENCY
10	ASAHARA CAPTURED IN BUNKER
11	96年春発売のテキスト掲載の記事
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	96年春夏発行の News Flash 掲載の記事を順次読む。 2週以下に継続する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語Ⅰ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基本的な知識を復習しながら、さらに確かなものにします。
-------	-----------------------------------

講義概要	この科目は、二人の担当者により週2コマ開講されます。授業の進め方などの詳細については、第一回目に各担当者から説明がありますので、必ず出席してください。
------	---

使用教材	テキスト	各担当者による。
	参考文献	辞典や参考書については、直接担当者に相談してください。

評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。
------	-------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

科目名	フランス語Ⅱ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語による会話能力を高める。 ・文法の知識を深め、より高度なテキスト読解力を身につける。 		
講義概要	<p>フランス語Ⅱ（一外）は、フランス人担当者による会話クラスが週1コマ開講されます。第二学年でフランス語を履修する場合には、このクラスに出るようにしてください（この授業はフランス語Ⅲを読み替えます。授業の詳細については、シラバスのフランス語Ⅲを参照してください）。なお、外国語学部フランス語学科では、フランス語Ⅱの「文法」と「講読」のクラスが週に計8コマ開講されます。会話の他にさらに履修を希望する場合には、この中から選ぶようにしてください。</p>		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	参考書については、担当者に直接相談してください。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	会話クラスの授業の進め方などについて、第一回目に担当者から説明がありますので、必ず出席してください。		

科目名	ドイツ語Ⅰ(二外)	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>ⅠA(基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>ⅠB(読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>ⅠC(口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p> <p>ⅠAを中心に、ⅠAとⅠB、またはⅠAとⅠCというように組み合わせて履修して下さい。</p>	
	<p>ⅠA(基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>ⅠB(読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>ⅠC(口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。</p>	
使用教材	テキスト	各担当者により使用テキストが異なります。詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。
	参考文献	・独和辞典(中型のもの)
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。	
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。
2	第2週～第12週 テキストに基づいた練習
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週～第12週 テキストに基づいた練習
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語 II (二外)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>II A (読解練習=ノンフィクション) } /ドイツ語 I で修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。</p> <p>II B (読解練習=フィクション) }</p> <p>II C (口頭練習) /基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。</p>		
講義概要	<p>II A (読解練習=ノンフィクション)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ドイツの政治・経済・社会・地誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。 </div> <p>II B (読解練習=フィクション)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 小説・童話・説話・小話などのフィクションを教材とします。 </div> <p>II C (口頭練習) /場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。</p> <p style="margin-left: 20px;">/最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。</p>		
使用教材	テキスト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典 (中型のもの)、ドイツ語 I で使用したテキスト。	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト(各自持参)及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2	2-7、8週 文法の復習、未修事項の学習を行います。
3	
4	
5	
6	
7	
8	徐々に、ドイツ語ⅡA・Bではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡCでは口頭練習に入ります。
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1週～12週 ドイツ語ⅡA・Bはテキストの読解練習、ドイツ語ⅡCは口頭練習を行います。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語Ⅲ（二外）	担当者名	山本 淳
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>【ドイツ語セミナー】</p> <p>ひとコマの授業を二つの部分に分け、それぞれ以下の点を目標とします。</p> <p>①できるだけ平易なドイツ語で書かれた現代ドイツ社会に関するテキストを読み、社会的なテキストにおけるドイツ語の表現・語彙に慣れると同時に、今日のドイツ社会がどのような顔を持ち、またどのような問題を抱えているかを知る。引き続きセミナー形式で、それぞれのテーマにつき日本と比較しながら検討を加える。</p> <p>②「聞き、話す」練習を中心に、ドイツ語による基本的な会話表現を習得する。</p>		
講義概要	<p>授業の三分の二程度を、現代ドイツ社会に関するドイツ語テキストの読解および検討にあてます。受講者の専門を考慮に入れ、政治・経済・社会に関するアクチュアルなテーマを扱った新聞・雑誌等の記事（できるだけ平易なもの）を教材として用います。ただ読み進めるだけではなく、受講者のみなさんと共に、様々な観点からテキストに対する批判的検討を行いたいと考えています。</p> <p>授業の残り三分の一は、ドイツ語による基本的な会話表現の練習にあてます。これまでに身につけてきたドイツ語を、コミュニケーションのためのドイツ語へと少しでも発展させられるよう、テープ等を使い実践的な演習を行います。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配布します。	
	参考文献	その都度指示します。	
評価方法	前・後期末各1回の定期試験と授業への参加度により決定します。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代ドイツ社会に関するドイツ語テキストの読解・検討。／ドイツ語による基本的な会話表現の練習。
2	以下同じ。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (二外)	担当者名	児嶋 一男
-----	-----------	------	-------

講義の目標	きわめて初歩的な読解力を養成する。		
講義概要	平易な英文を読みながら、英語の基本事項の理解につとめる。		
使用 用 教 材	テキスト	プリント使用。	
	参考文献	そのつど指示する。	
評価方法	小テスト、前・後期の試験、レポートなど。		
受講者に対する 要望など	最初の授業時間に能力試験をして、きわめて初修という受講生に限定する。 年間予定は、第1週時に指示する。		

科目名	英語 I (二外)	担当者名	珍 田 弥一郎
-----	-----------	------	---------

講義の目標	英語の基本的な読み方を習得する。発想と表現という観点からテキストを読みたい。		
講義概要	<p>テキストの内容は以下の通り。再話ものである。</p> <p>(1) <i>Wakefield</i> by Nathaniel Hawthorne</p> <p>(2) <i>The Murders in the Rue Morgue</i> by E. A. Poe</p> <p>(3) <i>The Aspern Papers</i> by Henry James</p> <p>(4) <i>Adventure on Bolinas Plain</i> by Bret Harte</p> <p>(5) <i>To Build a Fire</i> by Jack London</p> <p>(6) <i>The Tell-Tale Heart</i> by E. A. Poe</p>		
使用教材	テキスト	SIX AMERICAN STORIES (編注者 大川浩) 北星堂書店	
	参考文献		
評価方法	授業への参加度と前後期の試験。		
受講者に対する要望など	出席を重視する。		

科目名	英語Ⅱ（二外）	担当者名	高橋 博
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>最近では文字からの情報ばかりでなく、テレビを通して同時に視覚と聴覚に訴える情報が多くなっている。そうした時代にあって、英語学習面でも、「時代のマスメディア」に対応できる準備をしておくことは、きわめて重要である。</p> <p>この講座はその準備段階のワンステップと考えてほしい。アメリカのみならず、世界各国の政治・経済・外交・環境保護からスポーツにいたる多方面の英語ニュースの理解力を深めるとともに、英語のセンスを養うために基本的な表現形式を修得することを目標とする。</p>
講義概要	<p>アメリカの三大ネットワークのひとつ、ABC放送の人気ニュース番組 'World News Tonight' から、世界各国の興味深いトピックスを集めたビデオをできるだけ多く視聴する。さらに各ニュースに用意された語彙・リスニング・内容把握・作文などに関する練習問題にも取り組み、総合的な英語力の向上をはかりたい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p><i>T. V. News From the U. S. A.</i> (金星堂) を用いるが、担当者がコピーを用意する。</p>
	<p>参考文献</p> <p>開講時に指示する。</p>
評価方法	<p>前・後期の定期試験、レポート、出席状況、平常点などで総合的に判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>語学に意欲的な学生の受講を希望する。</p>

科目名	英語Ⅱ（二外）	担当者名	吉元清彦
-----	---------	------	------

講義の目標	世界的によく読まれてきている著名な作家たちの、英語で書かれた珠玉のような短篇作品を読みながら、そこから何が読みとれるか、そしてその読みとれることについてどのように考えることができるのか、等々、つまり作家たちが提示してくるさまざまな人間像・時代像・世界像を、はたしてわれわれはどう受けとめるのかといったような視点から、いろいろな問題を考え、論じあってゆきたい。		
講義概要	下記テキストに収録されていてわれわれが取り組む作家・作品名は次の通りである—— E. Caldwell: "The Strawberry Season"/W. Saroyan: "The First Day of School"/ W. C. Williams: "The Use of Force"/S. Anderson: "Sophistication"/E. Hemingway: "The End of Something"/D. Parker: "The Last Tea"/J. Joyce: "Eveline"/G. Greene: "The Invisible Japanese Gentlemen"/W. S. Maugham: "The Happy Man"/K. Mansfield: "An Ideal Family"		
使用教材	テキスト	<i>Collected Modern Short Stories ; Second Series : Love and Youth</i>	
	参考文献		
評価方法	平常点（毎授業時間内の発表および前後期各2・3回実施予定の小テスト）と各学期末実施の定期試験の成績とを総合して評価する。		
受講者に対する要望など	なにはともあれ、予習にはたっぷり時間をかけてやってくるとタノシイひとときを共有できることうけあい。		

科目名	フランス語 I (二外)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎文法を習得し、簡単なテキストを読む力をつけます。		
講義概要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による（場合によっては、二人の担当で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認してください）。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、必ず購入してください。 ・教科書の末尾にはたいてい動詞活用表が掲載されていますが、より詳細なものも出版されていますので購入するとよいでしょう。その他の参考書については、担当者に直接相談してください。 	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に對する要望など	どの学習でもそうですが、とりわけ語学においては持続的な積み重ねが重要です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力してください。		

科目名	フランス語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講義概要	フランス語Ⅱ（二外）は、二人の担当者がそれぞれ週1コマずつ開講しますので、自由に選んで履修するようにしてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	参考書については、担当者に直接相談してください。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席してください。		

科目名	フランス語Ⅲ（二外）	担当者名	M. Carton
-----	------------	------	-----------

講義の目標	フランス語会話をつうじて、フランス語の多様な表現を身につける。		
講義概要	フランス人担当者による週1コマの会話クラスです。このクラスは、第1外国語あるいは第2外国語として、フランス語を既に2年間学習した人たちを対象とします。また経済学部第2学年で、第1外国語としてフランス語を履修する人たちもこのクラスに参加します。第1回目の授業では、参加者のフランス語のレベルを見て、それに合わせて授業の進め方などを決めますので、参加希望者は必ず出席するようにしてください。		
使用 用 教 材	テキスト	担当者から説明があります。	
	参考文献		
評価方法	評価方法については担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など			

科目名	スペイン語Ⅰ（総合）（二外）	担当者名	各担当者
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。</p>		
講義概要	<p>テキストにそって、第6課（点過去）まで進む。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>i Hola, amigos!</i>（芸林書房）</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。および小テストがある場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ（会話）との同時履修を望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第1課から第3課まで前期でおこなう。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第4課から第6課まで後期でおこなう。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（二外）	担当者名	各担当者
-----	----------------	------	------

講義の目標	スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。		
講義概要	スペイン語Ⅰ（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> （芸林書房）	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅰ（総合）との同時履修を望む。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第1課から第3課まで (前期)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストにそって第4課から第6課まで (後期)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（二外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（総合）の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形（単純過去と不完了過去）の活用とその使い方がポイントである。</p>		
講義概要	<p>テキストにそって、第6課以降を学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Los mejores momentos</i></p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ（会話）との同時履修を望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第6課から9課まで.
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第10課から第12課まで
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（二外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（会話）の二年目の授業である。スペイン語Ⅱ（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Los mejores momentos</i></p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ（総合）との同時履修を望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第6課から第9課まで (前期)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト第10課から第12課まで (後期)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅲ（講読）（二外）	担当者名	假名垣 宏
-----	----------------	------	-------

講義の目標	スペイン語の読解力を養うと同時に、スペインの歴史、文化およびその特質を体系的に理解させることを講義の目標とする。		
講義概要	まず、16世後から20世紀に至る「歴史の浮き沈み」から読みはじめる。叙述は「黄金世紀」に始まり、「ラテンアメリカ諸国の独立」「1936年の内戦」「フランコ体制」等を経て現代に至る。後期はスペインの代表的な文化を取り扱い、「エル・エスコリアル宮殿」「エル・グレコ」「セルバンテスとドンキホーテ」「ゴヤ」といった項目に移っていく。		
使用教材	テキスト	「Visión de ESPAÑA」 Enrique R. Ayúcar 著	
	参考文献	「スペイン帝国の興亡 1469-1716」 J.H. エリオット著 藤田一成訳 岩波書店 「概説スペイン史」 立石博高・若松 隆編 有斐閣選書 「新スペイン内戦史」 川成 洋・渡辺哲郎著 三省堂選書 「マニエリスム芸術論」 若桑みどり著 ちくま学芸文庫 「バロックの愉しみ」 荒俣 宏著 筑摩書房	
評価方法	前期・後期ともに辞書持込みで筆記試験を行なう。試験問題はテキストから2題、応用問題1題から成る。		
受講者に対する要望など	一般的な傾向として、当っている学生はしっかり予習してくるが、その他の学生も予習を怠らず、積極的に授業に参加してもらいたい。		

科目名	スペイン語Ⅲ（総合）（二外）	担当者名	佐藤 勘治 J. L. Velasco
-----	----------------	------	------------------------

講義の目標	西Ⅱ（総）の継続の授業である。スペイン語を学んでから三年目以上の学生を対象として、Modern Spanish を継続してテキストとして使いスペイン語会話力の一層の向上を目標にする授業である。新しい文法項目についても、会話を通して学ぶことになる。		
講義概要	Modern Spanish をテキストに、Unit 13以降、6課以上進みたいと思う。随時、既出事項の復習もおこなう。		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加と、年二回のテスト。小テストをおこなうこともある。		
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅱ既修者は履修をぜひ考えていただきたい。英語学科二外との合併授業である。テキストが異なるので、なれるまでに時間が必要であるが、文法事項についてはほぼ同じに進んでいる。また、復習に重点をおきながら進めることになるので心配はない。		

科目名	スペイン語Ⅲ (L.L) (二外)	担当者名	佐藤 勘 治
-----	-------------------	------	--------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅱの続きの授業である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅲ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅲ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ・スペインニュース等を通して生きたスペイン語の世界に触れ、聞き取りの練習に役立てる。進度については、スペイン語Ⅲ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ既修者は履修をぜひ考えていただきたい。英語学科二外との合併授業である。テキストが異なるので、なれるまでに時間が必要であるが、文法事項についてはほぼ同じに進んでいる。また復習に重点をおきながら進めることになるので心配はない。</p>		

科目名	ロシア語Ⅰ（文法）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>単語の活用が多く一見取っつきにくいロシア語の骨組みを、文法を通してつかみ、少しでもロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としており、キリル文字（アルファベット）、発音から始めます。文法の教科書にしたがって名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形などを中心に学び、最も基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりていねいに進めます。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社） 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『博友社ロシア語辞典』 	
評価方法	<p>前後期各一回の試験、各課終了時の単語試験及び授業への出席の度合によって決定します。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明、ロシア語の簡単な歴史、及びキリル文字（アルファベット）の発音について学ぶ（プリント教材）。
2	キリル文字での単語の綴りの練習を行なう。ごく基本的な単語の発音の練習を行なう。
3	基本的な平叙文と疑問文(1)の説明及び練習問題1と2を行なう（教科書第1課）
4	基本的な平叙文と疑問文(2)の説明。名詞の性について説明する（教科書第2課）
5	文字と発音(3)。動詞の不定形と現在人称変化（第一変化）を学ぶ（教科書第3課）。
6	子音の同化、硬音記号と軟音記号を含む発音（教科書第3課）。
7	名詞の複数形、正書法の規則を学ぶ（教科書第4課）。
8	所有代名詞、名詞の格変化の練習問題を解く（教科書第4課）。
9	形容詞の性・数変化、動詞の現在人称変化（第二変化）を学ぶ（教科書第5課）。
10	前置格の用法を学ぶ（教科書第6課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	過去時称形を学ぶ（教科書第7課）。
2	生格の用法を学ぶ（教科書第7課）。
3	所有の表現とその否定の用法を学ぶ（教科書第7課）。
4	対格の用法を学ぶ（教科書第8課）。
5	運動・動作の目標の用法を学ぶ（教科書第8課）。
6	与格の用法を学ぶ（教科書第8課）。
7	未来形を学ぶ（教科書第9課）。
8	造格の用法を学ぶ（教科書第9課）。
9	人称代名詞の格変化、不定人称文を学ぶ（教科書第10課）。
10	形容詞の格変化を学ぶ（教科書第10課）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅰ（講読）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	複雑な構造のロシア語の骨組みを、購読を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。		
講義概要	全くの初学者を対象としています。前期は文法の授業と並行して文法の教科書にしたがって進め、名詞の格変化、動詞の現在人称変化がおおよそ理解できるようにします。後期は前期で学んだ文法知識の応用として簡単なテキストによる購読を行ない、基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりといねいに進めます。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献	・『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	前後期各一回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。キリル文字の発音を学び、筆記体を習得する（プリント教材）
2	文字と発音（1）、アクセント、基本的な平叙文と疑問文（1）（教科書第1課）
3	文字と発音（2）、硬子音と軟子音、基本的な平叙文と疑問文（2）（教科書第2課）
4	名詞の性を説明し、練習問題1と2を解いてみる。（教科書第2課）
5	動詞の不定形と現在人称変化（第一変化）を学ぶ（教科書第3課）。
6	動詞の不定形と現在人称変化の練習問題（教科書第3課）。
7	所有代名詞、名詞の格変化を学ぶ（教科書第4課）。
8	指示代名詞、形容詞の性・数変化を学ぶ（教科書第5課）。
9	形容詞の性・数変化、動詞の現在人称変化（第2変化）の練習問題を解く（教科書第5課）。
10	場所の用法を学び、練習問題を解く（教科書第6課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	簡単なテキストの購読を行なう（教科書 p. 57）。
2	簡単なテキストの購読を行なう（教科書 p. 58）。
3	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
4	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
5	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
6	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
7	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
8	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
9	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
10	簡単なテキストの購読を行なう（プリント教材）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（会話）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	日常生活で使われる基本的な構文からより複雑な構文まで会話を通して学び、これらの構文がスムーズに表現できるようになることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰ（文法、講読）を昨年履修した学生を対象とします。テキスト（プリント教材）にしたがって、自己紹介、あいさつから始め、道の尋ね方、電話での会話など様々な状況での会話を学び、ロシア語に特徴的なさまざまな表現を使いこなせるようにします。		
使用 用 教 材	テキスト	プリント教材（『ロシア語集中講義』、ステパーノヴァ、チェボタリョフ共著）	
	参考文献	・博友社ロシア語辞典	
評価方法	前後期各一回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。自己紹介に関する表現について学ぶ(テキスト第1課)。
2	あいさつに関する表現について学ぶ(テキスト第1課)。
3	あいさつに関する表現の続きを学ぶ(テキスト第1課)。
4	年齢、家族構成に関する表現について学ぶ(テキスト第1課)。
5	ホテルにおける表現について学ぶ(テキスト第2課)。
6	ホテルにおける表現の続きを学ぶ(テキスト第2課)。
7	値段に関する表現について学ぶ(テキスト第2課)。
8	レストランにおける表現について学ぶ(テキスト第2課)。
9	場所の表現について学ぶ(テキスト第3課)。
10	場所の表現について引続き学ぶ(テキスト第3課)。
11	道をたずねるときの表現について学ぶ(テキスト第3課)。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	郵便局における様々な表現について学ぶ(テキスト第4課)。
2	郵便局における様々な表現について引続き学ぶ(テキスト第4課)。
3	電報の打ち方について学ぶ(テキスト第4課)。
4	電話に関する様々な表現について学ぶ(テキスト第4課)。
5	買物に関する様々な表現について学ぶ(1)(テキスト第5課)。
6	買物に関する様々な表現について学ぶ(2)(テキスト第5課)。
7	買物に関する様々な表現について学ぶ(3)(テキスト第5課)。
8	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(1)(テキスト第6課)。
9	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(2)(テキスト第6課)。
10	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(3)(テキスト第6課)。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（総合）（二外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	ロシア語Ⅰ（文法）に引続きロシア語文法を中心に学び、基本的な構文よりさらに複雑な構文を解説し、使いこなせるようになることを目標とします。
-------	--

講義概要	ロシア語Ⅰ（文法・購読）を昨年履修した学生を対象とします。ロシア語の重要な概念のひとつである動詞の体（完了体、不完了体）を中心に、命令法、無人称文、定動詞、不定動詞などを学び、ロシア語に特徴的な表現を正確に理解し、使いこなせるようにします。
------	--

使用教材	テキスト	・桑野隆著『はじめてのロシア語』白水社
	参考文献	・『博友社ロシア語辞典』

評価方法	前後期各一回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。
------	-------------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。ロシア語の極めて重要な概念である動詞の体（完了体、不完了体）について解説する（教科書第11課）。
2	動詞の体（完了体、不完了体）の過去形及び未来形について更に学ぶ（教科書第11課）。
3	第2唇音変化及び歯音変化について学ぶ（教科書第11課）。
4	動詞の体（完了体、不完了体）、第2唇音変化及び歯音変化を使った文章を読む（教科書第11課）。
5	命令法について学び、命令法で書かれた文章を読む（教科書第12課）。
6	形容詞の短語尾形について学び、形容詞の短語尾形で書かれた文章を読む（教科書第12課）。
7	無人称文について学ぶ（教科書第12課）。
8	個数詞の表現について学ぶ（教科書第13課）。
9	時間の表現について学ぶ（教科書第13課）。
10	年数・年齢の表現について学ぶ（教科書第13課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	定動詞と不定動詞について学ぶ（教科書第14課）。
2	定動詞と不定動詞から派生する完了体と不完了体について学ぶ（教科書第14課）。
3	1人称命令法について学ぶ（教科書第14課）。
4	形容詞の比較級について学ぶ（教科書第15課）。
5	形容詞の最上級について学ぶ（教科書第15課）。
6	関係代名詞の用法について学ぶ（教科書第15課）。
7	仮定法について学ぶ（教科書第16課）。
8	接続詞について学ぶ（教科書第16課）。
9	形動詞について学ぶ（教科書第16課）。
10	副動詞について学ぶ（教科書第16課）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅲ（総合）二外	担当者名	井上幸義
-----	-------------	------	------

講義の目標	ロシアにおける社会生活、経済などに関する記事やテキストの講読を通して基本的な構文から、より複雑な構文まで正確に解読し、使いこなせるようになることを目標とします。	
講義概要	ロシア語Ⅱを履修した学生を対象とします。社会生活、経済などに関するさまざまなプリント教材（新聞雑誌等）を講読し、これまで学んできた文法の概念（完了体・不完了体、命令法、無人称文、定動詞、不定動詞、関係代名詞、形動詞、副動詞等）が実際のテキストの中でどのように使われているかを確認しながらできるだけ正確に解読できるようにします。テキストは教師作成のプリントを使い、簡単なものから少しずつ複雑なものへと段階的に移行させていきます。講義はゆっくりといねいに進めます。	
使用教材	テキスト	教師配布のプリント教材
	参考文献	博友社ロシア語辞典
評価方法	前後期各一回の試験及び授業の出席の度合によって決定します。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。簡単なテキストの講読を行なう（昨年文法の授業で使用した「はじめてのロシア語」（白水社）の付録部分「読みもの」を講読するので持参すること）。
2	簡単なテキストの講読を行なう（昨年文法の授業で使用した「はじめてのロシア語」（白水社）の付録部分「読みもの」を講読するので持参すること）。
3	新聞雑誌記事から簡単なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
4	新聞雑誌記事から簡単なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
5	新聞雑誌記事から簡単なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
6	新聞雑誌記事から簡単なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
7	新聞雑誌記事から簡単なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
8	新聞雑誌記事から少し複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
9	新聞雑誌記事から少し複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
10	新聞雑誌記事から少し複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
11	新聞雑誌記事から少し複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
2	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
3	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
4	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
5	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
6	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
7	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
8	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
9	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
10	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
11	新聞雑誌記事から複雑なものを選んで講読を行なう（教師配布のプリントを使用）。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	青木雅明
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>①長い経済英文に対する恐怖心を払拭する。</p> <p>②英和辞典を引く習慣をつける。</p> <p>③英語の経済用語と構文に慣れ親しむ。</p> <p>④米欧の経済専門家が日本経済について書いた英文の記事や論文を読み、理解できるようになる。</p> <p>⑤英語を通じて日本経済を理解できるようになる。</p>	
講義概要	<p>①下記テキストの「第1章 日本概観」および「第2章 日本経済」から重要経済用語を選んで解説する。</p> <p>②同じテキストの「第4章 日本の金融制度」を輪読する。毎回受講者は英和辞典、英文経済用語辞典等を引いて予習したうえで出席する（テキストの講義部分はあらかじめコピーして配布する）。</p>	
使用教材	テキスト	・ T. Pepper, M. E. Janow, and J. W. Wheeler ; <i>The Competition : Dealing With Japan</i> (New York : Praeger, 1983)
	参考文献	
評価方法	<p>次のものを総合評価する。</p> <p>①出席と遅刻</p> <p>②講義における意欲と到達度</p> <p>③2回の学期末テストの得点</p>	
受講者に對する要望など	<p>①欠席しない。②遅刻しない。③おしゃべりをしない。④予習する。</p>	

科目名	外国書研究 I	担当者名	伊藤正昭
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>1年間という短い期間で成果をあげるのはなかなか難しいが、使用予定のテキストを使って、外国の経済文献に接することに慣れ、「経済学をとおして英語を学ぶ姿勢」を身につけることを目標としたい。また、文献から、われわれの発想とは異なるところを発見することであろう。著者達の考え方に触れることで、自分の発想法や観察力を豊かにすることに役立つことを期待したい。</p>		
講義概要	<p>先進国では、いずれの国でも経済活力の低下に悩んでいる。大企業は、リストラクチャリングに積極的に取り組み、コア・アクティビティ (core activity、中核的事業) へ資源を集中的に投入することによって再生をはかろうとしている。また、ハイテク分野のベンチャー・ビジネスも数多く生まれ、今後の経済活力の行方を占う存在になってきた。</p> <p>こうした時代を背景にテキストを輪読したい。使用予定のテキストは、経済における企業の役割があらためて問い直されている様子、企業家精神 (entrepreneurship) の重要性、中小企業から大企業に成長する条件や障害などについて、企業を中心として複数の著者が論じたものである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Robert Goffee and Richard Scase; <i>Corporate Realities-The Dynamics of Large & Small Organisations-</i>, Routhledge, 1995 (使用予定)。</p>	
	参考文献	<p>・ 長谷川啓之編『英和・和英 経済用語辞典』富士書房 ・ 長谷川啓之編『英和経済用語辞典』富士書房</p>	
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。出席もポイントに加えることもあります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回、英和辞書を持参してください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス (講義の進め方についての説明)
2	1 The Traditional Entrepreneurial Firm <i>Why do people start their own business?</i>
3	<i>Organisational structure and management style</i>
4	<i>Organisational issues</i>
5	2 Managing The Creative and Professional Small Business <i>Organisational structure and management style</i>
6	<i>Organisational issues</i>
7	3 From Small to Large : Entrepreneurial Growth <i>Barriers to growth</i>
8	<i>Routes for growth</i>
9	<i>Organisational issues</i>
10	4 Manufacturing Organisations <i>The Fordist model</i>
11	<i>The post-Fordist model</i>
12	<i>Organisational issues</i>
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	5 The Administrative Organisation <i>Organisational structure and management style</i>
2	<i>Staffing administrative service corporations : employees and their rewards</i>
3	<i>Organisational issues</i>
4	6 Trends in the Consumer Service Enterprise <i>Organisational structure and management style</i>
5	<i>Organisational issues</i>
6	7 Transition in the Professional Service Organisation <i>Organisational structure and management style</i>
7	<i>Staffing professional service organisations : employees and their rewards</i>
8	<i>Organisational issues</i>
9	8 Towards adhocratic and Network Structures <i>Organisational structure and management style</i>
10	<i>Staffing the network organisation : employees and their rewards</i>
11	<i>Organisational issues</i>
12	まとめ
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	井出 健二郎
-----	--------	------	--------

講義の目標	<p>皆さんが、通常講義で学習している“経営学 (Management)”や“会計学 (Accounting)”などは、それぞれに専門の用語や特有の用語また知っておかなければならない言葉があります。それらは英語でどのように呼ぶ(呼ばれる)のでしょうか？</p> <p>本講義では、皆さんが受験単語をおぼえたように、ビジネス英単語をマスターしてもらおうと同時に、それらのビジネス英単語の意味内容について学習していきます。</p>		
講義概要	<p>“経営学 (Management)”と“会計学 (Accounting)”に関する入門用の英書をもとに輪読し、以下のように進行していく予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テクニカルタームを皆さんに明らかにしてもらいます。 (2) テクニカルタームについて解説します。 (3) それをもとにして、英文を皆さんに解釈してもらいます。 (4) その解釈について、必要とあれば補足・修正の説明を行なっていきます。 		
使用教材	テキスト	<p>“Management”と“Accounting”の入門書を取りあげ、開講時また進度に応じて、プリントを配布していきます。</p>	
	参考文献	<p>英和経営・会計用語辞典などを補助として手元において用いると、予習あるいは講義の理解に役立つものと考えます。</p> <p>(そのいくつかについては、開講時に紹介します。)</p>	
評価方法	<p>定期試験(前期・後期)・(出席)・(レポート)を総合評価していくつもりです。評価配点としては、試験40%、出席40%、レポート20%を予定しています。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できる限りわかりやすい講義しかもできる限り皆さんの進度に合わせて進めていきますので、皆さんも“この講義は良かった”と満足感を味わえるように頑張ってください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今後の講義にあたってのガイダンス
2	The Importance of Management
3	Management Defined
4	Management Decision Making
5	The Basic Functions of Management
6	Planning
7	Organizing
8	Directing
9	Controlling
10	Management Responsibilities
11	Sources of Knowledge about Management
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Accounting Vocabulary 1
2	Accounting Vocabulary 2
3	What Is Accounting?
4	Users of Accounting Information
5	The Development of Accounting Thought
6	Types of Business Organizations
7	Accounting Concepts and Principles
8	The Accounting Equation
9	Accounting for Business Transactions
10	Evaluating Business Transactions
11	Financial Statements
12	後期のまとめ
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	氏原茂樹
-----	---------	------	------

講義の目標	①会計情報に関する英文の記事や論文の読解力をつける。 ②英語の会計用語と構文に親しむ。 ③欧米と我国の会計情報の比較研究の展開。		
講義概要	①毎回テーマにそって、一定の範囲を輪読する。 ②主要な概念、問題点については、その都度解説する。 ③受講者は、その時に割り当てられた順番で訳す。		
使用教材	テキスト	『Accounting The Easy Way』、その他の配布資料による。	
	参考文献	『International Accounting Standard』 経済用語辞典 会計用語辞典	
評価方法	下記の事項を参考にして総合的に評価する。 ①定期試験 ②学習意欲と学習成果 ③出席状況		
受講者に対する要望など	①遅刻をしない ②予習・復習をする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	What Is Accounting?	The Art of Recording.
2	Accounting Information	The Financial Status
3	What Are Assets?	Money Value, etc.
4	The Value of Items	Monetary Principle
5	Accounting Equation	Assets = Liability + Capital
6	What Are Profit?	Revenue - Expenses = Profit
7	Recording Revenue	A Result of the Sale
8	Recording Expenses	Cost of Doing Business
9	Capital	Permanent Capital, Temporary Capital
10	Financial Statements	Income Statement, Balance Sheet, etc.
11	Income Statement	Listing of the Revenue and Expenses
12	Statement of Capital Balance Sheet	The Proprietor's Ownership Financial Position of a Business
備考		

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	Classifying Assets	Current Assets, Intangible Assets, etc.
2	Classifying Liabilities	Current or Liabilities
3	Business Transactions	Related to Business Activities
4	Kinds of Information	Date, Explanation and Amount
5	The Ledger Binder	A Recording of Account
6	Standard Form of the Account	The "T" Account, etc.
7	Ledger Accounts	- Showing of Balance
8	Recording Asset Changes	Calculating of Asset Accounts
9	Recording Changes	In Liability Accounts, etc.
10	Recording Transactions	In Temporary Capital Accounts, etc.
11	Double-Entry Accounting	Rules and Concepts
12	Standard Form for the Ledger Account Recording Business Transactions	Debit and Credit Journal and Ledger Account
備考		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	岡下 敏
-----	--------	------	------

講義の目標	英文に親しみ、将来社会に出て国際人として活躍できる下地をつくることを目標とする。		
講義概要	私の専門は会計学です。そのため教材として会計学に関するものを選びましたが、内容は会計学の基礎を身につけていなければ理解できないというものではありません。経済学を学んだ者にとっては、誰もが理解できるものと思います。教材はプリントして全員に配布します。これを使って輪読形式ですすめたいと思います。適宜用語及び内容について解説いたします。		
使用教材	テキスト	L. Golderg and V. R. Hill, The Elements of Accounting, Melbourne Univ. press.	
	参考文献		
評価方法	受講者数にもよりますが、平常点を重視し、それと期末試験の結果をもって評価します。		
受講者に対する要望など	予習は十分に行い、専門用語も自分で調べることを希望します。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	犬井 正
-----	---------	------	------

講義の目標	英文テキスト <i>Environmental Hazards</i> をテキストとして用い、世界の災害・環境問題の種類、分布、影響などについて理解をする。		
講義概要	世界の災害・環境問題に関する英文テキストを輪読し、災害・環境問題が生態・経済・文化に与えている影響を読みとる。シラバスに沿って進行させていくが、テキストの輪読に終了するのではなく、討論や作業などをまじえながら講義をすすめていく。		
使用教材	テキスト	・ Chris C. Park (1992); <i>Environmental Hazards</i> , Nelson.	
	参考文献	随時提示する。	
評価方法	試験またはレポートによる。		
受講者に対する要望など	環境・災害問題などに興味・関心を持ち、常時出席が可能な勤勉な学生に限る。 「経済地理演習」を履習する予定者は、本講義を履習しておくことが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行う。
2	Hazards-concept and context (1)
3	Hazards-concept and context (2)
4	Hazards-concept and context (3)
5	Spacial variability and human persistence (1)
6	Spacial variability and human persistence (2)
7	Spacial variability and human persistence (3)
8	Project work (1)
9	Hazard forecasting and risk assessment (1)
10	Hazard forecasting and risk assessment (2)
11	Hazard forecasting and risk assessment (3)
12	Project work (2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Perception of hazards and extreme events (1)
2	Perception of hazards and extreme events (2)
3	Experiencing hazards (1)
4	Experiencing hazards (2)
5	Adjustment to hazards (1)
6	Adjustment to hazards (2)
7	Project work (3)
8	The human impact (1)
9	The human impact (2)
10	Hazards-present and future prospects (1)
11	Hazards-present and future prospects (2)
12	Project work (4)
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	岡田 博
-----	---------	------	------

講義の目標	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を一層深めてもらうことを目標におく。		
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマにオーエンの上記テキストを読んでいく。		
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.	
	参考文献		
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。		
受講者に対する要望など	次週の授業で進む範囲を指示するので、毎週指示された範囲のところを予め訳してきて、それを提出させる。欠席の多い人には単位を与えない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

『Transportation and World Development』の中の7章 Global System Strategies を読んでいく。

後 期

前期に引続き、Transportation and World Development を読解していく。

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	奥山正司
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>様々な社会において、人種差別や性差別と並んでエイジズム（年齢差別）がどのようなかたちで浸透しているのかを学ぶ。ほとんどの人々は、おそらく、人種差別や性差別と異なって、エイジズムということばさえ知らない。しかし、米国や日本だけでなく、数多くの国々では、高齢者に対する偏見や差別が深く浸透している。米国研究者のエイジズムに関する資料を題材にして、これらのことについて、考える力を身につける。</p>
講義概要	<p>社会のありかたによって、高齢者の処遇は異なっているが、具体的には、高齢者の優遇策や否定的な処遇は、経済社会の動きや人口高齢化の進展といかに密接に関連しているのか。また、どのような社会において、どのようなエイジズムがみられるのかを学ぶ。授業は、エイジズムに関する分かりやすい論文を輪読しながら、討論し、講義を進めていく。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Erdman B. Palmore; <i>Ageism: Negative and Positive</i>, (1990) ・ Springer Publishing Company, New York <p>参考文献</p>
評価方法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	エイジズムの形態
2	年齢の意味
3	個人的原因
4	社会的影響
5	文化的原因
6	エイジズムの結果
7	経済におけるエイジズム
8	政府におけるエイジズム
9	家族におけるエイジズム
10	住宅及び健康政策にみられるエイジズム
11	エイジズムの解消につけて
12	
備考	

科目名	外国書研究 I A	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-----------	------	--------

講義の目標	<p>内容の理解速度に慣れる。 用語を学ぶ。</p>		
講義概要	<p>経済学の展開概要。 用語に慣れその意味を理解するため必要に応じて適宜講義する。</p> <p>前期は用語とその内容にかんする講義もおこなう。 後期は読解内容と速読中心。</p>		
使用教材	テキスト	The Age of the Economist	
	参考文献	必要に応じて適時適当な教材をコピーして配布	
評価方法	用語の慣れ、内容の理解の程度		
受講者に対する要望など	用語と内容の理解を重視		

科目名	外国書研究 I B	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-----------	------	--------

講義の目標	<p>内容の読解速度をすすめること。 用語に慣れること。</p>		
講義概要	<p>初期経済学教科書に中心的にあらわれる用語やモデルを適時講義する。 前期は用語とその内容にかんする講義もおこなう。 後期は読解内容と速度中心。また問題を解くこともふくめる。</p>		
使用教材	テキスト	PRINCIPLES OF ECONOMICS-Theory and Problems- (Schaum's)	
	参考文献	必要に応じて、適当な教材をコピーして配布	
評価方法	用語の慣れ、内容理解の程度		
受講者に対する要望など	用語と共に内容理解を重視		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	梶山 皓
-----	--------	------	------

講義の目標	マーケティング理論の全体像を英語で学びます。	
講義概要	テキストはアメリカのビジネスマンや学生向けに書かれたもので、マーケティング計画、価格設定、広告・プロモーション、流通政策、市場調査等に関する理論と実際を解説しています。授業形式は、学生が訳出し、教員の解説と質疑を行います。	
使用教材	テキスト	・ James E. Finch; <i>The Essentials of Marketing Principles, Research and Education Association</i> , 1992. ISBN 0-87891-693-8.
	参考文献	・ 『マーケティング英和辞典』 同文館。 ・ Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms.
評価方法	*授業の出席状況、発表、試験を総合的に評価します。 *欠席が年間5回以上の人は、原則として不可とします。	
受講者に対する要望など	*授業は1限ですので、毎回出席できる人だけが履修して下さい。 *評価は厳しいと考えて下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Marketing Environment (マーケティング環境)
2	同上
3	Marketing Research (マーケティング調査)
4	同上
5	Target Market (目標市場)
6	同上
7	Product Planning (製品計画)
8	同上
9	Distribution System (流通システム)
10	同上
11	Wholesaling and Retailing (問屋と小売り)
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Promotional Strategy (プロモーション戦略)
2	同上
3	Pricing Policies (価格政策)
4	同上
5	Marketing Evaluation (マーケティング評価)
6	同上
7	International Marketing (国際マーケティング)
8	同上
9	Nonprofit Marketing (非営利機関の市場)
10	同上
11	Direct Marketing (直接マーケティング)
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	河野重榮
-----	---------	------	------

講義の目標	最近の経営問題について論じている英語文献を用いて、外国語文献の基本的な読解力と経営のテクニカル・タームを習得する。		
講義概要	英文を一行ずつ音読し、日本語訳をつける。これを繰り返す。十分な日本語訳ができなかった場合、パラグラフの途中で別の受講生に交替する。一パラグラフ全体の日本語訳が十分にできるようになるまで、受講生全員の読解力を進める。		
使用教材	テキスト	・ D. A. Wren; <i>The Evolution of Management Thought</i> , 4th ed.	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点と、学期末のレポート（学期間に読了した原書の全訳とテクニカル・タームの要旨）による。		
受講者に対する要望など	パラグラフの割り当てを行わず、ランダムに読解者を指名する。したがって、欠席しないこと（無断で3回以上欠席の場合、この科目を受講しないことにする）。全員、予習を必ずすること。辞書を必ず携行すること。		

年 間 講 義 予 定

MANAGEMENT THOUGHT IN A CHANGING WORLD (D. A. Wren, 4th ed., Chap. 22)

I Individuals and Organizations ; Relating to Evolving Expectations

Ethics

Business and Society

II Management and Strategy in a Global Arena

The Globalization of Business

Managing across Cultures

Business Policy and Strategic Management

Summary

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽 ^{けんさん} を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」
-------	---

講義概要	米国の標準的な英語の経済学テキストの講読
------	----------------------

使用教材	テキスト	未定
	参考文献	

評価方法	平常の出欠と予習を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。
------	---------------------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

科目名	外国書研究 I	担当者名	小林 哲也
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>国際経済に関する時事的なテーマのもとで、英文雑誌記事を多読する。不況下での世界的な産業の再編成、日本経済の世界的な位置など、経済学の応用問題ともいえるテーマを中心にとりあげる予定である。本講義では、語学上の予習・復習の努力はいうまでもないが、時事的な経済問題に対する日常的な理解が必要である。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	BUSINESS WEEK, THE ECONOMIST, など	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷川啓之編『英和・和英経済用語辞典』富士書房 ・太田稀喜『時事英語で世界を読む』亜紀書房 ・森岡裕一他『ビジネス・ウィークを読む』日本生産性本部 ・尾崎俊二『ワールド・スピークスー英語で読みとく現代世界』11ベルタ出版 ・寺沢浩二『英文経済記事を読む辞典』ジャパントイムス ・C. NELSON, Economic Indicators, Willey & Sons 	
評価方法	平常点を重視する。夏期レポート、小レポートあり。		
受講者に対する要望など	国際経済やビジネスに関心を持っている者が望ましい。進度が速いので、キチンと予習ができる者に限る。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに：① 経済情報の集め方 ② 参考書の使い方
2	英文情報源のいろいろ
3	JAPANESE ECONOMY ① 景気編
4	JAPANESE ECONOMY ② 産業編
5	JAPANESE ECONOMY ③ 金融編
6	JAPANESE ECONOMY ④ 経営編
7	ASIAN ECONOMIES ① NIES
8	ASIAN ECONOMIES ② NIES
9	ASIAN ECONOMIES ③ CHINA
10	ASIAN ECONOMIES ④ CHINA
11	Internet を使った情報収集術 ①
12	Internet を使った情報収集術 ②
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	U.S. ECONOMY ①
2	U.S. ECONOMY ②
3	U.S. ECONOMY ③
4	U.S. ECONOMY ④
5	World Corporations ①
6	World Corporations ②
7	World Corporations ③
8	研究発表① 学生自身が、グループを作り、世界経済上の話題を英文で調査・発表する。
9	研究発表② 同 上
10	研究発表③ 同 上
11	研究発表④ 同 上
12	
備考	

科目名	外国書研究 I A	担当者名	齋藤正章
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>現在、外国語で書かれた良書は、ほとんど翻訳され日本語で読むことができる。しかし、いち早く情報を入手したいときや専門性が高く日本語訳されていない文献は自分で解読する必要が生じる。本講義は、そうした事態に対応するための基礎的な技術の習得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>文献解読の第一歩は専門用語に慣れることである。そこで、基礎的な専門用語が豊富で、なおかつ内容に親しめることを条件に下記のテキストを採用した。本書は、市場経済の働きに関して初学者に向けて平易な言葉でその本質を解説しているので、訳出するだけでなく、ぜひ内容に踏み込んで各自の理解を深めてほしい。</p> <p>1～2回の講義で1 Chapter 読了を目標とした授業を行う。したがって、毎回6ページ以上の予習を必要とするが、量を読むこともまた語学上達の秘訣である。なお、講義別のテーマについては年間講義予定を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ UNDERSTANDING THE MARKET ECONOMY ; OXFORD UNIVERSITY PRESS, 1992.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への参加姿勢と前後期の試験結果を3対7の割合で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書を引く手間を惜しまないこと。 授業には英和辞典を持参すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Chapter 1 Introduction pp.1-6.
2	Chapter 2 Production and Distribution pp.11-16.
3	Chapter 3 Supply and Demand pp.17-26.
4	Chapter 4 Economic Adjustment pp.27-41.
5	Chapter 5 The Interplay Aggregate Supply and Demand (1) pp.42-50.
6	Chapter 5 The Interplay Aggregate Supply and Demand (2) pp.50-60.
7	Chapter 6 The Workings of a Planned Economy pp.61-71.
8	Chapter 7 Prerequisites for a Market Economy pp.77-85.
9	Chapter 8 Challenges Posed by the market (1) pp.86-92.
10	Chapter 8 Challenges Posed by the market (2) pp.92-98.
11	Chapter 9 Dilemmas and Problems in a Market Economy (1) pp.99-105.
12	Chapter 9 Dilemmas and Problems in a Market Economy (2) pp.105-110.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Chapter 10 Why the Market Nevertheless is Useful (1) pp.111-116.
2	Chapter 10 Why the Market Nevertheless is Useful (2) pp.116-123.
3	Chapter 11 The Political Economy of Public Finance (1) pp.128-134.
4	Chapter 11 The Political Economy of Public Finance (2) pp.134-139.
5	Chapter 12 The Role of Money (1) pp.140-144.
6	Chapter 12 The Role of Money (2) pp.144-150.
7	Chapter 13 A Closer Look at the Capital-Market (1) pp.151-157.
8	Chapter 13 A Closer Look at the Capital Market (2) pp.157-164.
9	Chapter 14 The Labour Market in a Competitive Economy pp.165-174.
10	Chapter 17 Elements of Accounting (1) pp.204-213.
11	Chapter 17 Elements of Accounting (2) pp.213-220.
12	Chapter 18 From Plan to Market: The Challenges pp.221-234.
備考	

科目名	外国書研究 I B	担当者名	齋藤正章
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>現在、外国語で書かれた良書は、ほとんど翻訳され日本語で読むことができる。しかし、いち早く情報を入手したいときや専門性が高く日本語訳されていない文献は自分で解読する必要が生じる。また、インターネットによって世界中の人々とのやりとりが容易にできるようになり、世界の共通言語としての英語学習の重要性が高まってきている。本講義は、そうした事態に対応するための実践的な技術の習得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>英文雑誌 <i>HARVARD BUSINESS REVIEW</i> から抜粋した記事を読解する。本誌は産業界・学界から選出された各界のリーディング・パーソン (leading person) から寄せられた記事で構成されており、内容的にも時宜的にもその質の高さは有名である。そのため表面的に訳出するのではなく、内容に踏み込んだ訳ができるように必要に応じて記事の補足説明を行いながら授業を進行する。活字の大きさにも依るが、毎回 4～5 ページ読む予定でいる。受講者全員の予習を大前提としているので訳出者の指名はランダムに行う。題材は、経営学、会計学、マーケティングに関するものを予定している。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>HARVARD BUSINESS REVIEW</i> の 1993～1995年の間に掲載された記事から選出したもの。受講者にはコピーを配布する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への参加姿勢と前後期の試験結果を 3 対 7 の割合で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書を引く手間を惜しまないこと。 授業には英和辞典を持参すること。</p>		

科目名	外国書研究 I	担当者名	高橋 善四郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>今年度は、テキストの第一章の『道徳感情論』の検討 <i>The Moral Psychology of the Theory of Moral Sentiments</i>、または第三章の『国富論』の検討 <i>Self-Interest, the Social Passions, and the Invisible Hand in the Wealth of Nations</i> から入る。第二章もありうる。Introduction は、以下の「講義概要」に説明してあるが、授業の中で解説することで終りたい。</p>		
講義概要	<p>アダム・スミス Adam Smith は、三つの主要業績、『道徳感情論』、『国富論』、そして『法学講義』を残しているが、スミス以後、これらの業績をどう読むべきか、という問題が研究者の間で問われてきた。著者、パトリシア・ヴェルハーネは、このアダム・スミス問題 the Adam Smith problem を真正面から取り組んでいる。従来、『国富論』を中心に、「利己心」と「見えざる手」をもってスミスは市場原理を説明する、と解釈されるが、余りにも単純化し過ぎると思う。それは、スミスの業績の関連性に研究者が矛盾を感じるからであるが、著者は、主張される矛盾を否定し、スミスが目指したと思われる思想像（経済哲学）の一貫性を探究する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Patricia H. Werhane ; <i>Adam Smith and His Legacy for Modern Capitalism</i>, Oxford University Press 1991.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席態度、平常点を中心にして、期末試験（未定）の成績を加えて、総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習を欠かさないことが大切。</p>		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	立田ルミ
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>アメリカで行われているコンピュータサイエンスの授業の教科書を読む事により、コンピュータの専門用語がどのように使われているかを知る。そして、現在どのようなマルチメディアのためのソフトウェアが利用されているかを理解することを目的とする。また、ネットワークを用いてアメリカの大学のコンピュータサイエンス学科をアクセスし、どのような授業や研究が行われているかを調べる。また、コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかをWebのページを読むことにより、研究することを目的として講義・演習を行うつもりである。</p>	
講義概要	<p>マルチメディアシステムがどのようなものを最初に外書を読みながら講義する。また、画像作成のためのソフトウェアについて講義と実習を行う。次にビデオとアニメーション作成のためのソフトウェアについて講義しデモンストレーションを行う。また、オーディオ作成のためのソフトウェアについて講義と実習を行う。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ John A. McCormic; "Create Your Own Multimedia system", McGraw-Hill</p>
	参考文献	
評価方法	<p>毎回レポートを提出してもらい、それを50%の評価とする。 前期1回、後期1回の定期試験を行い、これを各25%の評価とする。 欠席の多い学生は、評価の対象としない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>プログラミング論および情報処理概論を履修した学生、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎知識のある学生に限る。出席をしない学生は単位を与えない。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マルチメディアの基礎 マルチメディアとは何か マルチメディアで使う用語の説明 マルチメディアの利用とは何か どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要か
2	オペレーティングシステム環境 MS-DOS Novell DOS 7 Microsoft Windows Machintosh Amiga OS/2 Windows NT Unix
3	テキスト編集ソフトウェア ワードプロセッサ Word Perfect Microsoft Word Ami XyWrite 変換ソフトウェア データベース
4	テキスト編集ソフトウェア演習 大学に設置されているコンピュータで使えるテキスト編集ソフトウェアを用いて演習問題を解く。
5	静止画像作成ソフト ドロー系ソフト、ペイント系ソフト プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト 画像作成のためのチップ
6	静止画像作成演習 大学にあるソフトウェアを用いて、静止画像を作成する。
7	ビデオとアニメーションのソフトウェア クリップビデオ アニメーション ソフトウェア ビデオ編集
8	プロダクション管理ツール ストーリーボードソフトウェア プロジェクト管理 ソフトウェア
9	オーディオプロダクションソフトウェア オーディオファイルタイプ マルチメディアサウンド オーディオファイル作成 MIDI
10	オーサリングソフトウェア プレゼンテーション向きソフトウェア カードベースオーサリング アイコンベースオーサリング タイムベースオーサリング オーサリングプログラム
11	オーサリングソフトウェア演習 大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なコースを作成する。
12	ネットワーク演習 ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 マルチメディアのコースがどのように出来ているかを調べる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本的なコンピュータのプラットフォーム コンピュータの速度 コンピュータの記憶容量 ビデオ利用の問題点
2	機種によるプラットフォーム Machintosh Windows Unix
3	モニター 品質 マルチスキャン ビデオカード
4	キーボードとポインター キーボード ポインター
5	ビデオ入力と操作 ビデオ標準 ビデオボード デジタルカメラ
6	オーディオハードウェア オーディオ入力ボード MIDI ハードウェア
7	スキャナー スキャナーのタイプ 解像度 カラーとグレイスケール
8	メインストレージ グラフィックス ビデオ オーディオ ハードディスクの特長
9	2次記憶装置 磁気 光学 記憶装置の比較
10	システム統合 マルチメディアワークエリア ソフトウェア導入 システムテスト
11	電子出版 CD-ROM ビデオカセットレコーダー レーザーディスク
12	マルチメディアシステム演習 CD-ROM の使用と内容発表
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	田村申一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>この授業では、英文で書かれた経済学入門書の講読を通じて、初歩的なマクロ経済学のエッセンスを学んだ上で、金融の基礎を理解して貫くことを目標にしています。1年間のテーマは、マクロ経済学と金融入門ということになります。教材には、現在、アメリカの大学で経済学のテキストとしてベストセラーになっているスティグリッツの「経済学」を使用します。この本はわかり易く書かれた入門書ですが、最新の経済学の知識をとり入れ、現代の経済問題に取り組んだ意欲的な本なので、読んだ満足感は大きいでしょう。</p>		
講義概要	<p>まず、最初に現代のマクロ経済学を概観し、基本的な分析手法である総需要・総供給分析について簡単に学んでおきます。つぎに、金融論の基礎の学習に進みます。ここでは、貨幣、銀行、金融システムなどについて考察したあと、総需要・総供給分析を土台にして現代の貨幣理論と金融政策について検討し、最後に金融政策の国際経済的側面をとりあげて分析します。著書は1,140頁に及ぶ大著ですが、授業では上記の関連部分をコピーして、輪読していきます。授業では、随時、日本経済や日本の金融の現状に言及し、興味をもって学習できるようにしたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・STIGLITZ J. E.; "Economics", W. W. Norton & Company, 1993.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況、輪読分担個所の報告状況を加味して、総合的に決定します。授業の性格から、出席状況や報告状況を重視します。前期レポートか後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を認定できません。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業での講読は、受講学生が分担して輪読する形をとります。大事なことは、邦訳の暗記ではなく、内容の理解です。欠席すると、理解できなくなることが多いので、授業に出席して下さい。</p>		

の各章を順次とりあげます。

Stiglitz J. E., "Economics",

Part Four Aggregate Markets

Chapter 26 An Overview of Macroeconomics

2. The Product Market

Part Five Money's Role

Chapter 33 Money, Banking, and Credit

1. Money is Money does
2. The Financial System in Modern Economies
3. Creating Money in Modern Economies
4. The Instruments of Monetary Policy
5. The Stability of the U. S. Banking System

Chapter 34 Monetary Theory and Policy

1. Money Supply and Economic Activity
2. The Velocity of Money
3. Keynesian Monetary Theory
4. Critics of the Keynesian Theory of Demand for Money
5. Alternative Ways that Monetary Policy Works
6. Monetarists
7. Money and Credit Availability
8. Money and Credit : Competing or Complementary Theories?

Chapter 35 Monetary Policy : The International Side

1. Determining the Exchange Rate
2. Monetary Policy in an Open Economy
3. Exchange Rate Management

科目名	外国書研究 I	担当者名	D. G. Moen
-----	---------	------	------------

講義の目標	<p>The aim of this course is to expose students to readings in English that offer alternative analyses of contemporary societies. By doing so, students will gain an understanding of social issues from varied perspectives, and learn to not rely on any given interpretation of complex social phenomena.</p>		
講義概要	<p>This course is intended to be a discussion-based rather than a lecture-based course. During the first half of the course, I will be the discussant, choosing the reading materials and leading the discussions. However, during the second half of the course, students will be the discussants and choose particular readings that interest them. In this manner, students will take part in designing this course to meet their individual needs and interests. Discussions will be in English although Japanese use will be freely allowed.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>Readings will be assigned on a weekly basis. Students will be given copies of the readings one week in advance, with the expectation that they will come to class the following week prepared to discuss the contents of the assigned reading for the week. There will be no required texts for this course. Since this course is student-designed, the readings will reflect the interests of the students.</p>	
評価方法	<p>Grades will be based on class attendance, class participation, and a 3-4 page analysis of the first 12 weeks of class discussions (to be written in English).</p>		
受講者に対する要望など	<p>I hope that students, by realizing that various relevant interpretations of social phenomena are possible, will gain the confidence to express their opinions on a wide variety of topics. It is only through discussion and exposure to a wide range of perspectives on any given issue that a meaningful understanding of often complex and multi-faceted social phenomena can be made.</p> <p>原則として英語で授業を行います。尚、通訳はつけません。</p>		

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ	
1	Week 1	Introduction to the Course
2	Week 2-12	Teacher-selected Reading-based Discussions
3	Week 13-23	Student-selected Reading-based Discussions
4	Week 24	Open Discussion and Course Summation
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

科目名	外国書研究 I	担当者名	中村 泰 將
-----	---------	------	--------

講義の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文の意味内容を的確に理解すること。 2. 専門用語をできるだけ身につけること。 3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ること。 		
講義概要	<p>講義内容：私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。むしろ、社会一般、経済、政治、経営等の関係領域に関して記載している、雑誌、新聞、著書などを題材として、カレントなトピックスを取り上げ講読する。</p> <p>授業の進め方：あらかじめ受講者全員に講読のコピーを手渡します。授業では、あらかじめ講読担当者を決め、その人だけが授業の主役になることのないよう、全員が予習をしてきて、誰があてられてもよいように準備をしていくことが要求されます。従って、授業の主役は、受講者全員であることを承知しておいてください。</p>		
使用教材	テキスト	特定のテキストはなし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ U. S. News & World Report. ・ Japan Times. ・ Business Week. ・ Economist. 	
評価方法	<p>授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。</p> <p>3回以上欠席すると、評価にも相当影響するので注意されたい。</p>		
受講者に対する要望など	辞書は、必ず毎回持参すること。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	長吉眞一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現在、日本で実際に行われている企業会計について、その背景・根拠・概要等について理解することを目標とする。とくに、商法に基づく会計と証券取引法に基づく会計について、その異同・開示の内容およびそれらの背景となっている立法趣旨についての理解を目指す。講義は具体的な事例を織り混ぜながら、平明に行う予定である。</p>
-------	--

講義概要	<p>企業会計における記帳から帳簿の作成、各種報告書の作成、監査、開示の方法等や内容について幅広く学ぶ。本講でとり上げるテキストは、最近の企業会計についての詳細を学ぶというよりも、商法による会計と証券取引法による会計の基本的な考え方や現行の制度をあつかうものである。履修者は生きた会計を学習することができる。専門用語が多数でてくるが、それらについてはあらかじめ訳語を配布し理解をうながす予定である。</p> <p>授業の進め方は、あらかじめ発表予定者を特定し輪読法によって訳していく。また、あくまでも英文を通しての企業会計の理解であるので、場合によっては文法にとらわれない、大胆な訳を行うこともある。</p>
------	--

使用教材	テキスト	・ <i>Corporate Disclosure in Japan</i>
	参考文献	

評価方法	<p>前・後期とも試験を実施する。この他、担当した訳の行数や指示した問題点についての発表等を考慮する。</p>
------	---

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス、開示制度の関係者／企業
2	同 ／公認会計士
3	同 ／日本における会計および監査の基準
4	同 ／監督機関
5	同 ／証券取引所
6	同 ／日本証券業協会
7	同 ／証券会社と引受業者
8	同 ／証券分析家
9	報告基準と実務 ／総論
10	同 ／商法における報告要件
11	同 ／証券取引法における報告要件
12	会計原則と実務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商法における報告制度 ／総論
2	同 ／計算書類(1)
3	同 ／計算書類(2)
4	証券取引法における報告制度／ディスクロージャーの種類(1)
5	同 ／ディスクロージャーの種類(2)
6	同 ／有価証券届出書(1)
7	同 ／有価証券届出書(2)
8	同 ／有価証券報告書(1)
9	同 ／有価証券報告書(2)
10	同 ／半期報告書
11	同 ／連結財務諸表
12	同 ／最近の開示要件、一年間のまとめと今後の日本の企業会計の展望
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	波形 昭一
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>外国語で専門書を読むこと、これも大学生としてのステータスの一つといえよう。そんな雰囲気を感じ取ってもらえるような授業としたい。</p>		
講義概要	<p>今、アジアが燃えている。しかも、それは国際的な期待と不安の両面をはらみ込んだ燃え方であり、その典型を台湾にみることができる。「静かな革命」とは、台湾がまさにそうした状況への現実的な対処方法を模索していることの表現であろう。20世紀の革命は「静か」に達成されなければならない、という一種の願いとも受け取れる。その辺のところを学生諸君と一緒に勉強したい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Jason C. Hu; <i>Quiet Revolutions on Taiwan, Republic of China</i>, 2nd edition in 1994, published by Kwang Hwa publishing Company, Taipei. Taiwan, ROC.</p> <p>日本で本書を入手するのは若干困難を伴うので、必要な箇所を当方でプリントして配布することとしたい。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期・後期とも試験を行ない、教室での積極性および出席状況をも加味して総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>外国語による経済書講読には学生諸君の予習が不可欠な条件である。その旨を十分に認識したうえで受講すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

上記テキストのⅢ．The Economyは次の3論文からなっており、分量的には52頁ほどある。この3論文の内容理解を中心に講読したい。

Koo Chen-fu, *"On Becoming an Economic Power"*.

Casper Shin, *"Productivity—A Strategy for the Century of the Pacific"*.

Cheng Chu-yuan, *~The ROC's Role in the World Economy"*.

科目名	外国書研究 I A	担当者名	西川純子
-----	-----------	------	------

講義の目標	経営学や経済学の古典的な文献に接して直接にその魅力を体得することを目標とする。		
講義概要	英文を音読し、一行ずつ日本語に移しかえることを繰り返す。進度は遅いが確実に読みこなす努力を重ねることによって読解力はすすむはずである。		
使用教材	テキスト	・ Alfred CHANDLER ; <i>Essentials of Alfred Chandler</i>	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点による。但し、各学期の終りに単語のテストを行う。		
受講者に対する要望など	欠席しないこと。予習を必ずすること。辞書を必ず携行すること。		

科目名	外国書研究ⅠB	担当者名	西川純子
-----	---------	------	------

講義の目標	経営学や経済学の古典に接することによって、社会科学の面白さを体得することを目標とする。		
講義概要	英文を音読し、一行ずつ日本語に移しかえることを繰り返す。進度は遅いが確実に読みこなす努力を重ねることによって読解力はすすむはずである。		
使用教材	テキスト	・ Thorstein VEBLÉN; <i>The Theory of Business Enterprise</i>	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点による。但し、各学期の終りに単語のテストを行う。		
受講者に対する要望など	欠席しないこと。予習を必ずすること。辞書を常に携行すること。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	原 亨
-----	--------	------	-----

講義の目標	<p>この外書Ⅰは、英語で経済の理論や現状分析を学ぶ。語学を勉強するのではない。もっとも英語が読めなくては、それどころではない。それにも十分留意はするが、経済学を学ぶ方に重点がある。本年は、アメリカ経済の現状に関する文献、論文を抜粋して、理論や現状分析の方法を吸収する。</p>		
講義概要	<p>94年以降、アメリカ経済は、拡大傾向を示している。そこまでにいたるマクロ、ミクロの経済過程と主要な経済ファクターについて、現状の把握につとめる。ただ文章だけではなく、表や図による分析方法も学ぶ。その中から学術用語やベーシックな理論も、できるかぎり抽出して解説していくようにする。</p> <p>まず、経済成長とその陰に潜む財政赤字、なおも不十分な公共投資、低生産性、所得不平等とその対策、経済成長戦略、対外貿易政策についての外観をみる。その後、とくに雇用の造出と労働力政策を取り上げる。さらに規制と競争促進策についても、具体的にどのように行われたか、みておきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テーマに沿った英文を用意し、配布する。</p>	
	参考文献	<p>参考文献は、講義の中で適宜指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は、下訳とその清書（いずれもレポート用紙を使用）の提出。前期、後期の試験、授業への参加度などによって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予めテキストを読んで、受講すること。</p>		

科目名	外国書研究Ⅰ(A, B)	担当者名	福島 寿
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>本講義の目的は、英文に慣れ、少なくとも将来、卒業論文等を執筆する際に、英語文献を自分なりに理解できる力をつけることにある。このために、内容が比較的的理解しやすいテキストを用いて授業をすすめることを計画している。</p>		
講義概要	<p>シラバスに書いたように、前期と後期とでは異なるテキストを使用します。すなわち、前期においては、米国において、医師、弁護士と並び、職業専門家として市民権の確立している公認会計士の責任問題を論じているテキストを使用します。また、後期においては、公認会計士の社会における役割を論じているテキストを使用します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・テキストⅠ Vincent, Murray, Philip, and Henry 著; <i>Montgomery's Auditing (11th Edition)</i> の第4章 "Professional Responsibility and Liability".</p>	
	参考文献	<p>・テキストⅡ The Commission on Auditor's Responsibility 著; <i>Report, Conclusions, and Recommendations</i> の第6章 "The Boundaries of the Auditor's Role and Their Extension".</p>	
評価方法	<p>評価はテスト及び授業への参加度(レポートを含む)により決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講義においては、英文を逐語的に解釈するのではなく、英文で書かれている内容の理解を優先させることを希望します。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの pp. 87-89
2	テキストⅠの pp. 90-92
3	テキストⅠの pp. 93-95
4	テキストⅠの pp. 96-98
5	テキストⅠの pp. 99-101
6	テキストⅠの pp. 102-104
7	テキストⅠの pp. 105-107
8	テキストⅠの pp. 108-110
9	テキストⅠの pp. 111-113
10	テキストⅠの pp. 114-116
11	テキストⅠの pp. 117-119
12	テキストⅠの pp. 120-123
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストⅡの pp. 51-52
2	テキストⅡの pp. 52-53
3	テキストⅡの pp. 54-55
4	テキストⅡの pp. 55-56
5	テキストⅡの pp. 57-58
6	テキストⅡの pp. 58-59
7	テキストⅡの pp. 60-61
8	テキストⅡの pp. 63-64
9	テキストⅡの pp. 65-66
10	テキストⅡの pp. 67-68
11	テキストⅡの pp. 69-70
12	年度末テスト
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	C. W. Braddick
-----	---------	------	----------------

講義の目標	<p>① We will read articles on Japan's international relations written by British, American and Japanese Specialists.</p> <p>② We will learn lots of English specialised vocabulary related to economics and international relations.</p>	
講義概要	<p>① Each week we will read from two to ten pages in class.</p> <p>② Students may ask questions about specific points they do not understand.</p> <p>③ I will offer general explanations.</p> <p>④ At the end of term we will hold wide-ranging discussions about what we have read.</p>	
使用教材	テキスト	・ K. NEWLAND (ed) ; <i>The International Relations of Japan</i> , Macmillan, 1990.
	参考文献	A list will be provided in class.
評価方法	<p>① Class contribution.</p> <p>② Two end of term exams.</p>	
受講者に対する要望など	原則として英語で授業を行います。尚、通訳はつけません。	

年 間 講 義 予 定

前 期

題	主 要 テ ー マ
1	
2	Introduction.
3	The International system and Japan : The Japanese challenge ; Historical Lessons ; Economic Strategy.
4	The International system and Japan : The Japanese challenge ; Historical Lessons ; Economic Strategy.
5	The International Financial System and Japan.
6	The International Financial System and Japan.
7	Japanese Direct Foreign Investment in the U.S.
8	Japanese Direct Foreign Investment in the U.S.
9	Japanese Foreign Policy in the Third World : Political and Economic Ties
10	Japanese Foreign Policy in the Third World : Political and Economic Ties
11	Debate
12	Debate
備考	

後 期

題	主 要 テ ー マ
1	Japan's Foreign Aid Diplomacy : Economic, Political or Strategic ?
2	Japan's Foreign Aid Diplomacy : Economic, Political or Strategic ?
3	Japan-china Relations since 1978. Political and Economic Influences.
4	Japan-china Relations since 1978. Political and Economic Influences.
5	Japanese Security Policy After U.S. Hegemony : Defence-Trade Linkages.
6	Japanese Security Policy After U.S. Hegemony : Defence-Trade Linkages.
7	Japan-Soviet Relations : Political, Economic and Strategic.
8	Japan-Soviet Relations : Political, Economic and Strategic.
9	Japan's Future : Four Scenarios.
10	Japan's Future : Four Scenarios.
11	Debate
12	Debate
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	本田浩邦
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>80年代以降のアメリカ経済をテーマにしたモノグラフを素材にして、経済問題の争点を研究するとともに、英語文献の基本的な読解力、テクニカル・タームを修得する。</p> <p>経済学がむずかしいと感じている人にも理解しやすいように、また英語が苦手な人でも興味を持続できるように、具体例をおりまぜて、討論形式ですすめていきたい。</p>		
講義概要	<p>アメリカのマクロ経済についての論争を3つピックアップし、それぞれ意見の対立する代表的な論文を読む。テーマは――</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レーガノミックスは成功だったか？ 2) 財政赤字はなぜ問題か？ 3) 貯蓄投資バランスはなぜ悪くなったか？ <p>の3つである。</p> <p>輪読、解説のあと、全体でディスカッションする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Thomas R. Swartz and Frank J. Bonello (ed.); <i>Taking sides: Clashing Views on Controversial Economic Issues (Sixth Edition)</i>, The Dushkin Publishing Group Inc. (1993) 必要な箇所をコピーして配布する。</p>	
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『新英和大辞典 (第5版)』 研究社 ・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房 ・ 『最新英語情報辞典』 小学館 	
評価方法	<p>平常点、出席および試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけ大きな辞書で予習すること。『デイリー・コンサイス』のようなポケットサイズの辞書の持ち込みは認めない。</p>		

ISSUES AND SECTIONS

Introduction

(Issue 1) Did Reaganomics Fail ?

[1] Samuel Bowles, David M. Gordon, and Thomas E. Weisskopf, "Right-Wing Economics Backfired," *Challenge* (January/February 1991)

[2] Paul Craig Roberts, "What Everyone 'Knows' About Reaganomics," *Commentary* (February 1991)

[3] Discussion

(Issue 2) Do Federal Budget Deficits Matter ?

[4] Alan Greenspan, "Deficits Do Matter," *Challenge* (January/February 1989)

[5] Robert Eisner, "Our Real Deficits," *Journal of the American Planning Association* (Spring 1991)

[6] Discussion

(Issue 3) Does the United States Save Enough ?

[7] Fred Block, "Bad Data Drive Out Good: The Decline of Personal Savings Reexamined," *Journal of Post Keynesian Economics* (Fall 1990)

[8] William D. Nordhaus, "What's Wrong with a Declining National Saving Rate?," *Challenge* (January/February 1990)

[9] Discussion

(a few weeks for each section)

科目名	外国書研究 I A	担当者名	益山光央
-----	-----------	------	------

講義の目標	英文の国際経済学のテキストを用いて国際経済に関する理解を深める。	
講義概要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。各自分担の箇所はレポートとして提出し、年度の終わりにはまとまった文集としたい。	
使用教材	テキスト	Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Comparative Advantage and the Gains from Trade
2	Economic Efficiency and Comparative Advantage
3	Factor Endowments and Comparative Advantage
4	Factor Substitution and Modified Ricardian Model
5	Factor Substitution and the Heckscher-Ohlin Model
6	Imperfect Competition and International Trade
7	Trade and Factor Movement
8	Instruments and Uses of Trade Policy
9	The Evolution of trade Policy
10	The Future of the Trading System
11	The Balance of Payments and the Foreign-Exchange Market
12	Incomes and the Current Account
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Exchange Rates and the Current Account
2	Interest Rates and the Current Account
3	Expectations, Exchange Rates, and the Capital Account
4	Stocks, Flows and Monetary Equilibrium
5	Asset Markets, Exchange Rates, and Economic Policy
6	The Evolution of the Monetary System
7	The future of Monetary System
8	Mathematical Note on Trade Theory and Policy
9	Mathematical Note on Monetary Theory and Policy
10	Selected Problems
11	Selected Problems
12	Selected Problems
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	松本正信
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>日本が経済先進国と言われるようになって久しい。外国書研究（講読）の目標はもとより外国語の専門書等を読んで理解出来る能力を養成することであるが、逆に日本の経済諸事情など日本に関する事柄が外国語で著わされた書籍や資料を読んで、これを外国人に解説して理解して貰えるような能力の養成ということ、今日では要請されてもしかたないであろう。その意味で格好の教材を見つけた。文章も平易・平明で分かり安く、直ぐ慣れるであろう。意欲ある諸君の選択を望む。</p>		
講義概要	<p>テキストを覗けば一目瞭然であるが、近時はほぼ20年；1970—1990年の日本経済の事情や特質を、アダム・スミスやケインズの古典を引用し、理論的ツールも駆使しながら極めて分かり安く解説していく。また明治時代からの近代化と経済成長についての歴史的概観も示され、最後には最近時の言う所のバブル発生とその余波や将来に対する課題や挑戦にも言及されていて教材としても格好、なかなか面白い内容だ。また、これからの国際人としての豊富な用語の習得にも役立つ教材だ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Tachi, Ryuichiro, translated by Richard Walker; <i>THE CONTEMPORARY JAPANESE ECONOMY An Overview</i>, University of Tokyo Press, 1993.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>後期定期試験を中心にして評価していきたいと考えてはいるが。</p>		
受講者に対する要望など	<p>文章は平明で分かり易いから、ともかくテキストを早目に求めて読んでみてほしい。途中所によっては簡単な解説のみで訳は省略し、年間を通じて読み切りたいので、受講者も左様心得度し。</p>		

年 間 講 義 予 定

序論、後書を合わせて10章を、年間を通じて各章2～3回の講読のペースで進めて行く積りである。

The Contemporary Japanese Economy, An Overview by Ryuichi Tachi

Introduction

1. The Growth and Development of Japan's Economy
2. Monetary Policy
3. Public Finance
4. The Social Security System
5. International Balances of Payments
6. Prices
7. Structural Changes in the Economy
8. Problems and Challenges for the Future

Afterword : The "Bubble" and Its Aftermath

科目名	外国書研究 I	担当者名	宮城浩祐
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>それぞれの国には、固有の経営慣行がある。(その代表が、アメリカ的経営とか日本的経営とかアルペン型経営といわれるものである。) それには、文化的要因が影響するところが大きい。これが文化的相対主義の立場である。経営理論にしても同じで、それが開発された社会のドミナントな価値観を反映するものである。このように、経営慣行にしても、経営理論にしても、それを生んだ文化のドミナントな価値観を映したものであって、どこの国にも通用する普遍的なものではないことを認識してもらうことが、ここでの目標である。</p>		
講義概要	<p>以上の目標を達成するために、この分野で著名な、オランダ人研究者 G. Hofstede の代表的な下記の論文を読むことにする。これを通して、つぎの内容を修得する。(1)文化とはなにか、(2)文化を測る四つの次元(権力格差、不確実性回避、男性化/女性化、個人主義/集団主義)、(3)各文化次元と社会規範、(4)各文化次元と経営慣行との関係、(5)各文化次元と経営理論との関係。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ G. Hofstede; "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?" <i>Organizational Dynamics</i>, Summer 1980.</p>	
	参考文献	<p>・ G・ホフステード著 岩井訳『多文化世界』有斐閣, 1995年。</p>	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>まえもって予習してくることを望みます。</p>		

科目名	外国書研究 I	担当者名	宮澤 清
-----	---------	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>本講義は、19世紀後半に詩人として、また批評家として活躍したマッシュ・アーノルド（1822～1888）の <i>Culture and Anarchy</i> の中で示されている意味と内容を吟味する。それは次のように要約される。自由は、それ自体において価値があるのではなく、またそれ自体が目的なのでもない。自由は、その背後にある大いなる価値を表わすところの文化に役立って、はじめて意味をもつのである。人は自由の名のもとに、己の欲するままに行動するが、その自由は文化の手段として役立つとき、はじめて光を増す。なぜなら、自由は文化によって発せられる光の反映として光るだけだからである。その意味で、自由は、プラトンの「洞窟の比喩」にもあたるともいえるのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Arnold, Matthew ; <i>Culture & Anarchy</i> : AMS Press, New York</p>	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文化主義思想：自由至上主義ではなく、単に文化に役立つ手段としての価値にすぎないとするアーノルドの「文化主義思想」は、「文化とは何か。文化は何の役に立つのか。なぜそれが必要なのか」を問うものである。
2	文化：文化がキュアリオステに淵源をもつというのは誤謬である。その文化は、完全を求める崇高な心にその源を発する。なぜなら、文化は、完全なるもの、真なるもの、美なるものを追求する言葉だからである。
3	宗教：人間の最も深刻な経験から生み出され、かつ人間の切なる願いである自己の完成を目指す努力のなかで光を与えてくれるのは、宗教である。宗教は、文化が目指す「完全とは何か」という問いと軌を一にする。
4	宗教と文化：宗教は「神の国は汝らの中にある」と教えるが、文化もまた人間の完成がわれわれの内的状態、すなわちわれわれが動物とは区別されたところの他に誇りうる卓越性のなかに見出されるものなのである。
5	文化：文化は、人間が物を考え、思いをめぐらす能力を限りなくのぼし、それらが円満かつ調和のうちに円熟して、おのずと垂れる果実となって完成され、そこに品位と威厳と高貴さが生まれることを教えてくれる。
6	文化の特質：文化は、われわれの魂を無限にひろげ、その力を無限にのぼし、英知と美を限りなく豊かに成長させたり発達させていくところに息吹くのであって、所有したり休息するところには創造されないものである。
7	文化の機能：文化は、あくまでも調和的な完全を目指すものである。それは、文化が、何かをもつことにおいても、何かになることにおいても、外面的な意味での完全ではなく、心や魂といった内面的な意味での完全を求めることなのである。
8	文明：近代世界におけるすべての文明は、ギリシャやローマの文明よりもはるかにメカニカルに外面的であり、しかもたえずメカニカルに外面的なものになろうとしている。それだけに文化のもつ意義は深く大きい。
9	詩と宗教：文化は優美と明知を完全なものと考えている点では詩と同じであり、詩と同じ法則に従う。しかるに、人間性の表現については、宗教は詩を超えている。なぜなら、宗教は詩以上に完全を求めるからである。
10	芸術と宗教：ギリシャの最も優れた美術や詩歌は、常に宗教と合一しているばかりでなく、美や人間性についての観念も、宗教上の敬虔的なものと合体して生み出される。ギリシャの芸術が卓越しているゆえんである。
11	観照：ギリシャ人が美といい、調和といい、全き人間性という観念を、明白かつ至上のものとして考える背景には、人間にまつわる具体的な利害得失から離れて幻影でない真理を悠然と「観照」という態度があった。
12	イギリス民族の特質：イギリス民族ほど、倫理の確立（完成）を目指して努力した国民はいない。「悪魔に立ち向かえ」とか「悪しき者に勝て」という命令が文字通りの意味において生かされた国は、ほかにないのである。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文化：文化はすべてが全からんことを求め、道理と神の意思をひたすらおしひろめ、すべてのものが調和のなかにあることを願う。文化はこのような事態を直視しようとする人びとに安らぎを与えてくれるのである。
2	文化：文化が掲げる理念は、魂の働きのなかにあってはじめて完全なものとなる。言葉をかえていえば、文化が常に内面的な魂との共生によって、より大なる優美と明知、より豊かな生命と共感を入びとに与える。
3	優美と明知：完全を追求することは、優美と明知を求めることに通じる。このことのために働くのは、理性と神の意思をひろめるのと同じである。しかし手段や憎悪のために働くのは、秩序の破壊に役立つだけである。
4	文化と目的：文化はいつも手段の彼方にある目的をみる。文化は憎悪と背中合わせにある。文化は、優美と明知をあまねくひろめるといふ一つの大きな意欲をもっているが、そこにおいては憎悪は死滅するだけである。
5	文化の役割：文化は、なべてが全き人となるまでは寸陰も休息することはない。文化は蒙昧な大衆に優美と明知が与えられるまでは全きことをたえず求め続ける。人が優美と明知を求めて働かざるをえないゆえんである。
6	文化と自由：文化は常に世の中で思考され、生み出された最善のかつ最良のものをあまねくおしひろめ、そうすることによって万人が優美と明知の雰囲気の中で自由闊達に生きてゆくことができるように努めるのである。
7	文化人：文化人が、真に平和の使徒であるといわれるのは、彼らこそがその時代における最高の知識と思想を社会におしひろげようとする強烈な意欲をもつ人達だからである。文化はこの環境の中で息吹くのである。
8	青年と大衆：アリストテレスは、思想や事物の理法をあくまで追求し、高邁な精神と完全を目指すという心を持ち続けることができるのは、青年を措いてほかにはないという。大衆は、これらをすべてののがしてしまう。
9	文化主義者：文化主義者は今なお己の啓蒙と教育とにかかわっているから、あえて人を教育するようなことはしない。結局、事物の理法を究めようとするのでなければ、真の意味での教育者にはなりえないのである。
10	ヘレニズム：ヘレニズムとは、無心に事態に肉迫し、その事態をありのままにみることによって、事物は真にそのありのままの姿（真・善・美）において顕れる、という古代ギリシャの生活理念を意味したのである。
11	美と真理：ギリシャ人の“Beauty is truth and truth beauty”という理念のなかに、優美と明知を願う精神と真理を求める精神の息吹きが感じられる。ギリシャ人はこの理念を心（魂）の住処としたのである。
12	永久の前進者：真理は成長するから、人間にとって最終的な真理はありえない。ヘレニズムは、既成の概念、制度、慣習、芸術を洗い直して、さらによき理念、真理を求め続けていく「永久の不満者」の思想なのである。
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	百瀬 房徳
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパ経済共同体が1993年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成の為に種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。</p>		
講義概要	<p>付加価値税は導入以来ほぼ100年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となつて以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Ernst & Young ; <i>VAT in Europe</i></p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>無し</p>		

年 間 講 義 予 定

下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：

The European Economic Community

The Aims of the European Community

The White Paper

The Community's Institutions

The Financial Means of the Community

The Value Added Tax

Harmonisation of VAT Regulation within the European Community

The Proposals for Further Harmonisation

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	森 健
-----	--------	------	-----

講義の目標	近年の日本経済の動向を分析した英文文献を読むことにより、(1)現実の経済問題を分析するときに一般的に取り上げられる指標や概念についての知識を深めること、(2)その指標や概念の背景にある経済理論を学ぶこと、(3)近年における日本経済と世界経済との関連について理解を深めること。		
講義概要	単行本、学術雑誌、国際機関刊行物、セミナー・ペーパー、ビジネス誌などの英文文献の中で、上記の課題について、できるだけ最近の情報を材料にして分析を行っているものを教材として輪読する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	プリントを配布する。	
評価方法	定期試験および普段点		
受講者に対する要望など	授業の主眼は、英文を機械的に邦訳することにあるのではなく、文献に記された経済分析の内容を理解し、これを批判的に検討することにあることに留意して受講すること。		
年講予 問義定	受講者の要望を参考にしながら決定したい。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	山田 浩一
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>財務会計に関する英語版のテキストを通じて、簿記及び会計学に関する基本的理解を得ることを目標とする。</p> <p>外国語の専門書を利用するためには、一般的な英語力の他に、専門領域そのものの知識や Technical terms and expressions を把握しておく必要がある。本講義においては、このような観点から、将来英語の文献を利用する基礎となるべく、専門書読解のトレーニング及び知識の蓄積を行いたいと思う。</p>
講義概要	<p>テキストにおいて取り扱われている内容は、簿記・会計学の基礎から会計実務の応用までを総括的に述べている。</p> <p>すなわち、一般に公正妥当と認められる会計原則の解釈及びその適用について、貸借対照表、損益計算書、資金収支計算書などの財務諸表の構造や基本的概念の研究、財務諸表における各項目の各論から、税務会計や特殊分野の会計領域などのいわゆる会計実践における現実的な問題に至るまで、より実務的な内容へと広がりを見せている。</p> <p>講義の進め方としては、学生諸君に英文を和訳していただいた後、その内容について解説・ディスカッション加えていきたいと思う。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Patrick R. Delaney Barry J. Epstein James R. Adler Michael F. Foran; <i>Interpretation and Applications of Generally Accepted Accounting Principles</i> 1994, JOHN WILEY & SONS, INC. <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記、会計学等に関するテキスト等が参考となると思われる。いくつか例示すれば、次のとおりである。 ・ 若杉明『精説財務諸表論』中央経済社 ・ 黒沢清『近代会計学』春秋社 ・ 飯野利夫『財務会計論』同文館 ・ 染谷恭次郎『全訂 現代財務会計』中央経済社 ・ 沼田嘉穂『簿記教科書』同文館
評価方法	<p>成績は、平常の授業における出席、報告、発言の状況によって評価する。期末の定期試験は実施しない予定である。単に英語力のみではなく、内容の理解を重視していきたいと考えているので、和訳を通じて会計学的意味を考えてもらいたい。</p>
受講者に対する要望など	<p>講義への出席者は事前に講義予定箇所を予習しておくことが重要である。また、関連科目である簿記論、会計学原理、財務会計論はあわせて受講してほしい。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの紹介と年間講義概要の説明、受講者の要望などを確認する予定である。 Chapter 1 Researching GAAP Problems
2	Chapter 2 Balance Sheet
3	Chapter 3 Income Statement
4	Chapter 4 Statement of Cash Flows
5	Chapter 5 Financial Instruments, Cash, Receivables, and Short-Term Investments
6	Chapter 6 Inventory
7	Chapter 7 Special Revenue Recognition Areas Long-Term Construction Contracts Service Sales Transaction Sales When Collection is Uncertain
8	Chapter 7 Special Revenue Recognition Areas Revenue Recognition When Right of Return Exists Real Estate Operations
9	Chapter 8 Long-Lived Assets
10	Chapter 9 Investments
11	Chapter 10 Business Combinations and Consolidated Financial Statements
12	Chapter 11 Current Liabilities and Contingencies
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Chapter 12 Long-Term Debt
2	Chapter 13 Accounting for Leases
3	Chapter 14 Accounting for Income Taxes
4	Chapter 15 Accounting for Pensions
5	Chapter 16 Stockholders' Equity
6	Chapter 17 Earnings Per Share
7	Chapter 18 Interim and Segment Reporting Interim Reporting Segment Reporting
8	Chapter 19 Accounting Changes and Correction of Errors
9	Chapter 20 Foreign Currency
10	Chapter 21 Personal Financial Statements
11	Chapter 22 Specialized Industry GAAP Banking and Thrift Industries Broadcasting Industry Cable Television Industry etc..
12	Chapter 23 Specialized Industry GAAP Investment Companies Mortgage Banking activities Motion Picture Industry Oil and Gas Production activities etc..
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山本 栄
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>原書（本授業では英語）を通して「本の読み方」を勉強します。「本の読み方」というと何をいまさらと思う人も多いと思う。しかしそこには重大な落とし穴がある。日本語だと斜め読みをして読んだ気になるが実の所中身がわかっていないという場合がよくある。そこで原書を通して著者が何を言わんとするのかを考えながら読む習慣をつくようにしたい。そのため一字一句たりとおろそかに出来ない。それが本の中身を理解することであり「本の読み方」なのである。原書を通して勉強の仕方を覚えると言っても良いであろう。</p>		
講義概要	<p>テキストはアメリカの大学で使う標準的なものです。人間-機械系（Human-Machine System または Human-Computer System）における基礎的なことが書かれています。コンピュータ・ソフト開発者の基礎的知識が書かれています。本書は790ページと大部ですが、アメリカでは1年間で読みます。本講義では2～3ページを全員が読んできて内容の紹介（単なる訳ではない、著者の言わんとするところを述べてもらう）をしてもらう。特に分担はせず当日あてていきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Sanders and McCormic; <i>Human Factors in Engineering and Design</i>, 7th ed, McGraw-Hill 出版</p>	
	参考文献	<p>テキストは授業中に配布します。</p>	
評価方法	<p>出席点と2回の期末テストで評価します。出席点とは当てられたところができると0点、できないと-1点、良くできると+1点、他の人が出来ないところができると+1点とし、年間でマイナスにならないければ合格とします。良くできるとは内容について自分で調べ解説ができることです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1回の分量はそれほど多くないので、まず声を出して5～10回読み、最低何が述べられているかを説明できるように予習して下さい。単語の訳を調べるだけではだめです。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期は Chapt. 1 Human Factors and System (pp. 3~22)

Chapt. 2 Human Factors Research Methodologies (pp. 23~43) を予定している。

後期は Chapt. 3 Information input and Processing (pp. 47~89)

Chapt. 4 Text, Graphics, Symbols and Colors (pp. 91~129) を予定している。

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山本正三
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>経済地理の基礎知識を学ぶと同時に、専門外国語の学習が可能なことを念頭において、イギリスの大学における入門テキストを選んだ。内容は簡潔で、複雑で難解な文章はほとんど含まれていないうえに、記述されている事実は多方面にわたっているので、入門者向きなテキストである。</p>		
講義概要	<p>下記テキストの第3部「商品生産の地理」と第4部「工業の地理」を分担をきめて講読していく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ H. Robinson ; <i>Economic Geography</i>, Macdonald & Evans</p>	
	参考文献	<p>・ 青野寿郎他編『地理学辞典』 二宮書店 ・ 芦刈孝 『地理学小辞典』 二宮書店 ・ 三野与吉他編『地理小辞典』 三省堂 ・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房</p>	
評価方法	<p>講読を分担して行く間に主に評価していくが、他に訳読の課題を課し、レポートを提出させる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>原則として出席すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Part 3: The Production of Commodities
2	XIII. Industrial raw materials Textile fibres
3	Vegetable Oils
4	
5	Forest products
6	XIV. Metals and minerals Mineral resources
7	Important minerals
8	XV. Fuel and power resources Resources
9	
10	Oil and natural gas
11	
12	Hydro-electric power
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Nuclear power
2	Part Four: Manufacturing Industry
3	XVI. Industry and its distribution Major industrial regions of the world
4	Features of modern industry
5	XVII. Location of Industry Factors of location
6	XVIII. The heavy industries Iron and steel industry
7	Engineering industry
8	XIX. The light industries Nature of light industry
9	XX. The major manufacturing regions Europe and America
10	
11	Asia and the southern hemisphere
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	山本美樹子
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>英字新聞、Time, News Weekに代表されるような英語の経済関連のジャーナル誌には外国人のライターの中から日本経済を見るとどうなるかといった記事がよく書かれている。有意義な内容のものも豊富にある。これから社会に出る学生にとって、これらの記事の字面を追うだけでなく、経済学的内容も含めて把握できるようになることはいろいろな面でプラスにあると思われる。本講義では、英語の記事を短時間で、意識できるようになるようなトレーニングを積むことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>英字新聞（The Nikkei Weekly, Financial Times, Japan Times等）で国際貿易論、国際金融論、日本経済論等について扱った記事を取り上げ、毎回最近のニュースを授業時間の最初に配り、講義の前半はこれを訳し、後半はその記事について経済学的内容を加えつつ訳していく、というトレーニング形式を進める。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に定めない。 毎回プリントを配る。</p>	
	参考文献	<p>特になし。</p>	
評価方法	<p>毎回のトレーニングテスト 前期末、学年末の試験</p>		
受講者に対する要望など	<p>トレーニング形式で講義を進めるので、毎回必ず出席すること。また毎回必ず英語の辞書を持参すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

毎回いくつかの記事をピックアップしてコピーして配り、これを短時間で意識するトレーニングを積んでいく。授業時間の後半では、私が取り上げた記事について経済学的な解釈を加えて、説明をしていく。

前期終了時には試験をする（通常の充義の時のトレーニングとは別のもの）。後期も同じ形式で進めていく。

科目名	外国書研究 I	担当者名	湯田雅夫
-----	---------	------	------

講義の目標	会計学の新しい領域である環境会計に関する専門知識の習得を目指す。		
講義概要	環境会計の分野で、イギリスにおける第一人者であるグレイ教授の著書をテキストとして採り上げ、各自予習していることを前提に、輪読形式を進める。		
使用教材	テキスト	・ Gray, R.; <i>Accounting for the Environment</i> , 1993	
	参考文献	・ R. グレイ/D. オーエン/K. マンダース著 山上達人監訳 水野一郎、向山敦夫、 國部克彦、富増和彦訳『企業の社会報告—会計のアカウンタビリティ—』白桃書房 ・ 小川 洌、鎌田信夫編『現代英和会計用語辞典』同文館	
評価方法	成績評価は、授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロ〔A4 版〕で作成し、提出のこと）、および後期試験によって行う。		
受講者に対する要望など	私語厳禁。受講者は、十分に予習をして出席すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教材配布。担当者決定
3	環境会計について講義
4	担当者による内容の報告(1)
5	(2)
6	(3)
7	(4)
8	(5)
9	(6)
10	(7)
11	(8)
12	(9)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教材配布。担当者の決定
2	担当者による内容の報告(1)
3	(2)
4	(3)
5	(4)
6	(5)
7	(6)
8	(7)
9	(8)
10	(9)
11	(1) 0
12	(1) 1
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	米山昌幸
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>国際経済にはさまざまな問題が存在し、国家間の利害対立を深めている。その中でも発展途上国の貧困問題、経済発展に関する問題はとくに深刻である。途上国の経済発展は決して途上国だけの問題ではなく、先進国も含めた地球全体として取り組んでいかなければならない問題である。</p> <p>先進国社会に生きる私達にまず必要なことは、途上国の抱える諸問題の実態を認識し、問題解決に向けて何ができるかを考えることである。この講義では、テキストの講読を通して発展途上国の経済開発問題への体系的なアプローチを目指す。</p>				
講義概要	<p>テキストの概要は次の通りである。</p> <p>このテキストは実証的なデータ、経済理論、政策論議を通して、途上国の開発問題に体系的にアプローチしている。〈第1部〉では、第三世界における低開発の実態と意味およびそのさまざまな発現形態に焦点を当てる。〈第2・3部〉では、国内的、国際的両面から主要な開発問題と政策に焦点を当てる。トピックスは経済成長、貧困と所得分配、人口、失業、人口移動、都市化、技術、農村および地域開発、環境、教育、国際貿易および金融、海外援助、民間海外投資、そして債務危機を含む。そして〈第4部〉では、第三世界の可能性と展望を考察する。</p> <p>詳しい章構成については、右のページを参照されたいが、その中からいくつかの章を選んで輪読していく。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i> (Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>渡辺利夫『開発経済学—経済学と現代アジア—』日本評論社、1986年。 高木保興『開発経済学』有斐閣、1992年。 世界銀行、白鳥正喜監訳『東アジアの奇跡』東洋経済新報社、1994年。 World Bank; <i>World Development Report</i> (『世界開発報告』) 各年版。 World Bank; <i>World Debt Tables</i> (『世界債務白書』) 各年版。 海外経済協力基金開発援助研究会編『経済協力用語辞典』東洋経済新報社、1993年。</td> </tr> </table>	テキスト	Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i> (Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布する。	参考文献	渡辺利夫『開発経済学—経済学と現代アジア—』日本評論社、1986年。 高木保興『開発経済学』有斐閣、1992年。 世界銀行、白鳥正喜監訳『東アジアの奇跡』東洋経済新報社、1994年。 World Bank; <i>World Development Report</i> (『世界開発報告』) 各年版。 World Bank; <i>World Debt Tables</i> (『世界債務白書』) 各年版。 海外経済協力基金開発援助研究会編『経済協力用語辞典』東洋経済新報社、1993年。
テキスト	Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i> (Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布する。				
参考文献	渡辺利夫『開発経済学—経済学と現代アジア—』日本評論社、1986年。 高木保興『開発経済学』有斐閣、1992年。 世界銀行、白鳥正喜監訳『東アジアの奇跡』東洋経済新報社、1994年。 World Bank; <i>World Development Report</i> (『世界開発報告』) 各年版。 World Bank; <i>World Debt Tables</i> (『世界債務白書』) 各年版。 海外経済協力基金開発援助研究会編『経済協力用語辞典』東洋経済新報社、1993年。				
評価方法	成績評価は、前期および後期の定期試験の成績に、授業への参加・報告を考慮して行う。				
受講者に対する要望など	<p>受講者に毎回テキストを分担して報告してもらいますが、毎回かなりの分量を読むので、必ず予習をして来て下さい。また、報告者は必ずレジュメを用意して下さい。講読の授業というよりむしろ内容理解に重点を置いたゼミ形式の授業にしたいと思っておりますので、各自の十分な予習に基づいた主体的な参加を期待します。</p> <p>なお、テキストを理解するためには、当然ある程度の基礎的な経済理論や経済用語に関する知識が必要となります。必修の「経済学」はすでに理解できているものとして講義は進めますが、必要に応じて参考文献を紹介したり、補足説明をします。</p> <p>※履修者は、必ず第1週目の授業に出席すること。</p>				

年 間 講 義 予 定

【講義の予定】

第1週はテキストのコピーを配布し、講義のガイダンスを行う。イントロダクションとして、テキスト・参考文献の紹介、講義の内容と進め方、学習の仕方、成績評価の方法などを説明する。また、第2週以降の報告者も決める。

第2週以降はテキストの輪読、参考文献を利用した補足学習、討論を行っていく。

【テキストの章構成】

〈第1部〉 原理と概念

1. 経済学、制度、開発：グローバルな観点
2. 発展途上国の多様な構造と共通の特徴
3. 開発理論：比較分析
4. 歴史的な成長と現代の開発：教訓と論争

〈第2部〉 国内的諸問題と政策

5. 成長、貧困、所得分配
6. 人口成長と経済開発：原因、結果、論争
7. 失業：問題、規模、分析
8. 都市化と農村＝都市の人口移動：理論と政策
9. 農業の変容と農村開発
10. 環境と開発
11. 教育と開発

〈第3部〉 国際的諸問題と政策

12. 貿易政策と開発経験
13. 国際金融、第三世界債務、マクロ経済的安定化論争
14. 貿易政策論議：輸出促進、輸入代替、経済統合
15. 海外直接投資と対外援助：論争と機会

〈第4部〉 可能性と展望

16. 計画立案、市場、国家の役割
17. 金融システムと財政政策
18. 1990年代の重大な諸問題：新たな相互依存、地球規模での環境の脅威、アフリカの悪循環、東欧の経済的移行、貿易と金融のグローバリゼーション

科目名	外国書研究 I	担当者名	御園生 眞
-----	---------	------	-------

講義の目標	ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、ドイツ語で経済学の基礎を学びます。		
講義概要	テキストを分担して訳してもらいながら、説明を加え講義を進めます。		
使用教材	テキスト	・ Otto Seitzer ; <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> , 三修社	
	参考文献	独和辞典 (どの出版社のものでも良い)。	
評価方法	出席と前期・後期の試験の成績で評価します。		
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語を第一外国語あるいは第二外国語として履習した人を対象としますが、意欲ある人の参加も歓迎します。 希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。		

科目名	外国書研究Ⅰ 外国書研究Ⅱ	担当者名	千代浦 昌 道
-----	------------------	------	---------

講義の目標	フランスの経済関連書籍ならびに定期刊行物等の講読を通じて、フランス経済の現状を把握し、分析し、その成果を国内・国際経済理論等の理解に役立てること。		
講義概要	<p>前期は、テキストを使用して主にフランスの新聞、雑誌に掲載された経済・社会関連記事を講読する。</p> <p>後期は、テキストを離れて、最近の Le Monde 紙の経済・社会関連記事を講読する。</p>		
使用教材	テキスト	・小林 茂『新聞のフランス語』白水社、1984	
	参考文献	・松本 正『実務に役立つ経済フランス語』第三書房、1971 ・松本 正『時事経済フランス語』第三書房、1973	
評価方法	前期、後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。毎回出席をとり成績評価の参考資料とする。		
受講者に対する要望など	日本新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2)最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識 (3)フランス経済の基礎データの説明
2	テキスト p.162 "Le nombre des familles de trois enfants a augmenté en France"
3	テキスト p.162 "Dix millions d'habitants en Ile-de-France"
4	テキスト p.164 "Les aides au logement revalorisées"
5	テキスト p.166 "Le prix de la santé en France"
6	テキスト p.168 "Une cité sur des déchets toxiques"
7	テキスト p.170 "La réforme des collèges"
8	テキスト p.172 "La grève pour l'école"
9	テキスト p.174 "Kronenbourg : des syndicats refusent les 35 heures"
10	テキスト p.176 "Cinq hauts fonctionnaires impliqués dans une affaire de pots-de-vin"
11	テキスト p.178 "90 lingots d'or et 3.000 napoléons disparaissent à Paris sans effraction ni violence"
12	テキスト p.180 "A Rueil, le courrier allait à la poubelle"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Le journal "Le Monde"最新経済記事(1)の講読
2	Le journal "Le Monde"最新経済記事(2)の講読
3	Le journal "Le Monde"最新経済記事(3)の講読
4	Le journal "Le Monde"最新経済記事(4)の講読
5	Le journal "Le Monde"最新経済記事(5)の講読
6	Le journal "Le Monde"最新経済記事(6)の講読
7	Le journal "Le Monde"最新経済記事(7)の講読
8	Le journal "Le Monde"最新経済記事(8)の講読
9	Le journal "Le Monde"最新経済記事(9)の講読
10	Le journal "Le Monde"最新経済記事(10)の講読
11	Le journal "Le Monde"最新経済記事(11)の講読
12	Le journal "Le Monde"最新経済記事(12)の講読
備考	

科目名	外国書研究 I B (外国人学生用)	担当者名	益山光央
-----	--------------------	------	------

講義の目標	国際貿易に関する専門書を読み、正確に日本語で書かれた専門書を読む訓練をする。	
講義概要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。教科書の内容は大部分は抽象的な議論です。厳密に読を、理解していただきたい。講義は報告者だけでなく、全員の質疑応答ですめる。	
使用教材	テキスト	伊藤元重・大山道広 『国際貿易』岩波書店、1985
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際貿易の基本的仕組(1)
2	国際貿易の基本的仕組(2)
3	国際貿易の基本的仕組(3)
4	リカード・モデルと比較優位の構造(1)
5	リカード・モデルと比較優位の構造(2)
6	リカード・モデルと比較優位の構造(3)
7	リカード・モデルと比較優位の構造(4)
8	ヘクシャーオリーの貿易理論(1)
9	ヘクシャーオリーの貿易理論(2)
10	ヘクシャーオリーの貿易理論(3)
11	ヘクシャーオリーの貿易理論(4)
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(1)
2	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(2)
3	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(3)
4	資本移動の理論(1)
5	資本移動の理論(2)
6	資本移動の理論(3)
7	国際貿易と経済政策(1)
8	国際貿易と経済政策(2)
9	関税政策の理論(1)
10	関税政策の理論(2)
11	保護貿易と産業政策(1)
12	保護貿易と産業政策(2)
備考	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>外書Ⅱは選択科目なので、英語の力を一層向上させたいかまたは現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。講義内容については、外書Ⅰとほぼ同様な傾向のものをテキストとして採用するつもりである。なお学期末試験は辞書持ち込みを認めて行う予定である。</p>		
講義概要	<p>講読を中心とする。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	未定	
評価方法	<p>平常の出欠と予習を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>4年生は、あらかじめ担当教員の許可を受けて受講すること。</p>		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	小林哲也
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>多国籍企業と世界経済に関する、英文の専門書を読みすすめながら、世界経済の構造変化について考察する。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Richard Barnet & John Cavanagh ・ GLOBAL DREAMS, Simon & Schuster,94 	
	参考文献	<p>授業中に適宜、指示する。 語数、20万程度の英和辞典（例えば研究社『現代英和』など）を用意しておくこと。</p>	
評価方法	<p>平常点を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>専門書の英文の読解が中心となるので、きちんとした予習・復習が要求される。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに：英文経済専門書を読む意義
2	The Age of Globalization
3	Global Dreams
4	The Technology of Pleasure
5	A Small Town Global Giant
6	Of the Making Books
7	Global Entertainment and Local Taste
8	The Global Shopping Mall
9	The Global Customer
10	Marlboro Country
11	The Global Grocer
12	Excursion：英文経済情報活用法
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	The Global Workplace
2	Mass Production in Post Modern Times
3	The New Division of Labor(1)
4	The New Division of Labor(2)
5	The Transformed Workplace
6	Politics, Markets, and Jobs
7	Global Money
8	Bankers in a World of Debt
9	Global Finance and Banking Crisis
10	The Future of Money
11	Digital Cashe
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	本田浩邦
-----	--------	------	------

講義の目標	マクロ経済学の現代的な課題を、英語文献の講読をつうじて考える。基本的に、基礎的な語学力および経済学の基礎知識を前提にして行うので、受講生はそのつもりで出席されたい。		
講義概要	報告担当者があらかじめテキストの詳細な要約を発表した上で、輪読をおこなう。必要な解説を加え、それらをふまえて全体で討論する。		
使用教材	テキスト	未定。適宜プリントを配布する。	
	参考文献		
評価方法	平常点および出席による。無断欠席をするものや欠席の頻繁なものには単位を認めない。		
受講者に対する要望など			

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	益山光央
-----	--------	------	------

講義の目標	英文の国際貿易理論に関する専門書を読む。かなり高度な文献なので難しいと思うが、実力はつくと思う。		
講義概要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。各自分担の箇所はレポートとして提出し、年度の終わりにはまとまった文集としたい。		
使用教材	テキスト	J. R. Markusen & J. R. Melvin; <i>The Theory of International Trade</i> , Harper & Row, 1988	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	The Production Possibility Curve
3	Community Indifference Curve
4	The Offer curve
5	The Gains from Trade
6	The Causes of International Trade
7	The Classical Model
8	The Endowment Model
9	The Specific Factor Model
10	Imperfect Competition and Government Policies as Determinants of Trade
11	Increasing Returns of Scale
12	Taste and Per Capita Income as Determinants of Trade
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Empirical Tests of Trade Model
2	Tariffs
3	Quotas and Other Nontariff Barriers
4	Imperfect Competition, Increasing Returns of Scale, and Strategic Trade Policy
5	Effective Protection
6	Customs Unions
7	Factor Movements
8	Direct Foreign Investment
9	Growth and Dynamic Trade
10	Selected Problems
11	Selected Problems
12	Selected Problems
備考	

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	宮城浩祐
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>企業経営の方法は世界的に類似したものになるのだろうか、それとも文化的な相違を維持し続けるのだろうか。世界ビジネスの経営の方向は単一の方向に収斂するのか、それとも、文化的に固有の独自の方法を維持するのか。このように「収斂」か「拡散」かという問題、永年比較経営論の領域で議論の対象となってきた。ここでは、「拡散」の立場にたって、G. Hofstede の論文を講読する。</p>
講義概要	<p>Hofstede の理論を消化することによって、なぜアングロサクソン型の経営慣行が日本にはないのか、反対になぜ日本型の経営慣行がアングロサクソン社会には存在しないのかが見えてくる。またアメリカで開発された経営理論が必ずしも他の国の企業経営にあてはまらないことも納得できる。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>・ G. Hofstede; "Cultural dimensions in management and planning, <i>Asia Pacific Journal of Management</i>", January 1984.</p>
	<p>参考文献</p>
評価方法	<p>総合評価による。</p>
受講者に対する要望など	<p>まえもって予習することを望みます。</p>

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	森 健
-----	--------	------	-----

講義の目標	<p>近年のアジア太平洋地域における貿易、投資、経済発展について論じた英文文献を読むことにより、(1)現実の経済問題を分析するときに一般的に用いられる理論仮説について理解を深めること、(2)経済論文における議論の進め方(論文の書き方)について学ぶこと、(3)アジア太平洋地域の経済と日本の経済について知識を得ること、(4)英文で書かれた経済専門用語・概念についての知識を得ると共に、その用語、概念について一般に使用されている邦訳を知ること。(例: market failure→市場の失敗)</p>		
講義概要	<p>単行本、学術雑誌、国際機関刊行物、セミナー・ペーパー、ビジネス誌などの英文文献の中で、上記の課題について、できるだけ最近の情報や現象を材料にして分析を行っているものを教材として、輪読する。時には、そこで採用された分析方法(論理の組立て)の背景となる理論を理解するため、英文理論書の関連部分の講読も行なう。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	プリントを配布する。	
評価方法	定期試験および普段点		
受講者に対する要望など	<p>授業の主眼は、英文を機械的に邦訳することにあるのではなく、文献に記された経済分析の内容を理解し、これを批判的に検討することに留意して受講すること。</p>		
年講予 間義定	受講者の要望を参考にしながら決定したい。		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	山本美樹子
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>将来母国へ戻る留学生の皆さんが、母国（東、東南アジア等）の経済を客観的によりよく理解することができるよう、日本語だけでなく英語の経済関連の新聞記事にも目を通すことができるようになることを最終的な目標としていきたい。</p>	
講義概要	<p>受講者と相談しながら教材を決めていきたいが、東、東南アジア関連の記事を取り上げ、この記事について各自どう思うかの意見を述べてもらうというゼミナール形式で講義を進めていきたい。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	特になし。
評価方法	<p>講義中の発表態度 前、後期のレポート</p>	
受講者に対する要望など	<p>各自積極的に自分の意見を述べて欲しい。 出席を重視するので必ず出席すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

アジア経済関連の本のコピー、新聞等の教材を、受講者の希望を聞きながら決め、毎回その記事、あるいは本の抜粋部について、日本語としてわかりにくかったことも含めて各自自分の意見を述べてもらう。前期末にはテーマを決めたレポートを提出してもらう。

後期も前期と同じ方針で進めていくが、できればであるが、英字新聞のアジア関連の記事を取り上げ、ゆっくりでいいから、受講者とともに輪読し、意識しながら内容を吟味していきたいと考えている。後期にもレポートを提出してもらう。

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	御園生 眞
-----	--------	------	-------

講義の目標	現在のドイツ経済に関連するドイツ語テキストを読みながら、ドイツ経済への理解を深めることを目的とします。
-------	---

講義概要	テキストを分担して訳してもらい、それに解説を加えながら講義を進めます。
------	-------------------------------------

使用教材	テキスト	未定。履習希望者と相談して決める予定です。
	参考文献	

評価方法	未定。
------	-----

受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語の外書Ⅰを履習した人を対象とします。希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。
-------------	--

科目名	貿易英語	担当者名	山崎 静光
-----	------	------	-------

講義の目標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。		
講義概要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書きかたの説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行なう。手紙のみならず信用状、契約書裏面約款等の読解を課し、用語に親しませる。		
使用教材	テキスト	・物産研修センター編『ザ ビジネスレター』有斐閣刊	
	参考文献	・山崎静光『輸出入手続ガイドブック』中央経済社刊	
評価方法	中間及学年試験		
受講者に対する要望など	高校程度の英語は心得ておくこと		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ビジネスレターの構成要素 テスト
2	— — —
3	— — — テスト
4	ビジネスレターの本文
5	— — — テスト
6	カバーリングレター
7	— — — テスト
8	新商売の開拓
9	— — — テスト
10	引合とその返却
11	— — — テスト
12	— — —
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オファーと見積り
2	— — — テスト
3	カウンターオファー
4	— — — テスト
5	受諾と拒絶
6	— — — テスト
7	受諾後の手続
8	— — — テスト
9	苦情とクレーム
10	— — — テスト
11	苦情・クレームに対する返事
12	— — — テスト
備考	

科目名	経済英語	担当者名	小林哲也
-----	------	------	------

講義の目標	経済学の考え方、その特殊な分析枠組みなどについて議論する。	
講義概要	<p>日本では、経済学は他の近代科学と同様、輸入学問としてスタートした。それゆえ、基本的な概念や用語が、日常語からかい離している。ある特定の文化・社会的文脈で成立した概念・用語が、他国に輸入される時、必ず意味のズレが生じる。さらに経済学自体が、特殊な人間および社会の切りとり方をする。</p> <p>本講義では、こうした「英語」と「経済学」の事情を解きほぐしたうえで、英語で経済学を「読む」。また英語での情報処理能力を高めるために、適宜ビデオ教材や雑誌記事も利用して、最近の経済事情の理解にも努めたい。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>STEPHEN L. SLAVIN, ECONOMICS, A SELF-TEACHING GUIDE, JOHN WILEY</p> <p>L. ROBBINS, THE NATURE AND SIGNIFICANCE OF ECONOMICS</p> <p>George, Gallagher, et. al., "GRE, Economics", Research, and, Education, Association.</p>
評価方法	講義の理解を助けるための小テスト、小レポートおよび定期試験（前・後期）による。	
受講者に対する要望など	実用的な商業英語は、期待しないこと。	

目 名	総合講座(1) (93年度以降) 総合講座 (92年度以前)		担当者名	経 済 学 部
講 義 の 目 録	<p>二十一世紀へ向かう世界と日本 ——「混迷と新生」の狭間の90年代を考える——</p> <p>私達の日本と日本人は、あと十年後に迫った二十一世紀に入ってから、いったいどうなっていくのだろうか。どのように生き、働き、そしてそれぞれの喜怒哀楽をいかにもって日々を暮らしていくだろうか。日本人として、人間として、恥ずかしくない生き方をしていることができようか。</p> <p>現代世界では、「南」の諸民族における貧困、窮迫、混乱、抑圧、悲惨の渦が巨大化し日常化していることを、誰もが否定できない。「北」の諸民族においても、高度文明と大量消費経済の享受の陰や裏側において、精神的かつ物質的な人間疎外現象が深刻に展開していることを軽視できないだろう。</p> <p>現在進行中の「東」側世界における「解体と新生」も、日本と世界に不可避的に連関していくだろうし、その国家社会のペレストロイカや民衆生活における信仰復活のありようも、人類史の今後に大きな意味を持つことになるに違いない。</p>			
講 義 概 要	<p>大変に好評だった前年度の総合講座に引き続いて、本年度も、経済学部は、諸君の前に、日本経済の現状はどうか、いかに未来に向かって生き抜いて行くか、の知恵と処方箋を問題提起したい。講師陣には、前年同様第一線で活躍されている方々をお呼びしたいと考えている。</p> <p>官庁エコノミスト、文学者、ジャーナリスト、テレビCM評論家、一流経済学者や実業家、第一線の産業人、流通問題専門家、宗教家などを招いて、率直な所を講義していただきたいと計画している。とくに、三・四年生にとって、就職試験のために不可欠の学習となるに違いない。</p> <p>日本経済と、それを動かす日本人がいま世界中でぶつかっている諸困難を考えるにつけても、私達に求められている学習の質と量は、うんざりするほど膨大かつ高度なものとなるだろう。この総合講座は、それらの課題へアプローチするための、学生諸君に最適の参考意見として貴重なものとなるだろう。</p>			
使 用 教 材	テ キ ス ト	各回とも講義担当の方々が配布したものをを使用する場合がある。		
	参 考 文 献			
評 価 方 法	<p>前期・後期それぞれ、筆記試験を行なう。各講演担当の方々の配布した資料その他文献の持ち込みは自由である。前後期ともに、受講者が希望選択した講演者のテーマにつき、関連して論ずる形態の試験である。授業は本学部専任教員が担当して行なう。</p>			
講 者 に 対 す 要 望 な ど				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	担当講師は基本的には毎回、異なるので、年間講義予定は、第1回講義の際に配布する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	本田稔祐
-----	-------	------	------

講義の目標	夏と冬の代表的アウトドアスポーツの水泳とスキーについて、あらゆる知識の履習と、技能の向上、安全面への配慮などを学習し、将来、水泳、スキーをする際、初心者に指導助言のできる人になってもらう。		
講義概要	レクリエーション活動として水泳とスキーをする際の基本技術と理論、健康スポーツとしての実施方法並びに安全に関して自分の安全、他の人の安全などについても考察し、3泊4日の実技の合宿を通して技能の向上もはかる。 実技は昨年7月25日～27日 新潟県 越前浜海岸で実施（水泳） 12月19日～22日 長野県 菅平スキー場で実施（スキー） 本年も上記の日程に準じて行う予定である。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本水泳連盟編『水泳指導教本』 ・大修館『水泳指導ハンドブック』 他 ・全日本スキー連盟『日本スキー指導教本』 ・ " 『スキーと安全』 他 	
評価方法	講義の理解度のテストと、技能の進歩の度合、出席などで評価する。		
受講者に対する要望など	夏、冬各々3泊4日の実技合宿があるので、それに出られる人、合宿々泊費が各々約3万かかります。交通費、リフト代など別途負担。用具は全て各人が用意すること。募集人員は20名以内。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義計画についてのガイダンス 水泳の意義、特性について
2	各種泳法と基本姿勢、基本技術
3	レクリエーション活動として、水泳のかかわり
4	健康スポーツとしての水泳
5	水泳をする際の安全と保健
6	救助法、救急法、蘇生法
7	合宿、第1日目午後 水慣れと基本動作
8	〃 第2日目午前 基本泳法 クロール、平泳
9	〃 午後 基本泳法 背泳、横泳
10	〃 第3日目午前 応用泳法 立泳、潜水
11	〃 午後 各種泳法と救助法
12	〃 第4日目午前 各種泳法とスキューバダイビング
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	スキーのビデオを観て、基本知識の導入
2	スキーの特性と基本技術について
3	スキーの応用技術について
4	用具と安全、マナーについて
5	スキートレーニング
6	スキートレーニング
7	合宿 第1日目午後 雪、用具、斜面などに慣れる
8	〃 第2日目午前 基本姿勢、直滑降、斜滑降、プルーク
9	〃 〃 午後 プルークボーゲン 他
10	〃 第3日目午前 横滑り、ギルランデ他
11	〃 〃 午後 パラレルターン
12	〃 第4日目午前 応用技術
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	和田 智
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>アウトドアスポーツ、アウトドアレクリエーションの計画と実施を授業の中心に置き、レジャーとは何か、また、レジャーの今日的意味と課題を探る。将来的には、学校教育・社会教育でさらに必要性の高まることの予想される野外教育・野外活動について実践を通して学んでもらい、現場で役立つ能力を身につけてもらいたい。</p>		
講義概要	<p>年間に数回予定するアウトドア・シーズンスポーツ、レクリエーションを学内平常授業時に学生が自ら計画・立案し、週末、休日等を利用して学内、学外集中授業で実施する。今年度予定する主な種目は、「山菜（野草）狩りと料理」「レクリエーション・スポーツ」「水辺活動（スキューバダイビング、釣り、カヤックなど）」「山岳型活動（ハイキング、キャンプ、ワンダリングなど）」「雪上活動（スキー、キャンプなど）」である。使用する用具等の都合で授業の定員は20名までとする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野外教育研究会編『野外活動テキスト』杏林書院 ・日本野外教育研究会編『キャンプテキスト』杏林書院 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野外教育研究会編『キャンププログラム1、2』杏林書院 ・中野孝次『清貧の思想』草思社 ・ミヒャエル・エンデ『モモ』岩波書店 	
評価方法	<p>授業への参加と取り組む姿勢、レポートをあわせて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>アウトドアでの活動・教育に特に関心のある学生の受講を希望する。また、実技を中心に授業を行うため、現地への交通費、その他必要とされる実費、個人で準備すべき装備類に費用が必要となる。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	野外活動論
3	「山菜（野草）狩り」の計画と立案
4	学内、または学外の集中にかえる
5	学内、または学外の集中にかえる
6	レクリエーションスポーツについて その1
7	学内の集中にかえる
8	「水辺活動」の計画と立案 その1
9	「水辺活動」の計画と立案 その2
10	「水辺活動」の計画と立案 その3
11	学内、または学外の集中にかえる
12	学内、または学外の集中にかえる
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「山岳型活動」の計画と立案 その1
2	「山岳型活動」の計画と立案 その2
3	「山岳型活動」の計画と立案 その3
4	学内、または学外の集中にかえる
5	学内、または学外の集中にかえる
6	レクリエーションスポーツについて その2
7	学内の集中にかえる
8	「雪上活動」の計画と立案 その1
9	「雪上活動」の計画と立案 その2
10	「雪上活動」の計画と立案 その3
11	学内、または学外の集中にかえる
12	学内、または学外の集中にかえる
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	D. G. Moen
-----	-------	------	------------

講義の目標	<p>The aim of this course is to gain a critical understanding of the Third World "development" paradigm offered by international agencies such as the International Monetary Fund and the World Bank, and assess their worth from the perspective of the peoples directly affected by development policies formulated and implemented by such agencies. We will examine pressing social issues such as environmental degradation, Third World poverty, and the international division of labor from both global and local levels of analysis.</p>		
講義概要	<p>During the first half of this course, through the lectures and assigned readings, a picture of the socio-political aspects of the development paradigm will emerge. The resulting focus of interest should be on contemporary social issues and how people are working collectively to improve the present social conditions.</p> <p>This will lead into the second half of the course in which students will give oral presentations (either individually or in groups) of their fieldwork exercise. Each student will do a minimum of eight hours of participant-observation research on the topic of his/her choice (related to environment or development issues) in an accessible location, taking fieldnotes. Students will note their successes, setbacks, surprises, and adaptations for class discussion.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>Reading relevant to the lectures will be assigned on a weekly basis. Most readings will be in English, with two or three readings in Japanese. Students will be given copies of the reading one week in advance, with the expectation that they will come to class the following week prepared to discuss the contents of the assigned reading for the week. There will be no required texts for this course. Readings will be from academic journals such as <i>Anthropology Today</i>, <i>Current Anthropology</i>, and <i>Comparative Studies in Society and History</i>; from popular journals such as <i>Bulletin of Concerned Asian Scholars</i>, <i>Cultural Survival</i>, and <i>Southeast Asia Chronicle</i>; and selected excerpts from books such as <i>Manufacturing Consent</i>, <i>Gaia Atlas of First Peoples</i>, <i>Development Debacle in the Philippines</i> and <i>A People's History of the United States</i>.</p>	
評価方法	<p>Grades will be based on class attendance, class participation, and a 3-4 page fieldwork analysis to be written. Students will write an informal 3-4 page discussion of their fieldwork experience on the research topic and setting, methods used, and data gathered, which evaluates the field experience. The grade will not be based on English proficiency or the relative "success" of the fieldwork, but on the student's analysis of the fieldwork project.</p>		
受講者に対する要望など	<p>I expect students to attend class on a regular basis so that they will become familiar with not only the course materials and their intended message, but with the varied experiences and interests of their fellow students as well.</p> <p>原則として英語で授業を行います。尚、通訳はつけません。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Introduction
2	Native Peoples and the Colonial Encounter
3	Native Peoples and the Present Encounter
4	Counter-Insurgency and Development
5	Green Revolution : Agriculture and Development
6	Case Studies : Cross-Cultural Comparisons of Development Issues
7	Ibid.
8	Ibid.
9	Ibid.
10	Ibid.
11	Ibid.
12	Research Methods
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Student Research Presentations
2	Ibid.
3	Ibid.
4	Ibid.
5	Ibid.
6	Ibid.
7	Ibid.
8	Ibid.
9	Ibid.
10	Ibid.
11	Ibid.
12	Can Social Research be Value-free and Objective?
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	C. W. Braddick
-----	-------	------	----------------

講義の目標	In this course we will examine Japan's role in the International System since 1952.
-------	---

講義概要	We will begin with a historical introduction to the development of the international system we will then examine how Japan has been shaped by the system and how Japan has influenced it. we will move from a global and functional approach in the first term to a regional and multi-dimensional one in the second.
------	---

使用教材	テキスト	
	参考文献	A list will be provided in class.

評価方法	①Class contribution. ②Two end of term examd.
------	---

受講者に対する要望など	原則として英語で授業を行います。尚、通訳はつけません。
-------------	-----------------------------

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Japan and North America : 1950s (U.S., Canada, Mexico)
2	Japan and North America : 1960s and 1970s
3	Japan and North America : 1980s and 1990s
4	Japan and North-east Asid : 1950s (China, Taiwan, Hong Kong, North Korea, South Korea, Russia)
5	Japan and North-east Asid : 1960s and 1970s
6	Japan and North-east Asid : 1980s and 1990s
7	Japan and Europe
8	Japan and South-east Asid
9	Japan and the Middle East
10	Japan and Africa/Latin America/South Asia
11	Japan and the pacific Basin
12	Debate
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	Theoretical Framework
3	Theoretical Framework
4	Long-term Determinants of Japanese Foreign Policy : History, Geography, Economic Development, Culture...
5	Short-term Determinants of Japanese Foreign Policy : Diet, Political Parties, Bureaucrats, Public Opinion...
6	Japan's Bilateral Diplomacy : Negotiating Style, Political Influence, Goals and Principles.
7	Japan's Multilateral Diplomacy : Japan and International Organisations.
8	Japan's Defence Policy.
9	Japan's Economic Diplomacy.
10	Japan's Foreign Aid.
11	Japan's Environmental Diplomacy.
12	Debate
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	河野重榮
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりが、この科目の狙いである。経営学の研究対象である「経営とは何か」を理解し、経営学の考え方——原理の実際への適用——について学ぶ。現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、問題解決に達しない。経営学の最近の研究成果を熟知することによって、「経営とは何か」が、一層明らかになるであろう。</p>		
講義概要	<p>①はじめに、経営の研究対象である「経営」の把握の仕方、経営学の方法について、②また、経営の所有形態（企業形態、企業グループ、非営利事業体など）と制度的環境（支配集団、利害関係集団など）について述べる。③ついで、トップ・マネジメントのあり方について論じ、④それとの関連で日本的経営の特質と経営の国際化に言及する。</p> <p>管理問題に関しては①マネジメントの生成と発展を、人・組織・システムにおいて考え、②マネジメント・プロセスをめぐって、環境適応、組織の活性化、人材の育成に關説し、③最後に、経営戦略と経営問題の今日的課題を取り上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</p>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものであるから、講義への出席を前提とすることはいうまでもない。講義を正確に理解し、キチンと講義ノートをとるようにしてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに——経営学の学び方——経営学を学ぶ姿勢・方法について
2	組織・制度・職能
3	ドイツ経営学とアメリカ経営学
4	企業形態と株式会社
5	企業グループと非営利事業体
6	経営者支配、利害者集団、コーポレート・ガバナンス
7	トップ・マネジメント論
8	企業家精神、社会的責任、経営理念
9	最高経営責任者の役割
10	日本の経営へのマネジメントの導入
11	日本的意思決定システム
12	国際化と経営文化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マネジメントの生成と発展
2	マニュアルと流れ作業
3	マネジメント・サイクルと人間問題
4	管理原則論と組織の編成原理
5	人間関係論と職場士気
6	マネジメント・プロセス
7	管理過程論への挑戦
8	管理システムと環境適応
9	組織の活性化と動機づけ
10	人材の育成と活用（人間資源管理）
11	経営戦略と競争優位
12	経営問題の今日的課題
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	富田 忠義
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしている ので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいつ たい何か、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。 経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。 本講義は、この種の疑問に、現代経営学の分野での最新の研究成果を平易に概説すること によって、正面から答えようとするものである。</p>		
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の分野での最新の研究成果の紹介を通 して行う。まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対 象と研究方法について考察する。次に、企業に注目して企業の形態と企業間の関係を解明す る。この企業の運営の側面が経営および管理であるが、この分野の今日までの研究の過程を 経営管理学説史の概説を通して全体像を把握し、以下、個別のテーマに入る。</p> <p>個別のテーマとしては、経営者、企業の目的と理念、企業と環境、経営戦略、人と組織、 企業文化、計画とコントロールなどのマネジメント技法、経営と情報などについて取り上げ て、年間を通しての講義が現代企業とその経営を映し出す「現代経営学入門」としたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館 ・工藤達男他編著『現代経営学』白桃書房 ・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 ・森本三男著『（増補版）経営学入門』同文館 ・山城章著『増訂 経営学要論』白桃書房 	
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないの で、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義計画の概説
2	(経営学方法論) 経営学の対象と方法
3	(企業論) 企業形態と企業結合の種類 I 企業形態
4	II 企業体制
5	III 企業間関係
6	(現代経営者論) 現代的経営体と経営者 I 現代的経営者の理念と機能
7	II 企業家精神とイノベーション
8	(経営理念論) 現代企業の目的と理念 I 現代企業の目的と目標
9	II 経営理念と経営社会責任
10	(経営文化論) I 経営文化、企業文化
11	II 経営の国際比較と日本的経営論
12	前期講義のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(経営戦略論) 現代企業の経営戦略 I 激動する環境とマーケティング
2	II 経営戦略と競争優位
3	(経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 I
4	II
5	(マネジメント技法論) I マネジメント・プロセス
6	II 経営計画と経営コントロール
7	(経営組織論) 経営組織の設計と活性化 I 経営組織の編成原理
8	II 組織の能率と組織の活性化 モチベーション(動機づけ)と行動科学
9	(人間資源管理論) 人材の育成と活用 I
10	II
11	(経営情報システム論) 経営情報システムの高度化、情報技術の戦略的利用
12	年間講義のまとめ
備考	

科目名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-----	----------	------	---------

講義の目標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディスプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実証的な学問である。</p>		
講義概要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政策への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。</p>		
使用教材	テキスト	授業で指示します	
	参考文献		
評価方法	<p>レポートと定期テストで評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>①毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1……………マーケティングとは何か（第1週） ●人間のニーズとは。人間の欲求とは ●欲求充足の市場の形成と交換の機能 ●人間は何故買うか（欲求=充足=お金） ●市場の形成過程
2	2……………マーケティング管理の変遷（第2・3週） ●企業は生産中心主義からマーケティング志向へ ●企業の利益中心から消費者の満足へ ●利益中心主義から社会貢献主義へ ●マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ） ●非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
3	
4	3……………社会の発展と人間欲求の変化（第4・5週） ●農業社会・工業社会・脱工業化社会 ●人間欲求の変化と価値観の変動 ●過去—現在—未来（未来予測の方法論） ●消費者動向の変化と企業の戦略形式
5	
6	4……………消費者ニーズの調査法（第6・7週） ●消費者の欲求をさぐりあてる ●デモグラフィック・アプローチ ●ライフスタイル・アプローチ
7	
8	5……………市場調査の技法（第9週） ●データの収集法 ●サンプリングとその実際的方法 ●グループインタビュー法と潜在意識調査 ●質問紙の作成法と技法 ●市場調査の分析と企業戦略
9	
10	6……………消費者行動の分析（第10週） ●文化的・社会的・及心理的な特性 ●社会階層と消費行動 ●欲求の階層化と心理的ヒエラルキー ●新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）
11	7……………マーケティング・セグメンテーション（第11週） ●デモグラフィック要因とジオグラフィック要因 ●人口動態の変化 ●有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）
12	8……………製品企画とライフサイクル（第12週） ●アイデアとコンセプト開発 ●開発から衰退までのライフサイクル
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	9……………マーケティングコミュニケーション（第13週） ●企業の広告戦略 ●広告の技術と戦略 ●広告とセールスポモーション
2	10……………マーケティング戦略と計画の作成（第14・15週） ●セールス・フォース ●セールス・プロモーション ●セールスマンの訓練と育成 ●製品の販売管理
3	
4	11……………サービス・マーケティング（第16週） ●組織のマーケティング ●人材のマーケティング ●計画作成=組織=コントロール機能
5	12……………非営利企業のマーケティング（第17・18週） ●大学のマーケティング ●軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ●ハブリシティの役割
6	
7	13……………マーケティングと企業家（第19・20週） ●企業のリーダーシップとマーケティング ●リーダーのタイプと時代の変化 ●企業のマネジメントとマーケティングの応用
8	
9	14……………マーケティングと国家体制（第21・22週） ●資本主義社会と人間の欲望 ●社会構造と国家政策 ●人間の欲求と国家の政策
10	
11	15……………マーケティングの新しい応用（第23・24週） ●人を動かすマーケティング ●民主主義の理念とマーケティング ●人間とは何か（マーケティングの視点から） ●人生の将来展望（あなたの幸福とは何か？） ●まとめ
12	
備考	

科目名	企業論	担当者名	西川純子
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>企業とは何か、何を目的にどのような活動を行うのかを明らかにするのが、本講義の目標である。問題へのアプローチはさまざまな角度からなされ得るが、本年度は歴史的な分析に力点を置きつつ、企業の生成・発展の過程を把握した上で、現代の企業の問題点を浮き彫りにしてみたい。</p>
-------	--

講義概要	<p>前期は欧米の企業を中心に考察し、後期は日本に焦点を当てて日本的企業の特殊性を検討する。</p>
------	--

使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間宮陽介『法人企業と現代資本主義』岩波書店、1993 ・ 奥村宏『会社本位主義は崩れるか』岩波新書、1992 ・ 西川純子、松井和夫『アメリカ金融史』有斐閣、1989 ・ Th. Veblen; <i>The Theory of Business Enterprise</i> (1904) (小原訳『企業の理論』勁草書房) ・ A.A. Berle & G. C. Means; <i>The Modern Corporation and Private Property</i> (1932) (北島訳『近代株式会社と私有財産』文雅堂) ・ J. K. Galbraith; <i>The New Industrial State</i> (1967) (都留訳『新しい産業国家』河出書房) ・ J. M. Keynes; <i>The End of Laissez-Faire</i> (1926) (宮崎訳「自由放任主義の終焉」『ケインズ全集9』東洋経済新報社)

評価方法	<p>前期、後期それぞれに筆記試験を行なう。</p>
------	----------------------------

受講者に対する要望など	<p>授業中の私語は堅く慎むこと。活発な質問（試験に関するものを除く）を歓迎する。</p>
-------------	---

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業家、資本家、経営者／序論：三題晰
2	営業の自由／企業家精神の発露は営業の自由なしには不可能である。
3	自由と競争／自由と競争は無政府的な混乱を招来する。しかし、いずれは「見えざる神の手」によって調和が回復する。 アダム・スミスの世界
4	農業、商業、工業／産業革命は企業者活動を工業に結びつけた。
5	資本家と労働者／資本家と労働者の対立の構図 カール・マルクスの世界
6	企業金融 その1／銀行の役割
7	企業金融 その2／株式会社と資本市場
8	競争と独占／株式会社は巨大になることによって競争力を獲得しようとする。
9	ビッグビジネス形成の論理 その1／アルフレッド・チャンドラーの世界
10	ビッグビジネス形成の論理 その2／ソースタイン・ヴェブレンの世界
11	所有と支配の分離／株式所有の分散化現象をどう考えるか。バーリー＝ミーンズの問題提起
12	企業と国家／「自由放任主義の終焉」 J.M. ケインズの世界
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本的企業と日本資本主義／日本的企業の特殊性を考えることは日本資本主義の特殊性を考えることである。
2	日本における企業者精神の生成／企業者精神の最初の担い手はどのようにして輩出したか。
3	財閥の生成と発展／三井、三菱、住友を中心に
4	新興財閥の勃興／鈴木商店、日本産業株式会社の場合
5	財閥解体／経済の民主化 その1
6	農地改革／経済の民主化 その2
7	企業集団／日本的企業集団形成の論理
8	法人資本主義／会社本位主義の是非をめぐる
9	企業の系列化／横の系列と縦の系列
10	官民協調／規制と保護の歴史
11	農業経営／農地改革後の50年
12	日本的企業の競争力／規制緩和の是非をめぐる
備考	

科目名	貿易論	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>日本は多くの資源や農産物を海外から輸入し、多くの製品を輸出している。私達の生活が外国との関係を抜きにしては成り立たないことは、改めて言うまでもないことである。このように深く国際経済に組み込まれた日本経済に生きる私達にとって、国際経済のメカニズムを理解することはますます重要となっている。</p> <p>この講義では、国際貿易のメカニズムや貿易政策などを理論的に理解し、分析する力を養成する。この国際貿易の基礎理論の修得を通して、現実の国際経済を考える上での理論的根拠を得ることが目標である。</p>				
講義概要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本、労働、経営資源の国際移動を分析対象とする。前期は、伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。ここでは、なぜ貿易が行われるのか（どのような貿易利益が得られるのか）、どのような財が輸出され、どのような財が輸入されるのか、またその貿易パターンを決定する要因は何かなどを明らかにする。</p> <p>後期は、貿易政策の理論を中心に、地域経済統合理論、直接投資の理論などを講義する。前期の伝統的な国際貿易理論では、自由貿易の利益が明らかにされるが、現実には多くの国で保護主義的な貿易政策が採用されている。ここでは、なぜ保護貿易政策が行われるのか、貿易政策の効果はどのようなものかなどを明らかにする。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>未定（次のものを予定している）。</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス、1989年、第3章2～4 (pp. 37-48)、第1章1 (pp. 9-13)、第6章(pp. 95-112)。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。</p> <p>P.R.クルグマン・M.オブズフェルド、石井菜穂子(他)訳『国際経済：理論と政策Ⅰ 国際貿易』新世社(新経済学ライブラリ=別巻3)、1990年。</p> <p>河合正弘・伊藤元重『三日間の経済学／国際経済学・入門』JICC 出版局、1991年。</p> <p>伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社、1989年。</p> <p>伊藤元重・大山大道広『国際貿易』岩波書店 (モダン・エコノミックス14)、1985年。</p> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>未定（次のものを予定している）。</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス、1989年、第3章2～4 (pp. 37-48)、第1章1 (pp. 9-13)、第6章(pp. 95-112)。</p>	参考文献	<p>奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。</p> <p>P.R.クルグマン・M.オブズフェルド、石井菜穂子(他)訳『国際経済：理論と政策Ⅰ 国際貿易』新世社(新経済学ライブラリ=別巻3)、1990年。</p> <p>河合正弘・伊藤元重『三日間の経済学／国際経済学・入門』JICC 出版局、1991年。</p> <p>伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社、1989年。</p> <p>伊藤元重・大山大道広『国際貿易』岩波書店 (モダン・エコノミックス14)、1985年。</p> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>
テキスト	<p>未定（次のものを予定している）。</p> <p>小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス、1989年、第3章2～4 (pp. 37-48)、第1章1 (pp. 9-13)、第6章(pp. 95-112)。</p>				
参考文献	<p>奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。</p> <p>P.R.クルグマン・M.オブズフェルド、石井菜穂子(他)訳『国際経済：理論と政策Ⅰ 国際貿易』新世社(新経済学ライブラリ=別巻3)、1990年。</p> <p>河合正弘・伊藤元重『三日間の経済学／国際経済学・入門』JICC 出版局、1991年。</p> <p>伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社、1989年。</p> <p>伊藤元重・大山大道広『国際貿易』岩波書店 (モダン・エコノミックス14)、1985年。</p> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>				
評価方法	<p>成績評価は、前期および後期の定期試験に、レポートの得点を加えて行う。レポートは年間10回以上を予定している。</p>				
受講者に対する要望など	<p>出席もせずに、試験だけとりあえず受けたような人で、試験ができたためしがありません。まず、出席して講義を聞いて下さい。でも、聞いているだけではだめです。自分で本を読んで勉強し、レポートで腕試しをして下さい。でも、勉強しっぱなしで、わからないところをそのままにしておいてはだめです。質問に来て下さい。以上のような努力をすれば、その努力は必ず結果につながるでしょう。</p> <p>なお、(どの科目でもそうだと思いますが) 履修希望者は、登録前に必ず授業に出席し、詳しい内容を確認した上で、登録するようにして下さい(※昨年度は登録だけして、出席もしなければ試験も受けない学生が多く見られたので、今年度は第1週目または第2週目に出席した人にもみ登録を許可しようと思います)。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 貿易論とはどんな学問分野か?、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、関連科目、成績評価の方法
2	1. リカードの比較生産費説 (1)モデルの設定(2国2財1要素モデル) (2)閉鎖経済の均衡相対価格、絶対優位と比較優位 (3)生産フロンティア(生産可能曲線)の導出 (4)貿易開始後の両国の生産・貿易パターン、貿易開始後の均衡相対価格、完全特化と不完全特化 (5)最適消費点の決定、消費フロンティア(GNP線、価格線)と社会的無差別曲線 (6)貿易利益、大国と小国
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	3. ヘクシャー・オリー理論—伸縮的投入係数のケース— (1)生産技術の決定、一次同次の生産関数、等量曲線、限界生産力逓減と技術的限界代替率逓減、規模に関して収穫一定 (2)両部門の単位等量曲線、資本集約的な産業と労働集約的な産業 (3)要素配分の決定(ボックス・ダイアグラム分析)、生産要素の契約曲線(効率軌跡) (4)一般的な生産フロンティアの導出 (5)両国の生産フロンティアとヘクシャー・オリー定理
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の解説
2	4. 貿易政策の理論 (1)貿易政策の目的 (2)貿易政策の手段 (3)部分均衡分析による貿易利益、小国の仮定、消費者余剰と生産者余剰、交易条件と経済厚生 (4)関税政策の効果 (5)生産補助金と関税の比較 (6)輸入数量制限と関税の比較、輸出規制と輸入数量制限の違い
3	
4	
5	
6	
7	
8	6. 経済統合 (1)経済統合の諸形態(バラッサの分類) (2)経済統合(関税同盟)の理論、静態的效果(バイナーの理論;貿易創出と貿易転換)、動態的效果
9	
10	
11	7. 国際要素移動の理論 (1)国際要素移動とは?、長期資本移動の分類 (2)国際資本移動の効果(マクドゥーガル図の分析)、国際労働移動の効果 (3)直接投資とは?、直接投資の諸形態 (4)直接投資の理論、直接投資の効果
12	まとめ
備考	

科目名	財務会計論	担当者名	中村 泰 將
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>本講義は、企業、特に株式会社の会計を対象とする「企業会計」を中心に勉強します。我が国の会計制度の仕組みを理解するとともに、財務諸表の作成基準としての会計基準とそれぞれの法が要求する会計法規（商法・証券取引法・税法）の関係を理解することを目的とします。</p>				
講義概要	<p>企業の会計をどのように勉強したらよいか。これには、いくつかの段階的な勉強が必要である。第1段階は、「企業会計原則」を中心に会計学の通説を勉強する（典型的な財務会計の著書はその例である。）。第2段階は、我が国の企業会計制度の中で法的な枠組みに組み込まれた会計（これを「制度会計」と呼ぶ。）を勉強する。本講義は第1と第2を併せて講義する。第3段階は、高度な会計の個別問題である。例えば、①連結財務諸表の作成。②セグメント会計情報の問題。③リース会計の問題。④為替換算処理の問題。⑤物価変動会計の問題。⑥中間財務諸表の作成。⑦金融商品の会計処理、等々の特殊な会計領域である。特に①、②、③、④および⑥は、関連領域の中で講義する予定である。⑤と⑦は時間のある限り講義したい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） ・新井清光『現代会计学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている） </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい） ・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度） </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） ・新井清光『現代会计学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている） 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい） ・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている） ・新井清光『現代会计学』中央経済社（上記の姉妹編であり、平易に書かれている） 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい） ・加古宜士『財務会計概論』中央経済社（初学者から中級程度） 				
評価方法	<p>前期試験と後期試験の総合によって評価する。</p> <p>前期・後期試験：</p> <p>①前期は、出来るだけ会計の専門用語を理解し、現行の会計の仕組みを理解する。</p> <p>②後期は、各論、特論の講義に入るので、会计学の理論的な説明を求める問題を出題する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>①会计学に関する専門書は、書店に山とある。要はその内容を理解することにある。授業をサボるとその内容の行間が理解できないので注意されたい。</p> <p>②テキストは1冊に絞るが、参考文献も読んで、比較してみるのも勉強である。</p> <p>③会计学は、実践科学であり、その意味で理論を会計処理できることが重要である。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2	企業会計の理論的構造を理解する。
3	企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
4	我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。
5	財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
6	「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
7	イ．真実性の原則とその他6つの一般原則との関係。
8	資産会計(1) イ．資産の意義・概念 ロ．資産の分類 ハ．資産の評価基準
9	資産会計(2) イ．流動資産の意義・分類・評価
10	資産会計(3) イ．当座資産の概念・分類・評価 ロ．有価証券の概念・分類・評価
11	資産会計(4) イ．固定資産の概念・分類・評価
12	資産会計(5) イ．繰延資産の概念・種類・償却
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	負債会計(1) イ．負債の概念・分類
2	負債会計(2) イ．引当金の意義 ロ．引当金の設定の目的 ハ．引当金の設定の要件
3	資本会計(1) イ．資本会計の意義と範囲 ロ．資本の源泉別分類と処分可能別分類
4	資本会計(2) イ．払込資本の概念と範囲 ロ．増資・減資の形態と会計処理
5	資本会計(3) イ．評価替資本の会計 ロ．受贈資本の会計
6	資本会計(4) イ．稼得資本の概念と範囲 ロ．商法第288条の利益準備金
7	損益会計(1) イ．損益会計の意義と範囲 ロ．損益計算の区分計算
8	損益会計(2) イ．損益計算の諸原則 ” 費用収益対応の原則 （費用配分の原則） 発生主義の原則
9	損益会計(3) イ．収益の認識基準
10	財務諸表(1) イ．財務諸表の意義と役割 ロ．中間財務諸表の意義と作成
11	連結財務諸表(1) イ．連結財務諸表の意義 ロ(3)．連結貸借対照表の作成基準
12	連結財務諸表(2) イ．連結損益計算書の作成基準 ロ．連結剰余金計算書の作成基準
備考	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	井出健二郎
-----	------------------------	------	-------

講義の目標	<p>ある会社を良い悪いと評価するものさしは何があるでしょうか？様々ありますが、いくらもうかっているか、どれだけ借金があるか…おカネのものさしがあるでしょう。そのおカネのものさしを作るもの…これこそ簿記です。また、皆さんが就職などの際、評価されるものさしは何でしょうか？皆さんの個性が第一ですが、資格の取得が考えられます。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記に関連する資格です。</p> <p>会社として皆さんにとってこうした大切な簿記のしくみを知ってもらうのが本講義の目標です。</p>		
講義概要	<p>前期では、まず簿記の目的やその種類などについて講義をします。続いて、簿記の手順・ルールを勉強する前段階として知ってもらいたい用語などについて説明します。そして、簿記の一巡(ワンサイクル)について基本的な部分を講義します。</p> <p>後期においては、前期での復習を行なった上で個別の取引について簿記ではどのように処理していくかを説明します。そして、簿記の一巡(ワンサイクル)についてマスターしてもらい、実際に皆さんにも簿記の一巡ができるようになってもらいます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①上田俊昭・小川冽・渋谷信夫・湯田雅夫共著『演習商業簿記入門』中央経済社 ②新井清光監修『新ワークブック3級』税務経理協会</p>	
	参考文献	<p>染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 会田一雄・中村泰将・白瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 小川 冽共著『簿記の基礎』創成社</p>	
評価方法	<p>試験(前期テスト・後期テスト)および出席をもとにして総合評価をする予定です。また、資格取得の方にはボーナス評価をするつもりです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけわかりやすい講義を心がけますので、皆さん“この講義をとって良かった”と充実感の残るようにしましょう。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記の諸目的と種類について
2	簿記の基本等式と基本概念について
3	簿記上の取引とその記録について
4	簿記上の取引の勘定記入について
5	簿記のプロセス1：仕訳について
6	簿記のプロセス2：（元帳）転記について
7	帳簿記入と伝票について
8	簿記のプロセス3：試算表について
9	簿記のプロセス4：精算表について
10	簿記のプロセス5：決算手続について
11	簿記のプロセス6：財務諸表の作成について
12	簿記のプロセスの復習と前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義内容の復習
2	現金・預金、商品売買取引に関する簿記
3	売掛金・買掛金、その他の債権・債務に関する簿記
4	手形取引に関する簿記
5	貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
6	有価証券、国定資産に関する簿記
7	費用・収益に関する簿記
8	資本と税金に関する簿記
9	決算手続についての簿記1
10	決算手続についての簿記2
11	財務諸表の作成について
12	簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり
備考	

科目名	簿記原理(管) 簿記(済93年度以前)	担当者名	氏原茂樹
-----	------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、簿記の初学者向けに基礎知識から専門知識まで理解可能なように易しく説明します。簿記の知識を修得するためには、まず、基礎概念の構築が必要であり、それを土台にして専門知識の高度化をはかることになります。</p> <p>簿記は、技術的処理を中心とする科目ですが、その技術的処理は会計理論にもとづいているので、両面から理解が深められるように詳細な説明を行いません。</p>		
講義概要	<p>・前期 企業の経済活動を仕訳にもとづいて、仕訳帳・元帳に記張でき、計算表、6桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成方法が理解できるように簿記の基本原則を学びます。</p> <p>・後期 前期に学んだ簿記の基本原則にもとづき、特殊な取引に関する簿記処理を学習します。</p>		
使用教材	テキスト	氏原茂樹著『簿記の基礎詳細』税務経理協会	
	参考文献	新井清光監修『日商簿記検定・ワーク・ブック(3級商業簿記)』税務経理協会	
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価します。</p> <p>①定期試験</p> <p>②学習意欲と学習成果</p> <p>③出席状況</p>		
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない</p> <p>②予習・復習をする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ	
1	資産・負債・資本	基礎概念と簿記処理
2	収益・費用	基礎概念と簿記処理
3	取引・仕訳	取引要素と仕訳の方法
4	仕訳・転記・伝票	転記の方法と伝票の記入
5	仕訳帳・総勘定元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記入
6	試算表	試算表の機能と作成方法
7	精算表	精算表の機能と作成方法
8	決算手続	決算の予備手続と本手続
9	現金・預金	現金等の内容と処理
10	小口現金	小口現金の内容と処理
11	商品勘定と3分法(1)	分記法、総記法、3分法による仕訳
12	商品勘定と3分法(2)	分記法、総記法、3分法の決算処理
備考	3分法の総合問題	3分法による仕訳と転記の総合問題

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	仕入帳・売上帳	仕入帳・売上帳の機能と記帳方法
2	商品有高帳	商品有高帳の機能と記帳方法
3	売掛金と買掛金	売掛金元帳と買掛金元帳
4	手形取引	約束手形と為替手形の処理
5	貸倒償却と貸倒引当金	貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理
6	有価証券	有価証券の内容と処理
7	固定資産と減価償却	固定資産と減価償却の内容と処理
8	その他の債権・債務	その他の債権・債務の内容と処理
9	個人企業の資本金	個人企業の資本金の内容と処理
10	決算整理	決算整理の内容と処理
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延の内容と処理
12	8桁精算表	8桁精算表の機能と作成方法
備考	損益計算書と貸借対照表	損益計算書と貸借対照表の機能と作成方法

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	岡下 敏
-----	------------------------	------	------

講義の目標	簿記は企業で用いられている記録のつけ方で、明治初期に西洋から導入されたものである。したがって記録のつけ方の中に、西洋人の思考パターンが組込まれている。この記録のつけ方を、将来企業人となる者に必要と思われるレベルまで講義する。講義では、単に理論を習得することだけではなく、実際に各自が記帳処理することをも含める。		
講義概要	企業は、二つの計算書(損益計算書、貸借対照表)を作成する。そのためそれらに記載される事柄について、日頃からデータを集めておかねばならない。そのデータを集めるための記録の仕方が簿記であるが、それには一定の形式と記帳順がある。この形式と記帳について、全くの初歩の段階から講義し、上記二つの計算書を作成しかつ理解しうるまでを講義する。		
使用教材	テキスト	・岡下 敏著 『商業簿記入門』同文館、平成5年	
	参考文献	・沼田嘉穂著 『簿記教科書』同文館、平成6年 ・中村 忠著 『現代簿記』白桃書房、平成5年	
評価方法	前・後期とも幾度かの小テストを行い、後期末に定期試験を行う。評価はそれらの結果をすべて加味して行うが、特に後期の定期試験の結果を重視する。		
受講者に対する要望など	欠席は、その後の講義の理解に大きく影響する。したがって欠席はしないことを希望する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何か。なぜ必要なのか。記録の仕方としての特徴は何か。
2	簿記で記録するのは何か。資産、負債、資本の意味と、それらの相互関係。
3	資本が増減する二つの原因。増資、減資と収益、費用の区別の重要性。
4	取引の意味と、二つの要素に分けた記帳。借方と貸方。
5	取引発生順の記録（仕訳）。仕訳の原則と仕訳帳。
6	仕訳記録の組替え。具体的項目名（勘定科目）別の記録。総勘定元帳。
7	仕訳帳と総勘定元帳の検算。合計試算表と残高試算表。
8	下書きとしての精算表（6桁）。
9	勘定口座の締切り（大陸式決算法）
10	勘定口座の締切り（英米式決算法）
11	損益計算書と貸借対照表の作成
12	前期のまとめ（簿記の基本構造の完全な理解のために）。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算整理(I)。なぜ日常記録したものを修正しなければならないか。どのような手順で行うのか。収益勘定、費用勘定の整理。
2	決算整理(II) 固定資産勘定と債権勘定の整理
3	練習問題を用いたここまでのまとめ。
4	多くの勘定科目の理解のために(I)→現金勘定、当座預金勘定等。
5	多くの勘定科目の理解のために(II)→商品売買に関する勘定科目（三分法を中心として）
6	多くの勘定科目の理解のために(III)→手形取引の処理について
7	多くの勘定科目の理解のために(IV)→有価証券の売買に関する勘定科目。
8	多くの勘定科目の理解のために(V)→固定資産に関する勘定科目（直接法と間接法を中心として）
9	多くの勘定科目の理解のために(VI)→その他の債権及び債務勘定。
10	総括問題を用いた練習と解説(I)
11	総括問題を用いた練習と解説(II)
12	一年間のまとめ
備考	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	中村泰將
-----	------------------------	------	------

講義の目標	コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の結果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。
-------	--

講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことができるから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A["(1) 経済活動"] --> B["(2) 簿記上の取引"] B --> C["(3) 分類・記録・計算"] C --> D["(4) 試算表"] D --> E["(5) 損益計算書"] D --> F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>
------	---

使用教材	テキスト	・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。
	参考文献	簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。 ・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社

評価方法	前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。
------	---------------------------

受講者に対する要望など	出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。
-------------	-------------------------------------

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何かを理解する
2	(1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
3	(1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
4	(1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
5	(1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6	第5回までの一連のプロセス 取引 → 仕訳帳 → 元帳 → ?
7	試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どういう目的で試算表を作成するか
8	精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9	決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
10	(2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
11	決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
12	(3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
備考	前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金と預金の処理
2	商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
3	(3) 商品有高帳の作成
4	(4) 仕入帳と売上帳の作成
5	有価証券の購入・保有・売却の処理
6	固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
7	債権・債務の処理(1)
8	その他の債権・債務(2)
9	資本金の処理
10	決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用の前受収益
11	決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
12	決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成
備考	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	福島 寿
-----	------------------------	------	------

講義の目標	簿記の初級すなわち、基礎から中級までを段階的に講義することによって、簿記の全仕組を平易に解説することを目的とする。		
講義概要	シラバスに記したように、まず、テキストⅠで説明的講義を行い、次にそれを応用するために、テキストⅡで演習を行うという方式で講義をすすめる予定である。 テキストについては変更もありうることを留意していただきたい。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ 會田義雄著『簿記講義(改訂版)』国元書房 ・Ⅱ 井上達雄・新井清光編『検定簿記ワークブック・3級商業簿記』中央経済社 	
	参考文献		
評価方法	評価はテスト及び授業への参加度(レポートを含む)により決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの第1講及び第2講。テキストⅡの第1回
2	テキストⅡの第2回から第5回まで。
3	現金・預金・有価証券の諸勘定。テキストⅠの第3講。
4	テキストⅡの第11回及び第12回
5	仕訳帳と元帳。テキストⅠの第4講。
6	テキストⅡの第7回。
7	商品勘定とその分割。テキストⅠの第5講及び第6講。
8	テキストⅡの第13回及び第14回。
9	債権・債務の勘定、手形の勘定。テキストⅠの第7講
10	テキストⅡの第15回、第16回、第25回、及び第26回。
11	試算表と精算表。テキストⅠの第8講。
12	テキストⅡの第8回、第9回及び第10回。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算。テキストⅠの第9講。
2	テキストⅡの第20回及び第21回。
3	基本財務諸表の作成。テキストⅠの第10講。
4	テキストⅡの第19回、第29回及び第30回。
5	テキストⅠの第11講。伝票仕訳制。テキストⅡの第6回。
6	特殊商品取引（その一）。テキストⅠの第13講。
7	特殊商品取引（その二）。テキストⅡの第14講。
8	有形無形固定資産の諸勘定。テキストⅠ第16講。テキストⅡ第17回。
9	投資その他の資産・繰延資産の諸勘定。テキストⅠ第17講。
10	資本金の諸勘定。テキストⅠ第18講。テキストⅡ第18回。
11	本支店会計。テキストⅠ第19講。
12	年度末テスト。
備考	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	細田 哲
-----	------------------------	------	------

講義の目標	「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。																
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が簡単な精算表の作成、決算本手続きを遂行できるようにすることを目的とする。 講義の個々のテーマを列举すると、次の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>○ 複式簿記とは</td> <td>○ 試算表と精算表</td> </tr> <tr> <td>○ 取引と勘定</td> <td>○ 決算(1)</td> </tr> <tr> <td>○ 仕訳帳と総勘定元帳</td> <td></td> </tr> </table> <p>後期講義は、学生諸君が、次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。 個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、貸借対照表、損益計算書の作成である。 講義の個々のテーマを列举すると、次の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>○ 現金・預金の記帳</td> <td>○ 資金調達・返済取引の記帳</td> </tr> <tr> <td>○ 掛取引の記帳</td> <td>○ 損益整理</td> </tr> <tr> <td>○ 商品売買の記帳</td> <td>○ 決算(2)</td> </tr> <tr> <td>○ 手形取引の記帳</td> <td>○ 貸借対照表、損益計算書の作成</td> </tr> </table>			○ 複式簿記とは	○ 試算表と精算表	○ 取引と勘定	○ 決算(1)	○ 仕訳帳と総勘定元帳		○ 現金・預金の記帳	○ 資金調達・返済取引の記帳	○ 掛取引の記帳	○ 損益整理	○ 商品売買の記帳	○ 決算(2)	○ 手形取引の記帳	○ 貸借対照表、損益計算書の作成
○ 複式簿記とは	○ 試算表と精算表																
○ 取引と勘定	○ 決算(1)																
○ 仕訳帳と総勘定元帳																	
○ 現金・預金の記帳	○ 資金調達・返済取引の記帳																
○ 掛取引の記帳	○ 損益整理																
○ 商品売買の記帳	○ 決算(2)																
○ 手形取引の記帳	○ 貸借対照表、損益計算書の作成																
使用教材	テキスト	・中村忠『新訂 現代簿記』白桃書房															
	参考文献																
評価方法	年2回以上の試験の結果による。																
受講者に対する要望など																	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	百瀬房徳
-----	------------------------	------	------

講義の目標	本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。		
講義概要	複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。		
使用教材	テキスト	・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社	
	参考文献	無し	
評価方法	前期および後期において講義した範囲について試験する。		
受講者に対する要望など	講義のあった日に必ず復習すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間における講義内容の説明。
2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3	仕訳の基本原則および取引勘定への転記。
4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
7	パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10	練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11	練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12	練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金勘定と現金出納帳。
2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
3	商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
4	仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
5	仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
8	受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
10	固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
11	決算前の諸勘定の整理について。
12	決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。
備考	

科目名	簿記原理(営) 簿記(済93年度以前)	担当者名	湯田雅夫
-----	------------------------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局 ・小川冽・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984 	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2	簿記の歴史
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4	第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5	第4章 取引；第5章 勘定
6	第6章 仕訳と転記
7	第7章 帳簿
8	第8章 簿記一巡の手続き
9	第9章 現金預金
10	第10章 商品売買
11	第10章 商品売買
12	第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13章 その他の債権・債務
2	第14章 手形
3	第15章 貸倒れと貸倒引当金
4	第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
5	第18章 収益・費用の繰延と見越
6	第19章 決算予備手続
7	第19章 問題
8	第20章 決算本手続
9	第20章 決算本手続
10	第20章 問題
11	総合問題
12	本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。
備考	

科目名	会計学原理	担当者名	宮澤 清
-----	-------	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>会計書類のなかで最も重要な貸借対照表と損益計算書それ自体の意味と内容についての考察とそこに示される資産、負債、資本、剰余金、収益および費用などの言葉と用法についての考察は、会計理論を構築する際の基礎となるものである。したがって、会計の概念を厳密に分析し、それを総合するということが何よりも重要である。こうした認識のもとにおいてはじめて会計に用いられる言葉の正確な意味と内容が浮き彫りにされ、実在の構造が忠実に反映され、より現実的なものとなる。そのうえ、会計学においてはすべての経済事象を数量化して資本計算を合理的、没価値的に行なうことができる複式簿記を用いることによって会計実務の内容が最も鮮やかに、かつ具体的に示されるのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・拙著『財務会計論』。なお、『財務会計理論』でも可。いずれも白桃書房</p>	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計の定義：会計は二つの理念型を用いて定義することができる。それは、一方では現実からの抽象という意味で具体的・現実的・歴史的であり、他方では頭脳による昇華という意味で観念的・理念的・当為的である。
2	事物と記号：会計の定義は、その対象がどのような性質をもっているかという事実についての事物説明および言葉の用法である記号説明の果たす役割に大きく依存している。それらには真偽の問題がおこるからである。
3	会計学説：現代の会計を支配しているのは意思決定説と会計責任説である。前者は財務諸表の内容やその有用性を極度に強調し、後者は財務諸表に記入される項目はすべて取引にもとづいているという点に重点をおく。
4	管理・保全：会計の基本的な機能は会計事実を適正かつ正確に記録することによって果される。その「記録と記録の照合」および「記録と事実の照合」を行なうことによって財産の管理・保全が完遂されるのである。
5	測定：測定とは、対象に数値を与えることであるが、会計において測定の対象となるのは、数える能力を意味する加法性と物を無差別に認識することを意味する外延量に限られ、内包量については測定からはずされる。
6	伝達：伝達は、ある人が言語を用いてある事柄を表現し、もう一人の人がその表現したものを理解することによって達せられる。このように、企業の経済活動は、主として、会計数値によって表現され、伝達される。
7	社会統制：サンクションとは、一定の社会的行為に対する社会の反応である。この作用・反作用が双方向性と呼ばれる統制作用なのである。この作用によって本質的に異なる情報の提供者と被提供者の利害が均衡する。
8	社会的責任：財務会計は公共的性格をもつということから、社会的要請としての適正な損益を計算し、収益力を明瞭に表示し、会計責任を明確にすると同時に環境情報の開示をも適正になさなければならないのである。
9	会計原則：会計に用いられるルールは、一般に認められた会計原則のことである。それは人間によって開発された人間の作品である。しかもそのルールは法のそれにもまして論理の所産ではなく経験の所産なのである。
10	一般原則：一般原則は会計実践に対する包括原理である。会計実践に対する共通の包括原理となりうるところに一般原則における「一般」の意味がこめられている。一般原則は七つあるが、ほかに重要性の原則もある。
11	資産の意味：資産は、将来の期間にわたって企業の経済活動に役立ち、収益を生み出す活力となるものであり、かつ貨幣で測定できるものである。その典型的なものに、貨幣性資産と費用性資産（非貨幣性資産）がある。
12	資産の評価：評価とは、対象に価値を定めることであるが、会計上、評価といえ、それ自体が評価の尺度となりうる貨幣を除く資産と負債に金額をつけることである。評価の基礎には原価と時価および低価法がある。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	当座資産：当座資産は企業の支払手段または購買力として役立つ資産であり、きわめて流動性の高い資産である。そのために、支払資産ともいわれる。容易に現金化することができるという点に当座資産の特徴がある。
2	棚卸資産の評価：棚卸資産の評価は、貸借対照表価額をどのようにきめるかという意味での評価である。棚卸資産会計のなかで最も重要なのは、期中払出高と期末有高をどのような金額で評価するかということである。
3	減価償却：資産は、結局、その経済的価値を減少し廃棄される運命にある。このような運命をもつ固定資産をどのように保持し維持することができるかを会計技術的に考察を加えたのが減価償却といわれる技術である。
4	繰延資産：資産は継続企業の仮定のもとに長期に及んで企業の経済活動に役立ち、収益を生み出す活力をいうが、換金性のないのに用役潜在力の存在を根拠として資産としての市民権が与えられたのが繰延資産である。
5	引当金1：引当金が成立する第一の要件は、将来において発生すると予測される費用または損失が特定され、かつ将来において発生する費用または損失の原因の事実が当期以前の事象に起因しているということである。
6	引当金2：引当金成立の第二の要件は、将来の費用または損失たる事象の発生の可能性が高く、かつそれらの費用または損失の金額が合理的に見積もられ、当期の負担額が適正に算定されねばならないということである。
7	資本会計：資本会計は資本を自己資本の意味に解し、他人資本たる負債と区別して処理するとともに、資本を利益に対する概念であると考え、そこに利益の帰属主体である資本の提供者を捉える論理に支えられている。
8	剰余金：企業が資本を用いて経済活動を行なうことによって、最初に投下された価値を超える額（剰余）が生まれる。これが利益の属性をもつところの剰余金なのである。このほかに資本の要素をもつ剰余金がある。
9	損益の認識：収益・費用・利益・損失という言葉も、会計の世界についての素材から、思维経済のもとに、会計の概念をとらえるための手段として知的に抽象したものである。これらの言葉によって収益力がわかる。
10	損益計算法：今日の会計において、損益の計算を行なう場合に、期間損益と期間外損益に関連する二つの思想、つまり計算の方法がある。それには、主たる営業活動を重視する当期業績主義とそうでない包括主義がある。
11	認識基準：収益と費用をどの段階で認識するかについては、会計上三つの基準が用いられる。古くから用いられている現金主義、主として費用の発生に用いられる発生主義、収益の実現に用いられる実現主義である。
12	財務諸表：財務諸表のうちで主要なものは、損益計算書と貸借対照表である。前者は一定期間における企業の経営成績を明らかにする書類であり、後者は一定時点における企業の財政状態を明らかにする書類である。
備考	

科目名	会計学原理	担当者名	湯田雅夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義は、会計の学習を新たに始めようとする学生諸君、さらにはより広くまたはより深く学習しようとする学生諸君を対象にして、専門的知識としての会計学ではなく、教養としての会計学に主眼を置きつつ、企業会計が如何なる仕組みを持ち、経済社会において如何なる役割を果たしているかをできるだけわかりやすく解説する。</p>		
講義概要	<p>企業会計の領域を財務会計、管理会計、社会関連会計に区分して、講義を進める。</p>		
使用教材	テキスト	<p>適宜指示する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・森川八洲男・佐藤紘光・千葉準一『会計学』有斐閣 ・津曲直躬・新井清光編『会計学を学ぶ』有斐閣 	
評価方法	<p>成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語厳禁</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計学とはどのような学問か／何のために学ぶのか
2	現代会計学の潮流
3	会計学の今日的基本任務
4	企業会計の3つの領域
5	企業会計の仕組み
6	企業会計制度／法的規制
7	財務諸表の見方(1)
8	(2)
9	(3)
10	(4)
11	(5)
12	ディスクロージャー制度の拡充
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際会計基準の制定
2	原価計算の役割と計算構造(1)
3	(2)
4	(3)
5	管理会計の意義
6	管理会計情報の特質／財務会計情報との相違点
7	意思決定会計
8	業績評価会計
9	物量管理と価値管理
10	社会関連会計の役割
11	人的資源会計
12	環境管理・監査
備考	

科目名	経営管理論	担当者名	富田忠義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業、官庁、学校、病院などの組織体は、経営学の分野では「経営体」とか「経営」とか呼ばれるが、この意味での経営体における管理または経営と管理を主として研究するのが経営管理論である。経営管理論はきわめて実践的な性質の強い学問分野であるから、その内容は理念、理論、技法などから構成されている。近年の経営環境の変化や経営の国際化などの刺激を受けて、この学問分野もめざましい発展を遂げているが、本講義では、主要なテーマに関する最近の研究成果について、初学者向けに易しく概説したいと思っている。</p>
講義概要	<p>経営体は絶えず変化を続けている環境の中で活動しており、その存続と発展のためには環境との適合を常に考えながら意思決定し行動することが必要になる。こうした問題をまず、経営戦略の面から取り上げる。次に、合理的な行動が求められるとき、行動の開始に先だって行われる意思決定を個人的な決定と組織における決定に分けて、そのメカニズムを解明する。</p> <p>機能の面からみれば、経営管理は意思決定のほか、計画、組織、動機づけ、コントロールなどの要素機能から成るので、計画以下の機能を個別に取り上げて、実際、理念、理論、技法の面から考察する。</p> <p>最後に、テイラーの科学的管理法以降のこの分野の発展を経営管理学説として概説する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営管理の概要
2	経営戦略Ⅰ 企業と環境
3	経営戦略Ⅱ 経営戦略の基礎
4	経営戦略Ⅲ 成長戦略の策定
5	経営戦略Ⅳ ビジネス・ポートフォリオ・マネジメント
6	経営戦略Ⅴ 競争戦略と戦略経営
7	意思決定Ⅰ 問題解決と意思決定
8	意思決定Ⅱ 組織における意思決定
9	意思決定Ⅲ 日本的意思決定システムとしての稟議制度
10	経営計画Ⅰ 経営計画の基礎
11	経営計画Ⅱ 経営計画の種類と体系
12	経営計画Ⅲ 経営計画の策定過程
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営コントロールⅠ 経営コントロールの過程と種類
2	経営コントロールⅡ 全社レベルのコントロール
3	経営組織Ⅰ 経営組織の基礎
4	経営組織Ⅱ 責任と権限、ラインとスタッフ
5	経営組織Ⅲ 経営組織の基本形態
6	モチベーションⅠ モチベーションの基礎
7	モチベーションⅡ モチベーションの心理学
8	モチベーションⅢ 組織におけるモチベーションの作用
9	経営管理学説Ⅰ 科学的管理の前史とテイラーの科学的管理法
10	経営管理学説Ⅱ ファヨールの管理過程論
11	経営管理学説Ⅲ ホーソン実験と人間関係論
12	経営管理学説Ⅳ 行動科学的管理論・組織論、バーナード＝サイモン理論他
備考	

科目名	経営労務論	担当者名	宮城浩祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営労務論は、人的資源の管理の諸問題を取り扱う領域である。その目的は、企業には効率、従業員には満足をもたらすものであるということはいうまでもない。労務政策には普遍的妥当性をもった政策はない。種々の環境要因に規制されて、個々の政策がうまれるのであるが、ここでは環境要因のうち、文化に着目して、文化と労務政策との関係を考察する。そして、むしろ文化にフィットした労務政策こそすぐれた政策であることを明らかにする。そこで当然のことながら、比較経営的な観点から、各国との比較において、日本の企業の労務政策を明らかにすることになる。</p>		
講義概要	<p>各週別に明らかにする（次頁の各週別の講義概要を見られたい）。</p>		
使用教材	テキスト	<p>その都度、10枚程度の教材を配布する。期末にはかなりの枚数になるので、適宜整理しておかないと、どれが何回目の資料であるか、わからなくなってしまうことがあるので注意して下さい。また英文資料を配布することもあります。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・経済企画庁編『経済白書』（平成4年版） ・同庁編『経済白書』（平成6年版） ・R. Dore 著『日本型資本主義なくしてなんの日本か』光文社 1993年 ・G. Hofstede 著『経営文化の国際比較』産能大出版部 1988年 	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義順位・内容等に若干の変更もあるかも知れませんが御了承下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	“your company” と “our company” 「会社は誰のものか」と問われた場合、日本人は「株主のもの」と答えず、「従業員のもの」と答えることが多く、ここに日本人の企業観が示される。ここで stakeholder について考える。
2	配当政策の国際比較 日米の配当政策のちがいを明らかにする。これは直接的には企業と株主との関係の日米のちがいを考察するものであるが、この考察によって株主主権型企業と従業員主権型企業の差異を示す。
3	企業の政治的側面 企業は stakeholder の連合体である。これらの構成員は、意思決定への影響力、情報報の共有度において同一ではなく、階層関係にある。中核集団と衛星集団に二分して、これらを考察する。
4	生産性と成果配分 「生産性」の概念を明らかにするとともに、生産性の向上の成果が stakeholder にどのように配分されるかを考察する。どのように配分されるかは、市場要因、stakeholder の影響、文化で決まる。
5	労働時間の短縮と弾力性 時短のメカニズムを明らかにするとともに、もう一つの潮流である労働時間の弾力化について考える。後者は、自己決定化の世界的潮流を反映する。
6	雇用調整の国際比較 雇用調整政策は、文化によって差異がある。ここでは雇用関係を primary model と relational perspective にわけて考察する。日本企業は後者、米国企業は前者に属する。
7	労働市場の内部化と従業員の志向 労働市場の流動化が つねに叫ばれながら、日本企業は労働市場の内部化を人事・労務の基本戦略としてきた。従業員の志向も上昇志向である。この政策の merit/demerit を考察する。
8	賃金政策と交換理論 文化人類学や社会学の諸領域で開発された交換理論を使って賃金政策を分析する。
9	賃金政策と分配公正理論 分配公正理論では、どのような資源配分が公正と構成員のあいだで認識されるかは、文化によって決まることがわかっている。ここでは、この観点から賃金政策を分析する。
10	付加給付政策と paternalism 付加給無政策は、その企業のおかれた経済的、社会的、文化的要因によって決まる。ここではパターナリズムとの関係も考察の対象としたい。
11	定年制の諸問題 定年制の機能、定年延長の阻害要因を検討するとともに、定年制運用は今後一層フレキシブルにならざるを得ないだろうということを示す。これには、労働時間の弾力化と共通の論理がはたらく。
12	盛田論文をどう読むか ソニー会長盛田昭夫「日本型経営が危ない」(文芸春秋、1992年2月号)は、労務政策に影響を及ぼす重要な提案を起なっている。これをどう読むべきかを検討する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	職務概念と組織設計 A. Brown の組織論は、組織設計において、個人の責任の明確化を貫徹すべきであることを強調する点で、アングロサクソン系組織論の典型である。これに対して日本企業のそれは弾力的である。
2	equifinality について 「講義の目標」を参照のこと。equifinality とは、同一の目標を達成するには、種々の手段があることを示す英語。
3	計量的関与と道徳的関与 A. Etzioni の示した組織への関与の型。この二分法と個人主義/集団主義との関係を考える。
4	合理的経済人と科学的管理法 A. Smith はいうに及ばず、伝統的な経済経営理論は、この人間モデルを前提にしている。労務政策でも同じである。この人間観の上に、管理戦略がたてられた。両者の関係を明らかにする。
5	社会人モデルと Hawthorne 実験の意味 ホーソン実験の成果が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。と同時に、そこで生れた人事・労務政策をみる。
6	自己実現人モデルと Maslow の欲求階層理論 彼の仮説が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。また彼の仮説は、米国以外の国で、つぎつぎと検証されたが、それらの結果を紹介する。
7	McClelland の達成動機論と経済成長 M. Weber は、宗教と経済成長との関連を考山したことでよく知られる。McClelland の理論は、この系譜に属し、経済成長には達成動機が寄与していることを証明しようとした。
8	「Made-in America」の動機づけ理論は普遍的妥当性をもつか Maslow の理論といい、McClelland の理論といい、それらはみんな「米国製」の理論である。はたして、それらは他の文化に移転できるか。
9	Herzberg の二要因理論と職務充実 職務設計の人間工学的技術において、職務充実が有名である。Herzberg の理論は、この技術の構築にどのように寄与したかを考える。
10	「仕事の人間化」——もう一つの道 ボルボのカルマール工場では、仕事の人間化のために、ベルトコンベアを廃止して「半自律的作業集団」を導入した。これは職務充実とは別の道である。その文化的背景をさぐる。
11	海外要員政策の諸問題 R. Tung による日米欧の多国籍企業の海外派遣要員政策の比較結果を紹介し、これを文化の観点から考察する。
12	比較経営論と労務政策 G. Hofstede の比較経営論の観点から労務政策を総括的に考察し、終講とする。
備考	

科目名	財務管理論	担当者名	細田 哲
-----	-------	------	------

講義の目標	我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。		
講義概要	各週別の講義予定を見られたい。		
使用教材	テキスト	・井手正介、高橋文郎『ビジネス・ゼミナール 企業財務入門』日本経済新聞社	
	参考文献	・岡部政昭『企業財務論』（新世社） ・岩村 充『入門 企業金融論』（日本経済新聞社）	
評価方法	年2回の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 企業の目的と財務政策 a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b) 企業による市場を通じる価値創造
2	c) 資本市場の役割 d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
3	2 資産の価値をどう評価するか a) 現在価値の評価
4	b) 債券の評価
5	3 株式の価値はどう決まる a) 配当割引モデルの考え方 b) 一定成長割引モデルと株価収益率
6	c) 配当割引モデルの応用 d) 日本の株価水準と期待収益率
7	4 リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度
8	b) ポートフォリオのリスク
9	c) ベータ値と資本資産評価モデル
10	5 資本コストとは何か a) 資本コストとは b) 投資のキャッシュ・フロー
11	c) 資本コストの推計方法
12	d) 日本企業の資本コストの計算例 e) 資本コストと資金コスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	6 望ましい資本コストとは a) 完全資本市場における資本構成と企業価値
2	b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響
3	c) 企業価値の最大化と株価の最大化 d) 資本構成決定の現実的な考慮点 e) 日米企業の資本構成の動向
4	7 配当政策の考え方 a) 配当政策の理論 b) 配当政策をめぐる問題点
5	c) 株式配当と株式買い戻し d) 日米企業の配当政策
6	8 資金調達が多様化 a) 先物取引
7	b) オプション取引
8	c) スワップ取引 d) 転換社債とワラント債
9	9 社債ファイナンスと格付け
10	10 企業の合併・買収
11	11 日本の伝統的な金融システムの特徴と問題点
12	12 日本企業の財務政策の課題
備考	

科目名	国際経営論	担当者名	小林 哲也
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、国境を越える資本の活動を、歴史的かつグローバルな視点から捉えることを主テーマとする。現代の世界経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。多国籍企業による生産・販売活動は、第三世界をも含めた各国経済に、大きな構造変化をもたらしつつある。講義では、そうした多国籍企業の活動・世界経済の構造変化を捉えるための、理論的枠組みを議論する。</p>		
講義概要	<p>資本主義世界経済の歴史、多国籍企業の形成史、現代資本主義の構造変化といった歴史的概観のあと、多国籍企業に関する諸問題を分析する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特になし。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ J. H. DUNNING, THE GLOBALIZATION OF BUSINESS, ROUTLEDGE ・ ILO, INDUSTRY ON THE MOVE, ILO ・ M. CASSON, MULTINATIONALS AND WORLD TRADE, ALLEN & UNWIN ・ 『海外進出企業総覧』各年版、東洋経済 ・ 宮崎義一『現代企業論入門』有斐閣 ・ 森田桐郎編『世界経済論』ミネルヴァ書房 	
評価方法	<p>年1回のレポートおよび定期試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済原論、経営学総論、企業論、国際経済論、貿易論、国際金融論、地域経済各論などを受講していることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

序：国境を越える資本

世界経済の構造

国民経済——世界経済

分析単位としての「世界経済」

世界市場

資本蓄積

機械制大工業と世界市場

労働力の調達 非資本制的生産様式

世界経済の複合的構造

歴史的形成

植民地体制

世界経済の現段階

新国際分業

巨大企業の登場と多国籍企業の時代

多国籍企業とは何か

多数のビジョン・定義・アプローチ

I. 現代企業の理論

企業の発展段階

株式会社の発展

経営者支配論の再検討——現代資本主義における所有と決定

バーリ＝ミーゼの議論

新しい経営者支配論

II. 多国籍企業の理論

輸出から直接投資へ

国内企業から世界企業へ

産業組織論的アプローチ

経営資源と優位性——ハイマー理論をめぐる諸論争

内部化「理論」

直接投資の裁定条件

多国籍企業の政治経済学

多国籍企業体制としての現代

多国籍企業と不均等発展

多国籍企業と国際分業の再編

III. 日本企業の海外進出

日本企業の経営環境

法人資本主義論、日本的経営論、日本企業の経済学

対外直接投資の動向

—ポストバブル期のジャパン・マネー

日本

70年代／80年代／90年代

アジアへの進出と撤退

NIES, ASEAN, 中国

アメリカの日系企業

経済摩擦と直接投資

日本企業国際化の影響

輸出

技術移転、生産移転、経営移転

国際寡占競争の構造

プロダクト・サイクルと雁行形態

ハイテク産業における競争

IV. ケース・スタディ

科目名	一般経営史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	経営史を経済的業務の営みの歴史ととらえ、古代より現在にいたる西洋の諸時代における特徴的産業の営業のありかたとその歴史的背景をさぐる。		
講義概要	古代ヨーロッパの農業投資と利潤、古代都市の商工業から出発し、中世ヨーロッパの農業のありかた、都市の手工業職人と商人の営業、近代ヨーロッパにおける大規模経営の出現と株式会社の発展、小売商業の展開の歴史を概観した後に、工業化と世界貿易の成立について触れ、さらに19世紀以降の先進資本主義工業国であるイギリス、アメリカ合衆国、フランスの経営史の比較を試みる。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・米川伸一『経営史学——生誕・現状・展望』東洋経済新報社 1974 ・R. Duncan-Jones; <i>The Economy of the Roman Empire</i>, Cambridge 1975 ・ホルスト・クレンゲル著、江上・五味訳『古代オリエント商人の世界』山川出版社 1983 ・クーリシエル著、伊藤・諸田訳『ヨーロッパ中世経済史』東洋経済新報社 1975 ・大河内暁男『産業革命期経営史研究』岩波書店 1978 ・チャンドラー著、安倍悦雄他訳『スケール アンド スコープ経営力発展の国際比較』有斐閣 1993 	
評価方法	前期試験および学年末試験で評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	日本経営史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは21世紀に向う日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆のマインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。</p>		
講義概要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。</p> <p>1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」、「個人」の問題 5. 土屋喬雄 6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神</p> <p>西鶴文学に現われた近世商人の商業道徳や経営理念を探究するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者や日本的経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、山崎延吉、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『民衆史の構造』新評論 ・齊藤博『民衆精神の原像』新評論 	
	参考文献		
評価方法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」的で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
2	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
3	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
4	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
5	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
6	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
7	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
8	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
9	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
10	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
11	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
12	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
2	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
3	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
4	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
5	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
6	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
7	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
8	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
9	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
10	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
11	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
12	⑦ 日本精神と日本的経営理念 日本人のたましいを探る
備考	

科目名	行動科学論（93年度以降） 行動科学概論（92年度以前）	担当者名	大久保 貞 義
-----	---------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会学、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学（Established Science）である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶ年も意義があるかもしれない。</p>		
講義概要	<p>まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性（Creativity）をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式 of 概念を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>		
使用教材	テキスト	授業の時に指示する	
	参考文献		
評価方法	<p>レポートと定期テストの成績で評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	○学問の発展段階=先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか
2	○学問の法則性とは何か=理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される
3	○ニュートンの力学のポイント=見方を変えれば……何を表現しようとしているのか
4	○=科学の目標は何か=すべての物質の素粒子から生きている人間まで——そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。
5	○社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
6	○集団規範の実験=実験可能な法則と不可能な法則
7	○人間=この不思議なもの
8	○人間社会の発展=農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは……神さま？仏さま？
9	○伝統的社会と近代的社会の対比
10	○それぞれの社会の時間の概念=人間と時間の関係の仕方 時間の価値は、社会によって相違して来る。
11	○社会の変化に伴う価値観の変動→人間行動の規則性
12	○経済の発展と人間行動のパターン分析 ①経済中心の産業主義：
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	②巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
2	③脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
3	○コミュニケーションの理論 マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
4	○コミュニケーションの二段の流れ その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
5	○オピニオンリーダーの役割とその特性
6	○創造性とは何か= 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である
7	○創造性開発の技法=ブレインストーミングのやり方とチェックポイント その他の開発法
8	○思考とパーソナリティ=創造的人間と非創造的人間
9	○時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間
10	○未来予測の技術 物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違
11	○予測の面白さは、未確定要素にあり。 高令化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析
12	予測の正確さは、未来を形成する力にあり。 予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。
備考	

科目名	広告論	担当者名	梶山 皓
-----	-----	------	------

講義の目標	現代における広告の役割を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。また社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告を考えます。 2. マスコミやマルチメディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 3. 消費者のコミュニケーション過程や購買行動を分析します。 4. アメリカと日本のCMをVTR等で紹介し、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 	
使用教材	テキスト	・梶山皓著『広告入門（新版）』日経文庫。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 ・干場英男『アメリカの広告・風と土』電通。 ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 ・S. W. Dunn : Advertising, Dryden Press. 1994. ・Barron's : Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms.
評価方法	<p>通例、前期・後期に試験をします。他に数回の出席をとります。</p> <p>試験は講義と教科書から出題します。試験の持ち込みはありません。</p>	
受講者に対する要望など	評価は厳しいと考えて下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事をポジティブに考える習慣が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Defined) ① : 日本語の広告には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。英語ではそれを分けて使っている。
3	広告の定義 (Ad. Defined) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPなどと広告は別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するものは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一国で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高だけではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるのかを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるのかを考える。
備考	

科目名	証券市場論	担当者名	原 亨
-----	-------	------	-----

講義の目標	<p>現代は、貨幣経済社会だといわれる。これは、現実には実物資産を上回って金融資産が累積されていて、「カネ」の方から「モノ」の世界をみるような社会をいうのである。従って、この講義は、金融や証券といった視点から、現代の資本主義社会の枠組み、仕組みを解剖していきこうというところにねらいがある。先達が組み立てたいろいろな理論を手がかりに、現実の諸問題を解き明かし、その中から仮説をも組み立てていければよいと思っている。</p>
講義概要	<p>証券市場論は、金融論がなくては成り立たない。証券市場は、同じく金融といっても、貨幣の貸借とは違って、債権や株主権を表わす有価証券という商品の売買を通して、資金を融通する市場である。従って、証券を貨幣で買い、証券を売って貨幣を入手するために、資金の融通は、証券の流通として現象する。貨幣＝金融市場を基礎にして、証券市場は成立し、両市場は相互に連動している。しかし、金融市場は単なる資金の融通であるが、証券市場は証券商品の売買市場であるから、「相場」が立つ。ここが、金融論とは決定的に違うところである。証券市場論の中心は、証券価格の形成と変動やその売買技術にある。その最先端に先物取引、デリバティブが突出している。本講義は、このような主旨に沿って進める。</p>
使用教材	<p>テキスト 毎時間、講義要旨をコピーして配布する。</p> <p>参考文献 <ul style="list-style-type: none"> ・川合一郎他編 『証券市場論』 有斐閣双書 1981年 ・杉江雅彦他著 『新・証券論』 晃洋書房 1994年 ・津村英文編 『証券市場論入門』 有斐閣双書 1991年 ・矢島保男他著 『金融と経済』 成文堂 1993年 </p>
評価方法	<p>講義への出席度。学年末試験によって決定する。</p> <p>答案。問題に対して、正しく解答されているか。その論旨に整合性があり、論旨が一貫しているか、を採点の基準にする。</p>
受講者に対する要望など	<p>毎日、「日本経済新聞」を読むこと。特に金融、証券の記事は熟読すること。講義には「日本経済新聞」を持参すること。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	シラバス授業。証券市場論は、どういう学問か、そして、この1年間どういことが、どういう順序で講義されるか、が話される。
2	貨幣・証券経済社会。現代資本主義経済は、貨幣や証券におおわれた社会である。金融資産が実物資産を上回っている。どうして、そうなったのか。それは、人間生活とどうかかわっているのか。
3	証券の商品化。商品は、人間の生活資料である。証券もそうであるが、その役立ち方は大分違う。証券は、形状も、素材もない。それがどうして商品になって、人間社会に大量に存在するのか。
4	有価証券制度。証券は、いわば知的財産である。これは、約束事であるから、きずがつきやすいし、こわれやすい。しっかりした商品にするために、社会的技術や社会的制度が必要になる。それなりに強い規制を受ける。
5	証券の多様化。証券は、債権・債務、権利・義務を表象している。これをベースに、それぞれの経済主体が、いろいろな証券を発行する。どんな種類の証券があるか（大きくわけて貨幣証券と資本証券）。
6	債券発行の大物。今、最も注目されているのが、国債である。ただたんに量が多いというだけではない。なぜ最近こんなに多くの国債が発行されたのであろうか。それを経済の仕組みの変化から考えてみよう。
7	株式会社の出現。株式会社制度は、どのようにして生まれたか。「信用制度を基礎とする株式会社」を論じよう。その中で企業形態の発展過程も、資本の集中機構という観点から論じられる。
8	現代の株式会社。近代的な株式会社の仕組みが説明される。「所有と経営の分離」が「有限責任制」にもとづく出資とその回収を、出資証券たる株券の売買に置き換えた。株式流通市場は、その社会的システムである。
9	市場論。市場は、もともと商品の市場であった。貨幣が生まれて様子が変わった。貨幣の市場が生まれ、その信用から各種の証券市場が生まれた。それだけではない。それら各市場は、相互に連なっている。
10	証券発行市場と流通市場。特に証券市場が、どのような仕組みになっているのか、を説明する。手形は裏書によって流通し、債券には譲渡性が付けられる。株券は出資・回収を容易にするためにはじめから売買される。
11	証券会社の経営。証券の売買の仲介機能を果たすのが、証券仲買人（証券会社）である。どんな業務でその機能を果たしているのか。
12	証券会社経営の諸問題。現代の証券会社は、いろいろな業務を兼営する総合証券会社が独占化し、これがどのように市場に影響を与えるのか。そして、市場はどう変わっているのか。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	証券取引所。証券の売買は、証券会社を取り次いで、すべて証券取引所に持ち込まれる。取引所は、具体的市場として存在する。その形成過程と取引所の機能、価格形成のやり方など、取引所の市場機能について論じる。
2	売買仕法。取引所に上場された証券は、どのように取引されるのか。その取引形態と決済システムを解説する。普通取引と板よせ、ザラバ売買は、その核になる技術である。証券の保管・集中振替決済制度についても説明する。
3	価格の形成。資本主義経済における市場で、価格は一般にどのように形成されるのか。価格とは何なのか。貨幣は、そこでどのような役割をするのか。価格と貨幣の経済的関連は？
4	証券の価格。証券の価格形成は、価格一般の形成とは違う。特殊な価格、擬制資本価格を形成する。貨幣資本運動を擬制して形成される擬制資本とは、どんな資本で、どのようにして価格が形成されるのか（債券価格の形成）。
5	株式の価格。擬制資本価格の形成一般から、さらに株式の価格は違った形成をする。元来、株式は擬制資本や価格を形成しない。配当は利子ではないからである。それが、どうして債券価格と同じように価格を形成するのか。
6	投機信用と信用取引。普通取引に外部から信用が供与されると、信用取引が生まれる。信用取引の仕組みと、それが投機取引化するプロセスを説明する。
7	投機一般。投機は、価格が変動するところには、どこにでも寄着する。商品投機、為替投機、株式投機など。まず、投機とはどんなものなんだろう。それを賭博と比較して、投機の経済学を講義する。
8	株式投機。今日、投機といえば、株式投機だと誰もがいう。投機の中でも、なぜ株式投機が典型的な投機になったのであろうか。
9	先物投機の時代。70年代にはいって先進資本主義諸国では、先物投機が盛行している。今や、それは、現物取引を上回っている。いまや先物投機の時代の到来である。どうしてそうなったのか、経済的背景をさぐる。
10	相場の見方。相場は、普通、株価指標をみて語る。「日本経済新聞」相場欄の主要な株価指標を解説する。単純平均株価、日経ダウ平均株価、TOPIXを解説し、その他の指標やその読み方を解説する。
11	証券投資決定論。昔は「利回り採算」だったが、それは不可能になった。ケイ線やドル平均法、科学的投資法、チャートリーディングから、今やポートフォリオの時代に入った。ポートフォリオ理論とは、どんなものか。
12	金融・証券のグローバル化。金融・証券の国際化は、金融・証券の自由化によるところが大きい。しかも、先物取引が盛行して、数値が商品化された。世界商品の誕生である。これは、どこの国でも取引される。
備考	

科目名	企業形態論	担当者名	築場保行
-----	-------	------	------

講義の目標	事業活動の歴史、企業の生成・発展の歴史を踏まえて、企業の組織と管理、企業行動、戦略について解明する。企業の主体、所有・支配の構造、そして株式会社の所有・支配と行動、さらに企業結合の構造と論理について解明する。		
講義概要	前期2～7週が1節、8～12週が2節、後期1～6週が3節、7～12週が4節である。それぞれある程度まとまっているが、一貫性がある。		
使用教材	テキスト	なし。資料を配布する。	
	参考文献	・車戸編『企業形態論』（八千代出版）ほか	
評価方法	期末試験による。		
受講者に対する要望など	ノートをとるようにしてほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに：科目の性格、特徴
2	事業活動の歴史（1）：古代ギリシャ・ローマ、中世欧州の商業
3	事業活動の歴史（2）：世界貿易の発展、近世日本の商業
4	工場経営の出現：問屋制、マニユファクチュア、機械制大工業
5	会社制度の発展：個人企業、パートナー・シップ、株式会社
6	戦略と管理の萌芽：多角化、専門化
7	経営理念と経営形態：価値、理念、経営形態
8	近代企業の生成：近代企業の発展と特色
9	近代企業の組織と管理：管理組織と管理制度（1）：欧米
10	近代企業の組織と管理：管理組織と管理制度（2）：日本
11	経営戦略の展開と経営組織：多角化と事業部制組織
12	専門経営者：株式会社の発展と専門経営者
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業活動と企業者機能：不確実性、危険負担、経営努力、企業者権限
2	企業組織と企業者機能：企業者機能の分担と企業形態の発展
3	株式会社と株式制度：有限責任制度、株式の譲渡性
4	所有と経営の分離：株式所有の分散、経営者支配
5	株式会社の機関（1）：株主総会、取締役会
6	株式会社の機関（2）：代表取締役
7	会社支配：所有主体、支配形態、法人支配
8	企業結合形態：カルテル、トラスト、コンツェルン
9	日本の企業結合（1）：「巨大企業グループ」
10	日本の企業結合（2）：「企業集団」
11	企業結合の論理：競争と独占、市場支配、産業支配、経済支配
12	企業の国際化：事業活動の国際化、企業結合の国際化、経営の国際化
備考	

科目名	社会会計論	担当者名	湯田雅夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から得られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像を把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境監査（環境管理）情報および従業員関連情報の内容と最近の動向を解説する。</p>				
講義概要	<p>社会会計の領域は、経済学の分野から生まれたマクロ社会会計と会計学の分野から生まれたマイクロ社会会計学に識別することができる。この両者の歴史的経過を概観した後、本講義では、主として、後者のマイクロ社会会計＝社会関連会計を中心に考察していく。</p> <p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコビランツ（環境監査、環境管理；Ökobilanz＝Environmental Audit）の領域で新たな展開をみせている。EUの動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境監査について考察したい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・湯田雅夫『ゾチアルビランツ研究序説』学文社、1989</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No. 15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向ードイツ語圏諸国を中心としてー』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 </td> </tr> </table>	テキスト	・湯田雅夫『ゾチアルビランツ研究序説』学文社、1989	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No. 15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向ードイツ語圏諸国を中心としてー』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。
テキスト	・湯田雅夫『ゾチアルビランツ研究序説』学文社、1989				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995 ・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No. 15 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向ードイツ語圏諸国を中心としてー』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。 ・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。 				
評価方法	<p>当該講義科目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>履修条件は、とくに定めない。将来、証券アナリスト、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望する者ならびに企業経営を志す者は、履修することが望ましい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	：イントロダクション；講義概要ならびに問題提起
2	"
3	：社会会計の名称の由来；社会会計における二つの研究領域
4	：マクロ社会会計の概要＝マクロ社会会計の概念規定、目的及び体系、計算領域を明らかにして、情報内容とその限界に言及。
5	"
6	：社会のなかの企業；企業の社会的責任
7	"
8	：マイクロ社会会計の生成：シュテアク社、ベルテルスマン社、ザールベルク鉱山会社等の事例を解説。
9	"
10	：マイクロ社会会計の展開：BASF社、ドイツ・シェル社等の事例を解説。
11	"
12	"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	：マイクロ社会会計の新展開：ドイツ、スイス、オーストリアを中心に、'80年代半ばから急速に実践されつつあるエコビランツ（環境監査）について概観。
2	"
3	：環境監査の事例：スイス・エア社、クーネルト社のエコビランツを解説。
4	"
5	"
6	：EUの動向
7	"
8	：環境監査の事例：日本電気、日立製作所等の日本企業における環境監査の実状を解説。
9	：ISOの動向
10	：ISOの動向
11	：ISOの動向
12	：ISOの動向
備考	

科目名	管理会計論	担当者名	香取 徹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>		
講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるために会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、意思決定に役立つコストの考え方、利益の測り方などを整理し、改善管理に役立つ分析の仕方や生産及び販売計画への応用について、教科書を中心にして講義し、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・伏見・柴田・福川著『経営工学シリーズ7 経営管理会計』（改定版）日本規格協会</p>	
	参考文献	<p>・車戸 實編『基本経営学全集11 管理会計論』（改定版） 八千代出版</p> <p>・千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』 日本能率協会</p> <p>・千住鎮雄『やさしい経済性工学のはなし』 日本能率協会マネジメントセンター</p> <p>・千住鎮雄・中村善太郎『やさしい経済性分析』 日本規格協会</p>	
評価方法	<p>基本的には定期試験の成績で評価しますが、レポートの提出や出席状況も考慮します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。</p>		

年間講義予定

後期のみ(週2回)

第1回～第4回：採算計画のためのコスト・利益分析

- ①経済性計算と財務会計方式
- ②経済性の比較の原則とコスト概念
- ③全部原価計算と貢献利益計算
- ④状況に応じたコスト・利益のとらえ方
- ⑤埋没費用の考え方と会計情報

第5回～第8回：生産・販売計画と会計情報

- ①有利な製品の判断尺度
- ②生産ラインの選択と可変的費用・収益
- ③設備能力の変更を含む生産・販売計画、価格政策とコスト情報

第9回～第12回：オペレーションの改善計画と会計情報

- ①時間コスト
- ②停止時間削減の経済的効果
- ③不良率低減の経済的効果
- ④生産スピード改善の経済的効果
- ⑤材料費や売価の改善

第13回～第16回：投資分析とキャッシュフロー利益

- ①資金の時間的価値
- ②時間換算の公式とその応用
- ③投資収益率と回収期間
- ③複数の投資案の優劣の判定

第17回～：コンピューターを使つての長期計画の収益性と会計情報

- ①減価償却費と支払利息
- ②税引後キャッシュフロー利益と財務会計上の利益
- ③経営の戦略計画と収益性の尺度

科目名	経営分析論	担当者名	百瀬 房徳
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>		
講義概要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・松尾・前林著編『入門経営分析』</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>レポートを完成させるには簿記の知識が必要である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義内容の説明
2	米国における経済環境における手形市場の形成過程
3	手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4	信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5	信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
6	信用分析のケース・スタディ ケース①—ウォール、ケース②—ブリス、ケース③—シュルター
7	信用分析のケース・スタディ ケース④—ギルマン、ケース⑤—ウォール、ケース⑥—シュマルツ
8	収益性の分析およびその他の分析への発展
9	経営分析の意義とその限界
10	経営分析の主体と目的
11	経営分析の種類
12	経営分析の体系
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	安全性の分析(1)…比率分析 ①新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
2	安全性の分析(2)…資金運用表の作成 ②レポート提出
3	安全性の分析(3)…資金移動表の作成 ③レポート提出
4	収益性の分析(1)…各種資本利益率
5	収益性の分析(2)…売上高利益率と資本回転率 ④収益性の分析”と(をまとめてレポート提出
6	収益性の分析(3)…利益増・減原因分析 ⑤レポート提出
7	生産性の分析(1)…付加価値の意義
8	生産性の分析(2)…付加価値の計算と数値の意味
9	生産性の分析(3)…付加価値の計算 ⑥レポート提出
10	損益分岐点分析(1)…損益分岐点の意義
11	損益分岐点分析(2)…損益分岐点の計算と数値の意味
12	損益分岐点分析(3)…損益分岐点の計算 ⑦レポート提出
備考	

科目名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、現代の産業社会において、種々の目的に応える計数的手段としてさまざまな機能を遂行している。そしてそれは従来からの基本的な構造を踏襲しながらも、所与の目的の分化や新しい役割の提唱に応じて複雑な枝分れを繰り返し、新しい展開を示している。本講義では原価計算に与えられる諸目的のうち、とりわけ財務諸表作成目的の原価計算の習得を中心目標とする。それは、財務会計目的の制度としての製品原価計算であり、多様に枝分れしている原価計算の基幹となるものである。</p>		
講義概要	<p>最初に原価計算の学習を支える土台の構築を目指す。そこでは原価計算の目的、原価概念、原価計算の基礎手続をめぐって、原価計算の学習にとって不可欠なキー・コンセプトやキー・タームが提示される。続いて実際原価計算制度に焦点を合わせ、「原価計算基準」に依拠して展開される制度としての製品原価計算を解説する。費目別計算、部門別計算、総合原価計算、個別原価計算に関する議論がそれである。次に標準原価計算と直接原価計算をとりあげる。そこでは経営管理目的に対する適用の態様についても論及するが、その計算手続の構造を明らかにすることに主眼をおく。最後に現代における原価計算の特徴を析出するとともに、これまでの議論に対する部分的な復習をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	開講時に指示する。	
	参考文献	・岡本 清『原価計算』（5訂版）、国元書房、1994年	
評価方法	<p>定期試験の結果を重視する。但し、必要と思われるときに課題を提出させるが、その結果も加味する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	原価計算総説
2	原価とは何か
3	原価計算の基礎手続
4	原価の費目別計算
5	原価の部門別計算(1)
6	原価の部門別計算(2)
7	総合原価計算(1)
8	総合原価計算(2)
9	総合原価計算(3)
10	個別原価計算(1)
11	個別原価計算(2)
12	個別原価計算(3)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標準原価計算(1)
2	標準原価計算(2)
3	標準原価計算(3)
4	直接原価計算(1)
5	直接原価計算(2)
6	直接原価計算(3)
7	特殊原価調査
8	差額原価収益分析
9	原価計算における問題点
10	原価計算の新展開(1)
11	原価計算の新展開(2)
12	原価計算と管理会計
備考	

科目名	会計監査論	担当者名	長吉眞一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計監査について、その構造と制度についての理解をめざす。具体的な監査手続については、後期において4コマを割り当て、注意すべき点や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>講義は、会計監査論の理論的な理解と、具体的な監査手続の二本建てとなるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>		
講義概要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。講義はテキストを中心に実施するが、監査は実務と密着し理論と実務が相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。このため、講義のあい間に関連する実務上のトピックス等についても必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行うが、周辺科目を履習済みであることが望ましい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・長吉眞一『現代の財務諸表監査』中央経済社</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期はレポート提出による。</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はそれらを総合的に勘案して行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>簿記原理、会计学原理、財務会計論などを履習していることが望ましい。とくに、簿記原理は履習していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明 会計監査論とその周辺の会計科目との関連性の説明
2	財務諸表監査の意義（監査の意義をふくむ。） 財務諸表監査と経営者による不正との関連
3	監査基準
4	監査人（その意義、独立性、監査法人）
5	監査人（組織的な監査、正当な注意、責任、守秘義務）
6	監査証拠と合理的な基礎
7	監査要点
8	内部統制（その構造、財務諸表監査との関連）
9	内部統制（その評価、調査）
10	監査計画（その意義、組織的な監査との関連）
11	監査計画（基本計画、年度計画、実施計画）
12	予備及び前期の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	監査手続（通常実施すべき監査手続、分析的手続、一般監査手続）
2	監査手続（個別監査手続）
3	資産科目の監査手続（現金預金）
4	資産科目の監査手続（売掛金）
5	負債科目の監査手続（支払手形、買掛金）
6	損益科目の監査手続
7	監査調査
8	監査報告書（その意義、審査機関への付議）
9	監査報告書（その種類、構造、特記事項）
10	監査報告書 個別意見と総合意見
11	中間財務諸表の監査 連結財務諸表の監査
12	一年間のまとめとして、財務諸表監査のあり方や将来の展望等について考察する。
備考	

科目名	税務会計論	担当者名	山田浩一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現実の企業会計実践において必要な、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解を形成する事を出発点とし、税務と企業会計の相互依存構造、法人税等の規制が企業会計に与えている影響を国際的観点等から検討していきたい。すなわち、授業の主な焦点は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人税法の理念と計算構造 2. 会計的思考と税務的思考の相違 3. 法人税法等の会計に与えるインパクト 4. 諸外国の税務会計制度等との比較検討 				
講義概要	<p>税務会計論の進め方としては、法人税の課税所得及び税額計算の技術的理解に終始する傾向が生じがちである。しかし、本講義では、個々の経済事象に対する理解を十分にふまえた上で、会計及び税務上どのような取扱いがなされていくのかを追求していく方法を採用したい。</p> <p>そして、さらに確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、本来の真実公正な会計処理の実現を阻害している面があるということを解明していきたい。それは、基本的に国家単位の税務規制と、ますます国際的視点に基づく充実が要求される会計基準の調整の問題としてとらえる必要がある。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中田信正 著『税務会計要論』同文館</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』中央経済社他 ・『法人税法規集』中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊 共著『総説税務会計』税務経理協会 ・井上久彌 著『税務会計論』中央経済社 ・武田隆二 著『法人税法精説』森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。 </td> </tr> </table>	テキスト	・中田信正 著『税務会計要論』同文館	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』中央経済社他 ・『法人税法規集』中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊 共著『総説税務会計』税務経理協会 ・井上久彌 著『税務会計論』中央経済社 ・武田隆二 著『法人税法精説』森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。
テキスト	・中田信正 著『税務会計要論』同文館				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』中央経済社他 ・『法人税法規集』中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊 共著『総説税務会計』税務経理協会 ・井上久彌 著『税務会計論』中央経済社 ・武田隆二 著『法人税法精説』森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。				
評価方法	<p>主に定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）を重視して評価を行いたい。</p>				
受講者に対する要望など	<p>本講義の履修とともに、簿記原理、会计学、財政学等の関連科目の履修が有用であろう。出席にあたっては、テキストの授業予定箇所について、予め通読しておくことが望まれる。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	税務会計論の対象と方法 年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取扱う。
2	租税制度 租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。
3	制度会計の構造 制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。
4	法人税法上の課税所得の計算 企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。
5	公正会計処理基準 法人税法第22条4項にいう公正会計処理基準の意義、税務理論のGAAP等との関連を考えていく。
6	税務会計判断の特性 税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等を通じてみていく。
7	売上収益と金銭債権 販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。
8	有価証券と受取配当 有価証券の意義、分類、認識と測定、評価にふれた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。
9	売上原価と棚卸資産 売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。
10	有形固定資産・減価償却・リース 有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。
11	圧縮記帳 圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。
12	無形固定資産・借地権 無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	繰延資産 繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の取扱いを概観する。
2	引当金・準備金 会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。
3	給与・報酬・源泉徴収 役員と従業員とにおける人件費の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。
4	交際費・寄付金 交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。
5	租税公課 企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。
6	自己資本 資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。
7	合併・分割・解散 企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。
8	国際課税 企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取扱う。
9	申告・納税制度の概要・連結納税制度 税務会計上の実務的な流れとしての各種申告制度の概要、及び研究対象としての連結納税制度についてみる。
10	消費税と経理方法 消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。
11	非営利法人の税務 公益法人、学校法人等の非営利法人における法人税その他租税の取扱いをみていく。
12	税効果会計 税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果等を概観する。
備考	

科目名	上級簿記	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「簿記原理」履修者あるいは「日商検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○銀行勘定調整表の作成 ○手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 ○特殊販売取引に関する記帳 ○株式会社会計 <p>後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本支店会計 ○連結会計 ○帳簿組織 		
使用教材	テキスト	<p>・井上達雄、染谷恭次郎著『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>年2回以上の試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	上級簿記	担当者名	百瀬房徳
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講では、商業簿記について取り扱うが、カリキュラムにおける「簿記原理」をさらに発展させた領域を取り扱う。したがって、取引の簿記における処理は、さらに、複雑なものになる。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の構造は「簿記原理」と異なるところはない。さらに進んで実務に接近することになる。したがって、企業会計原則を基礎にしたかたちで損益計算書および貸借対照表の完成まで修得することにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』、中央経済社。 ・井上達雄・染谷恭次郎著『検定簿記講義』、2級商業簿記、中央経済社。 	
	参考文献	無し	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「簿記原理」を履修した受講者であることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記システムの全般的な説明
2	現金勘定—現金過不足、小口現金
3	銀行預金の諸勘定の整理について 当座借越、銀行勘定調整表の作成
4	有価証券に関する取引について 有価証券の評価、有価証券の消費貸借および使用貸借
5	貸倒引当金の処理について 貸倒引当金の設定論拠、貸倒引当金の処理
6	手形の処理について 約束手形、為替手形、手形の流通、不渡手形
7	商品勘定の処理について 仕入価額、値引、割引、割戻し、棚卸評価
8	有形固定資産の処理について 有形固定資産の評価、減価償却
9	無形固定資産および投資その他の資産の処理について
10	繰延資産の処理について
11	資本金の処理について① 法定資本金、資本準備金
12	資本金の処理について② その他の資本剰余金等
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	荷為替と未着商品
2	委託販売、受託販売および買付受託
3	試用品販売および予約販売
4	割賦販売
5	本・支店会計①
6	本・支店会計②
7	帳簿組織①
8	帳簿組織②
9	社債①
10	社債②
11	財務諸表とは何か——全般的な説明
12	財務諸表とは何か——損益計算書および貸借対照表
備考	

科目名	管理工学	担当者名	山本 栄
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業を始め組織は人および物により構成されている。この組織をうまく運営するためには、人と物の管理が必要になってくる。本講義ではこの管理に必要な知識および管理技術（手法）の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>管理手法全般にわたり講義する。さらに組織内における人間に視点をあててヒューマン・インタフェースに関する基礎も講義する。ここでいうヒューマン・インタフェースとは人間と道具、人間と機械、人間と組織との相性をさす。</p> <p>近年コンピュータが普及してきたが、このインパクトが組織に与えた影響は大きい。従って管理もコンピュータ抜きには考えられない。特に最近の技術革新の中で管理をどうやっていけば良いかについても触れる予定である。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・秋庭雅夫他著『経営工学概論』 朝倉書店 ・野呂影勇編『図説エルゴノミクス』 日本規格協会 レポートの書き方 ・木下是雄『理科系の作文技術』 中公新書 	
評価方法	<p>年2回の期末テストを実施します。あと何回かレポートの提出を求めます。出来の良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにしてほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	管理工学とは 管理工学を考える学問分野、管理技術とは。
2	システムズ・アプローチ システムとは、モデル、ブラックボックス フィードバックシステムー1
3	システムズ・アプローチ フィードバック・システムー2 マン・マシン・システム
4	生産管理論 工程管理、日程管理、在庫管理
5	作業計測と分析法ー1 身体計測と作業姿勢 パーセントイル値
6	作業計測と分析法ー2 行動分析 パーバルプロトコル法
7	インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) 動作研究 時間研究
8	ヒューマン・インタフェースとは 機能分担
9	ヒューマン・インタフェースとは 人間工学適用の原則
10	ユーザビリティ エルゴデザインと使いやすさ メタファ、訓練
11	生理的反応ー1 視覚系
12	生理的反応ー2 聴覚・循環器 神経系
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理的反応ー1 アンケートの取り方 一対比較法
2	心理的反応ー2 一対比較法(続) SD法
3	経済性工学 コスト 代替案の選択基準
4	OA・VDT作業 ME化 メンタル・ストレス
5	ソフトウェア・エルゴノミクス 情報の標準化 認知情報処理
6	FA・ロボット 無人化システム FMS
7	最近の管理技術の動向 トヨタシステム CIM
8	作業環境管理 作業環境とは
9	安全管理ー1 FTA分析の入門
10	安全管理ー2 FTA分析の応用
11	テクニカルコミュニケーション
12	まとめ
備考	

科目名	経営数学	担当者名	前田 功雄
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済・経営に広範囲に応用されている線形代数の基本的事項をコンピュータを利用しながら解説する。目標としては線形計画問題のコンピュータ・アルゴリズムの理解と応用までとする。</p>	
講義概要	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。BASICによる簡単なプログラムを組むことが要求されるが、必要な事項は講義中に補う。先ず、前期では、n次元ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantzig によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p> <p>キー・ワード：ベクトル空間、内積、写像、線形変換、行列、行列式、基行列、基本操作、連立方程式、逆行列、ピボティング、シンプレックス法</p>	
使用教材	テキスト	必要に応じてプリント配布。
	参考文献	授業中に推薦する。
評価方法	<p>授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論又は情報処理概論既修が望ましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	数学における空間の概念 数学では空間はどのように扱われているか。空間の構成要素は何か？ キー・ワード：空間、点
2	n次元ベクトル空間 n次元ベクトル空間の定義を述べる。 キー・ワード：点、ベクトル、実数、座標、零ベクトル、ベクトル空間
3	ベクトルの幾可学的意味 2次元空間を例にとりてベクトルの矢線表示による視覚化を導入する。 キー・ワード：始点、終点、位置ベクトル、和ベクトル、実数倍ベクトル
4	ベクトルのノルム ベクトルの長さ(ノルム)の概念を導入し重要な公式について解説。 キー・ワード：ノルム、コーシーの不等式、n次元ユークリッド空間
5	ベクトルの内積 2つのベクトルの内積を定義することによって交角を求める。 キー・ワード：内積、交角、直交、射影、一般化されたピタゴラスの定理
6	演習 ベクトル計算、ベクトルの交角の計算、コンピュータのスクリーン上に矢線ベクトルを表示するプログラム。
7	線形変換 任意のベクトルを原点の回りに α だけ回転したベクトルの座標を求める。 キー・ワード：写像、変換、線形変換、行列
8	行列と線形変換 行列によって引き起こられる様々な線形変換についての解説。 キー・ワード：恒等変換、伸縮変換、射影変換、変換の積
9	演習 上の各変換に対応する行列み使って平面上の与えられた図形を変換するプログラムを作れ。
10	行列計算 行列の和、差、実数倍および積を定義する。 キー・ワード：行列の和、差、実数倍、積、逆行列、行列式
11	n元連立一次方程式の行列ベクトル表示と解表示 行列ベクトルを使つての連立方程式とその解の表示法。 キー・ワード：n元連立一次方程式、行列ベクトル表示
12	前期レポート解説 レポート課題と提出方法(コンピュータ通信)について説明する
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	連立方程式の解法(ガウスの消去法) ガウスの消去法のアルゴリズムの数値例による解説。 キー・ワード：ガウスの消去法、アルゴリズム、基本行列、基本操作
2	ガウスの消去法の一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：フロー・チャート、プログラム、乱数
3	ガウス・ザイデルの反復法 ガウス・ザイデルの反復法の数値例による解説。 キー・ワード：ガウス・ザイデルの反復法
4	ガウス・ザイデルの一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：ストップピングルール
5	演習 ガウス・ザイデルの一般解法のプログラミング
6	逆行列の数値解法 数値例により解法の説明。 キー・ワード：基本操作のサブルーチン化
7	逆行列の一般的解法 一般的解法のフロー・チャートにより表現。 キー・ワード：正則性
8	表計算ソフトを使つての行列計算について紹介。 キー・ワード：表計算、Exel、Lotus 1-2-3
9	線形計画問題について キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実行可能解、最適解
10	数値的解法の一つである罰金法について数値例で解説。 キー・ワード：シンプレックス法、モストネガティブ、ピボティング
11	罰金法のフロー・チャート フロー・チャートに従つて各自の好きな言語によるプログラミング実習
12	後期レポート作成 後期レポート課題と作成法について。
備考	

科目名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本田 勝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>オペレーションズ・リサーチの技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義ではこれらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを、実例を通して理解することを目的とする。</p>	
講義概要	<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）の基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続いて述べていきたい。</p>	
使用教材	テキスト	・未定
	参考文献	
評価方法	<p>各テーマごとに課すレポートと、毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータを用いた演習も行なうので、「情報処理概論」が既修か、簡単なパソコン操作の知識は既知であるほうが好ましい。また確率モデルの構成では「統計学」の基本事項について既知であるほうがよい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	OR とは何かについての概観を行なう。
2	線形計画法 (LP) の定式化と幾可学的解法について述べる。(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3	シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。(スラック変数、基底解、実行可能解)
4	単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)
5	パソコンによる演習を行なう。
6	LP の双対性、双対問題について述べる。(双対定理)
7	パソコンによる演習を行なう。 双対問題の経済学的解釈について述べる。
8	LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9	輸送問題と LP との関連について述べる。
10	輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 ϵ -摂動法)
11	輸送問題のパソコンによる演習を行なう。
12	LP および輸送問題について総合的演習を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動的計画 (DP) の考え方について述べる。(多段階決定法、最適性の原理)
2	DP のいろいろの応用例を述べる。(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題)
3	DP のパソコンによる演習を行なう。
4	PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
5	PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行なう。PERT の統計的評価について述べる。(3点推定)
6	ゲームの理論について述べる。(純粋戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム)
7	ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行なう。
8	ゲームの理論と LP との問題について述べる。
9	在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
10	在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法、定量発注法)
11	在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行なう。
12	一年間の総まとめを行なう。
備考	

科目名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天 笠 美知夫
-----	----------------	------	---------

講義の目標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>本講義は4部から構成される。第1部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システムズ・エンジニアリングの基本概念とシステムズ・エンジニアリングの工学的方法論の概要について述べる。第2部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第3部では評価と意思決定について述べる。第4部ではシステムズ・エンジニアリングのいろいろな手法とその信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使用教材	テキスト	<p>授業時間にプリント資料を配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知夫『システム構成論』 森山書店 1986 ・寺野寿郎『システム工学入門』 共立出版 1985 ・Wayne C Turner, et. al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978 	
評価方法	<p>成績評価は、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1部 システム工学の基礎 第1章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考
2	システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性
3	自然システムと人工システム、需要の定義、計画の定義、創造のプロセス
4	第2章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その1）（問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定）
5	システム開発の手順と組織（その2）、システム工学方法論
6	第2部 問題の発見とシステムの構造化： 第3章 構造モデルとグラフ理論、ISM法、FSM法とKJ法（その1）
7	ISM法、FSM法とKJ法（その2）
8	ISM法、FSM法とKJ法（その3）
9	構造モデルの分割
10	第4章 統計的手法による構造化（その1）
11	統計的手法による構造化（その2）
12	事例演習1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3部 評価と意思決定：第5章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1）
2	価値と評価、効用理論（その2）
3	第6章 統計的手法による数量化、数量化理論（その1）
4	統計的手法による数量化、数量化理論（その2）
5	第4部 いろいろなシステムの手法と信頼性：第7章 スケジューリング、PERT、CPM（その1）
6	PERT、CPM（その2）
7	第8章 システムの信頼性
8	事例演習2：4～5人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。
9	事例演習
10	事例演習
11	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（1）
12	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（2）
備考	

科目名	情報システム論	担当者名	前田 功雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>	
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をどうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、獨協大学BBS、コンピュータ・ネットワーク、BITNET、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>	
使用教材	テキスト	<p>必要な都度プリント配布。</p>
	参考文献	<p>授業中に述べる。</p>
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局（含獨協大学BBS局）に接続して実演。 キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト・端末、LAN、コンピュータ間通信、BITNET、Internet
4	BITNETの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるBITNETの仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5	BITNETの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	BITNETによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルのBITNET上での転送 FDのファイルをBITNET経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
12	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測りかた（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming符号と Huffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
10	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
11	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
12	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	標本調査論	担当者名	松井 敬
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらず一である。この点に違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>
講義概要	<p>本講義は目標のところ述べてきたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井敬 『標本調査論』 内田老鶴園 <p>参考文献</p> <p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran “Sampling Techniques”, Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott “Elementary Survey Sampling”, PWS-Kent Pub. Co.が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院；辻、有馬、『アンケート調査の方法』、朝倉書店など。</p>
評価方法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本調査とは— 1 : (1)標本調査とはどんなことか— 幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2)本講義をどう進めるか— 方針と受講生への要請。
2	標本調査とは— 2 : (1)標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、良いサンプルを得るための試み。(有意抽出法— 典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。
3	標本 (サンプル)、母集団 : (1)良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本 (サンプル)。(2)母集団特性値— 平均、統計、比率。母集団の分散、標本との関係。
4	単純無作為抽出法— 1 : (1)復元抽出法、非復元抽出法— 意味と方法。(2)乱数— 性質と使い方。(3)単純無作為標本のつくり方。
5	単純無作為抽出法— 2、標本分布 : (1)単純無作為抽出法の例、推定量。(2)標本分布の概念— 標本平均、標本中央値などの分布。(3)推定量の特性。
6	標準誤差— 1 : (1)推定量の分散、標準誤差。(2)母平均と母集団総計の推定量としての標本平均と標本総計。(3)標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4)有限母集団補正。
7	標準誤差— 2 : (1)標準誤差の意味。(2)推定量の精度 (誤差)、推定量の相互比較 (効率)。(3)母集団比率の推定。
8	標本の大きさ : 単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
9	層化無作為抽出法— 1 : どんな抽出法か、層化抽出法における要点 (どんな点が問題となるか)。構造模型。
10	層化無作為抽出法— 2 : (1)サンプルの配分、推定量とその分散。(2)比例配分と最適配分。(3)単純無作為抽出法との比較。
11	層化無作為抽出法— 3 : 層の作り方、層の数。
12	層化無作為抽出法— 4 : (1)調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2)サンプルの大きさの決定。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	系統抽出法— 1 : 意味と方法。推定量、その分散。
2	系統抽出法— 2 : 系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。
3	1 段集落 (クラスター) 抽出法— 1 : (1)なぜ集落抽出法を考えるか— その方法と理由。(2)抽出単位を選出する確率が等しくない場合の標本抽出とその効果。
4	1 段集落 (クラスター) 抽出法— 2 : (1)1 段目を等確率抽出した場合。(2)幾つかの推定量— それぞれの特徴と比較。(3)抽出法の例。
5	1 段集落 (クラスター) 抽出法— 3 : (1)例を通して問題点の整理。(2)1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3)比率の場合。
6	2 段集落 (クラスター) 抽出法— 1 : クラスターの大きさが等しい場合。2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。
7	2 段集落 (クラスター) 抽出法— 2 : 構造模型。クラスターの大きさが異なる場合。サンプルの大きさ $n = 1$ の場合についての考察。推定量と抽出法との関係を調べる。
8	2 段集落 (クラスター) 抽出法— 3 : 一般の場合の説明。1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
9	2 段集落 (クラスター) 抽出法— 4 : 一般の場合、第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
10	抽出法再考 : 講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。
11	標本調査における問題 : 標本調査の実際に関わる諸問題。実際の場で起こりうる問題を整理し、例を通して解説。
12	標本調査 : まとめ。課題。
備考	

科目名	情報検索論	担当者名	小田光宏
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータを用いた情報の検索に関する基礎的な知識と理論、ならびに、こうした技術が発展した社会的な背景について理解することを目標とする。また、情報と文献のコントロールの理論と技術を学ぶことも目標とする。とりわけ、近年ユーザー・フレンドリーな仕組みとともに普及しつつある CD-ROM 検索に焦点を合わせ、検索デモンストレーションを行なって、その技術の習熟につとめる。さらに、情報ネットワークとの関係を考慮しながら、オンライン検索や広範な利用が可能になったインターネットの技能を理解する。</p>	
講義概要	<p>授業は四部から構成される。すなわち、「情報検索の基礎」、「CD-ROM 検索の実際」、「情報と文献のコントロール」、「オンライン検索の実際」である。「情報検索の基礎」では、現代社会と情報検索の可能性、データベース、索引言語、検索式、検索評価の問題を扱う。「CD-ROM 検索の実際」では、いくつかの CD-ROM ソフトのデモンストレーションを実施し、実習を交えて技術に習熟する。「オンライン検索の実際」では、NACSIS-IR、DIALOG の検索、ならびにインターネットを用いた情報検索の広がりについて、実習を中心に学ぶ。「情報と文献のコントロール」では、標準化と規格、メディアと書誌ユーティリティの問題を検討する。</p>	
使用 用 教 材	テキスト	使用しない
	参考文献	
評価方法	<p>試験を実施する。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点（遅刻をしない出席と授業への参加）を重視する。具体的には、前期ならびに後期の試験を各30%、平常点を40%の割合とし、総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱う。したがって、出席して作業に参加することが重要である。なんらかの事情で欠席した場合には、次回までに補っておくことが不可欠である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、授業方法、評価基準などの注意事項について説明する。
2	情報検索の基本概念：情報検索の定義と種類、歴史と現状について解説する。また、情報検索システムの構成要素について説明する。
3	データベース（１）：データベースの定義と種類、流通と組織について、事例を紹介しながら解説する。
4	データベース（２）：データベースの構造について、コンピュータ化されていない情報源の構造と比較しながら、理解を深める。
5	情報検索理論（１）：索引言語に関して、事前結合方式と事後結合方式、自然語と統制語、シソーラスの役割について説明する。
6	情報検索理論（２）：検索式に関して、各種の演算子の特徴と使い分けについて説明する。また、部分文字列一致に基づく検索式も検討する。
7	CD-ROM 検索（１）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
8	CD-ROM 検索（２）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
9	CD-ROM 検索（３）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
10	CD-ROM 検索（４）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
11	CD-ROM 検索（５）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
12	情報検索メディア：冊子体情報源、CD-ROM、オンライン検索システムを比較して、それぞれの特徴を明らかにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	書誌コントロール（１）：書誌コントロールの基本概念について検討するとともに、発展の経緯について解説する。また、ネットワークについても論じる。
2	書誌コントロール（２）：書誌ユーティリティの事例を紹介しながら、標準化と規格の問題について検討する。また、オンライン検索との関係を説明する。
3	オンライン検索（１）：デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討する。
4	オンライン検索（２）：デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討する。
5	オンライン検索（３）：デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討する。
6	オンライン検索（４）：デモンストレーション形式で、データベースの検索技術について検討する。
7	情報検索の評価（１）：検索結果の評価について検討する。
8	情報検索の評価（２）：検索システムの評価について検討する。
9	インターネット（１）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討する。
10	インターネット（２）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討する。
11	インターネット（３）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討する。
12	インターネット（４）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、実習形式で検討する。
備考	

科目名	老年社会学	担当者名	奥山正司
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。なお、老年社会学は、老年学（gerontology）の一領域であるとともに、社会学（sociology）の一領域として位置づけられる。また、老年学とは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である。</p>		
講義概要	<p>年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。前半では、人口高齢化、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、老人福祉、老後保障などの側面から講義し、高齢（化）社会の全体像をあきらかにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>教科書は特に使用しない。また、参考書等は授業中にその都度指示する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>レポート、出席、試験等の総合的な評価によって行う。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

<p>第1～2週 老年社会学とその周辺科学</p> <p>社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていく老年社会学とはどのような学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、老年社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。</p>
<p>第3～4週 人口高齢化と高齢化社会</p> <p>エイジング（加齢）とはどういう現象か。また、わが国の人口高齢化の現象とその要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。</p>
<p>第5～6週 高齢者と家族、老親子の居住形態</p> <p>戦後、イニ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。</p>
<p>第7～8週 ライフ・サイクル、家族周期と老年期</p> <p>人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのであろうか。</p>
<p>第9～10週 高齢者と生計</p> <p>高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。</p>
<p>第11～12週 高齢者と就業・雇用、定年退職</p> <p>人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。</p>
<p>第13～14週 高齢者と住宅環境</p> <p>住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。</p>
<p>一第15～16週 高齢者と生涯学習、社会参加</p> <p>高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若・中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。</p>
<p>第17～18週 高齢者と保健・医療</p> <p>死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保健法とはどのような対策なのか。</p>
<p>第19～20週 高齢者と在宅福祉</p> <p>本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市区町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートし在宅福祉10箇年計画をかかげたゴールドプラン・及び新ゴールドプランはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。</p>
<p>第21～22週 高齢者と施設福祉</p> <p>在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。</p>
<p>第23～24週 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出</p> <p>老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。</p>
<p>第25週～ 諸外国の高齢者対策</p> <p>福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>

科目名	宗教学	担当者名	鈴木康治
-----	-----	------	------

講義の目標	宗教とは何かから始めて、宗教に関わる諸知識を整理し、東西の宗教の比較に関わる。	
講義概要	講義予定を参考のこと。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	一応、岸本英夫『宗教学』（大明堂）を参照してみるが、必ずしもそれによるものではない。
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。受講者数によっては変更もありうる。	
受講者に対する要望など	特にない。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	宗教とは何か 1.
3	同上 2.
4	宗教学の諸問題 1.
5	同上 2.
6	日本の宗教事情 1.
7	同上 2.
8	年中行事 1.
9	同上 2.
10	通過儀礼の諸問題 1.
11	同上 2.
12	同上 3.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概要のまとめ
2	祭りの事例 1.
3	同上 2.
4	同上 3.
5	祭りと現代 1.
6	同上 2.
7	宗教集団の問題 1.
8	同上 2.
9	タブーと戒律 1.
10	修行 1.
11	同上 2.
12	宗教の規定
備考	

科目名	高齢者エルゴノミクス	担当者名	山本 栄
-----	------------	------	------

講義の目標	エルゴノミクス（人間工学）の考え方が身につき、その上で実社会で高齢者を始め弱者に対し“やさしい”モノ（ハード、ソフト）を提供する考え方を身につける。	
講義概要	駅でお年よりが行先地図を見ながら目的の駅までの運賃がわからずうろろしている光景を目にしたことがあるでしょう。駅のエスカレータは上りが多いと思います。しかし高齢者にとっては階段を下ることは怖いことなのです。このようなことは我々の周りにはたくさんあります。若い人の目を見た場合と高齢者の目を見た場合では異なることが多い。では高齢者にとってどういうモノ（ハード、ソフトまたは製品、設備、施設）が快適で安全なのであろうか。本講義ではこの点をつっこんでとり上げたい。そして高齢化社会をどう迎えたらよいかを考えていく。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部万里子著『高齢者にやさしい商品開発』日本経済新聞社 ・講座 高齢社会の技術 全7巻 日本評論社 レポートの書き方 ・木下是雄著『理科系の作文技術』 中公新書
評価方法	前期と後期のテストおよびレポートを課す予定です。ただし出来の良いレポート提出者については“テスト”の免除をします。	
受講者に対する要望など	受身の授業ではなく、積極的な参加、すなわち質問や自分の考え方を進んで述べることを求めます。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. イントロダクション 本講義のガイダンス
2	2. 高齢者をとりまく環境
3	3. 高齢者の特徴 3. 1 加齢効果
4	3. 2 生理的变化
5	3. 3 精神的变化
6	4. 人間工学 (エルゴノミクス) 4. 1 エルゴノミクス適用の原則
7	4. 2 エルゴノミクスの応用
8	5. 高齢者にとってのユーザビリティとは
9	6. 高齢者の機能測定法 6. 1 身体計測法
10	6. 2 生理的計測法
11	6. 3 心理的・精神的測定法
12	7. 前期 まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	8. 高齢者と情報処理 8. 1 情報処理能力と加齢
2	8. 2 高齢者用 O. A. 作業-1
3	" " " -2
4	9. 高齢者用住環境 9. 1 家庭内災害
5	9. 2 高齢者用住宅
6	10. 高齢者と安全-1 生産現場での問題点
7	" -2 現状の対策とその改善
8	" -3 未来指向アプローチ-4
9	11. 高齢化社会と社会システム 11. 1 社会システムとしての見方
10	11. 2 現実の対応のギャップ
11	11. 3 望ましい方向とは 地方自治体の取り組み方
12	12. まとめ
備考	

科目名	経済原論(営)	担当者名	高橋 房二
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講においては経済原論としてオーソドックスな現代理論におけるマイクロ経済学の基礎の体系的な講義を行なう。ここで取り扱われる授業内容は経営学科の学生にとっていずれも重要であり、不可欠のものである。とりあげられる各問題に関しては図解的分析が中心とされる。この講義は微視的経済理論に関する大学専門課程の学生としての学力の育成と充実を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本年はマイクロ経済理論に統一して講義を行なう。経済主体として消費者と企業者のそれぞれの合理的経済行動が対象とされる。その場合、いずれの経済主体もある条件のもとで最適化行動を行なうものとして議論される。まず、家計、あるいは消費者の行動に関する分析として消費における重要な基本概念や無差別曲線理論が述べられ、そしてその応用が種々展開される。ついで、需要に関連する概念と需要理論が上記の議論の延長として取り扱われる。つぎの段階として、企業者行動の理論分析のため、生産と費用に関する必須の事項が講義される。その基礎のうえに立って、完全競争、独占における短期と長期の均衡を取り扱う。さらに、独占的競争や複占に関する問題がとりあげられる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァリアン『マイクロ経済分析』勁草書房 ・マランポー『マイクロ経済理論講義』創文社 ・Gould & Lazear, Microeconomic Theory, Irvin ・西村和雄『マイクロ経済学』東洋経済新報社 他	
評価方法	定期試験、ミニテスト、および出席状況		
受講者に対する要望など	出席を十分留意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の主な内容と授業展開の概要と学習上の留意点の説明。 消費者行動の理論 (I) 効用、効用指標、選好、効用曲面、限界効用、無差別曲線とその性質
2	消費者行動の理論 (II) 限界代替率 (MRS)、商品空間、予算空間、効用極大化、消費の均衡
3	需要の理論 (I) 価格変化、価格消費曲線、需要曲線、需要法則、需要の価格弾力性
4	需要の理論 (II) 貨幣所得の変化、正常財と劣等財、所得消費曲線、需要の所得弾力性
5	消費者需要の問題 (I) 代替効果、所得効果、全部効果 (正常財のケース)
6	消費者需要の問題 (II) 代替と補完、代替財、補完財、価格交差弾力性等
7	無差別曲線理論の応用 所得と余暇のトレードオフ、消費者・雇業者均衡、異時点間における消費と貯蓄の決定、オーバertimeの問題等
8	市場需要 (I) 需要の決定因、個別需要から市場需要、需要の価格弾力性、点弾力性
9	市場需要 (II) 総収入、限界収入、需要の価格弾力性と総収入
10	生産の理論 (I) 固定的投入と可変的投入、短期と長期の概念、生産関数 (1要素の場合)、総生産物、平均生産物、限界生産物、限界生産物逓減の法則
11	生産の理論 (II) 固定比率と可変比率、生産関数 (2要素の場合)、規模に関する収益不変、収益通増、および収益逓減、生産曲面、生産物等量曲線。
12	生産の理論 (III) 生産物等量曲線の性質、技術的限界代替率、生産物空間と費用空間
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	生産の理論 (IV) 所与の費用のもので産出を極大にする最適投入結合、生産設備の長期的適応過程、拡張経路、産出効果と代替効果
2	費用の理論 (I) 費用、機会費用、短期の総費用、可変費用、平均費用、および限界費用、短期の総費用曲線、平均費用曲線、および限界費用曲線
3	費用の理論 (II) 長期の総費用、平均費用、および限界費用、費用からみた工場規模の選択、長期平均費用曲線、長期限界費用曲線、規模の経済と不経済
4	完全競争市場における価格理論 (I) 完全競争、完全競争のもとにおける企業の短期均衡、短期における生産の停止、供給曲線
5	完全競争市場における価格理論 (II) 短期の供給曲線、既存企業の長期均衡、産業の長期的調整過程
6	純粋独占下における均衡 (I) 独占、独占の要因、総収入、限界収入、総費用、限界費用、独占下における短期均衡、” 総収入と総費用による接近
7	純粋独占下における均衡 (II) 前週につづいて、(限界収入と限界費用による接近、独占価格、独占利潤、多工場独占、短期の独占供給
8	純粋独占下における均衡 (III) 独占下における長期均衡、単一工場独占における長期的調整
9	独占理論の特殊問題 価格差別化、双方独占
10	独占的競争の理論 生産物差別化、独占的競争下の短期均衡と長期均衡
11	寡占の理論 (I) 寡占、寡占市場、複占
12	寡占の理論 (II) 複占についての若干のモデル、寡占市場の安定性
備考	

科目名	経済原論(営)	担当者名	西村 允克
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は1つの組織である。それゆえ経済学は市場経済という組織を理解することを目的とする。組織が永続的に機能するのは、そこになんらかの秩序原理が存在するからである。経済学はこの秩序を市場均衡理論によって把握説明する。それゆえ、市場均衡のメカニズムを学習することが前期の目標となる。しかし現実経済は市場均衡状態にあるわけではない。現実経済が市場均衡を乖離しているとき、現実経済はどう進むか、すなわち変動と成長の過程が後期の主要目標となる。</p>				
講義概要	<p>予定の1～2は、経済学を学ぶための基礎となることを集中的に学習する。以下の講義はこれに基づいて進行するから、常に講義の進行にともなって参照する必要がある。</p> <p>3～4はGDP(国内総生産)の定義をもとにマクロ経済変数の関係を述べる。5～7は具体的な関数を説明することによって、関数の意味とその利用方法を完全に学習する。</p> <p>8～12では、経済理論の中心となる市場均衡理論を学習することによって、主要な経済問題を考える論理システムを学習する。13～24は市場均衡理論を財市場から貨幣市場へ拡大し、より現実的な経済問題理解のための基礎を整えることにある。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版 ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 ・井堀利宏 『入門マクロ経済学』 新世社 </td> </tr> </table>	テキスト	・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版 ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 ・井堀利宏 『入門マクロ経済学』 新世社
テキスト	・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版 ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 ・井堀利宏 『入門マクロ経済学』 新世社 				
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果による。試験は講義をいかに理解したかをテストするのであるから、講義中に注意した点を必ず答案に反映することが必要である。</p>				
受講者に対する要望など	<p>学習効果を上げるには、日々の学修が必要である。講義はそれまでの講義を基礎に展開されるから、絶えずそれまでの講義内容を反復学習することを望む。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎 (I) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役 (サービス)、資産 (実物資産と金融資産)
2	経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線、図の読み方、市場 (完全競争市場、独占的競争市場)
3	国民経済計算 (I) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、内需と外需、グロスとネット
4	国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 産出量と投入量、限界生産力、規模の経済
6	消費関数 (I) 限界消費性向と限界貯蓄性向、両者の関係、平均消費性向と平均貯蓄性向、両者の関係
7	消費関数 (II) 長期消費関数
8	価格決定理論 (I) 価格の決定と変動の理論、完全競争市場における価格決定、独占市場における価格決定
9	価格決定理論 (II) 消費税率を上げると価格はどう変化するかなど価格決定理論の応用問題
10	国民所得決定理論 (I) 貿易がない場合の国民所得決定理論
11	国民所得決定理論 (II) 乗数理論、財政々策の効果
12	前期のまとめ 前期の講義内容を体系的にまとめ、それぞれの相互関係を明らかにする
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣市場について マネー・サプライとその決定因、金融政策——法定割引歩合、公開市場操作、予金準備率
2	貨幣需要量について 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS=LM 分析 (I) IS 曲線の導出、LM 曲線の導出、国民所得と利子率の同時決定のメカニズム
4	IS=LM 分析 (II) 財政々策と金融政策の効果の分析
5	失業とインフレーション 自然失業率、フィリップス曲線
6	景気変動 キッチン波動、ジュグラー波動、コンドラチェフ波動
7	経済成長論 (I) 経済成長率、限界資本係数と貯蓄性向の関係
8	経済成長論 (II)
9	国際マクロ経済理論 (I) 外国貿易乗数、外国為替相場 (固定相場と変動相場制)、国際収支 (貿易収支、経常収支、資本収支)
10	国際マクロ経済理論 (II)
11	総供給・総需要分析 総供給曲線の導出、総需要曲線の導出
12	まとめ 経済理論のより高度な学習にむけての注意と一年間の講義内容のまとめ
備考	

科目名	経営英語	担当者名	本田浩邦
-----	------	------	------

講義の目標	現代企業にかかわるいくつかの話題をとりあげ、比較的短い論文、雑誌記事をできるだけ多く輪読し、全体でディスカッションする。英語文献の基本的な読解力と、基礎的なテクニカル・タームの修得を目標とする。		
講義概要	企業行動、労資関係、消費者行動の3つの領域にかんする話題を、論文、雑誌記事を読みながらみんなで考える。 受講者全体が興味をもてるように内容を組み立てていきたい。		
使用教材	テキスト	右の Reading List にしたがって必要箇所をコピーし、適宜配布する。	
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『新英和大辞典（第5版）』研究社 ・長谷川啓之『経済用語辞典』富士書房 ・『最新英語情報辞典』小学館 	
評価方法	平常点、出席および試験の結果による。		
受講者に対する要望など	基礎知識がある方が望ましいが、それ以上に意欲的に参加することを希望する。無断欠席をするものや欠席の頻繁なものには単位を認めない。		

年 間 講 義 予 定

READING LIST

- [1] Milton Friedman, "The Social Responsibility of Business Is to Increase Its Profits," *The New York Times Magazine* (September 13, 1970)
- [2] Christopher D. Stone, "Corporate Accountability in Law and Morals," in Oliver F. Williams and John W. Houck ed., *The Judeo-Christian Vision and the Modern Corporation* (University of Notre Dame Press, 1982)
- [3] Severak Articles from Philip Arestis and Malcolm Sawyer ed., *The Elgar Companion to Radical Political Economy*, Edward Elgar Publishing Limited, 1994)